

まちづくり チャレンジ 701

地域再生大賞実行委員会 編

つながる、多様性が拓く



共同通信社

まちづくり チャレンジ 701

つな
がる、
多
様
性
が
拓ひら
く

地域再生大賞実行委員会 編

共同通信社

目次

4 ごあいさつ

5 選考委員のことは

6 地域再生大賞とは

7 主催、協賛、後援

8 第14回地域再生大賞

くつながら、多様性が拓くひらく

受賞51団体

194 協賛社・後援団体のことは

195 井村屋グループ

196 城南信用金庫

197 信用組合（しんくみ）

198 住友化学

199 中小企業基盤整備機構

200 中日本高速道路（NEXCO中日本）

201 日本取引所グループ（JPX）

202 東日本高速道路（NEXCO東日本）

203 三井住友海上火災保険株式会社

204 都市再生機構（UR）

205 ゆうちよ銀行

206 ローソン

207 地域再生大賞事務局連絡先

受賞団体データ集

23 これまでの大賞・準大賞受賞団体

24 都道府県別・団体データ

北海道・東北ブロック

41	31	25
秋田	青森	北海道
45	35	
山形	岩手	
48	38	
福島	宮城	

関東・甲信越ブロック

78	68	55
新潟	千葉	茨城
82	71	58
山梨	東京	栃木
85	75	61
長野	神奈川	群馬
		64
		埼玉

東海・北陸ブロック

102	89	
静岡	富山	
106	92	
愛知	石川	
109	95	
三重	福井	
	99	
	岐阜	

近畿ブロック

123	113
兵庫	滋賀
127	116
奈良	京都
130	120
和歌山	大阪

中国・四国ブロック

153	143	133
香川	広島	鳥取
157	146	136
愛媛	山口	島根
160	150	139
高知	徳島	岡山

九州・沖縄ブロック

177	164
大分	福岡
181	167
宮崎	佐賀
184	170
鹿児島	長崎
188	174
沖縄	熊本

(解散・休止などの団体は掲載していません)

地域再生 大賞

ごあいさつ

第14回地域再生大賞実行委員会委員長 板谷 武

(山陽新聞社 編集局長)

全国の地方新聞47紙と日本放送協会、共同通信が地域の魅力アップや課題解決に取り組む団体を応援する「地域再生大賞」。第14回は「つながる、多様性が拓く^{ひら}」をサブテーマに、新型コロナウイルスの5類移行で人々の動きが活発化する中、各地で躍動する団体が集いました。

現代は「予測不能な時代」と言われます。突然のように始まる戦争、未知のウイルスとの闘い、想定を超える大規模災害…。不安と隣り合わせの時代にあって、足元の課題に向き合う人たちのたくましさは、地域に元気と希望をもたらします。市街地の活性化、マイノリティーの理解促進、地域の宝の再発見など、さまざまなグループやプロジェクトが生まれ、つながり、重なり合うことで、地域を楽しく、暮らしやすく、そして強靱にしていきます。

昨秋にはホームページに、第1回からの受賞団体の活動を紹介したデータベースを構築しました。地域づくりの知恵や工夫のほか、担い手の熱い思いも伝わるはずです。

地域再生大賞の蓄積が次の時代へと引き継がれていくことを願っています。

選考委員のことば

多様な個がつながる

「つながる、多様性が拓く」と題した今回、全国から優れた取り組みが寄せられた。豊かな地域の活動を受け継ぎ、次世代につなぐ活動もあれば、目の前の地域課題に向き合い、関係者が丁寧に対話を重ね、楽しみながら地域を守る活動も見られた。多文化共生やLGBTQへの理解、障がい者の参加と包摂に取り組み活動が複数推薦されたことが印象に残る。

大賞「貴志川線の未来をつくる会」は、廃線の危機に立ち向かったローカル鉄道の地元住民による活動が際立つ。存続運動は行政を動かし、鉄道事業は両備グループへ譲渡。約20年にわたり公共私（行政や住民団体、企業など）の連携によるローカル鉄道の存続・再生に取り組み。

準大賞「リンゴミュージック」はご当地アイドル「りんご娘」を育成。青森の文化と魅力を発信する人づくりとともに、情報発信を通じた新たな経済循環創出に取り組み。

地域課題はある。だが今ここにあるものを大切に、多様な個がつながり、各地で創造的な地域づくりが行われていることに希望をみた。



沼尾 波子さん = 委員長

Profile ぬまお・なみこ 慶応大大学院修了。2017年から東洋大教授。地方財政が専門で地域づくりを支える行財政システムを研究。

時代の変化は地方から

地域再生大賞、受賞の皆さま、おめでとうございます。

実際に活動を視察させていただき、リーダーシップの変化を感じています。トップダウンからボトムアップの女神型リーダーシップへ。強烈な個性ではなく、みんなが応援したくなる巻き込み型リーダー。優しくしなやか。時代の変わり目求められる新しい優しさのグループが台頭して価値観を変えています。

時代の変化は地方から起こっています。今後の変化も期待しています。



大桃 美代子さん

Profile おおももみよこ タレント。新潟県中越地震で実家が被災したのを契機に食育や農業、地域振興に取り組む。新潟食料農業大客員教授。

異質同士の出会いが力に

多様なもの、異質なものが出会うとき、創発のエネルギーは生まれると思います。しかし、それが簡単ではないのが人間社会でしょう。今回の地域再生大賞では、多様な人々に加え、企業や行政などさまざまな主体が関与し、地域課題に対して同じ方向を向いて歩みだすとき、地域再生の可能性が開けることを実感しました。本年度（2023年度）の大賞となった「貴志川線の未来を『つくる』会」は20年近い活動の蓄積がありますが、これまで表彰履歴がなかったようです。地域再生大賞が、地域再生という視点から素晴らしい取り組みを発掘し、応援していく役割を担えるような賞に育っていくことを期待したいと思います。



佐藤 宏亮さん

Profile さとう・ひろすけ
早稲田大大学院修了。18年から芝浦工業大教授。建築の視点から各地のまちづくりに参画している。愛知県出身。



藤波 匠さん

支え合う社会の到来

今回の地域再生大賞のサブタイトルが「つながる、多様性が拓く」であった影響が大きいと考えられるが、推薦団体に、貧困世帯の支援や性の多様性をサポートするもの、障害のある方への包摂を促すものなどが目立った。

多様な人々が地域の担い手として互いに支え合う社会の到来を実感させる機会であった。

豊かな地域社会を築いていくために、あらゆる世代、多様な人々が当然のように地域の支え手となることの大切さを、改めて感じた。

地域再生大賞とは

地方紙47紙とNHK、共同通信社でつくる実行委員会が主催する地域再生大賞は、地域を元気にする活動に取り組み、成果を上げた団体を表彰しています。2010年度に創設され、今回（第14回）を含め、これまでに延べ701団体を表彰しました。受賞団体の活動分野は、人口減少や高齢化対策、環境保護、貧困問題、マイノリティーの理解促進など幅広く、団体の形態も任意団体やNPO法人などさまざまです。

秋に新聞社などが計51の候補団体を推薦。選考委員が書類審査、現地視察、リモートヒアリングを実施し、大賞、準大賞、特別賞などの各賞を決定します。結果は年明けに新聞紙面や地域再生大賞公式ホームページで発表します。過去の受賞団体も含めて、ホームページのデータベースで、受賞回や地域、活動内容から検索することができます。本書と併せてご覧ください。

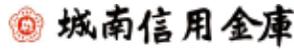
新型コロナウイルス感染症拡大を受けて2021年以降、東京での表彰式を中止していました。コロナ禍が明けたことを受け、今回は24年2月15日、以前より規模を小さくして、共同通信本社で表彰式を実施しました。

主催

地域再生大賞実行委員会

(北海道新聞、室蘭民報、東奥日報、
デーリー東北、岩手日報、河北新報、
秋田魁新報、山形新聞、福島民報、
福島民友新聞、茨城新聞、下野新
聞、上毛新聞、埼玉新聞、千葉日
報、東京新聞、神奈川新聞、新潟
日報、山梨日日新聞、信濃毎日新
聞、北日本新聞、北國新聞、福井
新聞、岐阜新聞、静岡新聞、中日
新聞、伊勢新聞、京都新聞、神戸
新聞、奈良新聞、日本海新聞、山
陰中央新報、山陽新聞、中国新聞、
徳島新聞、四国新聞、愛媛新聞、
高知新聞、西日本新聞、佐賀新聞、
長崎新聞、熊本日日新聞、大分合
同新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、
沖縄タイムス、琉球新報、日本放
送協会、共同通信社)

協賛



三井住友海上



(50音順)

後援

外務省
観光庁
厚生労働省
財務省
全国市長会
全国知事会
全国中小企業団体中央会
全国町村会
総務省
地域経済活性化支援機構
中小企業基盤整備機構
都市再生機構 (UR)
内閣府
日本政策金融公庫
農林水産省

(50音順)

公式ホームページ



公式フェイスブック



第14回地域再生大賞

「つながる、多様性が拓く」

受賞51団体



貴志川線の未来をつつくるつ会

(和歌山市)

住民団結「乗って残す」

ネコの駅長や楽しいリニューアル電車で行われる和歌山電鉄貴志川線(14・3キロ)。海外からもファンが訪れる一方、他のローカル鉄道と同じく経営は苦しい。「乗って残そう」を合言葉に、イベントなど住民主体の活動を続ける。

かつての運行会社、南海電鉄が撤退を表明し、2004年に結成。「絶望的な状況」で生活の足の大切さを説いて回り、一時期は会員が6千人を超えた。大きなうねりとなった運動は存続の原動力に。公的支援を引き出し、06年に両備グループ(岡山市)が運行を引き継いだ。

鉄道会社や行政と連携して利用促進に取り組み、05年度に192万人だった乗客数は、15年度は232万人となった。タケノコやジャガイモ掘り、クリスマス電車などを通じて沿線の魅力をアピール。恒例の「貴志川線祭り」では高校生もバンド演奏で盛り上げる。

新型コロナウイルス禍で乗客数は激減した。「少子高齢化で大変な危機感がある」と木村幹生代表。線路や車両の公有による経営安定化を求め、特産品づくりも進める考えだ。



リンゴミュージック

(青森県弘前市)

アイドル育成、地元を誇り

アイドル活動を通じて子どもたちの才能を磨き、まちを元気に。月謝無料の芸能スクールを20年以上にわたって続ける。所属グループ「りんご娘」はご当地アイドルの先駆けとなり、質の高いパフォーマンスを披露している。元メンバーの王林さんは今や全国区で大活躍を見せている。リンゴ栽培などの第1次産業や青森の魅力をPR。「県内の認知度はほぼ100%」と自認し、県民の応援団として定着した。

代表取締役の樋川新一さんは「都会の人がお金で買えない、きれいな水、豊かな食や文化がある。素晴らしい環境が音楽や芸術の感性を育む。都会と地方が逆転する時代は来る」と強調する。



神山まるごと高等専門学校

(徳島県神山町)

未来変える力、山里で培う

テクノロジードesignで人間の未来を変える起業家を育む。とびきりユニークなコンセプトを掲げて中山間地に2023年開校し、大きな注目を集める。全寮制で、学費は企業から集めた100億円規模の基金を活用して実質無償。課外活動に多くの有名な起業家が講師として参加する。

理事長は10年に町内初のサテライトオフィスを設けたIT企業経営者。「日本のシリコンバレー」を目指し、移住や起業支援に取り組む地元関係者と思いが重なった。町は無償で用地を貸与し、旧中学校舎を譲渡。給食の食材の多くは地元産。住民は農作業などを通じて学生と交流を深め、学校づくりを応援する。

第14回

インクルーシブ・ パートナーシップ賞



大阪障害者雇用支援ネットワーク (大阪市)

労使連携、制度に先行

1996年に設立され、企業や労働組合、支援団体、行政の関係者らが、開かれた協働の場を築き上げた。身体や知的、精神といった障害の種類は問わず、制度からこぼれ落ちる新たな課題に対応してきた。行政や制度に先行する形で、障害者の就労や再チャレンジを後押しするインターンシップなど、独自の事業を展開してきた。当事者が気軽に相談できる窓口を設置。特別支援学校ではなく一般学校の生徒や学生を対象としたインターン、企業で働く障害者らの交流会にも取り組む。

第14回

ダイバーシティ賞



ここいろ hiroshima (広島市)

違いは魅力、一人じゃない

性の在り方に悩む子どもが安心して過ごせる場をつくっている。「違いは魅力。一人じゃないと伝えたい」。思春期に同様の生きづらさを感じていた、性的少数者の當山敦己さんと高畑桜さんが2018年に始めた。月一度の交流会には大人も含め延べ1600人以上が参加。学校の授業や教員研修で自らの体験を伝え、LINEによる相談の登録者も約800人に。支援する仲間も増え、子どもが将来に希望を持てる社会を目指す活動は広がっている。

第14回

地域にぎわい創出賞



おかげ祭り振興会 (宮崎県都城市)

「本物」追求し絆復活

2023年で31回目を数える都城の夏の風物詩。絆纏などの装束やみこし、組織の在り方を全国の名だたる祭りから導入した。単なる「物まね」ではなく「祭りは先人たちが地域維持のためにつくり上げた仕組み」と温故知新の精神で「本物」を追求し続け、コミュニティーの再生につなげた。20～30人が手弁当で始めた祭りは、補助金に頼らず厳格な秩序を重視する理念が市民らの共感を得て、祭り衆は2日間で延べ約千人にまで拡大。多くの子どもも参加し、約4万人の観衆を集める。


ブロック賞
第14回

北海道・東北ブロック賞

遠野山・里・暮らしネットワーク (岩手県遠野市)



農家民宿で民話の里に集客

グリーンツーリズムを柱に、農家民宿や教育旅行などさまざまな取り組みで「民話の里」遠野に人を呼び込んでいる。自動車学校と連携して合宿免許の宿泊先に農家民宿を活用、大きな注目を集めた。市中心部の活性化を図ろうと、お店を巡りながら店主とおしゃべりを楽しむツアーも実施。2023年からは高齢化する昔話の語り部の後継者育成講座を始めた。

関東・甲信越ブロック賞

Mt. ファームわかとち (新潟県小千谷市)



農業の魅力発信し交流拡大

人口80人の山あいの若柄集落で、棚田米をはじめとする地元農産物の加工・販売や農家民宿を通して、農業の魅力発信や交流人口拡大を図る。中越地震(2004年)からの復興の取り組みが発展。高齢化で耕作できなくなった水田の作業を受託、大学生のファームステイなども受け入れる。農家民宿は築160年の古民家を活用、地元食材を使った料理が好評だ。

東海・北陸ブロック賞

園むすびプロジェクト (富山県舟橋村、団体所在地は富山市)



子ども主役の公園にぎわう

富山市に隣接し「子育て共助」を掲げる富山県舟橋村で公園づくりに取り組む。遊具製作や催しの企画を担うのは「こども公園部長」の小学生たちだ。大学生や子育て世代も加わり、人の輪が拡大。クラウドファンディングで資金を集め、企業の協力も得た。2023年秋のイベントには約1500人が来場。公園が縁を結ぶ場となり、幅広い世代が交流するコミュニティづくりにつながっている。

ブロック賞 第14回

近畿ブロック賞 上宮津地域会議 (京都府宮津市)



地域を挙げて多彩な活動

元気な高齢者を中心に自治会や敬老会などを巻き込み、地域を挙げて多彩な活動を展開する。市内の高校と連携し、廃校となった小学校のプールを使って高級魚・ホンモロコを養殖。周囲の山々では、天然杉や古道を観光資源として生かそうと遊歩道を整備したり、閉鎖したスキー場跡地でイベントを開催したり。移住支援や耕作放棄地活用にも取り組む。

中国・四国ブロック賞 美甘地域の空き家再生と移住者、
高齢者支援プロジェクト (岡山県真庭市)



高齢者と移住、一体で支援

二つの住民団体が一体となって高齢者の生活支援と空き家管理・移住促進に取り組む。「くらしサポート黒田」は、高齢者の買い物や通院を車による送迎で支援。利用者との信頼関係を築く中で空き家情報を得ると、「グランパ美甘」が管理・修繕し、入居希望者に紹介、移住につなげている。移住者が地域に溶け込めるよう生活相談などのサポートも欠かさない。

九州・沖縄ブロック賞 やどかりサポート鹿児島 (鹿児島市)



住まいを確保、孤立防ぐ

2007年に設立され、貧困や障害、高齢などを理由に住居確保が難しい人を支援する。連帯保証人がおらず、賃貸住宅が借りられない人に「地域ふくし連帯保障」を提供。福祉従事者が定期的にフォローして孤立を防いでいる。買い物や入退院の付き添いなど、支援を受ける人同士の「互助」も後押しする。これまで700人以上が利用し、再び地域とつながるきっかけを得た。

八戸童話会 (青森県八戸市)



子どもたちにおとぎ話、 ワクワク感届けて100年

八戸市の八戸童話会は、同市中心街に近い神社の境内で毎年夏休み期間の早朝に開催される「森のおとぎ会」を主催する。口演や腹話術、紙芝居などで地元につながる昔話や世界の童話を子どもたちに語り聞かしている。森のおとぎ会は1924年の八戸大火で心に傷を負った子どもたちを元気付けようと始まった。その2年後八戸童話会が発足。開始から2024年で100年。子どもたちの心にワクワク感を届ける口演は絶えることなく脈々と続く。

レター・ポスト・フレンド 相談ネットワーク (札幌市)



ひきこもり当事者が手紙で励まし合い、 居場所つくる

ひきこもり当事者や経験者が、本人や家族を支援する活動を20年以上続けています。手紙を送り心の交流を図る活動、体験談の投稿掲載など当事者目線を大切にしたい会報の発行(隔月)、当事者が集まる例会等を運営。札幌市の委託を受けた当事者会、親の会も開催しています。ひきこもり経験者が支援に関わっている点の特徴。田中敦理事長は「福祉の支援が届かない領域。今後は就労支援にも力を入れたい」と話しています。

東北チャレンジコミュニティ (仙台市)



東北の課題に挑む若者を 全国から公募

東北チャレンジコミュニティは、東日本大震災で疲弊した東北を持続可能な地域にするため、地元在住のコーディネーター40人が連携し、全国の若者を東北に招くプロジェクトだ。コーディネーターは東北の企業や行政が抱える課題を若者がインターンなどとして関われる企画として仕立てて挑戦者を公募。2020年の発足からこれまで実施した企画は1000件、参加した若者は2000人を超え、地域再生を着実に後押ししている。

撮りフェス in 室蘭実行委員会 (北海道室蘭市)



工場夜景と自然が共存、 特別スポットも撮影可

室蘭と関わるプロ写真家らが審査員となり、室蘭をテーマに行われている24時間滞在型、写真撮影イベント。地元住民にとっては日常的であり、観光的であると認識されていなかった工場と自然が共存する姿が、工場夜景のブームで一気に開花。写真家山口一彦氏が室蘭で撮影した作品で写真集を発刊したこともあり、地元観光協会が事務局となり、室蘭の魅力を外から来た人に発見してもらう「撮りフェス in 室蘭」がスタート。地域を再発見し写真を楽しむイベントになっている。

第14回
優 秀 賞

富岡町 3・11 を語る会
(福島県富岡町)



原発事故で被災した町で語り部を育成、
演劇で交流

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で避難区域となった福島県富岡町で「語り人（かたりべ）」を育て、経験や教訓を伝える活動を通してコミュニティの再生に取り組んでいる。近年は演劇を軸とした「ゲキでゲンキな町づくり」を展開。表現塾や演劇祭などを通して人材育成と交流人口拡大に努め、若者の町内移住にもつなげている。県内の語り部のネットワーク化にも中心的に参画し、担い手や活動の場の確保に取り組んでいる。

プロジェクト8
(秋田県八郎潟町)



若い世代が夏の「一夜市」開催、
町を盛り上げ

秋田県八郎潟町に住む20～40代の店主や町職員ら約30人が2011年4月、「空洞化が進む町を若者の力で盛り上げよう」と結成した。同年夏から毎年夏に地域活性化イベント「一夜市（いちやいち）」を開催し、これまでに11回の開催を数える。冬季にはJR八郎潟駅前にイルミネーションを設置するなど、地道な活動を重ねている。

HAMADOORI 13
(福島県いわき市)



被災沿岸部で若手経営者が広域連携、
起業家育成

福島県沿岸部の浜通り13市町村は、東日本大震災と原発事故による複合災害で大きな被害を受けた。避難を余儀なくされながらも、各地で古里を自らの手で復興させたいという若手経営者が立ちあがった。やがて地域再生を実現するために団結し、浜通りの広域連携組織「HAMADOORI13（浜通りサーティーン）」を結成する。一度はゼロになった地域の課題解決に向け、若手起業家の育成などに取り組んでいる。

おぐにマルチワーク事業協同組合
(山形県小国町)



移住者が地域産業の担い手、
生活基盤つくる

磐梯朝日国立公園に囲まれた自然豊かな山形県小国町で、農業、観光、酒造など四季折々の様々な仕事を組み合わせる「マルチワーク」の推進に取り組む。I・Uターン者を正職員として雇用し、組合員の要望に応じて各事業所に派遣している。雇用を確保して移住促進を図るとともに、事業所における繁忙期の労働力不足の解消をめざす同組合の活動は、地域に若い住民を迎え入れる新たな取り組みとして注目されている。

馬場川通りアーバンデザイン プロジェクト (前橋市)



川沿いの道をリニューアル、 車中心から歩きやすい通りへ

前橋市中心街を流れる馬場川沿いの市道・遊歩道をリニューアルするプロジェクト。地元企業経営者らの寄付金を投入して整備し、公共空間の整備を民間主体で進める全国的にも珍しい取り組み。道路の老朽化や道幅などの課題があり、車中心から人が行き交いやすい通りへと転換が求められていた。自然を生かし、利便性と魅力を向上させようと、市民参加の準備委員会と共に、市側と意見を交わし官民連携で再整備を進めている。

赤羽緑地を守る会 (茨城県日立市)



水辺の公園の環境を保護、 子どもたちの観察会も

赤羽緑地を守る会は茨城県日立市久慈町の「赤羽緑地・自然観察ふれあい公園」で、環境整備や野生生物の保護に取り組む市民ボランティア団体です。もともと荒地だった場所を市と協働で整備し、野鳥が暮らす水辺や古墳時代の史跡を生かした公園として2003年に開園しました。特にミズバショウやヒガンバナの群生地は県内外を問わず多くの方が観賞に訪れ、子どもたちの自然観察会や環境学習の場としても利用されています。

ファインドチチブ ちちぶシルク研究分科会 (埼玉県秩父市)



絹織物産地で、 レトロなおしゃれ着の良さを見直す

かつて日本でも有数の絹織物の産地だった秩父。女性の普段着やおしゃれ着として大正から昭和の初めてにかけて流行した「秩父銘仙」の良さを見直し、再び普及させる取り組みが進められている。伝統を維持しつつ令和の時代に合った新しい「秩父銘仙」も追求していく。

真岡まちづくりプロジェクト (栃木県真岡市)



学生が中心市街地活性化、 緑地や公共スペース活用

高校生や大学生が地域の大人のサポートを得ながら中心市街地の活性化に取り組む。市街地にあるあまり使われていない公共空間の存在を課題と捉え、解決に向けた取り組みを学生自らが企画し実行している。活動を通じて川沿いの緑地や市役所の市民向けスペースといった公共空間の認知度が向上し、活用が図られるようになった。学生が熱心に取り組む姿に触発され、自分でイベントを企画する市民も現れるなど活動が広がりを見せている。

第14回
優秀賞

三浦半島地域活性化協議会
(神奈川県横須賀市)



地元経済界や大学が自治体の枠を超え連携、
創業支援

三浦半島地域活性化協議会は2016年に組成されている地域活性化を目指した広域連携組織です。かながわ信用金庫、京浜急行電鉄株式会社、株式会社神奈川新聞社、関東学院大学、横浜市立大学、三浦商工会議所、横須賀商工会議所の7者、及び財務省関東財務局横浜財務事務所等5社のオブザーバーで構成されています。推薦対象である創業塾は産官学金言で構成された協議会の資源を活用した他に例を見ないものとなっています。

田淵チバニアンズ
(千葉県市原市)



地層「チバニアン」の魅力を紹介、
ガイドも育成

市原市田淵の養老川沿いにある地層「チバニアン」の魅力を紹介する団体。養老川沿いの現地周辺でチバニアンの説明や地質学のガイドをボランティアで行っている。ガイドの内容も充実しており、来訪者から好評を博している。ビジターセンターの運営も受託し、ガイドの育成やグッズの販売を通じ、地域の魅力発信に貢献している。

関東・甲信越ブロック

移住したクリエイターたちによる、
まちづくりのエコシステム
(山梨県富士吉田市)



地域おこし協力隊OBらがつながり、
得意分野で活躍

山梨県富士吉田市に移住した地域おこし協力隊のOBたちが市内でデザイン事務所やNPO法人などを立ち上げ、それぞれの得意分野を生かしながら、地場産業の再興や、若者が地域を知る活動、市の製品のデザイン力向上などに取り組んでいる。若い移住者たちの「ヨコのつながり」によって、各活動が大きく成長し、地域を巻き込んだ動きへと波及、人が人を呼ぶという好循環を生み出す、地域おこし協力隊の成功事例となっている。

寺島・玉ノ井まちづくり協議会
(東京都墨田区)



宅地の中に農園を整備し憩いの場に、
幻の江戸野菜復活

緑被率10.7%と東京都内でも緑地が少ない墨田区において、「農地がないなら自分たちでつくってしまおう」と、3年がかりで農園を造園。宅地に囲まれた畑や芝生の広場は、区民の憩いの場になっている。江戸時代に、地元で盛んに栽培されていた幻の江戸野菜「寺島なす」を復活させ、農園で栽培。商店街や飲食店と連携して知名度を上げる活動を展開して、農園を核とした街おこし、地域コミュニティづくりが進んでいる。

なろっさ！ ALLY (アライ)

(福井県越前市、福井市など)

性的少数者への理解拡大を、
映画祭や講演会

LGBTQの人々への理解を広げる活動を展開。ゲイを公表した市民の発信を機に、福井県内で支援・啓発団体が立ち上がり、性の多様性をテーマにした映画祭や講演会などを開いている。「ALLY」はLGBTQを支援する人や仲間のことで、「なろっさ」は県内の方言で「なろうよ」という意味。性的少数者のカップルを公的に認める「パートナーシップ宣言制度」を導入する自治体が相次いでおり、誰もが暮らしやすい地域づくりを先導している。

まつもとフィルム commons

(長野県松本市)

8ミリフィルムを市民から集め
「地域映画」を製作

昭和30～50年代に普及した8ミリフィルム。市井の暮らしを映した貴重な史料だが、劣化や廃棄が迫る。松本市の市民団体「まつもとフィルム commons」は、小中学生や大学生、社会人と幅広く協力し、市民から集めたフィルムを基に「地域映画」を制作。松本城にあった遊園地、全面結氷した湖のスケート場、商店街の活気…懐かしさととどまらない作品は反響を呼び、続編や英語版を準備中。地域の歴史や人を縦横につなぐ取り組みにもなっている。

岐阜まち家守

(岐阜市)

空き家や古民家を改修、
生活文化や歴史を継承

岐阜市の旧岐阜町(金華・京町地区)の店主らが、地元の風情ある景観や歴史を守るために設立したまちづくり会社。不動産事業を通じて、空き家や古民家をリノベーションし、利活用したい若者や移住者らにつないでいる。2021年の設立で、2年間で10件を生まれ変わらせた。にぎわい醸成の催事も企画するなど、不動産活用とともにエリアマネジメントにも取り組む。活力を呼び込み、旧岐阜町の生活文化や歴史を継承している。

YOU-I

(石川県野々市市)

在住外国人と地域つなぐ、
ネットワークの力で活性化

石川県内に在住する外国人籍の住民や帰化した住民が、人種や国籍、言語、宗教、文化、嗜好、歴史等にとられることなく日常生活を送れる社会づくりを目指し、外国人の地域参画サポートや自治体の国際交流支援などさまざまな事業を展開している。スローガンは「海外人財支援 在住外国人と海外ネットワークの力で地域を活性化!」。近年は収益事業を立ち上げ、組織運営の安定化を図ることで、活動の幅をさらに広げている。

第14回
優 秀 賞

愛伝舎
(三重県四日市市)



在住外国人の生活向上、社会進出、
教育を支援

増加する在住外国人が自立できる生活基盤を整えようと2005年に結成。多国語に対応できるメンバーが、これまで電話通訳や生活適応セミナーなどの生活支援のほか、教育支援や就労支援などに取り組み、多くの在住外国人の生活向上や社会進出に貢献してきた。近年は連携やネットワーク構築に注力。地域や得意分野が違う団体との連携は、様々な課題が重なり複雑化する外国人支援でも成果を残し、協働による好循環を生み出している。

テンカラセン
(静岡県熱海市)



土石流被災地で避難者、
住民、観光客をつなぐ

2021年7月3日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した大規模土石流の直後から、地域住民の生活支援や、伊豆山内外の人と地域をつなげる活動を続ける。自身も被災者の高橋一美代表ら、30～40代の住民有志で結成。被災者と住民、観光客がつながるカフェの運営、伊豆山の今を発信する新聞発行、高齢者の送迎など多彩な取り組みを展開し、災害を経験した他県の団体とも協力しながら伊豆山の地域再生を目指す。

島学区まちづくり協議会
(滋賀県近江八幡市)



古くからの農村の宝物掘り起こし、
交流人口拡大

古い歴史を持つ地域の忘れられかけていた宝物を掘り起こすことで、地域の連帯や結束につなげる。近江八幡市島学区まちづくり協議会は、そんな試みを続けています。少子化、高齢化は避けられない現実ですが、あらたな住民や農業入植する人たちも少なくありません。

日本福祉協議機構
(名古屋市)



障害者に働く場、
中山間地域再生と共存の村づくり

当団体の理念は「利他行動」です。福祉とは利他行動が念頭になればいびつな物になります。そして、世間では資格や仕事と捉えられていますが、根幹的には「情熱」「考え方」と認識しています。今後、さまざまな変化を要求される福祉業界で、教育課題、雇用課題、質の向上に真摯に向き合い、常に化する勇気を持ち邁進していきます。有志の若者たちの希望を奪わない福祉業界づくりを続けていきます。

産後ケア「やわらかい風」

(鳥取市)

夜泣きの赤ちゃんとお母さんの宿泊支援、
父親の交流会

鳥取市の中心市街地にある古民家を改修し、2016年8月に開設して以降、これまでに3600組の親子を迎え入れた。産後ケア施設として、夜泣きの赤ちゃんとお母さんへの宿泊支援を実施するほか、温泉施設への日帰りツアー、子育て中の父親交流会のイベントも開く。代表の川口映子氏は助産師、保健師であり、「赤ちゃんは国の宝だが、赤ちゃんを産み育てるお母さんも宝」が持論。人口最少県の鳥取で、子育て支援の最先端に立つ。

リバークリーン・エコ炭銀行

(兵庫県加古川市)

河川の浄化に役立つ竹炭を活用、
里山再生

里山の竹林を手入れして、間伐した竹を焼き竹炭を作り、河川の浄化に役立てる取り組み。兵庫県加古川市の加古川流域で2003年に始まった。間伐・運搬、炭焼きなどの全工程に関わる必要はなく、それぞれができる活動を行い水質浄化や里山再生に貢献する。08年のG8環境相会合で関連の交流会に参加。東日本大震災後は、津波被害を受けた家屋の床下に炭を敷くなどの支援を行った。近年は活動をいかに次世代へ引き継ぐか模索を続ける。

あしぶえ

(松江市)

山あいの小さな劇場が拠点、
演劇を通じて人づくり

山あいの森の中にある小劇場を拠点に、国内外で作品上演を続けながら、「演劇を通じた人づくり、まちづくり」に30年近く取り組む。8回を数える国際演劇祭では多くの住民がボランティアや観客として参加し、多様な価値観に触れ、国際交流を深める。演劇の手法を生かしたコミュニケーション力育成授業や、演劇体験をする未来学校を通じ、子どもの「生きる力」を育む。演劇の持つ多様な力で少子高齢化が進む地域を元気づけている。

夢咲塾

(奈良県大和高田市)

静御前ゆかりの地で文化、
伝統産業を次世代へ

夢咲塾とは「まちづくり」と「ひとづくり」を通じて、夢のある未来を創造することを目的とするまちづくりのボランティア団体です。①歴史・文化を次世代に継承するセミナーやウォークの開催。②白拍子講座と白拍子派遣③映画を通じたまちづくり④行政への提言・提案活動⑤地元商店街活性化⑥市歴史文化振興委員会へ委員派遣⑦文化財ボランティアガイドとの協働⑧夢づくりまがじん「どりいむ」の発刊。などの活動があります。

第14回
優 秀 賞

タンDEM自転車NONちゃん倶楽部
(松山市)



障害者にサイクリングの機会、
交流の輪広がる

松山市を拠点に、障害者に複数人乗りのタンDEM自転車でサイクリングする機会を提供しているNPO法人。2010年に発足し、体験会や安全講習会、サイクリング大会を開催し、障害者の可能性を広げている。活動の趣旨や理念に賛同した多くのボランティアらが活動を支える。タンDEM自転車を通じてつながった一人一人の夢や目標も応援。「自分でもできるんだ」と新たな挑戦へ歩みを進める障害者らの交流の輪が広がっている。

金子みすゞ顕彰会
(山口県長門市)



夭折の童謡詩人の世界を
故郷から全国に発信

「みんなちがって、みんないい」「こだまでしょうか」普遍的な人間の心の有り様を短い言葉で詩にした金子みすゞ。戦前から戦後でほとんど忘れ去られ、幻の童謡詩人といわれました。顕彰会はみすゞの故郷、山口県長門市仙崎で結成して37年。資料収集や展示、イベントや学校教育などで、金子みすゞを現代に蘇らせ、世界中に広めました。今ではみすゞの愛した街や自然を感じようと全国からたくさんの人が訪れるまでになりました。

高知県綱引連盟
(高知県土佐市)



名物イベントの地元で、
人々のつながり強める

約1トンの大綱を引き合って力比べする高知県の夏の名物イベント「大綱まつり」。その舞台となる高知県土佐市の住民らが、綱引きによる地域活性化を図ろうと2021年7月に発足させたのが高知県綱引連盟。気軽に参加できるイベントなどで綱引きという地域文化の確立を目指すほか、日本綱引連盟の公式大会も開催。競技としての普及も目指し、コロナ禍で分断を強いられた人々が再び結びつきを強めるきっかけを提供している。

綾川町さぬきうどん研究会
(香川県綾川町)



うどん打ち教室やイベント、
郷土の食文化を後世へ

「讃岐うどん発祥の町」の住民有志が1989年に結成した「綾川町さぬきうどん研究会」。うどん打ち教室開催や県内外でのイベント出店のほか、2019年には家庭で一つづつくれるよう、時期ごとに小麦と水の分量などをこと細かく記したテキストも制作。香川の家庭で振る舞われてきた郷土が誇るソウルフードを後世に継承すべく努めている。

第14回
優 秀 賞

九州・
沖縄
ブロック

五島日本語学校
(長崎県五島市)



ベトナム人留学生と島民が交流、
日本との架け橋に

ベトナム人留学生が、日本語や日本文化を2年間学ぶ。学校は「日本とベトナムの懸け橋」を期待し、質の高い教育の提供、社会の発展に貢献する人材育成を目指している。学生は、豊かな自然や人情味あふれる島の人たちとの交流を通し、日本語能力を身に付け、将来の夢を描く。学校近くの住民は「自分の息子や娘のよう」と生活をサポート。人口減少が進む中、共生社会の形を示している。

鯉田・浦田活性化プロジェクト
(福岡県飯塚市)



地域の小唄を復活、
収穫を終えた田んぼでイベント

福岡県飯塚市の建設会会長の久保井伸治さんが主体となり、地域活性化に向け、地元で途絶えていた小唄の復活やPV制作、収穫後の田んぼを舞台にした「かかし球児による24時間ソフトボール大会」や「飛距離に応じて新米がもらえるやり投げ大会」などユニークなイベントを展開している。PV制作では支援者が広がり、イベントには毎回多くの人が集まる。炭鉱閉山で人口が減り、にぎわいが薄れた地域に、笑いと誇りを生んでいる。

走潟マルメロ会
(熊本県宇土市)



かつての特産果物から
細川家ゆかりの伝統菓子を再現

走潟マルメロ会は、果実マルメロの植栽や細川家ゆかりの菓子「かせいた」を再現、販売し地元の歴史を発信している。原料のマルメロが宇土市走潟町で栽培されていた史実を基にまちおこしをしようと2014年に結成。マルメロの植栽を続けながら、22年に商品化した。地元の小学校で苗木の植栽やジャム作り体験を開くなど住民と交流。現在はマルメロ商品の販路拡大を推し進め、全国に宇土市の魅力を発信している。

みんなでいろんな映画を見たいからバリ
アフリー映画をつくる会(みないろ会)
(佐賀市)



音声ガイドや字幕付きの
バリアフリー映画で人々結ぶ

ボランティア団体「みないろ会」は佐賀市松原のミニシアター「シアター・シエマ」を拠点に、オリジナルのバリアフリー映画製作に取り組んでいる。映画を通して、障害のある人もない人も、映画が好きな人が交流し、つながることができる場をつくっている。視覚、聴覚障害者を含め会員約20人が音声ガイドやバリアフリー字幕を試行錯誤しながら作り、上映会の運営も担う。バリアフリー映画を日常的に見られる環境づくりを目指す。

第14回
優秀賞

こども家庭リソースセンター沖縄
(沖縄県沖縄市)



子の一時預かりや孤立家庭支援、
ひとり親の就職も

地域住民同士で登録し子の一時預かりを担う「沖縄市ファミリーサポートセンター事業」を受託し、20年間運営している。ファミサポを軸に法人独自で公的制度のすきまを埋める事業を展開。経済的に厳しい世帯が無料でファミサポを利用できるチケットの発行、社会的に孤立している家庭への相談室、ひとり親の就職を支援するジョブカフェを開設。沖縄特有の課題を見据え、「子育ては社会全体で」の理念を実践している。

リエラ
(大分県日田市)



災害多発地域で被災者に寄り添う、
移住・定住支援

災害の多発する大分県日田市を拠点に被災者支援、移住・定住支援、防災支援の他、ロシアのウクライナ侵攻に伴う避難民の生活サポートなどを担う。「普段の暮らしから災害時まで、一人ひとりの声に向き合い、地域再生(Re area)のお手伝いをします」とのミッションを掲げる。活動の根底には「被災者自身が自立して暮らせる力を身につけてほしい」との思いがあり、伴走支援に徹しながら暮らしの再生を促す。

共同売店ファンクラブ
(沖縄県豊見城市)



人と人をつなぐ場としての価値を再発見、
サミットも

地域住民による共同出資・運営で、沖縄本島北部や離島を中心に存在する「共同売店」。「共同売店ファンクラブ」は、人口減少や交通網の発達、スーパー、コンビニなどの台頭で時代と共に減ってきている売店を応援し、地域を盛り上げようと活動している。物の売り買いだけの場所ではなく、地域の人と人をつなぐ場、コミュニティを形成する場としての価値を改めて見つめ直す。共同売店愛で地域を盛り上げる取り組みです。

これまでの大賞・準大賞受賞団体

(名称は受賞時)

第1回(2010年度)

大賞 グラウンドワーク三島(静岡)

準大賞 県立柏原病院の小児科を守る会(兵庫) 倉敷町家トラスト(岡山)

第2回(2011年度)

大賞 ブルーリバー(広島)

準大賞 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会(宮城) 大宮産業(高知)

第3回(2012年度)

大賞 島の風(沖縄)

準大賞 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形) 京町家再生研究会(京都)

第4回(2013年度)

大賞 はやめ南人情ネットワーク(福岡)

準大賞 大戸診療所(群馬) 西粟倉・森の学校(岡山)

第5回(2014年度)

大賞 てごねっと石見(島根)

準大賞 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会(福島) 酒谷地区むらおこし推進協議会(宮崎)

第6回(2015年度)

大賞 かさおか島づくり海社(岡山)

準大賞 沼垂^{ぬつたり}テラス商店街(テラスオフィス)(新潟) 岡崎まちゼミの会(愛知)

第7回(2016年度)

大賞 都岐^{つぎさ}沙羅 パートナーズセンター(新潟)

準大賞 東北開墾(岩手) パーソナルアシスタント青空(愛媛)

第8回(2017年度)

大賞 陽気な母さんの店(秋田)

準大賞 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク(東京) おっちラボ(島根)

第9回(2018年度)

大賞 多言語センター^{ファシル}FACIL(兵庫)

準大賞 きらりよしじまネットワーク(山形) いけま福祉支援センター(沖縄)

第10回(2019年度)

大賞 ふるさと福井サポートセンター(福井)

準大賞 あらかわ子ども応援ネットワーク(東京) 日高わのわ会(高知)

第11回(2020年度)

大賞 佐賀未来創造基金(佐賀)

準大賞 つばめいと(新潟) 志摩市民病院(三重)

第12回(2021年度)

大賞 河原部社^{かわらべしゃ}(山梨)

準大賞 こまちぶらす(神奈川) 石徹白洋品店^{いとしろ}(岐阜)

第13回(2022年度)

大賞 花の木農場(鹿児島)

準大賞 北海道ブックシェアリング(北海道) 対馬CAPP(長崎)



都道府県別・団体データ



テツプロ

(受賞当時：てつのまちふるじょくと・ホルタ工房)

賞 第1回優秀賞

NPO法人

北海道室蘭市輪西町 1-32-6



ボルトやナットで人形製作、鉄をテーマにまちづくり

鉄のまち室蘭の輪西町地区で工場合理化による人口減少に危機感を抱いた地元商店主らが鉄をテーマにまちづくり。ボルトやナットをはんだ付けたボルト人形「ボルタ」を製作している。サッカーをしたり、バイオリンを弾いたり約130種類あり、工房や北海道内の土産店などで年間3万個が販売される。工房では人形の製作や鉄の鍛造などが体験できる。子どもたちを対象に、地域の産業への関心とまちへの愛着を育む「てついく（鉄育）」を産官学民で進める。

北海道

- 羽幌みんなでつくる自然空間協議会
- テツプロ
- 江差塗工房
- 室蘭ルネッサンス
- アルテピアッツァびばい
- ふくろうの会
- おんねゆ温泉「山の水族館」
- 室蘭港立市民大学
- これぞ小清水！実行委員会
- 室蘭文学館の会
- 森の生活
- 室蘭港を愛する会
- キウシト湿原・登別
- 天売島おらが島活性化会議
- 有珠山周辺地域ジオパーク友の会
- 札幌大学ウレシバクラブ
- むろらん100年建造物保存活用会
- 恵み野商店会
- 知里森舎
- 箱バル不動産
- オコンシベの会
- カラカネイトトンボを守る会
- だて噴火湾縄文まつり実行委員会
- 北海道ブックシェアリング
- 室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会

江差塗工房

賞 第2回優秀賞

北海道江差町津花町42（有）室谷塗料店内



古材を使い漆塗りの家具を製作。漆の木の植樹も

北海道で漆文化の普及に取り組む。江差は江戸時代から明治時代まで、北前船によるニシンやヒノキ材の交易で栄え、石川県・輪島の漆器も取り扱っていた。塗装職人が輪島で技術を学んだ。家屋の解体現場にあった材木を使って漆塗りの家具や小物などを生産し、住宅内部の壁や柱、梁の塗装も行う。漆の木の植樹も続けている。町内に常設販売所があり、年に1回程度は函館市などで展示販売をしている。

羽幌みんなでつくる自然空間協議会

賞 第1回優秀賞

北海道羽幌町北 6-1 北海道海鳥センター内



多様な生物が生息する昔の空間づくりを目指す

羽幌町で生き物と共生する空間「ビオトープ」づくりに取り組む。旧羽幌川河川敷に野鳥が生息する森や人口の池、川を備える。生き物を捕って遊んでいた昔の空間を再現しようと、60～70代の地元の住民を中心に協議会を結成。確認された野鳥は80種類に及び、ガンやハクチョウが飛来する。北海道で初めて見られたものもあるという。トンボも数多く飛び回る。これまでミズナラやエゾマツなどを9600本植樹した。地元の高校生らと森づくりや生物の観察会も行っている。

ふくろうの会

賞 第3回優秀賞

北海道室蘭市本町 2-2-5 市立室蘭図書館



市民の寄付で美術書中心に収集。展示、講座も

市民がつくる市民文庫をつくろうと、寄付を呼びかけて絵巻物、掛け軸、版画などの複製、美術書を中心に収集、市立室蘭図書館に寄贈し「ふくろう文庫」として管理している。5000万円を超える寄付で購入した7000冊近い蔵書は珍しいものが多く、北海道外からも研究者らが訪れる。一般公開やボランティアによる蔵書案内のほか、企画展も開催。会費500円で会の中心メンバーである元市立図書館長から専門的な話を聞く「ワンコイン美術講座」もある。

室蘭ルネッサンス

賞 第2回優秀賞

一般財団法人

北海道室蘭市中央町 2-8-10



鉄塔ライトアップを柱に、市民の手で地域活性化

製鉄会社の高炉の廃止をきっかけに、まちの再生活動に取り組んでいる。自動車産業の企業城下町だった米ビッツバーグの活動をお手本に始めた。1988年から山の頂に建つ鉄塔のライトアップを続ける。光源はLEDに進化、周辺の工場の夜景と併せ、観光スポットとなっている。町内会ごとに数多くあった祭りを一本化した「室蘭ねりこみ」の開催も呼び掛けた。室蘭市内の風景写真を載せたカレンダーを毎年発行する。

おんねゆ温泉「山の水族館」

(受賞当時：果夢林ショップ運営協議会)

賞 第4回ブロック賞（北海道・東北）

北海道北見市留辺蘂町松山 1-4



道の駅で「山の水族館」を運営、イトウなど展示

道の駅で淡水魚を展示する「山の水族館」の運営に当たる。幻の魚といわれるイトウの数は国内有数、「四季の水槽」では、夏には上流へ向かって元気に泳ぎ、冬は厚い氷の下で静かに過ごす魚たちの姿が来場者を楽しませる。管理者をしている道の駅では土産物の売り上げが上昇、隣接する温泉地を訪ねる客も増えている。コロナ禍では水族館の様子を「北の大地の水族館」と題した動画チャンネルで配信、オンラインで飼育員が魚の知識を紹介した。

アルテピアッツァびばい

賞 第3回優秀賞

認定NPO法人

北海道美唄市落合町栄町



彫刻と自然が調和する「こころのふるさと」を次世代へ

美唄市出身でイタリア在住の彫刻家の作品を展示する「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」を管理・運営する。安田氏と市によって1992年に開設。今もなお創り続けられている。アルテピアッツァとはイタリア語で「芸術広場」。閉校した小学校の校舎を含む7ヘクタールの敷地に40点余りの作品が並ぶ。体験工房やカフェもある。美と自然が調和する空間に年間3万人が訪れ、心地よい時間の流れを楽しんでいる。

室蘭文学館の会

賞 第5回優秀賞

北海道室蘭市海岸町 1-1-9



室蘭ゆかりの文学館をボランティアが運営

公設・民営方式の「室蘭市港の文学館」をボランティアが運営している。地元の文学資料の展示会が開かれた際、貴重な資料を散逸させてはならないと有志が団体結成を呼び掛け、市が建物を提供した。現在のスタッフは20数人で、資料整理や来館者の案内、企画展の運営に当たる。展示している作家の説明会やライブ演奏、朗読会、地域の文学作品にまつわる名所の散歩などにも積極的に取り組んでいる。

室蘭港立市民大学

賞 第4回優秀賞

北海道室蘭市中央町 2-8-10



学習会や施設見学などを通じ港町への愛着を育てる

「まちづくりは人づくり」という観点に立ち、室蘭全域をキャンパスに「室蘭大好き人間」の養成を目指して活動。年10回程度の講義や施設見学などの講座を通して室蘭の歴史や文化、産業について学び、多くの人に地元の魅力を伝える。石炭や製鉄の歴史を広く知るための市外へのバス研修や受講生有志で港周辺の美化活動も実施している。

森の生活

賞 第6回特別賞

NPO法人

北海道下川町南町 477



森を生かして森林環境教育など幅広い取り組み

循環型森林経営と先進的な木質バイオマスエネルギー利用で知られる「森林未来都市」北海道下川町で、森の生活は森林文化の創造を担う「森林交流のバイオニア」として活動している。林業体験などの森林ツーリズムには年間2000人近い利用があり、人と森との新たな出会いになっている。また、市街地の雑木林で住民参加の「みんなの森づくり」を進めるほか、森林教育活動、工芸用木材販売など幅広い活動を展開している。

これぞ小清水！実行委員会

賞 第5回優秀賞

北海道小清水町小清水 5区 ループドールカフェ内



特産のジャガイモでんぶんでまちおこし

特産のジャガイモでんぶんでまちおこしに取り組む。郷土料理の「でんぶん団子」を味わうイベントを毎年開催している。1000人が訪れた第1回では、巨大でんぶん団子作りに挑戦し、ギネス世界記録に認定された。実行委員会のゆるキャラ「でん坊」もPRに役買っている。こうした取り組みが、せんべいの原料に使うでんぶん不足で困っていた福岡市の会社の目に留まり、同社は小清水町内の廃校を買い取って工場を稼働させた。雇用を生み、大きな経済効果も生まれている。

天売島おらが島活性化会議

賞 第8回優秀賞

一般社団法人

北海道羽幌町大字天売字弁天 40-1



体験型観光の提案や地元海産物を用いた商品づくりを展開

北海道の北西、羽幌町の沖合に浮かぶ人口約270人（2020年3月末時点）の天売島で、島おこしに取り組む。過疎化が進み、島の将来に不安を抱いた青年らが11年に立ち上がった。ウニなどの地元海産物をPRする商品づくりやシーカヤック、星空観察といった離島ならではの体験型観光の提案、海鳥と共生する環境保全一。おらが島の自慢を次々に発信する。漁業者や運送業者、役場支所職員ら30～50代の9人がメンバーで、高校生も活動に加わる。

室蘭港を愛する会

賞 第6回優秀賞

北海道室蘭市御前水町 3-5-7



客船を信号旗で歓迎、まちの魅力もアピール

室蘭港に入港、出港する客船、練習船を、埠頭（ふとう）で国際信号旗を振って歓迎・見送りをしている市民グループ。子どもたちに信号旗を教え、名前やアルファベットを表現する体験会も開いている。また、埠頭に着物着付けや和小物作りなどの体験コーナーを設け、日本製鋼所室蘭製作所の瑞泉鍛刀所見学会を実施するなど、外国人や道外から来た乗客をさまざまな方法でもてなし、ものづくりのまち・室蘭の魅力を発信している。新たなフェリー航路の誘致についても側面から支援してきた。

有珠山周辺地域ジオパーク友の会

賞 第8回優秀賞

NPO法人

北海道壮瞥町滝之町 384-1 そうべつ情報館 i 2F



行政と連携し、過去に噴火した火山との共存活動に取り組む

北海道の南西部にある有珠山は2000年に噴火した。洞爺湖有珠山ジオパークは、温泉や美しいカルデラ湖が火山の恵みだと宣言し、火山との共存をうたう。有珠山周辺地域ジオパーク友の会は、行政のバックアップを受けつつ、広域の民間団体として活動している。立ち入りが禁止されている昭和新山の登山会、観光客が訪れる有珠山散策路の草刈りをはじめ、ジオパークに含まれている秘境駅、小幌駅の存続応援や遺跡の踏査などにも取り組んでいる。

キウシト湿原・登別

賞 第7回優秀賞

NPO法人

北海道登別市若山町 2-21



貴重な動植物が住む湿原を保全、管理

北海道登別市にある「キウシト湿原」には、レッドデータ種類（絶滅危惧種）の生物が住む自然環境がある。2001年に環境省の「日本の重要湿地500」に選定された。「NPO法人キウシト湿原・登別」は湿原を保全、管理、市民や来訪者に学習の機会を提供している。ミズバショウなど多彩な植物の開花状況や、エゾサンショウウオ、エゾホトケドジョウといった希少動物の生息状況を調査している。植物の定植や外来種駆除も実施している。

恵み野商店会

賞 第10回ブロック賞（北海道・東北）
北海道恵庭市



商店街第2世代が花のまちづくり、イベント開催

約40年前にできた新興住宅地の商店活性化を30～40代前半の若い理事たちがけん引。母親の代から続く花のまちづくりを受け継ぎ、歩道に700メートルにわたって個性豊かな36のミニ庭園を配置したガーデンギャラリーは、全国的に高い評価を受けている。さらに「子どもが楽しめる街」をコンセプトに、興味を引きそうな難易度が高い推理ゲームを夏祭りで開催。飲食店以外に理容店などが自慢の味を提供する屋台イベントも好評だ。

札幌大学ウレシパクラブ

賞 第9回特別賞
一般社団法人
札幌市豊平区西岡3条7-3-1 札幌大学内7513号室



アイヌ研究に取り組む。イベントなどで広く情報発信

札幌大学ウレシパクラブはアイヌ文化の担い手育成を目的に、2010年4月に発足した。ウレシパはアイヌ語で「育て合い」の意味で、学生22人が所属。普段はアイヌ文化を学び、17年の冬季アジア大会の採火式など各イベントで発信し続けている。毎年秋に学内で行う「ウレシパ・フェスタ」は、音楽家の坂本龍一さんを招いたり、人気漫画「ゴールデンカムイ」特集を行ったりと、多彩な内容で、市民から好評だ。

知里森舎

賞 第10回優秀賞
NPO法人
北海道登別市登別本町2-34-7



「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の記念館運営

アイヌ文化を継承させてきた先人の生涯と業績に学び、広く伝えている。アイヌ民族として初めてカムイユカラ（神謡）を文字化した「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の業績を顕彰する「銀のしずく記念館」を生家近くに開いた。神謡集を読んだ海外の読者がそれぞれの母語に翻訳する動きが続いている。2019年からは小学生向けのイベント「アイヌ文化たんてい団」を開催。今後、22年の幸恵没後100年、23年の生誕120年などを記念した企画展がめじろ押しだ。

むろらん100年建造物保存活用会

賞 第9回優秀賞
一般社団法人
北海道室蘭市緑町2-1



石炭や製鉄産業の歴史伝える建物保存に取り組む

室蘭の歴史的価値の高い建造物等の保存活用、調査研究、情報収集及び観光事業などを行っている。約150年前の石炭関連の商社である旧三菱合資会社が建造した木造洋館を、歴史的な保存空間として残そうという市民の機運で会を設立し、建物を買い取った。洋館は2019年「炭鉄港」の関連資産として日本遺産に認定された。円形のユニークな校舎で、縄文遺跡の上にある旧絵鞆小学校もクラウドファンディングで買い取り、ランドマークとして活用する。

カラカネイトンポを守る会

賞 第12回優秀賞

認定NPO法人

北海道札幌市北区あいの里三条 7-15-10



希少なトンポが生息、失われゆく湿原保全に住民動く

札幌市北辺部にある北区あいの里地区で、希少なイトンポが生息する地元の篠路福移湿原を守る活動を1997年から続けている。湿原の外にはビオトープも造成し、地域住民に水辺空間の貴重さを発信している。残土や産業廃棄物の埋め立てなどにより、湿原の面積は会発足当初の5分の1の4ヘクタールを切っており、土地を地権者から買い取るナショナルトラスト運動も積極的に展開している。

箱バル不動産

賞 第11回優秀賞

合同会社

北海道函館市末広町 18-25



空き家活用、伝統的建造物改修に募金やボランティア

歴史的な街並みが残る函館市西部地区で空き家が増え、建物が消えつつある中、「空き家を使いたい人を見つけることで街並みを守りたい」と、地域の建築士、不動産業者、デザイナーら30代の4人が2015年に設立した合同会社。空き家を活用した移住体験イベントやリノベーションなどを通じて地域活性化に取り組んでいる。市指定伝統的建造物の改修ではクラウドファンディングの目標金額を大きく上回り、ボランティア約100人が協力。宿泊施設や飲食店などのテナント入居につながった。

だて噴火湾縄文まつり実行委員会

賞 第12回優秀賞

北海道伊達市鹿島町 20-1 伊達市教育委員会内



世界遺産の縄文史跡を地域づくりのエネルギーに

だて噴火湾縄文まつり実行委員会は、北海道伊達市の国指定史跡北黄金貝塚公園を舞台に、毎年イベントを開催。市民や訪れる人々に貴重な遺跡の存在を知ってもらい、縄文文化や縄文人に対する興味の扉を開いている。2021年7月に世界遺産となった、北海道北東北の縄文遺跡群を構成する史跡で、その価値は世界に認められた。豊かな自然と歴史文化を誇りに、エネルギーを地域づくりに還元している。

オコンシベの会

賞 第11回優秀賞

北海道伊達市鹿島町 20-1 伊達市役所教育委員会文化財係内



子どもたちの縄文遺跡学習を住民ボランティアが支援

2021年7月に世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中のひとつ、北海道伊達市の国指定史跡北黄金貝塚公園で活動する団体。縄文遺跡は、特色ある石器や土器、骨角器はあるが地味な存在とみられがち。しかしながら自然との調和を図り長期間定住し、北海道では続縄文、アイヌ文化へと連なる基層文化と考えられる。遺跡の活用によるまちづくりを担う市民40人が、学習旅行で訪れる小学生に魅力を伝えている。

青森

- 南郷ジャズフェスティバル実行委員会
- 八戸せんべい汁研究所
- Kyosokyodo (共創郷土)
- 八戸ハマリレーションプロジェクト
- 十和田バラ焼きゼミナール
- 山の楽校運営協議会
- 八戸前沖さばブランド推進協議会
- 湊日曜朝市会
- 八戸市中心街市民集団「まちぐみ」
- 十和田きみからスリッパ生産組合
- 田子町新田自治会
- 階上売り込み隊
- はちのへ未来ネット



南郷ジャズフェスティバル実行委員会

賞 第1回優秀賞

青森県八戸市南郷市野沢黒坂 11-10 南郷事務所内



日本有数の野外ジャズイベントを実施

青森県南郷村（現在は八戸市と合併）のむらおこしの一環として、ジャズ好きだった元村長がフェスティバルの開催を呼び掛け、若い住民らが呼応して運営に当たる。毎年7月に野外ステージで開催し、有名なミュージシャンが演奏を披露する。2019年で30回目となった。毎年約2千人のファンが訪れ、全国的に知られるジャズフェスティバルに成長した。アーティストのジャンルを広げ、多くの人が聴きやすいイベントを目指している。

北海道ブックシェアリング

賞 第13回準大賞

北海道江別市大麻東町 13-45



古書の提供や絵本の交換会、格差のない読書環境を

子供の頃に読んだ思い出の一冊は誰にでもあるはず。過疎化で地方の書店が消えゆく中、子供たちにそんな「心の宝物」を届けようと、学校や施設への古書の無償提供、学校図書館拡充に向けたサポートセンターの運営、アドバイザーの派遣など、「格差のない読書環境づくり」に取り組んでいる。地元商店街では古本市や講演会などを組み合わせたイベント「ブックストリート」を毎月開催、「本を生かした地域おこし」にも力を入れている。

室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会

賞 第13回優秀賞

室蘭市



海岸の環境を守る人育成へ、出前講座や漂着物展示

「鳴り砂は、環境のバロメーター」を合言葉に活動を進めている。鳴り砂の現状を把握し「見守る」、大切さを「伝える」、汚染や存続の危機を「訴える」が活動の3本柱。全国的にもめずらしい「鳴り砂」が残る北海道室蘭市のイタンキ浜を保全しようと、海岸に近い小中学校の総合学習に参加し、出前講座を開いている。自分達でゴミを拾うだけではなく、海岸を守る人を育てることに注力する。さらに、漂着物の展示を通じて市民の環境保全意識を高めている。

八戸ハマリレーションプロジェクト(HHRP)

賞 第4回優秀賞

青森県八戸市白銀町三島下 92 八戸缶詰株式会社内



バイヤースなどイベント仕掛け水産品アピール

東日本大震災で被災した青森県八戸港で若手の水産業界有志が結成した。八戸港ではイカやサバをはじめとして、多くの種類の魚の水揚げがあり、価値向上と消費拡大を目指す。市内の料理店の協力を得て、魚介類を使ったオリジナルのスープ料理を提供する「八戸バイヤースフェスタ」を2012年から開催、特に若い女性からの支持が集まり例年1万食以上が売れる。テーブルマナーを学ぶ親子教室、教育委員会と連携した食育にも取り組む。

八戸せんべい汁研究所

賞 第2回優秀賞

青森県八戸市一番町 1-9-22



地元独特の料理を名物に。ご当地グルメの先駆け

肉や野菜のだし汁に鍋用の南部せんべいを入れ煮込む郷土料理、八戸せんべい汁。地元独特の味を全国に発信し、まちおこしにつなげようと飲食店と関係のない市民ボランティア団体を結成。現在のメンバーは三十数人で、取扱店の紹介、ホームページ運営のほか、県内外のイベントなどで八戸をPRしている。市内の小中学生対象のまちおこし講座や、修学旅行にも対応する。ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」の設立に携わり、第1回大会を八戸市内で開催した。

十和田バラ焼きゼミナール

賞 第5回優秀賞

青森県十和田市西二番町 7-4



名物料理を軸に「住んでみたい」まちづくり

牛バラ肉とタマネギを甘辛く味付けた名物料理を通じて十和田をPRする。メンバーは会社員や団体職員ら十数人で、県外に実演販売などにも出掛ける。ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」に出場し、第9回でゴールドグランプリに輝いた。2015年の第10回は十和田市で開催し、5500人のボランティアが30万人以上の来客をもてなした。「食べてみたい」「訪れてみたい」に続く目標として「住んでみたい」をテーマに、高校生を巻き込んでまちづくりに取り組む。

Kyosokyodo (共創郷土)

賞 第3回優秀賞

青森県十和田市東三番町 24-1 新渡戸記念館内



新渡戸稲造の遺志継ごうとボランティアが記念館運営

世界に通ずるローカル記念館を目指す新渡戸記念館を、基本的な博物館機能の面でサポートしつつ、十和田市の礎である「三本木原開拓」の志を受け継ぐ地域づくり活動を行っている。ローカル面では、開拓の歴史と文化を後世に伝える活動（教育事業、地ブランドづくりなど）、グローバル面では稲造の精神を受け継ぐピースプロジェクト（アフガニスタン、エチオピア、ケニアなど）がある。

湊日曜朝市会

賞 第8回優秀賞

協同組合

青森県八戸市城下 4-1 加山珈琲内



八戸港岸壁で朝市運営、地元の商業発展目指す

2004年3月から八戸市の八戸港館鼻岸壁での朝市を運営。組合設立は10年3月26日。出店者の親睦と融和、総合的朝市会の市としての繁栄に向けた事業を展開し、商業上の発展を目的に掲げる。会員数は309店。館鼻岸壁朝市は現在、毎年3月中旬から12月下旬まで毎週日曜開催（お盆、年末には臨時開催も）。営業時間は日の出から午前9時ごろまで。出店数は約300に上る。

山の楽校運営協議会

賞 第6回優秀賞

青森県八戸市南郷島守北ノ畑 6-2



そば打ちや工芸品の講座で伝統文化を継承

青森県八戸市南郷地区で、地域に建設されたダムにより水没した地域の住民たちが、閉校された小学校の校舎を利用して、自分たちの歴史と自然を後世に伝え、地域の活性化につなげようと奮闘している。スローガンは「やっぱり田舎って良いなあ」。徹底的に田舎文化にこだわり、お年寄りが講師となって、そば打ち体験、豆腐やみそづくり、民芸品づくりなど、地域の伝統・文化・自然をありのままの姿で伝えている。

八戸市中心街市民集団「まちぐみ」

賞 第9回ブロック賞（北海道・東北）

青森県八戸市内丸 1-3-16



市内外の多彩な人が参加、店の改装や新名物に挑戦

中心街を「まちぐるみ」で元気にする市民集団。小学生から高齢者まで市内外の約500人が、空き店舗を拠点に商店会との連携や、地元の伝統・文化に光をあてる企画「入りづらい店」徹底調査、「開運手袋」の考案などを展開している。各自の興味や都合に合わせて自由に参加する「なんか楽しそう」な場を目指す。コロナ禍では手づくりの旗を店頭に掲げ、医療従事者への感謝を表す「ブルーフラッグプロジェクト」を展開した。

八戸前沖さばブランド推進協議会

賞 第7回優秀賞

青森県八戸市堀端町 2-3



サバのブランド化を目指し関係団体が協力

八戸前沖で漁獲されるサバの価値と認知度の向上、地域ブランドの形成を目指し、地元の水産、観光、飲食、行政など50を超える団体が集まり、2008年7月に発足した。ブランドとして認定する漁獲期間は水揚げ状況、脂肪分、重量等を参考に協議会が毎年判断し決定している。今後は首都圏向けにもPR事業を展開する予定だ。

階上売り込み隊

賞 第12回優秀賞

青森県三戸郡階上町道仏天当平 1-87 階上町産業振興課内



古木や巨木は郷土の宝、ツアーやイベントで振興

青森県階上町の魅力を発信するためボランティアガイドなどを行う「階上売り込み隊」。2010年の結成以来、イベント創設などで観光振興を図ってきた。同町は推定樹齢千年のイチョウをはじめ、多くの古木や巨木が残る「巨木の郷(さと)」。季節によって彩りを変える木々を案内するツアーなどを例年、春と秋に開催し、木と地域の関連や守ってきた人々の思いなどを解説している。町内の児童も案内し、郷土愛をはぐくんではいる。

十和田きみがらスリッパ生産組合

賞 第10回優秀賞

青森県十和田市伝法寺字平窪 37-2



トウモロコシからスリッパ、デザイン向上、後継育成

馬の街・十和田市で育てられた飼料用トウモロコシのデントコーンの大量廃棄された皮を再利用し、加工して作った「きみがらスリッパ」。農閑期の収入源として、農家の女性たちが生産に励み約50年前に組合が発足した。一つ一つ手作りで受け継いできたが、そうした伝統や形式にこだわらずデザイン性を向上させながら、商品の付加価値を高めている。最近では地元高校生とも交流を図りながら後継者育成や地域貢献につなげている。

はちのへ未来ネット

賞 第13回優秀賞

NPO法人

青森県八戸市八日町 43-1 ポレスター 701



子どもと親世代が集い、話し合い、悩みを共有できる場

NPO法人はちのへ未来ネット（青森県八戸市、平間恵美代表理事）は「子育てで街を盛り上げたい」との思いから、同市の中心街に拠点を構え、10年以上にわたり子どもと親を優しく支援し続けている。ビルの一画で「こどもはっち」と名付けたセンターを運営、子どもとその親世代が「集い、話し合い、悩みを共有できる場」を提供。「子育てこそが全てにつながる」との思いは、市民にとってかけがえのない存在になっている。

田子町新田自治会

賞 第11回優秀賞

青森県田子町遠瀬新田 5-2



特産のそばと水車を活用し、過疎の集落を活性化

少子高齢化に悩む過疎の集落が、農業振興と四季を通じたイベント開催で地域おこしを展開している。転作作物として栽培したソバと、江戸時代から残る水車を活用した「新田そばまつり」を20年以上続けている。自治会と地元農家が連携して販売体制も確立。住民が一致団結して取り組み、世帯数40弱という小さな集落の交流人口は増加、地域は活力を取り戻す。研修会実施や施設整備などで、担い手の育成にも力を注ぐ。

遠野まごころネット

賞 第2回特別賞

NPO法人

岩手県遠野市材木町 2-21



ボランティアや団体を束ね、沿岸部の被災者支援

岩手県内陸部の遠野市は東日本大震災で被災した陸前高田市、大槌町、大船渡市など海沿いのまちに向かう交通の拠点。復興、復旧のために全国から駆け付けたボランティアの受け入れ拠点となり、10万人以上を現場に送った。地元有志の呼びかけで遠野市民らを中心に結成し、活動を支援、バジル、ラベンダーの栽培や、祭りやイベントの手伝いも。障がい者のための「まごころ就労支援センター」を釜石市と大槌町に開設。工芸や農業、ワイナリーの苗木の手入れなどの仕事に就いてもらっている。

岩手

- 体験村・たのはたネットワーク
- 遠野まごころネット
- いわて子育てネット
- 久慈市ふるさと体験学習協会
- 南風太陽
- いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会
- たきざわグリーンワークス
- しずくいし軽トラ市実行委員会
- 釜石電機製作所
- ヘラルボニー
- NEXT REVOLUTION



いわて子育てネット

賞 第3回ブロック賞(北海道・東北) 認定NPO法人

盛岡市大通 1-9-12 第8大通ビル 3階



子育てでセミナーで結婚、出産前の社会人をサポート

子育て中の親を見ていると子どもを産むまでに妊娠・出産・子育てと教わる機会も少なく、子どもを産んでから戸惑う人が多い。また、3組に1組の離婚。結婚2年目から5年未満(子どもが0から2歳)の頃、離婚率が高いという現実から、結婚や出産を控えた社会人を対象に、①自分も相手も大切に自己表現・アサーティブコミュニケーション ②産前産後の女性の変化・脳の性差 ③赤ちゃんの1歳までの心と体の発達 ④お金の話等を中心にセミナー開催、冊子作成し、夫婦、家族の成熟を支援した。コロナ禍においてオンデマンド配信を行なった。

体験村・たのはたネットワーク

賞 第1回優秀賞

NPO法人

岩手県田野畑村北山 129-10



三陸海岸の立地生かし、海と山の体験型観光推進

漁師が寝泊まりする「番屋」が並ぶ海岸沿いの立地を利用して観光客や教育旅行の受け入れによるエコツーリズムに取り組む。地元漁師が小型漁船「サツバ船」を操り、三陸海岸の景観やふれあいを楽しむクルーズが人気。灯台や展望台を巡るトレッキング、貝殻を使った工作体験など多くの体験メニューを備える。来訪者は年間約7千人。教育旅行の民泊の窓口にもなっている。近くの酪農農家などと連携し、海と山とが一体となった観光による地域振興を探る。

いしがきミュージックフェスティバル実行委員会 運営委員会

賞 第8回優秀賞

岩手県盛岡市大通 1-11-12 ヒグチビル 4F



野外音楽イベントで中心市街地を活性化

野外音楽イベント「いしがきミュージックフェスティバル」を旧盛岡城址「岩手公園」を主会場に年1回開いている。若手・中堅世代の市民が運営、資金は市内の民間企業の協賛金がメイン。市や県からの補助金も得て入場無料を貫く。人気バンドなどゲスト出演は約30組。地元からロックバンド、民謡歌手、高校生バンド、障害者団体など約70組が出演する。盛岡駅から公園までの約1キロに10ステージを設け、街中に音楽があふれる。

久慈市ふるさと体験学習協会

賞 第5回優秀賞

一般社団法人

岩手県久慈市川崎町 1-1 久慈市商工観光課内



体験型教育旅行の受け入れ

地元と首都圏の小中学生の交流を目的とした自然体験キャンプの開催をきっかけに、中高生らの体験型教育旅行を受入れる専門組織を結成した。会員は約50名8団体。小型漁船「サツパ船」に乗船しての漁業体験、郷土食の「まめぶ」や豆腐を作る郷土料理づくり体験、沢登り、カヌー・カヤック体験など体験メニューは豊富だ。一般客も体験に参加できる。白樺林をトレッキングし、昼食には栄養バランスのとれた「白樺べっぴん弁当」、最後は白樺樹液のジェルでハンドマッサージを受けることができる「ヘルスツーリズム」にも力を入れている。

たきざわグリーンワークス

賞 第9回優秀賞

岩手県滝沢市鶴飼笹森 140



若手農家が力を合わせ、販路拡大や就農支援継続

岩手県滝沢市で40歳以下の若手農業者が組織する「たきざわグリーンワークス」は農業の担い手不足が深刻化する中、新規就農者定着、生産加工販売、食育などでチャレンジ精神旺盛な農業を展開している。「滝沢スイカ」と岩手の文化「チャグチャグ馬コ」を守るため馬ふん堆肥でスイカを栽培し、販売益金を馬の飼育費に役立てる活動にも乗り出し、地域ブランドと歴史伝統の両立を図るユニークな取り組みとして注目を集める。

雨風太陽

(受賞当時：東北開墾)

賞 第7回準大賞

株式会社

岩手県花巻市大通り 1-1-43-2 JR 東日本花巻駅構内

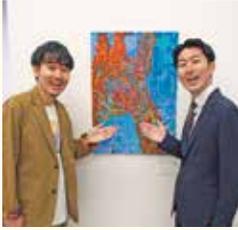


全国の食材「つくる人」「食べる人」をつなげる

2013年に設立された「東北開墾」が、「つくる人」と「食べる人」をつなげる食材付き情報誌「東北食べる通信」を発刊したことがスタート。各地で同趣旨の雑誌が創刊され統括・運営体として「日本食べる通信リーグ」が発足した。16年にはスマホのアプリを使った産直プラットフォーム「ポケットマルシェ」の事業が始まる。生産者と消費者が顔の見える関係になることを目指す軸はぶれない。20年5月にこれらの事業は「ポケットマルシェ」に統合、新たな生産・流通の実現を図る。

ヘラルボニー

賞 第12回共創アート賞 株式会社
岩手県盛岡市開運橋通 2-38 @HOMEDELUX ビル 4F



障害のある作家の障害者アートを高級ファッションに

株式会社ヘラルボニー（本社・盛岡市、松田崇弥社長）は、ネクタイなど障害のある作家のアートの商品化や空間演出、福祉をテーマとしたイベント企画などを手掛ける。同市のカワトクにある常設店のほか全6ヶ所の百貨店を中心としたポップアップ出店による販売店舗を展開する。「異彩を、放て。」をミッションに掲げ、社会にはびこる先入観や常識を飛び越えて、無数の個性をさまざまな形で提案。プロデュース力で商品のクオリティを高め、販売して作家へ還元するサイクルを目指す。

しずくいし軽トラ市実行委員会

賞 第10回優秀賞
岩手県雫石町中町 7-4 雫石商工会



「軽トラ市」を全国に先駆けて開催

5～11月の毎月1回、雫石町中心商店街「よしゃれ通り」で開催するしずくいし軽トラ市は、2005年に始まり、100回を超えた。軽トラックの荷台に農林水産物などを陳列し販売するスタイルを全国に先駆けて確立。参加者にとって移動や出店、退店の負担が軽いのが特長だ。同様の手法は広がり、今では全国に100を超す軽トラ市が生まれた。14年には軽トラ市の発祥地として全国軽トラ市を開催、空洞化が進む中心市街地の地域再生モデルになっている。

NEXT REVOLUTION

賞 第13回優秀賞 株式会社
八幡平市大更 25 の 113（八幡平市起業家支援センター内）



起業家養成のプログラミング合宿、移住のきっかけに

起業家養成の短期集中型無料プログラミング合宿「スパルタキャンプ」の運営を担う。参加者は約5週間共同で生活し、ウェブサービスやアプリ開発、ビジネスプランの作成などを学ぶ。修了後の起業も支援する。修了後同市に移住した先輩たちや住民との交流を通じて移住を考えるきっかけとし、移住者や関係人口の増加につなげている。同市ではキャンプをきっかけに12法人が起業。県内のほか北海道ニセコ町などにも活動を広げている。

釜石電機製作所

賞 第11回優秀賞 株式会社
岩手県釜石市甲子町 9-171-4



独自の光触媒技術でウイルス不活化の機器開発を推進

鉄の街、釜石で、主にモーター・ポンプの整備・修理に携わり、機械器具設置工事、受託溶射加工などに取り組んできた。そこから空気環境事業として独自の光触媒技術を搭載した空気抗菌装置の製造・販売を展開。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、衛生、ウイルス対策が注目される中、同社独自の高効率光触媒技術を用いてウイルスを不活化する機器の開発を進めている。これまで畜舎などの業務用の開発に力を入れてきたが、今後は医療機関や福祉施設、学校の教室などもターゲットにしている。

定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会

(受賞当時：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会)

賞 第2回準大賞

公益社団法人

仙台市青葉区国分町 3-8-3 新産業ビル 304



ボランティアで誰もが参加できる音楽祭を開催

仙台市定禅寺通りを中心に市中心部各所の屋外ステージで催される無料の音楽祭で地元の音楽家や商店街の人たちが始めた。毎年9月に開かれる。2日間で70万人以上を動員。開催が危ぶまれた東日本大震災の年も盛況だった。ジャズのほか、ロック、ゴスペル、和楽器演奏などさまざまなミュージシャンが参加する。参加バンド数は国内最大級だ。市民らから広くカンパを募り、運営費に充てている。定禅寺通りの一部を歩行者天国にして客は思い思いに音楽を楽しむ。

宮 城

- 鳴子の米プロジェクト
- 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会
- 仙台市宮城野区福住町町内会
- ISHINOMAKI 2.0
- 三陸復興観光コンシェルジュセンター
- 亘理いちごっこ
- 仙台秋保醸造所
- フィッシャーマン・ジャパン
- 日本カーシェアリング協会
- ほやほや学会
- まるオフィス
- 巻組
- 六日町合同会社



仙台市宮城野区福住町町内会

賞 第3回特別賞

仙台市宮城野区福住町 2-14 菅原動物病院



災害対策進め食料・器具を準備、他地域も支援

東日本大震災発生後、町内の400世帯のほか、岩手県大船渡市や気仙沼市など240カ所以上に支援物資を手渡した。まちは自分たちで守るという発想の下、炊き出し用の調理器具や備蓄米などを豊富に保管していた。防災マニュアルや緊急名簿を備え、山形県尾花沢市などと災害時の相互協力協定も結んでいた。取り組みは「仙台福住町方式」と呼ばれ、全国で講演に招かれる。自分や地域の人命を守る「自助」「共助」に加え、他の地域を支援する「他助」の概念を広めている。

鳴子の米プロジェクト

賞 第1回優秀賞

NPO法人

宮城県大崎市鳴子温泉字星沼 77-84



山間地の農家と消費者が交流、米作りに取り組む

鳴子温泉地域の鬼首地区は山間地で農業の疲弊が進み、遊休地や耕作放棄地が目立っていた。昔ながらの景観を守るためにも地域の産業を支えようと、農家や旅館経営者らで団体を立ち上げた。寒さに強い品種を「ゆきむすび」と名付け、シンボル米とした。作り手を応援しようと、比較的高い価格に設定している。もちもち感があり、冷めてもおいしいと評判で例年予約段階で完売する。鳴子で生まれたコメが人と人を結んでほしいと、食に関する講演会も定期的に行っている。

亘理いちごっこ

賞 第6回優秀賞

NPO法人

宮城県亘理町南町東 10-1



地域住民みんなで生きやすい地域を目指す

東日本大震災直後に、《炊き出しレストラン》・学習サポート《寺子屋いちごっこ》・《いちごっこお話聞き隊（傾聴活動）》を運営してきた。また、地域内外交流を図り、被災地域の発信を行ってきた。地域に必要なことは何かを模索しながら活動を続けている。地域ニーズや継続性から、レストラン活動・寺子屋活動を終了。現在は《保育事業》や、地域住民の困りごとに対応する《生活サポート事業》を主軸としながら、コミュニティ活動・音楽活動・子ども事業を手掛けている。

ISHINOMAKI 2.0

賞 第4回特別賞

一般社団法人

宮城県石巻市中央 2-10-2



イベント、まなび、移住で被災地バージョンアップ

東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市で「世界で一番面白い街づくり」を掲げ「震災前の状況に戻すのではなく、新しいまちへバージョンアップする」との思いから「2.0」とした。市街地活性化のため、野外映画上映などの公共空間の活用をおこなう。高校生に地域の魅力を知ってもらう教育プロジェクト「いしのまき学校」では次世代の教育にも力を入れている。また石巻市とともに移住促進事業をおこない、県外での移住フェアへの参加や相談窓口を設置。これまでに80名程が相談窓口を経て石巻市へ移住している。

仙台秋保醸造所（秋保ワイナリー）

賞 第7回優秀賞

仙台市太白区秋保町湯元枇杷原西 6



宮城県産ワインの先駆け、ブドウの自社栽培も

仙台市の奥座敷、秋保温泉郷で創業し、2015年にワインの製造、販売を開始。東日本大震災で宮城県唯一のワイナリーが流されて以来、最初のワイン生産施設となった。ブドウの自社栽培にも取り組む。代表の毛利親房さんは脱サラして起業。大学生と連携し、オリジナルシードルの販売も開始した。秋保地区では16年のG7財務相・中央銀行総裁会議が開催されたのを契機に地域振興の動きが加速。秋保ワイナリーでは担い手の育成を行っており、県内はワイナリーが増えている。食材とのマリアージュを楽しむ動きが広がっている。

三陸復興観光コンシェルジェセンター

(受賞当時：小泉自然寮校)

賞 第5回ブロック賞（北海道・東北）

宮城県南三陸町黒崎 99-17 南三陸ホテル観洋気付



コンシェルジェとして三陸復興観光国立公園紹介

「東日本大震災沿岸部被災地にボランティアとあわせて地元の語り部ガイドから学びたい」人々を受け入れている。「被災地を見て学んで次の災害に備えたい」「東北の海の幸、おいしいものを食べてゆっくり温泉に入りたい」「東北の四季折々の景観や観光を楽しみたい」。すべての想い、その時にしかできない思い出。全国からのボランティアと地元の想いをつなぐ「志縁」を現地コンシェルジェが調整、訪れる人々と地元の人々との笑顔を育み、元気に触れ合える復興観光を推進する。

ほやほや学会

賞 第10回優秀賞

一般社団法人

宮城県石巻市中央 2-5-7



ホヤ消費拡大を目指し漁師や消費者らが魅力発信

全国有数のホヤ生産地、宮城県で、消費拡大を目指し漁師や水産加工会社、県内外の消費者らが連携した。東日本大震災で輸出が打撃を受けたことに発奮、首都圏の消費者と漁師をつなぐツアーやイベント、調理法などを学ぶワークショップを開催し、ホヤの魅力を国内に発信してきた。コロナ禍ではオンラインショップを開設し、漁師のさばき方講座や、料理人の楽しみ方講座を開催。遠隔地により新鮮なホヤを届ける手段も研究している。

フィッシャーマン・ジャパン

賞 第8回奨励賞

一般社団法人

宮城県石巻市千石町 8-20



震災で被害を受けた水産業の再生と未来へのバトン

東日本大震災で被害を受けた宮城県沿岸を拠点に、漁師・魚屋が地域や業種を超えてチームを組み、漁業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案している。2024年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を千人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。担い手育成事業と水産物販売事業に取り組み、日本各地、海外へと活動範囲を広げている。

まるオフィス

賞 第11回優秀賞

一般社団法人

宮城県気仙沼市唐桑町宿浦 232-2



津波被災地で地域内外の若者が中高生の探究学習をサポート

東日本大震災の発生から間もなく10年になる。壊滅的な津波被害を受けた宮城県気仙沼市。全国から集った若者たちはがれきが残るまちに移り住み、一般社団法人まるオフィスを立ち上げ、住民と共に復興を進めてきた。多くの被災地は今、人口が急減する。恵みの海と生きる地域を存続させるには一。若者たちはその突破口を地元の子どもたちに見いだした。地域を知り、探究することで、自分と地域双方の可能性を広げる力を育てる挑戦が始まっている。

日本カーシェアリング協会

賞 第9回優秀賞

宮城県石巻市駅前北通り 1-5-23

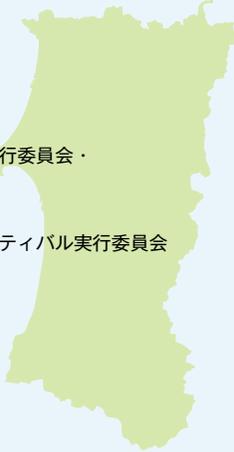


大震災の経験から自動車共同利用の仕組み構築

東日本大震災直後の2011年5月、車1台の提供を受けて石巻市で活動を始めた。仮設住宅の入居者有志が車を管理し、共同利用する仕組みを構築。現在は寄付された約300台を預かり、地域コミュニティの再生・発展を支援するためのカーシェアリングを展開している。活動は岡山、鳥取などにも拡大。熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨など各地で相次ぐ大規模災害でも車を貸し出した。コロナ禍では収入が減少し車検ができない人や、マイカーを手放した人に車を無料で貸す取り組みを行った。

秋 田

- 山内いぶりがっこ生産者の会
- おおだて映像計画
- 秋田なまはげの会
- 大曲花火倶楽部
- 増田まちなみ保存会
- 小坂鉄道保存会
- 横手市共助組織連合会
- 陽気な母さんの店
- 浅見内活性化委員会
- 秋田人変身力会議
- 北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機
- にかほ出前商店街振興会
- 男鹿ナマハゲロックフェスティバル実行委員会



山内いぶりがっこ生産者の会

賞 第1回優秀賞

秋田県横手市山内土淵字二瀬 8-4 横手市山内庁舎山内地域課産業建設係



いぶした大根で作る特産漬物のブランド商品開発

ダイコンをいぶし、こうじや玄米、砂糖などを使った調味料に漬けた秋田の味、いぶりがっこ。もともとは自分たちで食べる分しか作っていなかったが、近くに直売所ができたことをきっかけに地元の生産者が団体を結成。ブランド商品「金樽」を売り出し、品質の維持に努めている。会員は16人。首都圏を中心に人気を呼び、年間1万5000～1万6000本を出荷している。売り上げに加え、出来栄を競う「いぶりんピック」を毎年開催し、生産者の意欲向上につなげている。

巻組

賞 第12回優秀賞

株式会社

宮城県石巻市中央 2-3-14 観慶丸ビル 2階



古い建物をシェアハウスに、津波被災地に若者呼ぶ

本当の豊かさとは何か。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市から、現代社会に一石を投じる。巻組が目指すのは、楽しく、幸せな方法で持続可能な社会を形づくること。着眼したのは住まいだ。立地、築年、間取りが「絶望的条件」の空き家を改修し、シェアハウスとして再生する。若者を呼ぶ場をつくり、人を育てる仕掛けをつくり、地域に新しい循環を生む。被災地支援から始まった挑戦は、東北から全国へと広がっていく。

六日町合同会社

賞 第13回優秀賞

合同会社

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町 86



六日町合同会社 宮城県栗原市 空き店舗改修し移住者に提供、商店街に希望生む

廃業。衰退。危機。地方の商店街を語る言葉は暗く、重い。そこに再生を促す芽が宮城県栗原市で育まれている。岩ヶ崎地区の六日町商店街。城下町、鉱山の町という繁栄の歴史が落日した地域に移住者が起爆剤を仕掛けた。2019年に誕生したまちづくり会社「六日町合同会社」は空き店舗を改修し、開業を目指す移住者に提供する。15年以降の新規出店は16店。目標は45年に100店舗だ。シャッター街に確かな希望が見えてきた。

大曲花火倶楽部

賞 第4回優秀賞

NPO法人

秋田県大仙市内小友字山根 89-31



花火に詳しい「鑑賞士」制度を創設、地域活性化

毎年夏に70万人を超す観客を集める大曲の花火大会。一時的な盛り上がりで終わらせるのではなく、花火のまちとして年間を通じた集客を目指し、大仙市民や全国の花火ファンが1991年に組織した。これまで若手花火師が技術を競う大会づくりなどに取り組んできた。2003年度からは花火の歴史や工程に詳しい「花火鑑賞士」の認定資格試験を創設、これまで約1300人が取得した。今後、さらに上級の「マイスター」試験も検討している。

おおだて映像計画

賞 第2回優秀賞

秋田県大館市御成町 2-15-22



地元舞台に住民参加で映画製作、廃線活用に波及

大館市や北秋田市を舞台にした映画「ハナばあちゃん!!～わたしのヤマのカミサマ～」を製作した。地元の若手経営者らが出資して有限責任事業組合を設立。地元企業の寄付もあった。2011年2月に公開し、県内外で数多く上映した。著作権を団体が保有しているのが特徴で、独自の商品開発も。映画に出る廃線を使ったレールバイクを実験的に始めたところ人気を呼び、設備を運営するNPO法人が結成されて19年には8500人が利用。外国人の姿も多く見られた。

増田まちなみ保存会

賞 第5回優秀賞

秋田県横手市増田町



建物内に蔵を構えた雪国の商家の伝統的建造物群を保存

秋田県南部に位置する横手市増田は、雪から守るため家の中に「内蔵」を構える独自の文化がある。増田まちなみ保存会は地域の86世帯で発足し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された一帯で、歴史的町並みの景観を保存し、まちづくりを進めている。毎年10月に内蔵を一斉に公開する「蔵の日」を実施しており、マンガの原画を集めた「横手市増田まんが美術館」が2019年にリニューアルオープンした効果と相まって、年間数万人がやってくる観光スポットに成長した。町並みを守る防災訓練も欠かさない。

秋田なまはげの会

(受賞当時：秋田クレジット・サラ金・悪徳商法被害をなくす会)

賞 第3回優秀賞

秋田市山王 6-22-6 ラポール山王郷 A-1



多重債務の相談受け付け、反貧困に国際連帯も

2011年から「多重債務相談スキルアップ講座」を開催している。自治体や民間団体に相談にあたっている方の中には、(多重に限らず)債務の問題に詳しくない方がいる。多重債務と、その原因となるギャンブル依存、労働問題等について弁護士等が講義を行い、事例について参加者がディスカッションを行う。2022年1月29日に開催された「第11回多重債務相談スキルアップ講座」には、オンラインも含めて22名が参加、活発な議論を行った。

陽気な母さんの店

賞 第8回大賞

株式会社

秋田県大館市曲田字家ノ後 97-1



農産物直売所を拠点に収穫体験や宅配

生産者と消費者の気持ち分かる「農家の母さん」の視点で弁当宅配や民泊などを事業化、体験交流型直売所に育った。加工品づくりや郷土料理、収穫体験、農産物宅配と幅広い活動に取り組んでいる。「嫁だからと遠慮せず、胸を張って農業を発信したい」と女性農業者が出資して、2001年から営業。減農薬栽培に取り組み、個人別に生産量や収穫時期をデータ化し、緻密な販売計画を立てて業績を伸ばしている。

小坂鉄道保存会

賞 第6回優秀賞

秋田県小坂町小坂鉱山字古川 20-9 小坂鉄道レールパーク気付



鉄道テーマパークをサポート、交流を進める

「明治百年通り」の一角にある旧小坂鉄道の駅舎や線路を利用した体験型テーマパーク「小坂鉄道レールパーク」の運営をボランティアがサポートしている。2009年に廃線となった鉄道を産業遺産として伝えようと、ディーゼル機関車の運転体験などの際に鉄道員姿で運行支援や座学の講師役を務める。来園者の案内、車両・鉄道機器類の解説も。寝台特急「あけぼの」の車両を利用した列車ホテルもオープン。「次は終着、上野、上野～」といった車内アナウンスなどを担っている。

浅見内活性化委員会

賞 第9回優秀賞

秋田県五城目町内川浅見内字後田 86-1



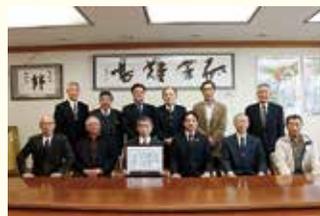
住民がスーパー運営、生活を支え合い交流の場に

高齢化と過疎化が深刻な五城目町の浅見内集落に日々、笑い声があふれる場所がある。買い物弱者支援を目的に2016年に開店したスーパー「みせっこあさみない」。住民でつくる共助組織「浅見内活性化委員会」がボランティアで運営する。暮らしに欠かせない食品や日用品をそろえた地域のよろず屋であり、食事や喫茶を楽しめる憩いの場、交流の場ともなっている。住民たちはこの店を拠点に地域を元気にしようと奮闘している。

横手市共助組織連合会

賞 第7回ブロック賞（北海道・東北）

秋田県横手市神明町 1-9



豪雪地帯の共助組織が高齢者の暮らしを支援

全国でも有数の豪雪地帯で2012年に誕生した共助組織が、地域の高齢者の暮らしを支えている。屋根の雪下ろし支援を皮切りに、買い物支援、野菜生産の後押しと、活動内容は年々、拡大した。同様の共助組織は県内各地に広がりつつある。21年の横手は観測史上最大の積雪となったが各組織の支え合いの積み重ねがあらためて評価される年となった。人口減少、少子高齢化が進む過疎地域で、住民が生き生きと暮らし続けるため、行政だけに頼らない「共助」という活路を開いた。

にかほ出前商店街振興会

賞 第12回ブロック賞（北海道・東北）

秋田県にかほ市金浦字十二林 158-9



住宅地、中山間地の高齢者に買い物や井戸端会議の場

地域で孤立しがちな高齢者が気軽に出席して買い物や井戸端会議を楽しめる場として、「出前商店街」を2010年から続けてきた。地元商工会の有志26店が山間部や住宅地の公民館などに出向き、生鮮品や日用品の販売、マッサージや美容などのサービス提供に当たる。利用者同士、あるいは店主らとの交流を楽しむ場として、地域になくてはならない存在となっている。これまでに185回開催、延べ約8300人が利用した。

秋田人変身力会議

賞 第10回優秀賞

秋田市



粘り強いが口べた、から変身するリーダー応援

秋田県民は真面目、粘り強いと評される一方で、「しょしがり（恥ずかしがり）」ともいわれる。自己主張せず、考えがあっても言わない内気、口べたな「県民性」が外への販路拡大の支障になってきたともされる。秋田人変身力会議は、さまざまな「変身」を成し遂げ、地域や組織を元気にしてきた人たちにエールを送ってきた。会議に参加した主婦から、地元の菓子を改良する食品コンサルタントや、古着販売のリサイクル事業といった起業家も出てきている。

男鹿ナマハゲロックフェスティバル実行委員会

賞 第13回ブロック賞（北海道・東北）

秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-2-4



住民が自ら運営、東北を代表する野外音楽フェスに

国内有数のアーティスト多数を招く音楽イベント「男鹿ナマハゲロックフェスティバル」を2007年から計14回開催し、東北を代表する野外音楽フェスに成長させた。秋田県内13市で最も高齢化が進み、人口流出も急速に進む地元男鹿市を活気づけるため、地域住民による実行委員会が文字通りゼロから手弁当で作り上げてきた。専門家の試算によると、経済効果は10億円を超え、地元には大きな貢献を果たしている。

北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機構

賞 第11回優秀賞 北前船交流拡大機構は一般社団法人

東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター（北前船交流拡大機構）



秋田など北前船の寄港地結んで歴史と観光掘り起こす

北前船寄港地フォーラムは15年にわたり、秋田県など14道府県で開催されており、地方の観光活性化と地域間交流の拡大を図っている。北前船ゆかりの土地と人をつなげ、観光資源や歴史を掘り起こし、地方に目を向けさせており、人と情報を行き来させる現代版「北前船」の役割を果たす。今後はコロナ禍での新たな観光の姿を探り、観光関連業者が一体となって知恵を出し合い、苦難を乗り越える場として期待される。

レインボープラン推進協議会

賞 第2回優秀賞

山形県長井市屋城町 1-40



生ごみの堆肥化などを通じ消費者と農業をつなぐ

レインボープランとは「台所と農業をつなぐ・ながい計画」で、食と農の安心をテーマに住民が支え合う取り組みを進める。市内中心部の約5000世帯から出た生ごみを分別回収し、堆肥化して農地に投入。生産されるコメや野菜などを市民が消費する仕組みを構築した。若者が自分たちが住む市のグランドデザインをする事業として考案された。「大規模で珍しい取り組み」、「循環型社会のモデル」などと国内外での評価が高い。

山形

- たかはた共生塾
- レインボープラン推進協議会
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 鶴岡織物工業協同組合
- 村山そばの会
- とびしま
- かほくイタリア野菜研究会
- スパイクファミリー
- きらりよしじまネットワーク
- 新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会
- やまがた福わたし
- 公益のふるさと創り鶴岡
- 湯50



山形国際ドキュメンタリー映画祭

賞 第3回準大賞

認定NPO法人

山形市木の実町 9-52-201



世界の優れたドキュメンタリーをコンペ形式で上映・表彰

アジア初の国際ドキュメンタリー映画祭が山形で誕生してから30年を超えた。隔年で10月に開催している。世界から作品が集まるインターナショナル・コンペティションでは、大賞に賞金200万円、最優秀賞には100万円を授与する。期間中の入場者は2万人余りに達する。政治的な圧力等により、自国で上映が難しい作品の、世界に向けた発表の場としての役割も果たす。近年では通年で若年層に対する映像教育を積極的に進める。また東日本大震災に関する記録映画を保存し、作品情報を世界に発信するアーカイブも設置している。

たかはた共生塾

賞 第1回ブロック賞（北海道・東北）

山形県高島町蛇口 314



有機農業運動を情報発信、公開講座で自立を目指す

食の安全や農村社会崩壊の危機が叫ばれる中、地域の農業者が手を取り合い、有機農業の実践と、自給ができる地域づくりに取り組んでいこうと1990年に設立した。これまで農業体験を通じて生き方を学ぶ「まほろばの里農学校」などを開き、地域に人々が移住するきっかけをつくってきた。現在は公開講座を中心に活動している。講座では、協同組合、信用組合などの組織の在り方や、地域の発電会社づくりなどを学び、地域の自立を目指す。

とびしま

賞 第6回ブロック賞（北海道・東北） 合同会社
山形県酒田市飛島勝浦乙 132-19



若者が魚の加工品などを手がけて島おこし

山形県唯一の離島・飛島で6次産業化に取り組み、雇用創造につなげている。定期船発着所近くで運営するカフェスペースは、島の食材を利用したメニューやお土産を販売し、島民と観光客をつなぐ拠点。島内に整備した加工所ではお土産となる商品を製造している。岸を歩いたり、シュノーケリングをしたりするツアーも。島の伝統文化継承に取り組み、映画作りにも力を貸した。島の人口は175人、高齢化率約8割に達するが、島に戻ったり、渡ったりした若い力が社員となって島を活気づけている。

鶴岡織物工業協同組合

賞 第4回優秀賞
山形県鶴岡市大宝寺字日本国 223-3



地域で一貫生産できる絹織物をブランド化

鶴岡市周辺は養蚕、製糸、織物作りなどが盛んだった。明治時代から続く絹産業の再生と活性化を目指し、地元の関連会社で組織。組合が協力する市の「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」では地元高校生「シルクガールズ」が自作ドレスのファッションショーを開き、小学生は蚕の飼育を体験している。蚕が繭を作る際に最初に出す糸「キビソ」は、均一な糸ではないため織物には使用されてこなかったが、希少性などが見直され kibiso ブランドとしてストールやバッグに使用されている。

かほくイタリア野菜研究会

賞 第7回優秀賞
山形県河北町谷地月山堂 654-1



行政などと連携し、野菜の共同生産・販売に取り組む

農家、商工業者、行政、金融機関、商工会が連携し、トレヴィーゾをはじめとするイタリア野菜の共同生産・販売、加工品開発などを通じた地域活性化に取り組んでいる。生産者18人が、国内では先行事例のない各種イタリア野菜の栽培方法を研究。著名なイタリア料理のシェフらに品質を高く評価され、ブランド化が進んでいる。マルシェや料理教室、産地訪問ツアーなどイタリア野菜を通じて地域に人を呼び込む事業にも力を入れている。また山形県版 GAP の認定を受け、東京五輪の食材調達基準も満たした。

村山そばの会

賞 第5回優秀賞
山形県村山市大字河島元杉島 1315-1



郷土料理と食文化の保存、伝承に取り組む

そばを食文化として伝承し、村山市を「板そばの里」として広くPRしようと地元の有志で発足した。市内で開かれる祭りに合わせて長さ60メートル、幅90センチの長い板に盛り付けて振る舞う「日本一の長板そば二十間堂」は評判で、700人分が出る。そば打ちの技術を審査し、「そば匠」の称号を与える制度を設定。そば打ちを体験できる施設もある。NPO法人「村山蕎麦の会」と連携し、そばの食文化に興味のある高校生らを対象に「そば甲子園」も開催した。

新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト 実行委員会

賞 第10回奨励賞

山形県新庄市沖の町 10-37



広大な旧蚕糸試験場を活用したマルシェなどの開催

国の蚕糸試験場だった緑豊かな広大な敷地と歴史的建物群を活用して、農産物や手作り品を販売する「キトキトマルシェ」を地域の団体やデザイナーが協力して実施している。5月から11月まで毎月40ほどの店舗が出展し、年間1万数千人が来場する。コミュニティーカフェ、ゲストハウスも完備し、農村と都市の交流人口を増やしている。

スパイクファミリー

賞 第8回優秀賞

山形県長井市栄町 3-5 けん玉ひろばスパイク内



「けん玉のまち」アピール、ギネス記録挑戦も

競技用けん玉生産量日本一を誇る長井市で、子どもからお年寄りまで幅広く参加し、ギネス世界記録に挑戦する催しなど「けん玉のまち」をアピールしている。学童・児童センター、公民館などで教室を開催、コロナの前は観光や交流事業でのパフォーマンスなど年間イベント出演は100回を超えた。商店街と連携、けん玉の技に挑戦して成功すると、お店ごとのサービスを受けられる企画も。コロナ禍では「オンラインけん玉検定」を開催。動画投稿で技を披露するキャンペーンも実施した。

やまがた福わたし

賞 第11回優秀賞

一般社団法人

山形市東山形 2-2-11



コロナ禍で苦しむひとり親家庭、学生を食で支援

新型コロナウイルスの影響で生活に困っている世帯に食品を無償提供する「笑顔を増やそう!やまがた“お福わけ”プロジェクト」を展開している。食品は企業や農家、家庭で不要になったものを譲り受けて確保。2020年7月に実施した第1弾は主にひとり親家庭計65世帯に届けた。第2弾ではアルバイト先を見つけれなかったり、親の収入減で仕送りがなくなったりした学生を対象に加え、米やレトルト食品などを9～10月に送った。21年もネットワークを広げ、活発に食料支援を続けている。

きらりよしまネットワーク

賞 第9回準大賞

NPO法人

山形県川西町大字吉田 5886-1



全世帯が加入して防災や教育などで幅広く活動を展開

川西町吉島地区の約720の全世帯が加入、高齢化が進む地域の課題解決に取り組む。スマートスピーカーのようなITを活用した高齢者の見守りや買い物支援、農産物直売所のネットショップ化、世代を超えた交流ができる食堂、居酒屋開店など事業は多彩だ。若手農家グループを組織、都市との交流ビジネスも展開し、アイデアを形にする。高齢者向け体操教室や、那覇市の公民館との文化交流も続ける。独自に構築した合意形成や人材育成プロセスは地域再生のモデルとなっている。

福島

- ノルテ・ハボン
- 大内宿保存会、大内宿結の会
- 千葉之家花駒座
- MJC アンサンブル
- 会津エンジン
- 山木屋太鼓
- 郡山ベップ子育てネットワーク
- ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
- よつくらぶ
- ふるさとの川・荒川づくり協議会
- ベテランママの会
- ふくしま飛行協会
- ハッピーロードネット
- 小高ワーカーズベース
- 会津電力
- TATAKIAGE Japan
- 元気アップつちゆ
- 葛力創造舎
- はじまりの美術館
- BOOT (ブット)
- 会津コンピュータサイエンス研究所
- とみおかワインドメニュー
- 劇団 120〇EN (ひやくにじゅうえん)
- 東の食の会
- なみえアートプロジェクト「なみえの記憶・なみえの未来」

公益のふるさと創り鶴岡

賞 第 12 回優秀賞

NPO法人

山形県鶴岡市山王町 8-21



城下町を流れる川を再生、祭りや舟下りで親水空間に

市民主体のまちづくり活動の実践・支援を掲げ、地域の自然環境の維持、歴史文化の継承など多彩な事業を展開している。メインで取り組んでいるのが、鶴岡市街地を流れる内川の環境保全と親水利用の促進。一時の水質汚染やごみの散乱が改善され、城下町の風情ある親水空間が整備された中心部を拠点とし、17年前から桜祭り、舟下り、藻刈りやごみの回収、生物調査などを行い、江戸の昔から親しまれてきた空間の再生を図っている。

ノルテ・ハボン

賞 第 1 回優秀賞

福島県伊達郡川俣町日和田



日本最大級の中南米音楽祭に国内外から多数出演

南米アンデス山脈の先住民を中心に伝わる民俗音楽「フォルクローレ」を愛する人々が縦笛、ケーナの生演奏に感動し、1975年から音楽祭「コスキン・エン・ハボン」を始め、国内最大級の中南米音楽祭になった。3日間の日程で、初日は演奏者や住民が町内でパレードを繰り広げる。南米の食べ物を提供する店も出る。すべてをボランティアが運営する。北海道から沖縄まで、さらにチリ、アルゼンチンなど海外からも含めて毎年約200チームが出演している。2022年はコロナの影響で海外からの出演を中止するなど規模を縮小して開催した。

湯 50

賞 第 13 回優秀賞

株式会社

山形市蔵王温泉



蔵王温泉の若手経営者らが空き物件をカフェ&バルに

山形県を代表するスノーリゾート・山形市蔵王温泉エリアの観光地を盛り上げようと、温泉街の若手経営者らが株式会社「湯50」を設立し、事業展開している。温泉街に増えている空き物件を改装して宿泊・飲食施設を誘致しており、昨年は第1号物件として「カフェ&バル」をオープンさせた。旅行形態の多様化に伴うさまざまなニーズに応えるとともに、地域の人たちが連携して古里の活性化に力を注ぐ。

MJCアンサンブル (南相馬ジュニアコーラスアンサンブル)

賞 第3回特別賞

福島県南相馬市大町 2-13-3 MJC アンサンブル事務局



震災を乗り越えて歌い続ける力を結成、海外でも公演活動

東日本大震災から10年を経て活動の基本はこれまでと変わらず、国内外での演奏活動を継続、演奏回数は245回となる。小・中・高校の女子生徒が主力メンバーとなり年長児、育成メンバーも加わった。震災の記憶が薄れる中、子どもたちが「歌」により震災を地域と共に学び、音楽を通して先輩のお姉さんたちが生きてきた激動の体験を共有できればと精力的な活動を継続している。演奏活動を通して得られた心の絆を大切にしながら、地元で愛される合唱団を目指して歌い続ける。

大内宿保存会、大内宿結の会

賞 第1回特別賞

福島県下郷町塩生大石 1000 下郷町役場教育委員会



江戸時代から残るかやぶき屋根の家並みを守る

江戸時代から残るかやぶき屋根の家並を守り続けてきた。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定、47戸が一定間隔で整然と建ち並ぶ。東日本大震災で大きな被害はなく、保存物件の建築技術の高さを証明した。建物保存や景観維持管理等のハード面は保存会が、地域の環境整備、イベントなどのソフト面を結の会と担当を分けて活動してきた。震災で落ち込んだ観光客は2019年には年間約80万人に回復。そばや餅など地場産品を使ったもてなしをさらに充実させ、20年からは新たに組織された大内宿保存整備財団と連携し活動に取り組んでいる。

会津エンジン

賞 第3回優秀賞

NPO法人

福島県会津若松市大町 1-1-41 (株式会社ミンナノチカラ内)



本物の体験で子どもたちが育つ！

若者の文化度の向上と、将来の可能性を広げることを目的として、多くの文化人や地元の大人たちとの交流事業を開始している。若者がたくさんのお机に触れ、鼓動が高鳴り、感動を覚え、自ら心のエンジンを始動させ、また、そこに関わった全ての大人もエンジンをかけることができる。中学生向け「よしもと×自己実現＝漫才授業」、「感動プロジェクト高校生が結婚式を創る!」など、アウトプット重視のキャリア教育を行っている。

千葉之家花駒座

賞 第2回ブロック賞 (北海道・東北)

福島県檜枝岐村



270年の歴史ある村の伝統歌舞伎を住民が守る

人口約550人の檜枝岐村で、270年余りにわたって守られてきた伝統芸能、檜枝岐歌舞伎に取り組む。職業や年齢もさまざまな約30人の座員が伝統を守ってきた。冬場に練習を重ね、公演には村の人口を上回る千人余りが詰め掛ける。村外でも招かれて上演しており、村を代表する「顔」となっている。かやぶき屋根の趣ある舞台も雰囲気盛り上げる。過疎化や高齢化は進むが、地域を挙げて次代に手渡そうと地道な活動が続いている。

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

賞 第5回準大賞

NPO法人

福島県二本松市太田字下田 2-3



農家が「道の駅」拠点に里山再生、移住を支援

養蚕が盛んだった阿武隈山系の中山間地域で里山再生に取り組む。人口減、高齢化、市町村合併による行政サービスの低下に危機感を抱いた農家ら約250人が会員となり発足、山林や農地を守る活動を始めた。さらに市から「道の駅ふくしま東和」の運営を受託し、活動拠点に。桑畑の荒廃が深刻だったが、桑の葉の茶を商品化するなど6次産業化を進める。技術指導や農地、空き家紹介といった支援を通じて、約30人が移住した。震災後、農家民宿も推進し地域の特色をアピールしている。

山木屋太鼓

賞 第4回優秀賞

福島県川俣町山木屋川芎（せんきゅう）10-1



原発事故乗り越え、故郷への思いを和太鼓に

2001年に結成、和太鼓の演奏を通じて故郷への思いを伝え続けている。拠点の川俣町山木屋は原発事故で15年まで住民避難を余儀なくされたが活動を続け、絆を守った。今は川俣町内のほか福島市からも新しく子供たちが加わり、世代を超えた仲間と共に練習、演奏している。伝統的な演奏のほか、故郷の自然をテーマにした曲を披露、祭りや各種イベントに出演。21年には20周年記念公演を予定している。

よつくらぶ

賞 第5回優秀賞

NPO法人

福島県いわき市四倉町字5丁目218-1



太平洋を一望する漁港内の道の駅を交流拠点に

いわき市の漁港内にあり、海水浴場も近い「道の駅よつくら港交流館」を運営する。東日本大震災の津波の影響で全壊したが、2012年に再オープンして復興のシンボルとなっている。直売所は地場の野菜、海産物などが人気で、フードコートも備える。月1回、生産者が対面販売する市を開催している。震災で親を亡くした子どもらのケアをサポートする「チャイルドハウスふくまる」をNPO法人「ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会」と共同で運営、心理療法士らが相談にあたる。

郡山ペップ子育てネットワーク

賞 第4回特別賞

認定NPO法人

福島県郡山市横塚 1-1-3 ペップキッズこおりやま内



子どもに寄り添った育成環境の実現を目指して

子どもにとって遊びは生活のインフラだ。原発事故後の子育て応援・遊び場運営から始まった団体だが現在のコロナ禍においても子どもたちの遊びを保障すべくプレイヤーやスタッフ一同、地域の子どもたちの笑顔を絶やさぬよう努力を重ねている。また、遊び場運営の他、市内の幼稚園児から中学生までを対象とした健康調査等研究事業や臨床心理士を招いての心のケア事業等も行っている。

ふくしま飛行協会

賞 第7回優秀賞

福島市北沢又日行壇 7-48



農道空港を航空公園とし、航空イベントを開催

福島市の山あいにある農道空港「ふくしまスカイパーク」。総事業費約30億円をかけて1998年に完成したが、利用は進まず、赤字飛行が続いていた。NPO法人「ふくしま飛行協会」は06年に指定管理者となり、農道空港を航空公園としてよみがえらせた。一般の空港では難しい各種航空イベントを次々に開催。副理事長の室屋義秀さんはここを拠点に「空のF1」ともいわれるエアレースで活躍し、子どもたちに夢を与えている。

ふるさとの川・荒川づくり協議会

賞 第6回優秀賞

福島市荒井字地蔵原乙 1-21



市民が力を合わせ清流を取り戻し憩いの場に

福島市を東西に流れる荒川が、国土交通省の水質調査で11年連続日本一に輝いた。偉業達成の背景には、古里の川を愛する住民の力があつた。1998年に設立された「ふるさとの川・荒川づくり協議会」は、毎回約600人が参加するクリーンアップ作戦をはじめ、自然と触れ合い、地域の歴史を紹介する事業などを展開している。ふるさとの清流は、東日本大震災に起因する福島第1原発事故後の負のイメージから転換に繋がり、野外活動、環境教育等に利用される、市民が誇れる場所（川）となっている。

ハッピーロードネット

賞 第7回特別賞

NPO法人

福島県広野町広洋台 2-1-5



復興に若い世代が意見交わす場づくり。桜植樹も

原発事故で避難を強いられた福島県双葉郡を中心に相双地域、浜通り地域の子もたちや若い世代に呼びかけ、国内外の同世代の若者と意見を交わす「ハイスクールサミット」「ハイスクール世界サミット」を開催してきた。さらにベラルーシや英国など海外に高校生を派遣し、放射線や廃炉について学ぶ「ハイスクールアカデミー」を実施、報告書を各地に配布している。幹線道路に桜を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」も展開、子どもたちが植えた1万4000本が育っており、桜を見ながら清掃を行う「桜ウォーク」も行っている。

ベテランママの会

賞 第6回優秀賞

福島県南相馬市原町区高見町 2-91-4



医師との放射線教室や学習支援などを続ける

癒やしの空間づくりをめざそう、と活動をスタートした。2011年4月から医師とともに市民向けの「放射線教室」を開催し、英語版を含む冊子も発行してきた。このほか子どもたちの学習支援や、子育て相談会などにも取り組んできた。最近が高齢者の独り暮らしや、老夫婦で暮らす世帯が増えたことから、認知症予防講座として手仕事になるニットのサークルや、専門家を招いた嚥下障害予防講座などを開催している。

TATAKIAGE Japan

賞 第9回優秀賞

NPO法人

福島県いわき市平字白銀町 2-10 夜明け市場 2 階



地域プレイヤーの活動支援で、福島県浜通りに活気を

震災後、JR いわき駅前の復興飲食店街「夜明け市場」にコワーキングスペース「TATAKIAGEBASE」を開設。2015年から、浜通りの活性化に向けた市民参加型のプレゼン&プレストイベント「浜魂（ハマコン）」を開催し、地域の課題解決に結び付けている。行政や他団体と連携し、若者を地域に呼び込む活動や都市部のプロ人材と地元企業とのマッチング事業、エリアイノベーションによるまちのプロデュース事業にも取り組み、地域プレイヤーと共にまちに賑わいを創出している。

小高ワークスペース

賞 第8回ブロック賞（北海道・東北）

株式会社

福島県南相馬市小高区本町 1-87 小高バイオニアヴィレッジ



工房や共同オフィスを開設、帰還住民の生活再建

原発事故で避難指示が出ていた南相馬市小高区で、帰還した住民の暮らしを支える事業の創出を目指し2014年に設立した。スーパーが再開するまで日用品や食料品を提供する店舗を運営。現在はゲストハウス付きのコワーキングスペース「小高バイオニアヴィレッジ」や、起業型地域おこし協力隊事務局などの運営に当たっている。雇用創出に向けて開設した女性の職人が働くガラス工房では、ハンドメイドのブランド「irise-イリゼ-」を立ち上げた。

元気アップつちゆ

賞 第9回優秀賞

株式会社

福島市土湯温泉町字下ノ町 17



地熱と小水力発電を柱に温泉街再興。エビも養殖

東日本大震災、原発事故による風評被害からの復興再生を目指し2012年に設立。「エコタウン」形成に向け、地域資源である温泉を生かした地熱発電所と、温泉街を流れる河川を活用した小水力発電所を建設、15年に運転を開始した。16年からは地熱発電で出る水を二次利用したエビ養殖を始め「つちゆ湯愛（ゆめ）エビ」として新たな名物に。その場で試食できるエビ釣り堀も開設している。20年度からはシードルやどぶろくづくりに取り組む。

会津電力

賞 第8回優秀賞

株式会社

福島県喜多方市関柴町西勝字井戸尻 48-1 七福神ホール2F



エネルギー自給による地域の経済活性化、雇用創出を実現

会津電力は、東京電力福島第1原子力発電所の事故を機に、安全で持続できる再生可能エネルギーの推進が地域課題になる中で、太陽光や水力、森林など地域資源を活用するため、市民有志が地域再生の運動を起こし、住民らに出資を求めて設立。エネルギー自給と売電による地域経済の活性化、雇用創出を実現するため、まず太陽光発電所を相次いで整備した。子どもたちへの再生可能エネルギーの普及啓発活動にも力を入れる。

BOOT (ブット)

賞 第 11 回ブロック賞 (北海道・東北) 一般社団法人
福島県西会津町新郷笹川字上ノ原道上 5752



国際芸術村で多様なイベント企画、関係人口増やす

西会津町の風土から生まれた文化 DNA を継承することや人口減少社会における持続可能な風景の再構築を目指している。町の委託で運営している「西会津国際芸術村」では、多様な交流イベントを企画。アーティストをはじめとした多様な人材の「関係人口」を増やし、地域の課題を洗い出し、その解決策や、従来の価値観に縛られない新たな働き方・暮らし方を模索している。コロナ禍以降は西会津への移住希望者からの相談が増えている。

葛力創造舎

賞 第 10 回優秀賞 一般社団法人
福島県葛尾村大字野川字十良内 118-2



避難解除の村で米作、商品開発、移住者受け入れ

通常ならば持続不可能と思われる人口数百人単位の過疎の村でも、住民が幸せに暮らせる仕組みを考える。原発事故による全村避難が解除されたとはいえ帰村率は低い中、メンバーは米作りから地域づくりを始めた。甘酒「ノマツシェ」を開発、さらに日本酒「でれすけ」を発売した。空き家を利用したゲストハウス「ZICCA」を整備。移住者も受け入れ、村に連続と続く助け合いの文化「結 (ゆい)」に新たな息吹を吹き込む。県内外の高校生との商品開発やツアーも企画 중이다。

会津コンピュータサイエンス研究所

賞 第 11 回優秀賞 株式会社
福島県会津若松市東栄町 1-77



コロナ禍で「密」防ぐ AI 技術を開発、旅館などで活用

温泉旅館などのロビーや大浴場に設置された 3D カメラの映像を人工知能 (AI) が解析することで、混雑状況を自動で把握できるシステムを開発した。解析結果は専用のサイトで確認でき、利用客が客室にいなから館内施設の「密」の状況を把握できる。個人を特定できないようになっているのも特長の一つで、大浴場前の 3D カメラは映像を記録しない。ロビーなどの人の姿は骨格やキャラクターに置き換えて表示される。

はじまりの美術館

賞 第 10 回優秀賞
福島県猪苗代町新町 4873



障がいのある方を含む誰もが集える場作り

障害のある方や現代美術家らの表現を紹介する福島県内にある小さな美術館。築約 140 年の酒蔵を改修し、2014 年、猪苗代町にオープンした。企画展をはじめ、マルシェなどのイベントも展開。地域住民らが集う「寄り合い」を定期的で開催するなど、地域コミュニティーの場にもなっている。福祉とアートが同居するこの場所が寛容で創造的な社会が開かれていくきっかけになることを目標としている。

東の食の会

賞 第13回きぼうのまち賞 一般社団法人

東京都品川区大崎1丁目11番2号 ゲートシティ大崎イ
スタワー5階（東北における活動拠点は福島県浪江町）

福島の食のファン拡大へ商品開発や農園、輸出支援

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故で避難区域となった福島県浪江町を拠点に、県内外の有志が協力して農業・漁業・食産業の復興、創造に取り組んでいる。「生産者は被災者ではない。ヒーローだ」とのプラス思考で、「ヒーロー生産者」の育成とコミュニティー形成、数々の商品開発、高付加価値の作物を育てる農園運営などを進める。海外への輸出を支援するなど、国内外に福島の食のファンを広げている。

とみおかワインドメニュー

賞 第12回優秀賞 一般社団法人

福島県双葉郡富岡町小浜 438-1



ブドウ栽培に復興の願い込め、海に臨むワイナリーを

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で全町民が避難した富岡町。人が消えた町内でワインづくりによる地域再生に挑む。2016年に有志10人で結成。避難先から数時間もかけて通い、苗木を初めて植えてから4年後の昨年、少量ながらワインを完成させた。長い時間を要するブドウの成長は、町の復興と重なる。今も町民の9割は避難先で暮らし、ワインが避難者の心を古里につなぎとめる。目標は「海に見えるワイナリー」の完成だ。

なみえアートプロジェクト「なみえの記憶・なみえの未来」

賞 第13回優秀賞 一般社団法人

福島県南相馬市原町区泉字前向 15



知的障害のある作家が住民の思いを屋外アートで表現

東京電力福島第1原発事故で全町避難した浪江町で、地域の記憶と未来をつなぐ「なみえアートプロジェクト」が2022年4月に始まった。地域再生に向け、行政や企業による新しい町づくりが進む中、「住民主体の町づくり」を目指し、町内各地の屋外にアート作品を順次飾っている。作品は知的障害のあるアーティストが制作。第1弾は町の毎秋の恒例行事「十日市」と「水素でつくるなみえ」をテーマにした絵画が飲食店の外壁に掲げられた。

劇団 120〇EN（ひやくにじゅうえん）

賞 第12回優秀賞

福島県福島市坂登 9-20



福島の歴史に若者の視点、演劇でまちの魅力再発見

福島市を拠点にオリジナル作品を上演している「劇団120〇EN」は公演本番中に東日本大震災に見舞われた福島大演劇研究会のメンバーを中心に2012年4月に旗揚げした。劇団を率いる劇作家の清野和也代表は「福島だからこそ表現できる物語を追い求め、誰にでも共感してもらえる作品を上演していきたい」と意欲を燃やす。コロナ下では活動にさまざまな制限を受ける中、工夫をしながら活動を続けており、観客参加型の演劇など新しいスタイルも模索している。

カミスガプロジェクト

賞 第3回優秀賞

一般社団法人

茨城県那珂市瓜連 1243



駅前の活性化や沿線PR、映画発信に取り組む

那珂市のJR水郡線上菅谷駅を中心とした活性化を進める。駅前通りを歩行者天国にしてテントによる商店街をつくるイベントを隔月で展開、2万人以上が訪れる。東日本大震災後、地域を元気づける取り組みとして始まった。本線と支線が分岐する上菅谷駅を「観光ハブ駅」と位置付けPR。沿線などを舞台に製作した映画は、これまで5作品。出演者は全て地元の人で、撮影も団体のスタッフが当たる。毎回黒字を達成し、東京都内でも上映された。2017年には客席31のミニ映画館「瓜連あまや座」開設にも参画した。

茨城

- 波崎未来エネルギー
- カミスガプロジェクト
- 里山を守る会
- ヒューマンライツネット はらんきょうの会
- コロケクラブ龍ヶ崎
- 茨城NPOセンター・commons
- おらが湊鐵道応援団
- サクラサク里プロジェクト
- 長久保赤水顕彰会
- 結いプロジェクト
- 逆川子どもエコクラブ



里山を守る会

賞 第5回優秀賞

NPO法人

茨城県筑西市関本上 619-6



雑木林の自然体験で子どもの豊かな人間性を育む

下草刈りや間伐などで里山の雑木林を整備、子どもたちに自然体験、外遊びの場所を提供し、心豊かな若者を育てることを目指す。野外学習での動植物の観察や、落ち葉で焼き芋を作り、野草の天ぷらを味わうことも。学校行事と団体のイベントを合わせ、年間3000人以上の小中学生が訪れる。小学校高学年を対象とした自然塾では、ホタルを放ったり、流しそうめんを楽しむ。秋には里山フェスティバルで森の中のコンサートを開催。企業・行政と連携した落ち葉拾いの催しも開いている。

波崎未来エネルギー

賞 第2回優秀賞

一般社団法人

茨城県神栖市太田 705-11



市民による風力・太陽光発電推進、被災地支援も

市民による風力・太陽光発電事業を進め、地球温暖化の防止や、安全なエネルギーの供給を目指す。市民ファンドで資金を集め、市民風車「なみまる」（1500キロワット）を設置。太陽光発電も800キロワットに及び、月額計800万円の売電収入がある。ボランティア活動やシンポジウム、映画会、東日本大震災の被災地支援などに資金提供もしている。清掃活動や青少年育成事業に取り組んでいた団体が発展した。別会社で電気の小売りにも取り組む。

茨城 NPO センター・コモンズ

賞 第8回優秀賞

認定NPO法人

水戸市大工町 1-2-3 トモスミとビル 4F



被災地復興に挑み、空き家活用、防災にも取り組む

2015年の関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊、水害に見舞われた茨城県常総市で、空き家を、外国人の子どもたちも集う「多文化保育園」に変えるなど被災したまちを復興させる事業に挑む。NPO法人の中間支援団体として発足し20年。東日本大震災の被災者支援にも取り組んできた経験や幅広いネットワークを生かし、空き家活用、移動支援、防災、多文化共生、障害者就労支援、コミュニティー再生などの要素を絡めた、多様な世帯が互いに支え合える地域づくりを目指す。

ヒューマンライツネット はらんきょうの会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

茨城県筑西市海老ヶ島 1468



平和、男女共同参画への理解訴える

茨城県西・筑西市の農村地域で、朗読劇を通して平和を訴え、男女共同参画の理解を促す活動に取り組む。1998年から毎夏、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験手記を読み継ぐ朗読劇を上演。男女共同参画では、日常生活の中の男女差別を井戸端会議仕立ての茨城弁寸劇にアレンジ。さらに発展途上国の児童労働や、女兒が学校に通わせてもらえない実情を知らせる映画会も開く。夫の海外赴任先でDV被害に苦しむ女性がメールで相談できる窓口設置など、活動は国際化している。

おらが湊鐵道応援団

賞 第9回優秀賞

茨城県ひたちなか市南神敷台 17-6 (ひたちなか商工会議所内)



ローカル鉄道を守ろうと観光案内や情報発信

2006年に廃線の危機に直面した茨城交通湊線(勝田-阿字ヶ浦、全長14.3キロ)の存続を求め沿線住民を中心に立ち上がった。第3セクター方式の「ひたちなか海浜鉄道湊線」として再出発後は、週末に拠点駅で観光案内を行い、沿線商店街でサービスが受けられる「乗車証明書」の発行をはじめ、さまざまな利用促進策を提案。沿線風景や「駅猫」の様子をSNSで発信するなど「マイルール意識」醸成に取り組んでいる。

コロッケクラブ龍ヶ崎

賞 第7回優秀賞

茨城県龍ヶ崎市上町 4264-1



全国フェス開催などコロッケで街を活性化

2000年に茨城県龍ヶ崎市商工会女性部有志が子どもたちのために手作りコロッケを販売した。その後、評判となってコロッケクラブ龍ヶ崎が03年に発足。精肉店やレストランなど18店が加盟する。同じくコロッケで街おこしをしている富山県高岡市や静岡県三島市と連携し、全国コロッケフェスティバルを開催。14年に「ご当地メシ決定戦」で龍ヶ崎コロッケが日本一に。オリジナル品の開発にも余念がなく、コロッケで街を活性化させている。

結いプロジェクト

賞 第12回優秀賞

茨城県結城市結城531 結城商工会議所内 結いプロジェクト事務局



つむぎの街にクリエイター集結、マルシェやアート空間

結いプロジェクトは2010年結成。結城紬と歴史ある街並みが今なお残る街、結城市を舞台に人やモノの縁を結ぶ活動をしている。境内や見世蔵、酒蔵、空き店舗などに、雑貨・小物・カフェやアートなど個性豊かなクリエイター達が出展する祭典「結い市」、寺院、酒蔵や見世蔵などを会場とした音楽フェス「結いのおと」の企画運営をはじめ、地域資源を活かした商品開発など、人・モノ・情報の「橋渡し役」活動を展開する。

サクラサク里プロジェクト

賞 第10回優秀賞

茨城県桜川市東桜川1-21-1 桜川市商工会内



里山の桜を保全、展望台整備やガイド、出前授業

国の天然記念物「桜川のサクラ」を守る活動から始まり、かつて「西の吉野、東の桜川」と称された市の魅力として売り出そうと、地元商工会青年部の有志で結成した。苗木の育成・植樹、下草刈りや展望台の整備、ホームページによる開花状況の発表、観光客向けの現地ガイド、市内小学校での出前授業などを展開している。市役所にヤマザクラ課が設置されるなど行政にも影響が及んでいる。県の樹木医会と協力、さらに保全を進める。

逆川子どもエコクラブ

賞 第13回エコフレンドリー賞

水戸市大工町2-5-4 PSビル306



ホタルやサケ守り成果発信、環境保護の担い手に

偕楽園公園の中心「千波湖」を囲む約50haの水田に飛び交うホタルは昭和の時代に休耕田となって危機的状況へ。このホタルを生き延ばそうと2005年に幼児6人でクラブが設立され、同地区の逆川緑地で増やしてきた。2014年、このホタルを千波湖周辺の休耕田に再生しようと市民協働に発展を遂げて成功した。この他、水戸市内の河川に遡上するサケの保全や千波湖水質浄化のためのピオトープなど大学生から園児まで112人が活動する。

長久保赤水顕彰会

賞 第11回優秀賞

茨城県高萩市大能341



江戸時代の日本地図製作者・長久保赤水の業績顕彰

茨城県高萩市出身の学者・長久保赤水是伊能忠敬より42年早く経緯線入り日本地図『改正日本輿地路程全図』を刊行、江戸時代に広く流通したが知名度は低い。赤水の業績顕彰を基に、後世遺産の地図資料や書簡集解読で一般に理解できるよう創意工夫30年間活動。東日本大震災翌年建立の『赤水像』は街のシンボルとなり、2020年9月、赤水関係資料群693点が国の重要文化財に指定。21年4月『赤水図』が中学校教科書に掲載。今後もHPや書籍・動画等で全国へ業績を発信、官民一体となり国の財産を後世に伝承する。

那須苗取り田植唄保存会

賞 第4回優秀賞

栃木県那須塩原市東三島 3-40



伝統の唄とともに昔ながらの米作りを伝える

70年ほど前から地域で歌われていた「苗取り田植唄」の保存、伝承に努める。40代から90代までの地元の民謡好きが参加している。笠をかぶった昔の姿で小学生たちと田植えをして、歌声を披露。田んぼの周りには、かつて代かきで活躍していた馬をかたどった張りぼてが登場し、雰囲気を盛り上げる。子どもたちは、歌のほかにおはやしも習う。卒業後も保存会の活動に参加し続ける子どもたちも少なくない。

栃木

- 蔵の街遊覧船
- 那須苗取り田植唄保存会
- 太平山南山麓友の会
- オオタカ保護基金
- 足利クリーンハイキングクラブ山和会
- 山本有三記念会
- 那須まちづくり株式会社
- えんがお
- 三乗堂
- ダイバーステイ



太平山南山麓友の会

賞 第5回優秀賞

NPO法人

栃木県栃木市大平町西山田 1771 かかしの里



山里でハイキングコース整備やトレッキング案内

太平山の南山麓地帯で里山を守り、地域活性化を進める。高齢化が進み、農業の後継者不足により耕作放棄地が増えたことに危機感を抱いて結成した。「おおひらぶどうまつり」を復活させ、地元の農産物を販売し、約3500人の来場者でにぎわう。春にはヤマザクラを鑑賞し、季節の野草などを食べるイベントも開く。富士山やスカイツリーを望む景観が自慢で、草刈りや倒木を撤去してハイキングコースを整備している。無料のトレッキングのガイドも務める。

蔵の街遊覧船

(受賞当時：うずま川遊会)

賞 第3回優秀賞

NPO法人

栃木県栃木市俊町 2-6



白壁土蔵の街で小舟運行、江戸時代の水運を再現

江戸時代、巴波川は利根川などと結ばれ、部賀舟で材木や麻などを運ぶ物流で栄えた。往来の様子を再現しようと、地元の会社経営者らが団体を発足した。巴波川で春に約1000匹の鯉のぼりを泳がせ、冬には竹あかりを並べ、光で彩るなど多くのイベントを開催。川沿いには数多くの白壁土蔵が残り、「蔵の街栃木」もPRする。船を操る際は船頭歌を披露しており、年間3万人が訪れる。2019年の台風、20年のコロナ禍で打撃を受けたが、再興に向けて取り組みを進める。

山本有三記念会

賞 第8回優秀賞
栃木県栃木市万町 5-3

NPO法人



読書感想文、俳句教室など文学コンクール開催

「真実一路」「路傍の石」で知られる作家、山本有三（1887～1974年）は栃木県栃木市出身。市内の「山本有三ふるさと記念館」を拠点として、有三が生涯にわたって情熱を傾けた人づくり、ことに青少年の育成を柱に据えた活動を展開する。読書感想文、読書感想画、俳句教室などをはじめとする各種文学コンクールや、文学散歩、文学講座などを開催し、地域文化の向上を目指している。

オオタカ保護基金

賞 第6回優秀賞
宇都宮市埴田 2-5-1

NPO法人



繁殖調査や環境保護を続けワシタカ類を守る

猛きん類の保全を通じて生態系を守り、生物の多様性が豊かな社会を目指す。繁殖状況のモニタリングや、生態研究などの調査活動、自然観察会、森や里山づくりなどの普及に取り組む。このほか、トラスト地の確保と管理、密猟防止などの保全活動、森林施業計画への提言、開発計画との調整といった政策提言もしている。2016年度からは市貝町の古民家を拠点に「サンバの里自然学校」を運営。米作りや里山での生き物観察や自然体験などを通じ、自然を学ぶ体験の場になっている。

那須まちづくり株式会社

賞 第9回ブロック賞（関東・甲信越）
栃木県那須町豊原丙 1340

株式会社



廃校を拠点に“ちいさなまち”を

2015年に廃校となった旧朝日小学校を活用してまちづくりの拠点「那須まちづくり広場」を開設・運営。各種セミナーの開催、自然食品の売り場やカフェの運営など、廃校を誰もがそのひとらしく最後まで過ごせる“ちいさなまち”とする事業を進めている。校舎と屋内プールを改装し、ケアや文化・交流のための施設および住宅とする工事に着手。事業は「地域づくり表彰」で20年度国土交通大臣賞を受賞した。22年6月には工事が終了し、少子高齢化社会を支える“ちいさなまち”が誕生。統合医療社会モデル構築にも取り組み海外に紹介された。

足利クリーンハイキングクラブ山和会

賞 第7回優秀賞
栃木県足利市



里山のクリーンハイキング（ごみ拾いハイク）を行う

栃木県足利市を中心に活動を展開している足利クリーンハイキングクラブ山和会は1995年に設立、「決して無理せず、安全で楽しいクリーンハイキング」「ごみのないきれいな足利」を合言葉に、年10回、足利市内山地のクリーンハイキング（ごみ拾いハイク）を行っている。その他、足利花火大会後の清掃作業、尾瀬でのごみ拾い作業にも参加している。クリーンハイキング以外でも、視覚障がい者の富士山登山の支援活動等を行っている。2022年で27年目だがマンネリ化せず今後も続けたいという。

ダイバーステイ

賞 第13回優秀賞

合同会社

栃木県小山市城山町 3-6-25 コワーキングスペース
SEKEN 内



条件の悪い空き家を生かした農村民泊に多くの若者

ありふれた農村で、空き家問題に取り組むと同時に地域に若者を呼び込むことで、社会的活性化と経済的活性化を同時に推進している。空き家増加・若者減少が地域の課題として続いてきた中、約2年間で3軒の空き家を民泊に活用、延べ宿泊者数2900人泊を超え、うち80%は20代の若者となった。地域からはいまだに喜びと驚きの声が聞こえてきている。

えんがお

賞 第10回ブロック賞（関東・甲信越）一般社団法人

栃木県大田原市山の手 2-14-2（コミュニティハウスみんなの家）



空き店舗を拠点化、高齢者・若者・学生が交流

「えんがお」の名は「笑顔」と「縁側」、「顔の見える円の関係」から。高齢者の孤立を防ぐため、買い物や掃除など日常生活の困り事を解決していく中で若者との交流を促す。クラウドファンディングを活用、空き店舗を再生した拠点「みんなの家」では高齢者が茶飲み話をし、2階の自習スペースには地元の中高大学生が集う。空き家を活用した学生向けシェアハウスの運営や、空き店舗を活用し「地域食堂」「地域居酒屋」の営業、貸店舗として挑戦しやすい環境づくりも行う。

三乗堂

賞 第12回優秀賞

一般社団法人

栃木県鹿沼市



東照宮ゆかりの「木工のまち」で女性3人が仏像修復

栃木県鹿沼市の仏像修理工房「三乗堂」は2017年4月、公益財団法人美術院国宝修理所の非常勤職員として同県の世界遺産・日光山輪王寺の「平成の大修理」に携わった井村香澄さん、中愛さん、森崎礼子さんの女性3人が設立した。「文化財を後世へ伝えるお手伝い」をモットーに「現状維持・時代踏襲・耐久性」の理念の下、修理や、保護・研究のためのレプリカ制作、新像制作も請け負う。講演や催しを通じ地域と積極的に交流する。

安政遠足保存会

賞 第2回優秀賞

群馬県安中市安中 1531-1 安中市教委スポーツ課内



江戸時代の史実に基き藩士の長距離走イベント化

「安政遠足」は1855年に安中藩主、板倉勝明公が藩士の心身鍛練に始めたこととされる。団体は市民や学識経験者、行政関係者らで結成され、1975年に遠足を復活させ、2019年に45回を迎えた。安中城址から旧中山道を経て熊野神社までの29キロのコースを侍衣装などのランナーが疾走する。出場するのは1800人で県外からの参加者も多い。安中の季節の風物詩となっている。同じコースを逆に歩く「峠下り」も行っており、多くの市民らが参加する。

群馬

- 伊参スタジオ映画祭実行委員会
- 安政遠足保存会
- 本一・本二まちづくりの会
- 坂上健友会 大戸診療所
- 富岡製糸場を愛する会
- 自然塾寺子屋
- 桐生再生
- ながめ黒子の会
- キングオブバスタ実行委員会
- We are with you
- たかさきコミュニティシネマ
- 産科婦人科館出張佐藤病院
- 前橋工科大 堤洋樹研究室



本一・本二まちづくりの会

賞 第3回優秀賞

NPO法人

群馬県桐生市本町 1-4-13



織物産地のまちなみを守り、市街地の再生に挑む

織物が盛んだった桐生市を元気にしようと本町1、2丁目の住民が結成。江戸時代末期からの建物を活用したまちづくりを目指す。月1回青空マーケット「買場紗綾市」を開催し、織物や日用雑貨などを販売。県外からも含め1000人ほどが訪れる。酒類卸業を営んでいた商店の倉庫群や神社などを回るまち歩きも人気だ。電気自動車を導入して観光客を無料で乗せ、環境保全もPR。焼失した明治初期の長屋を拠点とする若い世代のまちづくりも応援している。

伊参スタジオ映画祭実行委員会

賞 第1回ブロック賞（関東・甲信越）

群馬県中之条町中之条町 1091



山の中の木造校舎で映画祭、映画制作も支援

人口およそ1万5000人の山あいの町で、撮影に使われる廃校の木造校舎を軸に地域発の映画文化を発信しようと、2001年から始まった。年1回の映画祭は、地元で撮影された映画を中心に上映、監督や俳優もゲスト登場する。全国から多くの作品が寄せられるシナリオコンテストには、中編と短編の2部門があり、大賞には賞金を贈り映画化を支援する。作家横山秀夫さん、歌手山崎まさよしさん、映画監督篠原哲雄さんが映画祭で対談したことをきっかけに映画化、公開された「影踏み」（2019年）で当映画祭実行委員会が企画協力として携わった。

自然塾寺子屋

賞 第6回優秀賞

NPO法人

群馬県甘楽町小幡7



青年海外協力隊の研修や海外の技術者支援

青年海外協力隊員の研修を受け入れる傍ら、地元住民や行政などと国際交流や農村振興、定住・交流人口増に取り組む。「資源は人」と農村の人々の純朴な魅力を引きだし、都市住民や学生、外国人を積極的に招いて交流。地域をPRする活動を通じて、町を気に入り1ターンする人も。国際協力活動を経験した人の思いを市民に広める窓口にもなっている。また来日技術者の言葉の援助や、病気の際などに支援する「グローバル人材生活安心パック」サービスをNPO、企業と連携して実施している。

坂上健友会 大戸診療所

賞 第4回準大賞

医療法人

群馬県東吾妻町大戸 13-1



医師や住民が出資・運営し、過疎地域の医療を守る

地元の医療拠点の廃止に直面した住民が医療法人を設立、1994年以来、診療所の運営を続けてきた。2000年から介護事業、04年から訪問介護ステーション、05年から居宅介護支援事業所も開設。11年にはデイサービスセンターを開いた。事業所には地元出身の看護師や介護士が働き、雇用の場にもなっている。町全体が通路で結ばれた病棟で、中心の診察室の役割をこの診療所が担うポリシーの下、現在も変わらず高齢者を無料で送迎するサービスを続けている。

桐生再生

賞 第7回優秀賞

株式会社

群馬県桐生市東久方町 2-1-45



電動バスを用い歴史的建物が集積する市街地案内

織物業の街に観光産業を創出した。群馬大などが開発した環境配慮の低速電動バスを用い、観光客を動物園や遊園地、歴史的な建物が集積する市街地に案内するのが主要事業の一つ。低速走行で景色をゆっくり楽しむ。平日は買い物弱者のお年寄りを乗せて走り、コロナ禍でも継続した。工場を案内する「産業観光」にも先駆的に取り組む。所有する古民家をレンタルスペースとして開放、喫茶コーナーも併設し、観光客や市民の憩いの場として活用している。

富岡製糸場を愛する会

賞 第5回優秀賞

NPO法人

群馬県富岡市富岡 1406-4 (株)まちづくり富岡内



講演やイベントで世界遺産への住民意識を高める

富岡製糸場の価値を認識し、共有するための学習会が発端。世界遺産登録に向けて価値を伝える活動に多くの人々が加わって発展し、会員は1300人ほどになった。製糸場の清掃や、場内で講演会やシャンソンなどのコンサート、観桜会などを開催した。近くのイベント会場などでは製糸場の歴史をまとめた紙芝居「赤煉瓦ものがたり」を披露。はかま姿の約200人の女性がまちを練り歩くイベントも好評だった。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は世界遺産に登録された。

We are with you

賞 第10回優秀賞

群馬県大泉町古氷 21 ジェンテ・ミウダ



日系ブラジル人らが道路、川の清掃、児童生徒健診

外国人住民の割合が18%超の群馬県大泉町で、日系ブラジル人らが立ち上げたボランティア団体。道や河川の清掃のほか、ブラジル人学校の児童生徒の健康診断事業などを展開している。15人いる会員は日系ブラジル人社会のキーパーソンで、外国人住民と行政、地域社会をつなぐ役割も果たしている。入管難民法改正により国内各地で外国人住民の増加が見込まれる中、共生を円滑に進める取り組みが注目されそうだ。

ながめ黒子の会

賞 第8回優秀賞

NPO法人

群馬県みどり市大間々町大間々 2373-3 シイナ内



大衆演芸場を保存、落語会など通じ歴史文化伝える

戦前に建てられた大衆演芸場「ながめ余興場」の保存と活用を目的に1993年に発足した。当時、ながめ余興場を取り壊す声も上がったが、会員は余興場の価値と存続を訴え、伝統を守った。2016年のみどり市市制10周年に合わせ、世話人たちが中心となり、地域の偉人を取り上げた「みどり市創生落語」を制作。市内小学校で勉強会と落語会を行うなど、次世代に地域の歴史文化を伝える活動にも積極的に取り組んでいる。

たかさきコミュニティシネマ

賞 第11回優秀賞

NPO法人

群馬県高崎市あら町 202



映画の撮影（入口）から上映（出口）まで、「映画のまち」を支える

1987年から続く高崎映画祭のメンバーが地域での映画文化発展、継続のために立ち上げた。群馬県初のミニシアター「シネマテークたかさき」、高崎市内での口ケを誘致する「高崎フィルム・コミッション」活動、高崎最古の映画館「高崎電気館」の維持運営を行い、映画の入口から出口までを担い「映画のまち高崎」の中心的存在となっている。

キングオブパスタ実行委員会

賞 第9回優秀賞

群馬県高崎市八島町 265



県産食材パスタを競うイベントで地元の味をPR

独自のパスタ文化を育んできた高崎市でパスタを愛する地元の中小企業経営者らが集まり結成。市内飲食店が自慢の味を競い合うイベント「キングオブパスタ」を開催し、「パスタのまち高崎」の発信に大きな役割を果たしてきた。出場店は県産食材を使い工夫を凝らしたメニューを提供、来場者の投票でナンバーワンを決める。埋もれかけていた食文化に再び光を当て、地域のにぎわいやブランド力を向上。コロナ禍の2020年、21年は一カ所に集まらず店ごとで開催したが、22年は会場に集まって賑やかに開催した。

埼玉

- 久喜市商工会鷺宮支所
- 秩父アニメツーリズム実行委員会
- 縁結びの街めぬま連絡協議会
- まち遺し深谷
- Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe
- 秩父百年の森
- 高麗1300
- 川口自主夜間中学
- みぬま福祉会工房集
- 版画フォーラム実行委員会
- 鳩山町コミュニティ・マルシェ（アール・エフ・イー）
- 芝園団地自治会
- 暮らしの編集室



久喜市商工会鷺宮支所

(受賞当時：鷺宮商工会)

賞 第1回優秀賞

埼玉県久喜市鷺宮 4-8-8



人気アニメで始まったまちおこしが広域に展開

人気アニメ「らき☆すた」の登場キャラクターが鷺宮在住という設定がきっかけで、全国から訪れるようになった多くのファンをもてなそうと、アニメによるまちおこしを始めた。地元の祭りにはキャラクターが描かれた「らき☆すた御輿」が登場。鷺宮神社の初詣客は数十万人規模となり、アニメの舞台となった神社脇の大酉茶屋に立ち寄り、まち歩きを楽しんだりする人も多い。久喜市全体でアニメの街として取り組み、スリッパ産地である行田市の商工会と連携してグッズをつくるなど広域連携を進めている。

産科婦人科館出張佐藤病院

賞 第12回ブロック賞（関東・甲信越）

群馬県高崎市若松町 96



赤ちゃんから高齢世代まで女性支え、啓発活動展開

江戸時代から12代続く歴史があり、約270年にわたって地域の産科医療を支えてきた女性専門病院。時代に合わせた安心・安全な医療と健康増進サービスの提供を目指し「女性の生涯にわたる専門病院」を理念に掲げる。赤ちゃんから高齢世代まで全世代の女性を支援する活動を地域や企業、自治体、教育機関などと連携しながら進めている。2018年には取り組みが評価され、第2回ジャパン SDGs アワードで特別賞を受賞した。

前橋工科大 堤洋樹研究室

賞 第13回優秀賞

前橋市上佐鳥町 460-1 4号館 4階 A-7号室



公営団地にシェアハウス、学生が住んで課題解決

老朽化した公営団地の集合住宅をシェアハウスにリノベーションし、前橋工科大の学生が住みながら課題を解決する社会実験が、群馬県内最大規模の広瀬団地（前橋市）で始まっている。入居者減少と住民コミュニティの喪失といった現状を改善するため、同大は企業や団体などと幅広く連携してカーシェアリング事業やイベントも展開し、団地再生の先駆的モデルを目指す。

まち遺し深谷

賞 第4回優秀賞
埼玉県深谷市深谷町 9-12

一般社団法人



廃業した酒蔵にシアターや店舗開設、地域拠点に

深谷の持つ歴史資源、景観、産業資源などを生かした地域づくりを市民が中心になって進める。十数年前に廃業し、土塀や屋根瓦が特徴的な酒蔵を再利用している。ミニシアターや古書店、アニメ工房、カフェ、居酒屋など15店舗が入り、年3万人以上が訪れる。キャッチフレーズの「まち遺し」は、ミニシアター名誉館長を務める映画監督の大林直彦さん（故人）が「あるものを生かしていこう」という考えから使っている言葉だ。まち歩きガイドも務める。

秩父アニメツーリズム実行委員会

賞 第2回優秀賞
埼玉県秩父市熊木町 8-15



地元が舞台の人気アニメでPR、観光客呼び込む

アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」「空の青さを知る人よ」の三部作の舞台となった秩父。行政と、アニメ製作者とファン、住民が力を合わせ、地域活性化を実現してきた。観光客は大幅に増加、春や秋の祭りでは作品のキャラクターのポスターで盛り上げ、スタンプラリーなども開催している。独自につくったグッズも人気だ。アニメファンに寄り添ったイベントを開催し、数多くの若者が訪れる。

Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe

賞 第5回特別賞
埼玉県桶川市南 2-4-13

一般社団法人



カフェ、太鼓通じ不登校の若者に居場所づくり

埼玉県立浦和商業高定時制の卒業生や教師が、不登校の経験を分かち合い、学校に行きづらい子どもたちの居場所をつくってきた。2014年に桶川市に開いた拠点のカフェと、本庄市を稽古場とする太鼓の演奏活動の2本立てだ。カフェでは子どもたちが宿題や身近なイベント企画に取り組む。太鼓は英国での公演を実現した。これらの活動成果を土台に今後、不登校や経済的な悩みを持つ子どもたちのため通信制の「新しい学校」づくりを目指す。

縁結びの街めぬま連絡協議会

賞 第3回優秀賞
埼玉県熊谷市妻沼 1982-3



寺本堂の国宝指定を機にまちおこし活動が結集

国宝に指定された妻沼聖天山本堂は縁結びのご利益があるとされる。本堂の「平成の大修理」が完了したのを機に、まちおこしを進めようと、ボランティア観光ガイドや市民グループ、文化、商工団体など地元の団体で結成した。聖天山周辺を門前町風にしようと、景観美化に取り組み2020年に整備が完了した。空き家を探して入居者を募集。まちなかに四季の写真を飾り、まち歩きガイドも務める。お見合いパーティーのサポートも。

川口自主夜間中学

賞 第8回優秀賞

埼玉県東松山市大谷 3209-31



誰でも無料で授業受けられる夜間中学を運営

公立夜間中学のなかった埼玉県で市民グループが1985年から自主夜間中学を運営している。川口市で週2回、公民館などで教室を開く。学びに来るのは不登校の子や十分に勉強できないまま学校を卒業してしまった人、日本語が不得意な在日外国人ら。誰でも無料で、いつでも通い始めることができる。ボランティアで教えているのは元教諭や社会人、学生ら。教室で大切にしていることは「互いに学びあうこと」。教える側も教えられる側も真剣なまなざしだ。

秩父百年の森

賞 第6回優秀賞

NPO法人

埼玉県秩父市上町 3-6-6



山・里・街が連携して取り組む、未来へつなぐ森づくり

市域の87%が森林の埼玉県秩父市。地元の緑豊かな森を受け継いでいこうと、2000年から活動を開始。森林整備活動や森とまちをつなぐ交流活動、森に学ぶことを主題とした環境教育支援活動、森を活用した地域活性化事業に取り組む。森林再生は時間が掛かるため、100年先を見通して活動し、未来を担う子どもたちに森林の大切さを伝え、成長しても森林と関わり続けられる環境づくりに力を入れる。中国からの輸入が多かった薬用樹木（薬木）について、日本薬科大の教授や学生とともに育成の研究会を開いている。

みぬま福祉会工房集

賞 第9回優秀賞

埼玉県川口市木曾呂 1445



障害者の創作を社会へ、地域の発信拠点

社会福祉法人みぬま福祉会は、1985年に「どんな障害があっても受け入れる」を理念に設立した。法人の組織の一つ、アトリエ「工房集」はこれまで積極的に施設を開き、所属する作家のようすや彼らの創り出す作品を公開し、現在では地域の中で人と人がつながるための発信拠点となっている。自由な発想に基づく絵画やステンドグラス、書などの作品は国内外に展示。またファッションブランドとコラボするなど、高い評価を受ける。施設内でのギャラリーでは展覧会も開かれ、多くの人が訪れる。

高麗1300

賞 第7回優秀賞

埼玉県日高市新堀 855-3



朝鮮半島からの渡来人が旧高麗郡を築いた記念事業

朝鮮半島の高句麗からの渡来人が現在の埼玉県に旧高麗郡を築いて、2016年で1300年。建郡1300年を地域活性化の契機と捉え、記念事業を打ち出した。活動は旧高麗郡地域から、関東、全国へと拡大している。「地域」「渡来文化」をキーワードに講演会やシンポジウム、歴史ウォークに加え、古代渡来文化研究の高揚を目的に「渡来文化大賞」を設け、さらに歴史を掘り起こす活動を続けている。

芝園団地自治会

賞 第12回優秀賞

埼玉県川口市芝園町3番15号棟1階 芝園団地自治会事務所



マンモス団地で外国人住民と共生、イベントに学生協力

埼玉県川口市にある「芝園団地」は、人口の約60パーセントが外国人住民となり、その大半が中国人住民である。2000年代に入って生活習慣の違いによる生活トラブルが頻発したので、自治会では多言語の生活ガイドなどを作成して問題の改善に取り組んできた。また、学生ボランティア団体「芝園かけはしプロジェクト」のサポートを得て、多文化交流のイベントを定期的に行なう。共生を目指す地道な活動が実り、今では自治会役員の半数近くを外国出身の住民が務めている。

版画フォーラム実行委員会

賞 第10回優秀賞

埼玉県東秩父村安戸87



無形文化遺産の和紙広めようと小さな村で全国展

埼玉県唯一の村、東秩父村を中心に活動。版画にも用いられる地元の和紙は1300年の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。そんな特産の和紙をもっと知ってもらおうと、村民の呼び掛けで2004年に設立され、小さな村で全国公募展を開催している。会派やジャンルを超えて誰もが参加できるのが特徴。海外とも交流し、村内とギリシャでそれぞれ作品展を開催した。

暮らしの編集室

賞 第13回優秀賞

合同会社

埼玉県北本市中央1-109-102



団地の空き店舗がジャズ喫茶と工房に、住民の居場所

「暮らしの編集室」は、埼玉県北本市の観光協会職員、写真家、建築家らからなるまちづくり会社。行政やUR都市機構、民間企業と連携し、築50年が経過して住民の高齢化が進むURの賃貸住宅「北本団地」で地域活性化に取り組む。シャッター通り化した団地商店街の空き店舗にジャズ喫茶やアート工房を開業。地域住民との協働で子ども食堂や手話カフェなどを開き、子どもや育児ママの居場所づくり、高齢者の見守りを行っている。

鳩山町コミュニティ・マルシェ（アール・エフ・イー）

賞 第11回優秀賞

株式会社

埼玉県鳩山町松ヶ丘1-2-4 アール・エフ・イー鳩山事業所



高齢化したニュータウンの空き家でマルシェやカフェ

都心から60キロ、いわゆる「トカイナカ」エリア。自然豊かでありながら、都心にすぐ出ていける。かつて人口が急増したベッドタウンが今、消滅可能性タウンに変貌。高齢化率50%を超えたニュータウンの再生を図るため、建築や芸術の専門家らが乗り出した。空き家を活用したマルシェやカフェ。創作場所を求め、子育て世代のアーティストらの移住が相次ぐ。地元住民を巻き込み、活動の輪も拡大。コロナ禍の中、かえって注目が集まっている。

金谷ストーンコミュニティー

賞 第2回優秀賞

千葉県富津市金谷 2288



2019年台風15号による被災から立ち上がる

2019年9月に房総半島を襲った台風15号により地域のシンボル鋸山は甚大な被害を被った。このピンチの中、復興に協力してくれるボランティアとの出会いがあり鋸山復興プロジェクトを立ち上げ、登山道や石切場遺構の復興、クラウドファンディングによる募金の働きかけを行い、被災後わずか4ヶ月で2本の登山道を復旧。現在は山の整備保護活動と進化し、山の掃除や岩肌をつた剥がしなど年間7~8回行われる。シンポジウムも今年で第13回を迎える。これらの活動が礎となり2021年7月に鋸山が日本遺産候補地として文化庁より認定を受けた。

ONE勝浦企業組合

(受賞当時：熱血!!勝浦タンタンメン船団)

賞 第3回優秀賞

企業組合

千葉県勝浦市墨名 815-56 勝浦市観光協会内



漁師ゆかりの「勝浦タンタンメン」を全国発信

勝浦市は観光と漁業のまちで、半世紀以上前から独特のタンタンメンが食べられてきた。漁師や海女さんが海仕事で冷えた体を温めるため、しょうゆベースのスープに真っ赤なラー油、具材にタマネギを使うのが特徴で、辛さの中に甘みも感じられる。このソウルフードをブランド化し全国に発信しようと、まちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」を結成。全国各地でのイベント出展等で食を通じた地域PR活動を実施。食品や菓子など監修商品の開発も積極的に行う。

千葉

- 小野川と佐原の町並みを考える会
- 金谷ストーンコミュニティー
- ONE勝浦企業組合
- ちば地域再生リサーチ
- 手づくり公園まさごの会
- 船橋市時活村
- 報徳の会・内田未来楽校
- 行徳まちづくり協議会
- 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会
- みんなのサンタ
- WOULD (ウッド)
- NIPPONIA SAWARA



小野川と佐原の町並みを考える会

賞 第1回優秀賞

NPO法人

千葉県香取市佐原イ 1903-1 佐原町並み交流館



利根川物流拠点の歴史的建造物保存、街を活性化

江戸時代に利根川の物流拠点として舟が行き来し、中心部を流れる小野川沿いは醸造業や問屋街で栄えた。昭和30年代以降、自動車物流に押され衰退。メンバーは数多くの歴史的建物に着目し、町並みを保存してPR、活性化を進めている。川の清掃や除草作業を続け水質が浄化、サケが遡上するまでになった。ボランティアガイドも務める。骨董市なども開催。東日本大震災で建物は大きな被害を受けたが、全国そして世界からの支援で復旧した。旧川崎銀行佐原支店(三菱館)赤れんがの建物を保存修理。電線無柱化も進む。

船橋市時活村

賞 第7回特別賞

NPO法人

千葉県船橋市習志野台 1-11-1 八田ビル 2F



退職後の生き方を考え、実践する仲間・場づくり

65歳から85歳までの20年間に睡眠時間などを除き自分で過ごし方を選べる自由時間（約10万時間）を「どうはずんで生きていくか」を考え実践して、仲間づくりと居場所づくりを進めている。設立から27年、会員数250名。行事（料理、ウォーキング、麻雀、落語や映画観賞など）はすべて会員の手作りで月間40に達した。活動を通じて退職者が地域社会にソフトランディングすることを目指す。

ちば地域再生リサーチ

賞 第4回優秀賞

NPO法人

千葉市美浜区高洲 2-3-14



高齢化が進むニュータウン再生に大学・住民挑む

高度成長期に東京湾を埋め立て誕生した千葉市の海浜ニュータウン。入居が始まってから50年近くが経過し、高齢化や建物老朽化が深刻だ。地元大学の教官や学生が核となり、団体を結成。住民の力で団地を再生させようと、リフォームや買い物代行、文化講座の運営など幅広く活動する。世代間の交流を図る憩いの居場所にはキッズスペースを備え、学童保育事業も。一日店長によるショップなどを開く。アトリエやギャラリーを立ち上げ、イベントを開催している。

報徳の会・内田未来楽校

(受賞当時：報徳の会)

賞 第8回優秀賞

NPO法人

千葉県市原市宿 174-8



卒業生を中心に廃校した小学校を地域の交流の場に

廃校の利活用が各地で進む中、報徳の会は卒業生らが主体となり、旧内田小学校を「内田未来楽校」に再生。朝市や作品展の開催などで地域住民の交流を促し、人口減少や少子高齢化・過疎化が進む市原市の南部地域に活力を与えている。地域の魅力を引き出し、人のつながりを強める仕掛けづくりを目指し、常に新たな試みに挑戦。母校を地域の宝として後世に伝えようとする卒業生らの活動は、廃校の利活用の新たな形として注目される。

手づくり公園まさごの会

賞 第5回優秀賞

千葉市美浜区真砂 5-12-1



住民が提案、自分たちの力で公園手作り、管理

市の財政難で30数年間放置されていた4000平方メートルの公園用地を自分たちの手で整備、管理しようと市に提案して1年余りでオープンした。真砂地区の自治会連絡協議会のメンバーら約30人で構成。週2回、自発的に花の植栽、草刈りなどを続ける。ベンチや椅子は手作りだ。人間と生き物が共生するピオトープづくりを目指し、池を作ったり、井戸を掘ったりした。高齢者が活動できる「居場所」の役割も果たしている。2019年には市内の別の地区にも、住民による手づくり公園が誕生した。

みんなのサンタ

(受賞時団体名：おもちゃ図書館 Café Santa)

賞 第11回優秀賞

NPO法人

千葉県市川市市川 3-27-23



障害児、高齢者、シングルマザーの居場所を提供

自身も障害児の母親であるオーナーが古民家を借りて駄菓子屋とカフェ、おもちゃ図書館を2017年に併設。障害児・者をはじめ高齢者やシングルマザーなど幅広い世代の「居場所」を提供する。毎月、子ども食堂を開催しコロナ禍では感染状況によってお弁当を配布し、生活困窮する方々には食料や生活用品を配布してきた。22年12月には高齢者向けの地域密着型通所介護「サンタのおうち」を開設、23年7月からは障害者も利用できる共生型デイサービスに進化した。学習会や健康相談などサービスメニューも増やしている。

行徳まちづくり協議会

賞 第9回優秀賞

千葉県市川市本塩 21-3 中台製作所内



みこし作りなど産物や歴史を生かし地域づくり

地域の産業である、みこしを切り口として景観・地域づくりにつなげようと、2017年5月、地域の自治会長をはじめ、まちづくり団体、市川市などが参加して設立。07年に廃業したみこし店の店舗兼住宅を市川市が改装し18年7月にオープンした「行徳ふれあい伝承館」で展示と管理・運営業務を担っている。会長の中台洋さんが経営するみこし店がみこしの製作過程等を紹介する「行徳神輿ミュージアム」との2施設を活用しながら活動を展開する。

WOULD (ウッド)

賞 第12回優秀賞

合同会社

千葉県南房総市白浜町滝口 5185-1



廃校が「住む・泊まる・学ぶ・食べる・働く」空間に

「住む・泊まる・学ぶ・食べる・働く…」といった機能を兼ね備えた複合施設「シラハマ校舎」を運営。2011年に閉校した旧長尾幼稚園・小学校を貸しオフィスや宿泊所、レストランなどに活用し、二拠点生活やワーケーションを行う世代を中心に人気を集める。コロナ禍で多様な働き方が叫ばれる中、需要は拡大。一昨年の台風災害の経験から、今後は避難拠点としての役割を備えた新型ワーケーション施設の整備にも取り組む考えだ。

松戸市に夜間中学校をつくる市民の会

賞 第10回優秀賞

NPO法人

千葉県松戸市松戸 1879-24 ほくとビル 5階



学ぶ機会を失った約2千人に学習の場を提供

貧困や不登校、障害などの理由で学ぶ機会を失った人たちに学習の場を提供する夜間中学校。松戸市内に公立夜間中学校の開設を目指す人たちが1983年、「市民の会」を結成し「松戸自主夜間中学校」を開講した。それ以来、学んだ人は約2千人に上る。授業料は無料。退職した教員らがボランティアの講師として活動を支える。現在は外国人の子どもも多い。学びたい人が1人でもいる限り活動を続ける考えだ。

東京

- 喜多見ボンポコ会議
- 奥浅草観光協会
- 谷根千・駒込・光源寺隊
- 淡路エリアマネジメント
- 旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
- 目黒区民まつり実行委員会
- 千住文化普及会
- 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
- 柴又まちなみ協議会
- あらかわ子ども応援ネットワーク
- 自立生活サポートセンター・もやい
- 東京スリバチ学会



NIPPONIA SAWARA

賞 第13回優秀賞

株式会社

千葉県香取市佐原イ 474-8



北総の小江戸で古民家を宿泊施設やレストランに

NIPPONIA SAWARA は「北総の小江戸」と呼ばれる千葉県香取市佐原で観光休憩所の運営や古民家改修を行っている。関東で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた江戸情緒が残る小野川沿いにある古民家を、歴史深い建物の趣を感じられる宿泊施設や、香取市の農産品を活用したクラフトビールと自家製チーズの店などに再活用し、新しい観光客の流れや地元商品の誕生の機会を創出した。都心から近い立地を生かし観光客へ情報発信にも努める。

喜多見ボンポコ会議

賞 第1回優秀賞

東京都世田谷区



地域活性化から分野横断的な提案まで

東京都世田谷区喜多見はかつて自然豊かで地域の中で人も自然も上手に循環していた。地域の歴史や文化、人や店、環境資源を掘り起こし、地域活性化を目指す。発足当時、野川でタヌキを見たときよく聞いたことからボンポコと名付けた。外環道計画のPIに参加した経験からも、情報公開を前提として、特定分野にこだわらず気になったことを現場で手足を動かして自分で調べてみる、提案する、チェックすることが大事だと考え実践している。

淡路エリアマネジメント

賞 第4回優秀賞

一般社団法人

東京都千代田区神田淡路町 2-105 ワテラスアネックス
1311



再開発地域で学生や企業と住民交流を進める

神田淡路町の再開発で小学校跡地にオフィスやマンションなどを備える複合施設「ワテラス」ができたのをきっかけに神田の文化を残しながら新旧住民、就労者、学生の交流を進めようと、デベロッパーの安田不動産などで団体を設立した。無料の屋外ジャズや冬季イルミネーション、マルシェなどの定期イベントを開催し地域を盛り上げ、コミュニティの形成・活性化を図る。有名な神田祭にもワテラスに居住する学生会員と参加。フェイスブックやインスタグラムに加え、地域情報誌を年3回発行して情報発信にも努めている。

奥浅草観光協会

(受賞当時：奥浅草観光まちづくり協会)

賞 第2回優秀賞

一般社団法人

東京都台東区千束 3-19-3 グリーンビル 2F



江戸時代からの地域資源を発信、オンラインツアーも

浅草寺観音様の裏側、言問通り以北の一帯にあたる「奥浅草」には、江戸の頃より芝居や遊郭が栄え庶民文化の発信地となる一方、歴史ある寺社、名所、旧跡を多数有する。商店街や町会、産業界が連携し、観光資源を活かした地域活性化と情報発信、観光振興を目的とする。また、本地区には浅草見番もあり、浅草花柳界の伝統の振興・継承を支える取り組みも行う。恒例の写真展・写真コンテスト開催のほか、コロナ禍においてはオンラインツアーを開催し、浅草の魅力を広く発信する。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

賞 第5回優秀賞

東京都品川区北品川 2-28-19



旧東海道の土地柄や特有の「細い道幅」を守る

旧東海道宿場町の歴史と文化を受け継ぎ、人情の厚い「品川宿」を守ろうと、旧東海道沿いの8商店街で設立した。宿場町の雰囲気を残す景観づくりに取り組む。運営する品川宿交流館では散策する人や観光客、地元の人たちとの交流、地元の人同士の情報交換の場を提供している。古い建物を品川区の協力の下、リノベーションして、観光やまちをPRする施設として運営もしている。かつて道しるべだった街道松を植え、次の世代に継承する活動も続けている。

谷根千・駒込・光源寺隣

賞 第3回優秀賞

東京都文京区向丘 2-38-22 光源寺



地域の若者らがほおずき市を開催、被災者支援も

文京区にある光源寺境内で夏に開かれる「ほおずき市」を通じて地域の交流を深め、地域の若者らが手弁当でテント張りや食事の提供に汗を流す。東日本大震災の発生直後から地域の店主や主婦、縁日の参加者が自発的に寺に集まり、食料や鍋や道具を被災地に届けた。被災者との縁は続き、復興のためのパン工房づくり応援、ペットの支援などに取り組む。ほおずき市には約50店が並ぶが、うち5店ほどは震災関連だ。

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

賞 第8回準大賞

NPO法人

東京都豊島区池袋 3-52-21



地域を変える／子どもが変わる／未来を変える

2012年設立。「子どもの貧困」をテーマに、地域の子どもの地域で見守り、育てることをコンセプトとして活動している。遊びサポート、学びサポート、暮らしサポートの3本柱で有機的なネットワークをつくり、貧困の連鎖を断つことを目指す。コロナ禍の中、地域・行政・企業と連携しながらフードサポートに力を入れてきた。また、すまいサポートや仕事サポートなど、相談事業にも取り組んでいる。

柴又まちなみ協議会

賞 第9回優秀賞

NPO法人

東京都葛飾区柴又 6-22-19



◦寅さん、の街並み守るガイドライン、魅力発信

映画「男はつらいよ」の舞台、葛飾柴又地区の景観を守る「街並み景観ガイドライン」を策定、「変えない開発」「一店一品主義」「おもてなし」を掲げ、下町情緒豊かな帝釈天の門前町のイメージを保っている。変わらない昭和の街並みは、若者や外国人観光客にいまだに人気。取り組みが功を奏し、国の文化審議会は2018年1月、地区を東京都内で初めて「重要文化的景観」に選定、保護の対象。国、都、区、地元の4者が新たな取り組みを話し合っている。

目黒区民まつり実行委員会

賞 第6回優秀賞

東京都目黒区上目黒 2-19-15 目黒区役所 文化・スポーツ部 文化・交流課



落語にちなみサンマを振る舞い、被災地も支援

今や東京の秋を代表する人気催事「目黒のさんま祭」を、目黒区民まつりの中のメインイベントとして実施し、地域活性化、都市間交流に多大な実績を上げている。古典落語「目黒のさんま」にちなみ、1996年に開始。2022年度は10月に開催。宮城県気仙沼市から届く1000匹の新鮮なサンマを、目黒区内の公園で炭火焼きにして、無料で振る舞う。震災復興にも尽力している。

千住文化普及会

賞 第7回優秀賞

NPO法人

東京都足立区千住河原町 21-8-702



千住宿の豊かな歴史と文化を子どもたちに伝承

日本橋から日光街道の最初の宿場町であり、「江戸四宿」の一つが置かれた千住は、松尾芭蕉「奥の細道」の旅立ちの地でもある。都市部にあって少子化、世代間隔絶が進む中、郷土の豊かな歴史と文化を子供達に伝承、地域に誇りを持ってもらおうと2006年に発足した。小学校での出前授業、奥の細道を追体験するクルージング、街歩きなどの催し、地元伝承の物語の絵本化など積極的に取り組む。お気に入りの風景や写真展や街歩きガイドブックも実現した。

東京スリバチ学会

賞 第13回優秀賞

東京都江東区



凹凸地形の街を歩いて魅力発掘、全国に連携拡大

「東京スリバチ学会」は、東京特有の凹凸地形に着目し、まち歩きを通じて地域資源の発掘・発信を独自の手法で行っている任意団体。まち歩きは2003年より誰もが参加できるスタイルで継続的に開催され、情報交換と地域コミュニティ醸成の場が提供されている。地形に着目する取組は東京以外でも適応が可能で、全国各地でご当地スリバチ学会が立ち上げられた。皆川典久会長はNHK『プラタモリ』の放送開始時から地域ネタや人材ネットワークを提供している。

あらかわ子ども応援ネットワーク

賞 第10回準大賞

東京都荒川区南千住1-13-20 荒川区社会福祉協議会ボランティアセンター内



市民団体と行政が連携、子どもの情報共有し支援

「子どもを真ん中にみんなで手をつなごう」。区の社会福祉協議会を事務局に多くの支援団体のネットワーク化と区、教育委員会との緊密な連携で、きめ細かい活動を展開している。3か月に1度、30を超える組織や子ども食堂など市民団体と、行政の担当者が一堂に会して活動の在り方を議論し、全国でもまれな大きい支援の輪を構築。窓口の一化で啓発・広報が効率化、寄付を受けやすくなったことも支援を活性化させている。

自立生活サポートセンター・もやい

賞 第12回優秀賞

NPO法人

東京都新宿区山吹町362 みどりビル2階



新宿で困窮者の生活基盤を回復、つながり生み出す

特定非営利活動法人「自立生活サポートセンター・もやい」は2001年の創立以来、全国から人が集まる大都会・新宿で困窮者の生活基盤を回復させ、ばらばらに苦しんできた人たちのつながりを生み出してきた。コロナ禍の21年4月からは毎週土曜、食料品やマスクなどを新宿の東京都庁前で配布している。22年夏には前年の3.5倍となる350人超の利用者が訪れた日もあった。生活や健康、法律などの相談をその場で受け付けている。

女性防災クラブ平塚パワーズ

賞 第2回優秀賞

神奈川県平塚市



主婦らを中心に防災訓練や出張講座、ノウハウ集も

防災活動に取り組む女性グループ。「自分の命は自分で守り、地域を守ろう」を合言葉に阪神大震災翌年の1996年にスタートした。段ボールを使った簡易トイレの作り方の出張講座は、材料集めから保管の仕方までをレクチャーしている。応急手当てや災害時の食べ物の作り方などの講座を開くほか、ポリ袋を使用した簡易防護服作りも行っている。ノウハウをまとめた冊子「防災減災パワーズブック」を作成し、視覚障害者たちにも分かるように点字版、音訳版も発行した。

神奈川県

- 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
- 女性防災クラブ平塚パワーズ
- 河内川あじさいの会
- 日本ナポリタン学会
- 高齢化社会をよくする虹の仲間
- サポーターみうら
- 小田原柑橘倶楽部
- ふらっとステーション・ドリーム
- 鴨居駅周辺まちづくり研究会
- 「100段階」プロジェクト
- 逗子フェアトレードタウンの会
- こまちぶらす
- 神奈川大学体育会サッカー部・竹山団地プロジェクト



河内川あじさいの会

賞 第3回優秀賞

神奈川県平塚市纏 313-28



よみがえった川にアジサイ、環境保全に取り組む

メンバー約60人で、平塚市を流れる河内川の清掃や草刈りを行っている。川沿いの1.4キロにわたってアジサイを植えた。川はかつてごみの不法投棄などで悪臭を放っていたが、県や市に働き掛け近隣の川からの年間取水が可能になったことで水質が大幅に改善、アユが泳ぎ、カワトンボやカワセミも見られるようになった。新型コロナウイルス禍の前までは6月に「あじさい祭り」を開催し、約3000人が来場していた。7月には小学生とアジサイを剪定し、花びらを使った万華鏡づくりにも取り組んでいる。

初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

賞 第1回優秀賞

横浜市中区黄金町 1-4 先 高架下スタジオサイト B



生活環境を改善、安心して暮らせるまちづくり

三つの町内と小学校PTAなどで結成。性風俗の違法営業で悪影響を受けた生活環境を改善するため、警察、行政、周辺地域や大学、企業、アーティストと連携し、「安全・安心のまちづくり」に取り組む。毎月27日にはパトロールを行いながら歩道を清掃する「防犯パトロール」を実施。また、国内外のアーティストを招聘し、まちに滞在しながら作品を制作・発表するアートフェスティバル「黄金町バザール」を毎年開催。「防犯」「防災」「賑わい」の3つを柱とした活動を継続している。

サポーターみうら

賞 第6回優秀賞

神奈川県三浦市三崎 2-11-3



空き店舗の改装施設を拠点に地元情報を発信

かつて遠洋漁業の基地として栄え、今も「マグロのまち」として観光客を魅了する神奈川県三浦市。その下町「三崎」のにぎわいを取り戻そうと、往事の生活ぶりを伝える資料館「チャッキラコ・三崎昭和館」が2010年に開館。チャッキラコは三崎に伝わる伝統芸能で、ユネスコ無形文化遺産にも登録された。サポーターみうらは、同館の運営に携わる傍ら、地域の文化や歴史を独自に資料収集して分かりやすく展示し、市内外に向け発信している。

日本ナポリタン学会

賞 第4回優秀賞

横浜市都筑区中川 1-17-22 ガーデンプラザ宮台 402



横浜伝統のスバゲティナポリタンで地域活性化

日本独自の味「スバゲティナポリタン」。戦後、全国に広まっていく発信地となったのが横浜とされ、SNSを通じて知り合った市民有志が横浜開港150周年に合わせて結成した。各地の祭りでナポリタンを提供するほか、ソースの味やパッケージデザインなどで新商品開発に協力している。会員は約30人。麵工場の見学に行くなど研究を重ねている。横浜周辺のおいしいナポリタン、約30店を「認定店」として紹介している。

小田原柑橘倶楽部

賞 第7回優秀賞

株式会社

神奈川県小田原市城内 8-10



かんきつ類栽培の農家を応援し、農商工連携で活性化

小田原市片浦地区の柑橘農家を応援する活動をしている。「人・もの・金を地域に循環させる」を合言葉に、地元の偉人、二宮尊徳が提唱した「報徳思想」を運営理念に据える。企業や行政など約20社・団体の協力を得ながら、農商工連携で地域活性化を实践、耕作放棄地でのレモン栽培にも取り組む。特産物を生かした片浦レモンサイダー、ジェラート、はちみつなどを開発・販売。地元和菓子店とつづった「片浦レモンの生ようかん」は2020年に神奈川県指定銘菓になった。

高齢化社会をよくする虹の仲間

賞 第5回ブロック賞（関東・甲信越）

横浜市青葉区大場町 930-66



新興住宅地の高齢化に向け住民が支え合いネット

地域・血縁の薄い横浜市の振興住宅地で支え合う仲間を作ろうと、1983年から住民ネットワークづくりを進めてきた。会員約100名。毎月、虹のたよりを発行し、虹のセミナー、サークル活動、手作り工房等を通し「視野は社会に活動は足元から」を目指している。終活のための「老い支度覚書」「私のノート」を自費出版。緑の地球を次の世代に残したいと、北海道大野町（当時、現在北斗市）に2000年から8回植樹や見守りのため毎回約20名で出かけ「横浜市虹の仲間の森」と名付られている。現在「お元気ですかコール」を実施中。

100段階プロジェクト

(受賞当時：美しが丘「100段階」プロジェクト)

賞 第10回優秀賞

横浜市青葉区美しが丘 1-23-8 美しが丘中部自治会内



殺風景な階段カラフルに。遊歩道ネットワーク化

50年前に造られた殺風景な「100段階」を多世代の住民が参加してカラフルに塗り替え、愛着の持てるランドマークによりがえらせた。まちのとおきおきの場所に「たまブラ遺産」タイルを設置し、同じ標高の階段のプレートとひも付けることで丘のまちの高低差を実感。地区内の遊歩道ネットワーク活性化の一環として住民参加の「まち歩き」にも取り組む。マップの作成配布、大学との環境調査、ランニングコースの紹介などを通じ、持続可能な郊外住宅地を目指す。

ふらっとステーション・ドリーム

賞 第8回ブロック賞（関東・甲信越） NPO法人

横浜市戸塚区深谷町 1411-5



郊外団地の空き店舗を借り住民がカフェ運営

都市郊外団地「ドリームハイツ」で、空き店舗を借りて住民が主体的にコミュニティカフェを運営している。主婦スタッフが調理室で手作りする日替わりランチが人気で、独り暮らしの高齢者らの健康管理を支えている。学び、作品発表や、3カ月に1度配信する「ふらっと通信」など地域情報の収集・発信機能も果たしている。住民らがサービスの担い手にも受け手にもなる交流拠点として、高齢化が加速する地域の課題を共有し、解決に取り組む。

返子フェアトレードタウンの会

賞 第11回優秀賞

神奈川県三浦郡葉山町下山口 520-51



途上国との公正な取引普及のための消費者啓発活動

買い物という身近な消費行動を見直す事は、途上国との取引が公平でないために生じた貧困や格差をなくす事につながる。その思いがフェアトレード（FT）普及活動の原動力だ。FT食材を使った商品を開発し、地域マルシェへ出店する他、フォーラムや展示会、貧困地域の女性の手仕事を紹介するファッションショーなどのイベントも実施する。目指すのは「世界とつながり平和に貢献するまち」。地域をあげフェアなまちづくりに挑戦する。

鴨居駅周辺まちづくり研究会

賞 第9回優秀賞

横浜市緑区鴨居 2-19-3



駅の清掃やコンサート開催で交流の場づくり

1962年に請願駅として開設されたJR横浜線の鴨居駅周辺に住む78人が会員。毎週日曜日の駅の清掃や、自由通路を使ったミニコンサートの開催を主体に、行政や自治会など地元の45団体と協働し、年100回もの活動を続ける。女性が多くなりがちな地域活動団体で、会員の8割が男性で20年を迎える団体はかなり珍しい。息の長い活動に表彰状・感謝状の数も2桁になった。後継者育成も着実に続けている。

新潟

- ネットワーク・フェニックス
- 山古志アルパカ村
- トキどき応援団
- かみえちご山里ファン倶楽部
- 地域おこし
- 沼垂テラス商店街（テラスオフィス）
- 都岐沙羅パートナーズセンター
- 「燕三条 工場の祭典」実行委員会
- 越前浜自治会
- ソーシャルファームさんじょう
- つばめいと
- 阿賀まちづくり
- ミライズ



ネットワーク・フェニックス

(受賞当時：復興支援ネットワーク・フェニックス)

賞 第1回優秀賞

NPO法人

新潟県長岡市大手通 1-5-9



フェニックス花火で中越地震からの復興を推進

2004年、長岡市などを襲った新潟県中越地震からの復興を祈願し、毎年8月に開かれる長岡まつり大花火大会のプログラムの一環として、フェニックス花火を打ち上げる。歌手平原綾香さんの曲「Jupiter」に合わせて約3分間、ワイドスターメインなど華やかな光の演出が来場者を魅了する。活動は市民を中心に集められた協賛金などによって支えられている。震災の記憶がない子どもたちへの出前事業を実施。19年には花火の打ち上げ開始15年を記念してシンポジウムを開催した。

こまちぶらす

賞 第12回準大賞

認定NPO法人

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 145-6 奈良ビル 2階



支え合い、子育てもっと豊かに、カフェやおむつ動販売機

「子育てがまちの力で豊かになる社会へ」を合言葉に、地域のなかで「居場所」となるカフェを運営し、子育てから介護まで悩みを抱える人たちへ対話の場を提供している。「ウェルカムベビープロジェクト」では住民や地元商店と連携して年間900個の出産祝いを贈るなど地域とのつながりを創出し、まちぐるみで子育てを支援。企業と協働し「おむつの自動販売機」の設置や埋もれている悩み事のデータベース化と対話の場開催など活動は多岐にわたる。

神奈川大学体育会サッカー部・竹山団地プロジェクト

賞 第13回ブロック賞（関東・甲信越）

横浜市神奈川区六角橋 3-27-1



団地を学生寮に、防災訓練や高齢者のスマホ教室

神奈川大学サッカー部は、竣工から約50年が経ち、住民の4割強が65歳以上と高齢化が進む竹山団地（横浜市緑区）の一部を学生寮として活用し、竹山団地の自治会や神奈川県住宅供給公社と連携して、周辺地域の活性化や地域コミュニティの課題解決に繋がるSDGs活動「竹山団地プロジェクト」を展開しています。団地の清掃、防災訓練、花火大会等の手伝い、高齢者へのスマホ教室などを行い、活発な交流を図っています。

かみえちご山里ファン倶楽部

賞 第4回特別賞
新潟県上越市増沢 962-1

NPO法人



住民と県外出身者が協力、地域づくり戦略を練る

上越市で、山あいの集落の伝統と暮らしを守ろうと奮闘を続けている。水車づくりなど地域に残る技術をリストアップし映像などで記録。途絶えがちになった行事の復活も進めてきた。中心は県内外からやってきたスタッフ。高齢者の多い住民と協力して地域の元気を高める。廃校を拠点に環境教育の学校も運営。稲作を学ぶ「棚田学校、や古民家を改装したレストランも開き、活動は広がる。交流人口は年間約1万人に及んでいる。

山古志アルパカ村

賞 第2回優秀賞
新潟県長岡市山古志竹沢乙 169

株式会社



アンデス原産のアルパカを育て多角的ビジネスに

中越地震の後、米コロラド州から寄贈されたことをきっかけに、アンデス原産のアルパカの飼育が始まった。2011年に株式会社を設立し、血統書をつくりながら増やした約60頭を飼育。牧場での展示や、毛糸の供給、全国の動物園などへの販売、リースといった多角的なビジネスに成長させた。住民が運営する直売所では野菜なども販売している。小学校にアルパカを長期間貸し出し、子どもたちから「人なつっこい」と親しまれている。

地域おこし

(受賞当時：十日町市地域おこし実行委員会)

賞 第5回特別賞
新潟県十日町市中条庚 939-2 やまのまなびや

NPO法人



地震で危機迎えた集落を活性化、若い世代に継承

中越地震で被災した十日町市の池谷集落で、ボランティアの支援を受けて活動に取り組む。コメの販売や研修生の受け入れなどを進めており、家族で移住する人も現れた。農作業体験交流イベントなどで訪れる人は1000人を超える年もあり、後継者向け住宅やライスセンター（米の乾燥施設）も建設した。一時は13人にまで減った集落だが、農業の組織化で、高齢者から若い世代への農地の引き継ぎが徐々に進んでいる。

トキどき応援団

賞 第3回優秀賞
新潟県佐渡市新穂潟上 1101-1 トキ交流会館内

NPO法人



ビオトープでトキと共生、探鳥会や勉強会も開く

トキと共生できるビオトープを実現する活動に市民ら約130人が取り組む。トキや佐渡島に関するテーマで勉強会やバードウォッチングを開いている。餌場となるビオトープづくりは企業や大学と連携して取り組んでいる。次世代への普及啓発活動として島内外の子どもたちを対象にした自然学校も運営。島では430羽を超える野生のトキが確認され、事務所近くでヒナが誕生するほどに。生息環境整備に取り組む団体でつくる「トキの水辺づくり協議会」のメンバーにもなっている。

「燕三条 工場の祭典」実行委員会

賞 第8回優秀賞

新潟県三条市須頃 1-17 公益財団法人燕三条地場産業振興センター企画推進課



©「燕三条 工場の祭典」実行委員会

中小企業が集まる工場を開放し、見学できるイベントを開催

新潟県の燕三条地域は中小企業が集まる日本有数のものづくりのまちだ。打刃物や洋食器などの企業が工場（こうば）を開放し、見学できるイベント「燕三条 工場の祭典」を開く。祭典は産業観光の目玉であるだけでなく、企業間の取引につながっている。地域課題の人材、後継者不足に対し、地元企業の就職に結びつく一定の効果も挙げている。参加企業は年々増え、対象地域も拡大、農業や、購入できる場にも焦点を当てるなど取り組みは広がっている。

越前浜自治会

賞 第9回優秀賞

新潟市西蒲区越前浜 5367



共有地や空き地に宅地を整備、移住者受け入れ

新潟市郊外の農村で、2009年から県内外の移住者を増やそうと息の長い自治会活動を続けている。大きなきっかけは地元小学校が統廃合の危機にあったこと。移住者受け入れのため、空き家を活用したり、子育て世代向けの宅地分譲を行ったりした。この10年で約75世帯が移住。子どもの数も20人ほど増え、学校は守られた。保育園児も増えている。取り組みが評価され、16年に市の「移住モデル地区」の第1号に指定された。

沼垂テラス商店街（テラスオフィス）

賞 第6回準大賞

株式会社

新潟市中央区沼垂東 3-5-22



古い建物を買い取り新たな商店街として再生

昭和の雰囲気を色濃く残す沼垂市場通りに活気を取り戻そうと地元住民が設立。老朽化が著しいシャッター店舗の長屋と土地を買い取り、2015年、レトロ調漂う「沼垂テラス商店街」として再生した。街の古さを生かして魅力的な交流の場に変える考え方に多くの若手起業家が共鳴。カフェ、陶芸・ガラス工房、総菜店、雑貨店、古本屋などの個性的な店が並び、ノスタルジックな雰囲気の中で買い物や体験が楽しめる。周辺地区にサテライト店も。16年には人気のご当地菓子「沼ネコ焼」が誕生した。

都岐沙羅パートナーズセンター

賞 第7回大賞

NPO法人

新潟県村上市猿沢 1238



住民、企業、資源を結びつけ地域づくり

豊かな自然や伝統資源に恵まれる新潟県の村上・岩船地域で、住民、企業、行政をつなぎ、得意分野を組み合わせたまちづくりを進める。地域から募った事業を公開審査して資金支援をする試みなどを通じ、縄づくりや、まゆ玉の工芸品をビジネス化するなど地元の資源を生かしたユニークなビジネスが生まれた。若者がアイデアを持ち寄る場となるカフェづくりも。少子高齢化が進む地域でまちづくり協議会などを支援、交通の確保など課題の解決を目指す。

阿賀まちづくり

賞 第12回優秀賞

株式会社

新潟県東蒲原郡阿賀町津川 496-1



厄介者のカメムシやヒルを資源に町のファン増やす

高齢化と人口減少が深刻な新潟県阿賀町で、ヤマビルやカメムシ、外来種ザリガニなど「厄介者」「嫌われ者」と見られてきた山の生き物をテーマとしたユニークなイベントを開き、町外から人を呼び込んでいる。空き家や古民家の利活用、移築のプロジェクトも手掛け、自然豊かで歴史ある地方の魅力、価値を再発見してビジネスにつなげようとする。同町のファンクラブ会員が1000人を超えるなど成果も出てきている。

ソーシャルファームさんじょう

賞 第10回優秀賞

NPO法人

新潟県三条市荒沢 1198-3



「半農半バスケット」で子ども指導、プロ競技も

三条市の緑濃い下田地域で、農業を営みバスケットもプレーする「半農半バスケ」に各地の若者が集い、3人制プロリーグにチームを送る。農業・スポーツ・交流を柱とした「人づくり」の郷づくりを進め、あらゆるスポーツの選手がここで子どもたちを指導、セカンドキャリアを送る構想を描く。目標はスポーツ合宿の聖地。小中学校での地域活性化や新しい球技の授業、コロナ禍で自炊が増えた人向けのレシピ紹介、ペットと楽しむドッグラン開設など前向きに取り組む。

ミライズ

賞 第13回歩いて楽しいまちづくり賞

合同会社

新潟県新発田市月岡温泉 453 (白玉の湯・泉慶内)



空き店舗増えた温泉街に日本酒やスイーツの専門店

新潟県新発田市月岡温泉の旅館・ホテル経営者でつくる合同会社ミライズは、地元温泉街の空き店舗や空き地を活用し、日本酒やスイーツなどの専門店に再生させる活動をしている。2014年から毎年一つずつ店を増やし、22年で計9店になった。店はおしゃれな雰囲気、品ぞろえなどを工夫し、若者や女性からも人気。メインストリートに賑わいを生み、新たにクラフトビール醸造所が温泉街に進出するなど地域の発展につなげている。

つばめいと

賞 第11回準大賞

公益社団法人

新潟県燕市宮町 5-8



金属加工産地で中小企業と全国の大学生つなぎ交流

国内有数の金属加工産地である新潟県燕市で、「インターンシップ」を通じて地元の中小企業と全国の大学生をつなぐコーディネーターとして活動する。独自のプログラムや、駅近の商店街に遠方の学生がホテル代などを気にせずに宿泊でき、交流の場にもなる施設を設けている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う春の緊急事態宣言発令後、古里を離れ、帰省を自粛する首都圏などの学生を地元産品で応援する取り組みをいち早く始めた。

富士山河口湖音楽祭実行委員会

賞 第2回特別賞

山梨県富士河口湖町船津 5577



野外ホールで音楽祭、一流の演奏、子どもも参加

旧河口湖町が建設した3000人収容の野外音楽ホールを活用しようと2002年から始まった。世界的指揮者、佐渡裕さんが協力、一流アーティストが出演し、ボランティアの住民が運営に携わっている。ホール以外にも美術館や電車内、富士山五合目等でも演奏会を開き、期間中の観客は2万人を超えることも。中学校の吹奏楽部員によるバンド演奏など「地域発」プログラムがそろっているのが特色だ。指揮を学ぶ教室、小学生の音楽授業、地元のショッピングセンターからホールまでのパレード演奏会など、街全体が音楽であふれる。

山梨

- 日本上流文化圏研究所
- 富士山河口湖音楽祭実行委員会
- 山梨ガバメント協会
- 身延町商工会
- かつめま朝市会
- ひばりが丘高校うどん部
- ワインツーリズム
- えがおつなげて
- グレイス・ロード
- 小さな村総合研究所
- 河原部社
- EDGE



山梨ガバメント協会

賞 第3回優秀賞

山梨市上神内川 1259-2

NPO法人



都市住民を招いて山梨アピール、2地域居住へ

秩父多摩甲斐国立公園もある山梨県で2地域居住による田舎暮らしやU、Iターンの促進に取り組む。メンバーは観光ブドウ園経営者や果樹の専業農家、学生ら約30人。都会の人たちが参加する「田舎暮らしちよこつと体験ツアー」では農作業の手伝いのほか、地元の人や移住者から話を聞く場も設けている。農業に関わる女性のコンテストなども開催。シェアオフィスの運営も行っている。最近ではキャンプをテーマにした漫画「ゆるキャン△」のブームに合わせた企画、イベントにも力を入れる。

日本上流文化圏研究所

賞 第1回特別賞

山梨県早川町葉袋 430

NPO法人



南アルプスの小さな町を住民、移住者が活性化

小さな町で、明日を探る試みが続く。町役場の一部署として始まり、任意団体を経て、2006年にNPO法人となった。住民と協力し、早川町への暮らしはじめから、集落の維持、さらに山の暮らしの担い手育成まで、包括的にサポートすべく多彩な取り組みが広がる。地域や文化を学ぶ講座やワークショップなども開催している。

ひばりが丘高校うどん部

賞 第7回ブロック賞（関東・甲信越）

山梨県富士吉田市上吉田東 4-3-1



「吉田のうどん」の食文化情報を発信

機織りを担う女性に代わり、力の強い男性が打ったため硬い麺になったとされる山梨県富士吉田市の「吉田のうどん」。市内に50店以上ある食文化をフリーペーパーやホームページを通じて発信。県内外のイベントに出店し、自分たちが商品化した麺を販売、振る舞うなどしている。地域の店舗を借りてうどんを提供することも。人材を育むため、うどん打ち体験講座も開く。そんな「うどん部の野望」は知名度で讃岐うどんを追い抜くこと。月額制のサブスクリプションサービスや、子ども食堂運営にも取り組んでいる。

身延町商工会

賞 第5回優秀賞

山梨県身延町梅平 2483-36



名所ぞろいの地の食材使い「身延どんぶり街道」

日蓮宗総本山の身延山久遠寺や下部温泉、世界文化遺産富士山の構成資産の本栖湖など、名所が多い地域で、特産品を使い「身延どんぶり街道」を展開する。当地は、キャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」の〴〵聖地巡礼、でも人気だ。湯葉、シイタケ、大豆など地元になんだ井、さらに定番の丼ものを和洋中の十数点が提供、食を通じた活性化を図る。

ワインツーリズム

賞 第8回特別賞

一般社団法人

甲府市丸の内 1-16-13 ヤマサビル 1F



地場産産を地域体験コンテンツに「ワインツーリズム®」

紅葉したブドウ畑が広がる風景に点在するワイナリーを巡り、育んだ風土に触れながら食と文化を丸ごと味わう「ワインツーリズム」。勝沼をはじめワイナリーのある地域を回るバスを走らせ、参加者が作り手との交流を楽しむイベントの定着は、地元では当たり前だと思っていた環境を貴重な地域資源として見直すことにつながり、ワイナリー側の意識も変え、産地全体でもてなす機運を醸成した。活動範囲は山形、岩手にも拡大。コロナ禍ではネット動画サイトも使い、ツーリズムの魅力を伝えた。

かつぬま朝市会

賞 第6回優秀賞

山梨県甲州市塩山上於曾 1040



毎月の朝市を19年余り続け地域に活気呼ぶ

毎月最初の日曜日、山梨県甲州市塩山の公園は、お祭りのようににぎわいを見せる。「かつぬま朝市」は10年以上前、地元の男性らが3店舗だけの小さな市を開いたのが始まりだ。市町村合併や人口減少、高齢化が進む中、「顔が見える」地域の関係がなくなる前に、人々が集う場所づくりを目指す。野菜や花、クッキーにおもちゃ、包丁研ぎに楽器演奏―。敷居が低く「何でもあり」の空間は、単なるモノのやりとりで終わらず、弾む会話が人と人をつなぎ、地域に元気を与えている。

小さな村総合研究所

賞 第11回ブロック賞（関東・甲信越） NPO法人
山梨県丹波山村 966



村民わずか534人!関東で一番小さな村からの小さな試み

NPO法人が掲げるのは「小さくても閉じないこと」。自家用車を活用した有償運送「たばやま村民タクシー」は村民ドライバー55人を誇る。高齢者はもちろん観光客の移動もサポート。2016年に「小さな村g7サミット」を開催。20年からJR蒲田駅ビルにもオフィスを構え、都内での情報発信や特産品販売を行う中、21年には大田区との共催で「小さな村g7+1サミット」を行った。都市と小さな村が交流しヒトやモノを分かち合い共に地域課題を解決する相互補完の模索を続ける。

えがおつなげて

賞 第9回選考委員長賞 NPO法人
山梨県北杜市白州町横手 2910-2



企業と連携し耕作放棄地を農地再生、人材も育成

2001年に設立、不動産や食品などの大企業と連携して農地を開墾、再生し、農作物を栽培して収穫する「企業ファーム」に取り組む。企業は社員研修や社内食堂の食材としての活用、顧客の体験ツアー、商品開発などの場として活用している。地元の蔵元で日本酒を醸造する取り組みも。都市と農村を結ぶ事業モデルを全国へ広げるため、交流をコーディネートできる人材を育成する研修会を各地で開いている。

河原部社

賞 第12回大賞 NPO法人
山梨県韮崎市若宮 1-2-50 韮崎市民交流センター NICORI 地下1F



中高生が自ら考え動く第三の居場所、郷土愛育む

親でも先生でもない第三の大人として、中高生に地域の魅力を伝え、自ら考え行動する「進化」を支援する。第三の居場所「ミアキス」を運営し、中高生が対話や交流を通じ事業を企画、運営することを応援。ウェブメディア「にらレバ」では若者に地元で活動する人や企業の情報を発信する。子ども育成プログラムの開発も進め、何かをしたい若者と資金や人材面で支える企業や団体をつなぐ仕組みづくりに取り組む。

グレイス・ロード

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
甲府市幸町 9-23 山梨回復支援センタービル 2階



ギャンブル依存回復を目指す人々が地域活動参加

ギャンブル依存回復支援施設の入所者が、回復プログラムに取り組む傍ら、自治会の祭りや運動会、清掃など地域活動に参加している。高齢化で人口減が進む地域にとって、入所者は活力をもたらす存在になっている。国内でのカジノ解禁の動きの中、回復支援施設の必要性が高まっているが、こうした取り組みは「山梨モデル」として注目を集めている。2020年7月からはネットゲーム依存症の支援を開始。また、地元の農家の方のご協力の下、農作業も行っています。

長野

- 妻籠を愛する会
- 大鹿歌舞伎保存会
- 匠の町しもすわ・あきないプロジェクト
- 庄内ほたと水辺の会
- いいだ人形劇フェスタ実行委員会
- 信州富士見高原ファーム
- WAKUWAKU やまのうち
- 小滝プラス
- 長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合
- Hakuba SDGs Lab (白馬 SDGs ラボ)
- ソマミチ
- つくえラボ



EDGE

賞 第13回優秀賞

株式会社

山梨県北都留郡小菅村 3155 の1



古民家を再生、特産食材使い村を「丸ごとホテル」に

山梨県小菅村と民間が共同で、人口700人弱の村を丸ごとホテルにするコンセプトで「分散型ホテル」を展開している。空き家だった古民家を再生し、これまでに二つのホテルがオープン。ホテルスタッフに村民を採用し、食事や食材には特産のワサビやヤマメなどが提供される。村民の受け入れ態勢も温かく、宿泊客は村民感覚で田舎暮らしが体験できる。過疎・高齢化や空き家対策に悩む小規模自治体の活性化モデルとなりそうだ。

妻籠を愛する会

賞 第1回優秀賞

公益財団法人

長野県南木曾町吾妻 2159-2



住民主体で中山道宿場町の歴史的景観を保全

旧中山道の宿場、妻籠宿がある地区の住民でつくる財団法人。景観保全と地域振興に取り組もうと約230戸の全世帯が加入、2017年に設立50年を祝った。地区内の財産を「売らない、貸さない、こわさない」の3原則を盛り込んだ住民憲章を制定。江戸時代を再現する行列のほか、冬には住民の勉強会を開催、有識者を呼び文化財や集落保存の在り方など幅広い分野を学ぶ。街道の植栽や花木の手入れ、説明板の設置にも取り組む。欧米の訪問客からは「タイムスリップしたようで、日本らしい日本を体験できる」と人気だ。

庄内ほたと水辺の会

賞 第4回優秀賞

長野県松本市水汲 25-6



豊かな自然の蛍水路の管理と市民の輪

都市開発に伴い消失するはずのヘイケボタルを生息環境丸ごと、新たな水路予定地に移設保全させた。「ホタルもすめる良い自然」を目指し、豊かな自然が残るよう配慮した水路管理を実施。その後「松本市の生物多様性保全活動のモデル地区」に認定され、学習の場としても高く評価される。良い自然を残すため、蛍水路管理だけでなく、蛍の学習会や観察会の他、近隣河川や野山でも生き物観察会などを実施し、市民、特に未来を見据えて子どもたちへの教育活動にも力を入れている。SDGsの普及とともに期待が高まっており、活動に一層熱が入っている。

大鹿歌舞伎保存会

賞 第2回優秀賞

長野県大鹿村大河原 391-2 大鹿村教育委員会



300年の伝統ある地芝居で地域振興、映画にも

300年の伝統と独特の演目があり、2017年に国の重要無形民俗文化財に指定された「大鹿歌舞伎」の保存、継承を担う。活動の柱は子どもたちへの伝承と春と秋の定期公演だ。地元の中学校では授業の一環として取り組んでいる。1回の公演で千人以上が訪れる。俳優・原田芳雄さんの遺作映画「大鹿村騒動記」に全面協力、エキストラとして850人の住民が出演した。全国に村の魅力が発信された。

いいだ人形劇フェスタ実行委員会

賞 第6回ブロック賞（関東・甲信越）

長野県飯田市高羽町 5-5-1 飯田文化会館内



国内最大規模の人形劇の祭典を企画・運営

長野県飯田市を主会場に開く国内最大規模の人形劇の祭典。1979年に前身の「人形劇カーニバル飯田」がスタートし、99年に現在の形になった。海外からも劇人が集い、準備段階から開催期間中まで市民が運営に携わる。幼児によるウインドー人形劇や、中高生らのボランティア参加もある。人形劇のワークショップ、バックステージ見学を通じた演者と観客の交流や、障害者や高齢者が安心して観劇できるよう取り組みを広げる。リニア中央新幹線開業も見据え、飯田発の文化の核として期待が大きい。

匠の町しもすわ・あきないプロジェクト

賞 第3回ブロック賞（関東・甲信越） NPO法人

長野県下諏訪町御田町下 3209-1



商店街空き店舗に職人の工房を誘致、起業も支援

約30店が並ぶ商店街で、ものづくりに携わる若者呼び込み、空き店舗で起業してもらおうと取り組む。約20年間に延べ30店以上が開業、空き店舗はなくなった。商店のおかみさんらが、おかずを差し入れたり、おせっかいを焼く細かな配慮が魅力。こだわり素材の高級スピーカーや木製自転車などユニークな店が集まる。第2世代、第3世代、さらにそれ以上の3・5世代が登場。ゲストハウス、コミュニティスペース開設など新しい動きをするグループがフラットにつながる。

小滝プラス

賞 第9回優秀賞
長野県栄村堺 6114-1

合同会社



特産米をボトルに詰めブランド化。被災集落を再建へ

2011年、東日本大震災翌日に起きた長野県北部地震で、栄村は全半壊202棟の被害を受け、村の存続すら危ぶまれた。再生を目指し、千曲川沿いの小滝地区で集落の全戸が出資して立ち上げた合同会社だ。特産「小滝米」のブランド化を目指し、東京・銀座の高級子ども服店「ギンザのサエグサ」と連携、ワインボトル入りの米を販売する。古民家で地区外の人々と交流したり、SNSで情報発信も。最近は林を整備しながらヤマツツジを植栽するなど「誰もがいいな、と思える里山づくり」に取り組んでいる。

信州富士見高原ファーム

賞 第7回優秀賞
長野県富士見町境 7823-3



ニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売

農作物を食べて農家に多額の被害をもたらす八ヶ岳連峰のニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売している。農林水産省の国産ジビエ認証を取得。料理講座や解体講習のほか、調理学校の生徒への講習も。小売店や都内の複数のフランス料理店にも卸し、ネット販売も手掛けている。ジビエを大切な資源と捉え、皮革も装飾品などに活用。肉の無駄をなくするため、山中で冷凍処理可能な車両の開発にも参画して普及を図る。ロッテリアなど外食チェーンへの供給も。こうした活動にひかれ、地元猟友会に入る若者も増えている。

長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合

賞 第10回優秀賞
長野県茅野市ちの 7017



機械式時計技術者に独自資格。高級腕時計も発売

長野県の伝統、精密機械産業の象徴とも言える時計産業では、クォーツ式の普及に伴い機械式を修理できる技術者が減少した。これに危機感を持ち2004年、独自資格「信州匠の時計修理士」を創設した。毎年、検定を行い、知識や技能の習得に役立つ講座も開設。全国の若手技術者が集まる場となっており、最近は移住外国人の姿も見られるようになった。オリジナルの高級腕時計を発売し、時計産業のPRやブランド力向上に寄与している。コロナ禍で講座や検定試験は3年間休止。受験生達も3年間待っていただいている。23年度は開講を目指す。

WAKUWAKU やまのうち

賞 第8回優秀賞
長野県山ノ内町平穏 2997-4

株式会社



温泉の空き店舗を再生しレストランやカフェ運営

信州・湯田中温泉の空き店舗を再生し、ビアバー・レストラン、カフェ、ホステルを運営するまちづくり会社。地方銀行である八十二銀行がリードし、地元住民を主体に設立。関連の不動産会社がファンドの投融資を受けて建物の所有・賃借、改修に取り組む。施設はほかの企業にもサブリース（転賃）するビジネスモデルを確立。既存の観光資源を生かしつつ、外国人を含む誘客を見据え、温泉街に欠けていた魅力を創出。若者を積極的に取り込み、地域の担い手を育てている。

つくえラボ

賞 第13回優秀賞

合同会社

長野県諏訪郡富士見町落合 6282-1



高齢者が移住者に農業技術伝授、アートプロジェクトも

合同会社つくえラボ（長野県富士見町）は高齢者や障害者など誰もが楽しむことができ、元気で過ごせる地域をつくりたいと居場所づくりに取り組む。特に高齢者は運転免許の返納や新型コロナ対策から外出する手段や目的を失うことも多い。そこで移住者らに農業の技術を教える体験会を開いたり、町内の企業や小学生らも参加するアートプロジェクトを主催したり。誰もが活躍できる場を確保することで、中山間地域の活力を培っている。

Hakuba SDGs Lab (白馬SDGsラボ)

賞 第11回優秀賞

長野県白馬村神城 4525-1



スキー観光地の高校生がSDGs活動、村ぐるみで展開

全国有数のスキー観光地、北安曇郡白馬村で2019年に設立。北アルプス山麓の豊かな自然環境を将来に引き継ぎ、持続可能な観光地として発展を続けていくために、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）に着目。メンバーの白馬高校生の活動を機に村は気候非常事態宣言を発令。村内のリフト運行業者などが相次いでSDGsへの取り組みを発表するなど、白馬村内では環境問題やSDGsに対する意識が高まっている。

ソマミチ

賞 第12回優秀賞

一般社団法人

長野県松本市岡田下岡田 774-1 柳沢林業事務所内



森と共生、恵み生かし豊かな地域経済、人の輪を

3つのビジョンを実現するために、「木を使う社会の仕組みをつくる」。これが、ソマミチメンバーの合言葉です。

- 経済のリ・デザイン 地域に顔の見える関係をつくり、地域経済の発展と自立をカタチにします
- 森林シェアリング（シェアフォレスト構想）森の恵みを様々な享受できる共同参画コミュニティの輪と場を創ります
- 自然のライフスタイル 自然（じねん）の思想で自然（しぜん）に寄り添う豊かなライフスタイルを実現します

スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

賞 第2回優秀賞

富山県南砺市苗島 4832-1



地方から世界に発信する大規模音楽イベント開催

毎年8月、南砺市で開かれる日本最大規模のワールド・ミュージック・フェスティバル。3日間で1万人が来場する。坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」の英語タイトルにちなみ、新たな文化を地域で創造し世界に発信しようとの思いを込めた。ボランティアスタッフが企画、運営を担当。アーティストたちはレジデンスや長期型ワークショップを通じて子供たちや市民への指導にも当たる。2022年は3年ぶりに海外アーティストを招聘し、コンサートやワークショップ、パレードなどを行った。東京、大阪、愛知、沖縄でも関連イベントを開催している。

富山

- 瑞龍寺ライトアップ実行委員会
- スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会
- 福岡町つくりもんまつり実行委員会
- 福野夜高祭連絡協議会
- でんき宇奈月
- 魚津祭組 よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり
- こば
- TOGA天空トレイル大会実行委員会
- ふるさと体験 in みやざき実行委員会
- 金屋町元気プロジェクト
- テイクアウトマルシェ TOYAMA 実行委員会
- 小菅沼・ヤギの杜
- 善商



福岡町つくりもんまつり実行委員会

賞 第3回優秀賞

富山県高岡市福岡町下藪 355-2



野菜でつくった人形を飾る伝統の祭りを守る

毎年9月の2日間、秋の収穫を祝い、五穀豊穣に感謝する「福岡町つくりもんまつり」は300年余りの歴史を持つ。収穫したカボチャやウリなどの野菜や果物を使って「つくりもん」と呼ばれる人形を作り、各所に飾る。動物や人物、風景などだけでなく、その時代の出来事を反映した飾りがお目見えし、毎年10万人以上が訪れる。実行委員会は市や観光協会、地域の自治会などで組織され、つくりもんを審査するコンクールが毎年、開催されている。

瑞龍寺ライトアップ実行委員会

賞 第1回優秀賞

富山県高岡市赤祖父 598 協和総商内



国宝の寺院をライトアップ、観光イベントを開催

4月末に国宝瑞龍寺をライトアップし、地元産品を売り出す門前市を開く。3日間で1万5000人が訪れる。市内で5月1日に開かれ、多くの人でにぎわう高岡御車山祭との相乗効果も狙っている。地元の青年会議所と企業が企画したのが始まり。LED照明を用い、音楽に合わせて壁に動画を映し出すプロジェクションマッピングが人気で規模を拡大。写真展や絵画展も実施している。夏には別の団体によるライトアップもあり、観光客だけでなく、住民が地域の歴史や文化を再認識するきっかけになっている。

魚津祭組 よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり

(受賞当時：よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり実行委員会)

賞 第6回優秀賞

富山県魚津市釈迦堂 1-12-18 魚津商工会議所内



ダンスやグルメの祭りを開き活性化を目指す

魚津商工会議所青年部、新川青年会議所など魚津市内の青年有志でつくる団体で、毎年5月に「よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり」を開催している。魚津駅前通りを会場に、地元伝統の踊りを現代風にアレンジしたダンスのコンテストを繰り広げる。活力がみなぎる新しいイベントを生み出し、地域活性化につなげようと2013年にスタートさせた。大勢の観客が訪れ、認知度は高まっている。

福野夜高祭連絡協議会

賞 第4回優秀賞

富山県南砺市二日町 1545-13 福野中部交流センター内



360年続く祭りを守り、被災地や海外でも活動

毎年春、南砺市福野でまちの繁栄と安寧を祈って開催される神事、福野夜高祭を守る。1652年に大火で市街が焼失し、伊勢神宮の御分霊を守り神にお迎えした際、多くの手持ち行燈や松明で出迎えたことが由来とされる。優雅な夜高行燈の練り回しは360年にわたって傳承され、県の無形民俗文化財になった。2011年にはフランスに招かれ披露、東日本大震災後は福島県南相馬市で支援活動をした。日本ユネスコ協会の「プロジェクト未来遺産」に選ばれている。

こば

賞 第7回優秀賞

富山市小羽 279

NPO 法人



閉校した小学校の空き校舎を住民主体で維持管理

児童数減少を理由に閉校した旧富山市小羽小学校の空き校舎を維持管理する住民主体の団体。趣ある木造校舎で自然体験イベントやカフェ、カルチャー教室など多彩な企画を繰り広げている。ノウハウを東日本大震災で被災し、人口減少のため閉校した宮城県気仙沼市にある旧小学校舎の活用を目指す住民グループにも提供。健康麻雀などによる高齢者の予防介護、不登校生との居場所や音楽スペースづくりなどの新たな取り組みにも関わっている。

でんき宇奈月

(受賞当時：でんき宇奈月プロジェクト)

賞 第5回ブロック賞(東海・北陸) 一般社団法人

富山県黒部市宇奈月温泉 633-1



電気バス、小水力発電、バイオマスを観光に活用

北陸有数の温泉地、宇奈月温泉を、スイスの観光地ツェルマツトをモデルとして環境に配慮したリゾートにしようとして産学官が結成した。2013年から本格運行している10人乗り電気バス「EMU」は定期的に温泉街を周回運転する。ルート内は乗り降り自由で無料。小水力発電を行い電気バスの充電に利用。山林の間伐材、黒部川の流木を木質バイオマスとして熱利用するなど、エネルギーの地産地消も目指す。

金屋町元気プロジェクト

賞 第10回優秀賞

NPO法人

富山県高岡市金屋町 1-5 高岡市鑄物資料館



石畳、町家の地区への定住支援、移住体験施設も

石畳の通りに千本格子の町家が並ぶ高岡市金屋町。2012年に国重要伝統的建造物群保存地区に選定されたが、近年は人口が減っている中、定住希望者の情報を共有・支援するとともに、町の魅力や空き家情報をSNS等で発信している。また、金屋町は高岡鑄物発祥の地であることから22年福岡県行橋市で行われた国際公募彫刻展の大賞を受賞したウクライナ彫刻作家コチュマル氏が戦時下の母国を離れ金屋町を基点に制作を行った。

TOGA天空トレイル大会実行委員会

賞 第8回優秀賞

富山県南砺市利賀村 178-1 (株) 野原組内



廃止スキー場に代わる振興策に山野駆けるイベント

廃止されたスキー場に代わる過疎振興策として、山野を駆けるトレイルランを開いている。多くの住民が沿道で声援を送ったり、休憩場所で郷土料理を提供したりする地域ぐるみのもてなしが評判を呼んでいる。2017年に大規模な地滑りがあり、開催が危ぶまれたもののコースの安全性を高めるなどの工夫をして実施、過去最高の出場者を呼び込み、住民の励みとなった。以来、毎回850人以上が出走する国内有数の大会に育っている。

テイクアウトマルシェTOYAMA 実行委員会

賞 第11回優秀賞

富山市総曲輪 2-8-6 8番館ビル 1F (FUNKY's 内)



コロナ禍にドライブスルー形式の屋外市を連日開催

コロナ禍で飲食店の多くが経営不振に見舞われる中、富山市内の経営者有志が結束。今年4月からほぼ毎日、屋外テントに弁当や惣菜を持ち寄り、ドライブスルー形式で販売する仕組みをつくった。「3密」を回避しつつプロの味を楽しめる試みは、自粛生活でふさがちな消費者にも歓迎された。活動は収益以上に、同業者の絆づくりという成果をもたらした。同様の取り組みは富山県内をはじめ、全国各地に広がった。

ふるさと体験 in みやざき実行委員会

賞 第9回優秀賞

富山県朝日町宮崎 1234



小中学生の漁業などの体験旅行を柱に各地と交流

人口減少と高齢化が進む漁村で、ありのままの「暮らし」を県内外の子供たちや観光客が体験する交流体験を受け入れている。初めはボランティアとしての活動だったが、体験メニューの企画を増やしながらツアー商品化も行い、リピーター増につなげている。体験交流を6次産業として楽しみながら、住民自身が「地域の宝」を見直し、ファンづくりにつなげる好循環が生まれた。コロナ禍では富山県内のホテルと協力、釣りや魚をさばく体験を企画している。

石川

- かなざわ・まち博開催委員会
- JAPAN TENT 開催委員会
- 春蘭の里実行委員会
- 神子の里
- 大野こまちなみ研究所
- 湯涌ぼんぼり祭り実行委員会
- のとじま島おこし団
- 七尾市たかしな地区活性化協議会
- NPO みんなの畑の会
- 木場潟再生プロジェクト
- 当目



かなざわ・まち博開催委員会

(受賞当時：かなざわ・まち博実行委員会)

賞 第1回優秀賞

金沢市南町 2-1



各地区を博覧会場に見立て、文化・歴史イベント

毎年夏、金沢の各地区を博覧会場に見立て、魅力を紹介するかなざわ・まち博を開催する。会場を巡る「金沢散歩学」では歴史や伝統文化などを体感できる。非公開の名所旧跡や歴史的建造物などを見ることができ「限定公開」は、尾山神社の神門や成巽閣のお茶席などが対象。大学研究者のほか、老舗の店主らが講師になる「屋台大学」も人気だ。講座など事前申し込みが必要なものもある。子ども向けの体験講座「こどもまち博」の充実を図る。コロナ禍ではオンライン講座も開催、自宅からも参加できるよう工夫した。

小菅沼・ヤギの杜

賞 第12回優秀賞

富山県魚津市小菅沼 1122 コラボルーム



荒れた棚田をヤギ放牧で復元、稲作アートでにぎわい

過疎化が進む富山県東部の中山間地・魚津市小菅沼で、耕作放棄地の再生と地域活性化に取り組む。2008年、鳥獣害対策としてヤギを放牧したのをきっかけに、荒れた棚田を復元し、作物の作付け・収穫体験や食品加工、稲で田んぼに絵を描く「稲作アート」など多彩な活動を展開。学校や漁協など地元団体と連携し、都会地からのグリーンツーリズムなども受け入れることで、土地の魅力の再発見と交流人口の拡大につなげている。

善商

賞 第13回優秀賞

合同会社

富山県入善町入膳 5439-5



商工会の有志が設立し特産品開発、高校生も巻き込む

善商は町商工会青年部員の有志が2010年に地域活性化のために設立した。22年時点で40～50代の8人のメンバーが所属する。地域資源を生かした地元特産品の開発やイベントの企画やボランティア活動などを幅広く行っている。高齢者の利便性向上を目的に商業施設の開設も手掛けた。底辺の掘り起こしのため、次世代の人材育成のため高校生らも巻き込み、地元産業の魅力に触れてもらう事業も展開している。

神子の里

賞 第4回優秀賞

株式会社

石川県羽咋市神子原町は 190



お米のブランディングから、地域の拠点づくり事業へ

ローマ教皇に献上された「神子原米」も販売開始から17年。販売実績を重ね、年間600俵程がインターネットや年間予約、店頭販売で完売。19年から地元酒蔵と共同で酒米の契約栽培や自社ブランド純米酒「神子-Son of God-」や純米酢「神子酢（みこす）」も開発し、農産物の付加価値を高め『地域ブランド再開発』に取り掛かっている。担い手不足にあえぐ山間地域、耕作を維持し生活を豊かにする目的での「見守り・配達・配食」「観光商品開発」も並行課題とし、空き農家を活用したワークショップ「山村ステイ整備」も始まっている。

JAPAN TENT 開催委員会

賞 第2回優秀賞

金沢市香林坊 1-2-24 香林坊プラザ 6F



留学生を受け入れ、伝統文化に触れる機会を提供

毎年8月、石川県内の全市町を会場に留学生を招き「JAPAN TENT」を開催している。国内各地で留学生を送る外国人学生約300人が集い、一般家庭にホームステイしながら輪島塗や九谷焼、茶道、座禅など地域に根付く文化を体験する。2019年で32回となった。受け入れ留学生は世界168の国と地域から1万人を超えた。留学生によるトークフォーラムも開催され、一部の学生は「JAPAN TENT 大使」となり、交流を続けている。

大野こまちなみ研究所

賞 第5回優秀賞

金沢市大野町 1-53 直源醤油(株)



しょうゆ蔵や町屋を生かしたイベントを企画

北前船としょうゆ醸造で栄えた歴史ある港町ににぎわいを取り戻そうと、20～50代の写真家、工芸家、デザイナー、農家らが集まり、築100年の町家を拠点に活動している。しょうゆ蔵や町屋を生かした年2回のイベント「こまちなみなーと」では陶芸、ガラス工芸、木工などの体験ができる。まちぐるみで朝顔と絆を育てる「明後日朝顔プロジェクト」も実施。整備が進むレンタサイクルを利用したイベントづくりにも今後取り組む。地域資産の魅力再発見と担い手育成を目指す。

春蘭の里実行委員会

賞 第3回ブロック賞（東海・北陸）

石川県能登町宮地 16-9



山村生活を体験する農家民宿運営、内外客に人気

若者が減る現状を打破しようと、7人のメンバーでスタート。民宿事業を柱に据え、輪島塗のお膳を使うことや、料理に化学調味料を使わず地元の食材を生かすことなどを申し合わせた。ゆったりとくつろげる雰囲気が、内外から人を引きつける。廃校を改装した宿泊施設もオープン、宿泊客は海外からも訪れるようになり年間で1万人を超えた。行政の諸制度も活用、事業を軌道に乗せて若者が働けるようにし「月収40万円。若者が戻ってきて赤ん坊の泣き声が聞こえる地域」にすることが目標だ。

七尾市たかしな地区活性化協議会

賞 第10回優秀賞

石川県七尾市町屋町水部 55番地



習わしをまとめた「集落の教科書」で移住促進

人口減少に歯止めをかけようと2014年から空き家のデータベース化や移住者受け入れ、郷土料理の普及、廃校舎を利用したイベントなどを行ってきた。地元行事や風習をまとめて心のハードルを下げる「集落の教科書」も作製、移住者が増え始めている。コロナ禍ではたかしな地区独自の「緊急事態宣言」を発表、予防対策を呼びかけた。地区内の企業が提供したマスクも配布。中止となった祭りに代わり、ドライブインシアターを開催するなど自由な発想で地域を元気にしている。

湯涌ぼんぼり祭り実行委員会

賞 第7回優秀賞

金沢市湯涌町1



地元の住民や行政、企業がアニメの聖地でイベント

「金沢の奥座敷」湯涌温泉がモデルのアニメの一場面を再現しようと、2011年に祭りを開催、全国のコアなファンを引き寄せた。「アニメの聖地」イベントは住民や行政、企業が一体となった地域の祭礼へと発展。アニメ放映終了後も参加数は増え続け、歴史ある温泉街に新風を吹き込む。イベントを手伝った若者が、その後も温泉街活性化の助っ人になるなど人の輪も広がっている。今後は環境の変化に対応しつつ、シンカ（進化、深化、真価）を目指す。

NPO みんなの畑の会

賞 第11回優秀賞

金沢市じま台 1-10-7

NPO法人



住民が里山保全と市民農園、伐採竹でビニールハウスも

金沢市南部に位置する四十万地区の住民有志が「みんなの畑の会」を設立し、里山保全に取り組んでいる。休耕田を活用した市民農園で市内外から参加者呼び込んでいるほか、独自に考案した、伐採竹を使ったビニールハウスは、里山整備で大量発生する不要竹の有効活用方法として注目を集めている。会では豊かな自然環境を次世代に伝える取り組みに一段と力を入れていく考えだ。

のとじま島おこし団

(受賞当時：能登島観光協会青年部)

賞 第9回優秀賞

石川県七尾市能登島向田町 118-1-1 島宿せがわ内

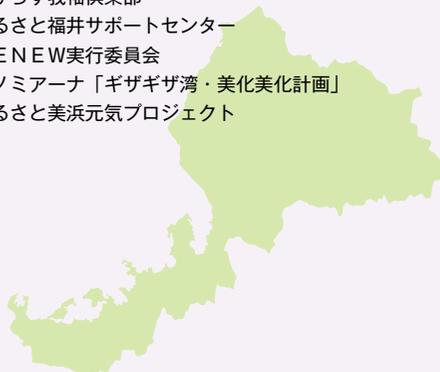


ユニークな体験旅行「島流し」で能登島PR

能登半島の東に浮かぶ能登島の青年らが結成。江戸時代の流刑地だった歴史を逆手に島の暮らしを都市の人々が体験する「島流しツアー」を四半期に1度実施したところ、大勢の人が訪れた。祭礼や農作業に加わり、新鮮な魚介を味わいながら能登の人情に触れるツアーはリピーターを生み、移住者呼び込むなど成果を挙げている。コロナ禍の2020年には「オンライン島流し」としてサザエ、ネギ、味噌などの食材を発送し、オンラインで料理をレクチャーして楽しんだり、伝統の雨乞い太鼓のたたき方を教えたりする企画を開催。

福井

- 三国湊魅力づくりPJ
- 水辺と生き物を守る農家と市民の会
- 若狭熊川宿まちづくり特別委員会
- 丸岡文化財団
- 武生国際音楽祭推進会議
- 学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」
- 小原ECOプロジェクト
- 鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会
- たがらす我袖倶楽部
- ふるさと福井サポートセンター
- RENEW実行委員会
- アノミアーナ「ギザギザ湾・美化美化計画」
- ふるさと美浜元気プロジェクト



木場潟再生プロジェクト

賞 第12回優秀賞

特定非営利活動法人

石川県小松市三谷町イ12



絶滅した水草復活で水質改善、五輪合宿チームも評価

木場潟の水草は1980年の調査で「絶滅」と判断された。水草が生い茂る潟を取り戻そうと、83年に有志10人で再生プロジェクトの前身となる「木場潟水草を守る会」を設立。絶滅したのと同じ種類の水草を潟周辺で採取、育成し、移植した。今では国や県の絶滅危惧種を含む25種が1ヘクタールに広がる。水質が改善した木場潟のカヌー競技場は東京五輪、パラリンピックの事前合宿地として各国代表チームから高い評価を受けた。

三国湊魅力づくりPJ

賞 第1回優秀賞

NPO法人

福井県坂井市三国町陣ヶ岡 26-10-27



北前船の里で食と環境を融合させた活動を展開

北前船の寄港地として繁栄した歴史、文化や東尋坊に代表される美しい海岸線、丘陵地での有機農業や海の恵みなど豊富な地域資源を生かす地域づくり活動の中で、特に森の環境保全、森の学習を通じて子どもたちを育成する分野を担っている。街中の活性化を担うため2012年に発足した一般社団法人「三國會所」と役割を分担しながら地域貢献に取り組む。

当目

賞 第13回優秀賞

特定非営利活動法人

石川県能登町当目 38字 148番地2



棚田米を商品化し伝統食復活、学生の合宿受け入れ

2012年11月、能登町当目の農家を中心となり、「当目夢を語る会」として発足した。高齢化と人口減少が進む地域で、棚田米「当目の米」を商品化したほか、地元に残る伝統保存食「なれずし」を復活させ、集落を持続させるための活動に力を入れている。石川県立大学、早稲田大学をはじめ、学生との交流も盛んで、山菜ツアーの開催など若者らの知恵を取り入れ、持続可能な取り組みを積極的に行っている。

丸岡文化財団

賞 第4回ブロック賞（東海・北陸） 公益財団法人
福井県坂井市丸岡町霞町 3-10-1



一筆啓上賞を中心に手紙文化をまちづくりに活用

国の重要文化財・丸岡城を中心に歴史に育まれた福井県丸岡町（現坂井市）で、質の高い文化の創造とまちおこしを目的に、町文化振興事業団として発足した。日本一短い手紙コンクール「一筆啓上賞」を手掛ける。手紙は40字以内で「春夏秋冬」「先生」「母へ」などをテーマに国内外の幅広い年齢層から応募がある。世界で初という手紙だけを収集した「手紙の館」も建設し、手紙を通してまちの魅力を発信する。譲渡された大阪・道頓堀の劇場「中座」の破風などを活用し、児童による歌舞伎の上演も手掛ける。

水辺と生き物を守る農家と市民の会

賞 第2回特別賞
福井県越前市都辺町 36-84 しらやまいこい館内



アベサンショウウオやコウノトリがすむ生態系を守る

豊かな里山に囲まれた越前市白山・坂口地区には、アベサンショウウオなど希少生物が生息している。その環境を守ろうと、農家や住民・行政や企業など約60人が参加し自然環境整備に加え、無農薬栽培や魚道の設置などを行っている。2020年以降は複数ヶ所でコウノトリが産卵、巣立ちを迎え、手応えを感じている。地区外の住民と田んぼファンクラブを結成し、無農薬の米作り体験を通して、農家と交流を深め、環境保全の必要性を知ってもらう機会も作っている。

武生国際音楽祭推進会議

賞 第5回優秀賞
福井県越前市高瀬 2-3-3 越前市文化センター内



ボランティアによる音楽祭を30年以上続ける

和紙、刃物、たんすなどの伝統工芸で知られる福井県越前市を舞台にボランティアの市民の手で毎年、音楽祭を開催している。2022年で33回となり、来場者は毎回6000人。1週間前後の期間中、主会場の同市文化センターだけでなく、学校や寺社、カフェなど至るところで演奏会が開かれ、まち全体が音楽に染まる。演奏家と作曲家が長期間滞在することで市民を交えての交流や刺激も多い。また同時開催される演奏の指導や作曲のワークショップは若手音楽家にとって貴重な機会となっている。

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

賞 第3回優秀賞
福井県若狭町熊川 30-4-2 宿場館



宿場町の景観を保全、イベントや空き家の有効活用も

1996年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「熊川宿」の景観保全をはじめとするまちづくりに取り組む地元住民の団体。江戸時代の面影を残す宿場の町並みを生かした「熊川いっぶく時代村」をはじめ、花いっぱい運動や七夕飾り、まちかど陶の灯り展、熊川宿のひな祭りなど多くのイベントとともに、町並み通信「鯖街道熊川宿」を定期発行している。「空き家の活用ガイド」「暮らしと出店のガイド」も作成、空き家の有効活用に取り組んできた結果、古民家を活用したカフェやショップ、忍者道場などがオープン、にぎわいが創出されている。

鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会

賞 第8回優秀賞

福井県鯖江市旭町 1-6-6Hana 道場内



全国の大学生が鯖江の活性化策を提案

まちから活気が失われつつあった鯖江市。東京暮らしを経験し、課題はまちに対する若者の無関心にあると気付いた竹部美樹さんが、全国の大学生が鯖江のまちを歩いて活性化のアイデアを競うコンテストを2008年から開催している。学生が本気でプランを作る様子に刺激を受け、地元の学生たちの意識は変化。行政、地域住民や高校生らを巻き込み、たくさんのプランを実現させている。オンラインも活用しながら、地元学生が主体的に運営している。

学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」(受賞当時：うるしの里活性化推進事業実行委員会)

賞 第6回ブロック賞 (東海・北陸)

福井県鯖江市河和田町 15-12-1 co-minka



学生が滞在しアート制作、住民と長い交流

2004年の福井豪雨で被害を受けた鯖江市河和田地区の復興支援のため翌年から京都の学生らを中心に始まった。毎年100人以上が古民家に長期滞在し、廃材を利用したアートを制作展示。08年からは伝統産業、農業、林業など地区の課題を住民と考え作品に反映している。参加学生が地区に移住したり、町歩きイベントに深く関わったりするなど地区のにぎわい創出、活性化に貢献。20周年に向けてOB・OG主催の企画も立案中だ。

たがらす我袖倶楽部

賞 第9回優秀賞

福井県小浜市田島 90-3



伝統のなれずし販売、棚田のイベントで魅力発信

若狭湾を望む小さな漁村。少子高齢化が進む集落に活気を取り戻そうと、住民有志が立ち上がった。海に面した美しい棚田にキャンドルを並べるイベントを展開するなど、手作りの多彩な企画を繰り広げている。また地域の伝統食材「サバのへしこなれずし」を伝えるとともに、まちづくりの活動費を捻出しようと、廃校校舎を活用した製造・販売事業に着手。全国発信とともに、自活した取り組みを実現している。

小原ECOプロジェクト

賞 第7回ブロック賞 (東海・北陸)

福井県勝山市長山町 2-2-21



集落維持を目指し、古民家修復やツアー企画を展開

福井県でも有数の豪雪地、勝山市北谷町。その中の集落の一つ、小原の人口はわずか1人。それでも都市部からの交流人口は、年間1300人に上る。集落維持を目指し、古民家の修復や豊かな自然を活用したエコツアーを企画し、にぎわいをつくり出している。修復された家屋を拠点に、建築を学ぶ学生や環境保全に取り組む人々、ボランティアの外国人らが集う。2020年には若手芸術家とコラボレーション、地元で展覧会を開いた。

アノミアーナ「ギザギザ湾・美化美化計画」

賞 第12回ブロック賞（東海・北陸）兼地球の未来賞
福井県小浜市水取 1-7-11



若狭湾の多国籍漂着プラ、おしゃれなアクセサリに

漂着したプラスチックなどの海ごみをアクセサリや食器、メガネフレームなどに「アップサイクル」し流通させようと取り組んでいる。「お金がかかる海ごみ」を「お金になる原料」に変えれば、海はきれいになっていくはず。地形的にも大量の海ごみが集まる若狭湾を「一大産地」ととらえ、「ごみ」を「原料」とすることで新たな価値を生み出し、環境重視の経済活動や住民らのごみ回収活動の継続性につなげたいとしている。

ふるさと福井サポートセンター

賞 第10回大賞 NPO法人
福井県美浜町木野 21-4-17



空き家活用に支援システム、希望者をマッチング

空き家対策に民間の視点でアプローチ。社会福祉協議会や学校などを巻き込んだ再生・マッチング戦略、活用の前提となる実態調査などの支援システムを開発した。タブレット端末で空き家の状況をデータベース化できる「ふるさぼマップ」を自治体向けにリリース。住む人が消えてからの「川下」対策を前倒しし、将来の空き家の発生を見越した所有者の早期決断による「川上」対策を目指す。行政職員や、まちづくり団体に向けて、移住サポータースキルアップ講座をオンライン動画にしてサービスを提供している。

ふるさと美浜元気プロジェクト

賞 第13回ブロック賞（東海・北陸）
福井県美浜町河原市 8-2 美浜中央小学校内



地元の良さや課題解決のアイデアを小学生が発信

福井県美浜町の全3小学校の児童が合同で町を調査し、課題や課題解決のアイデアを新聞にしたりフォーラムを開いたりして町民に発信している。町の多彩な魅力に直に触れることで、古里への愛着も育んでいる。タブレットで3校を結んで効率的に学習し、情報共有も図っている。中学に進学後、小学生当時の自分たちの提言内容を検証する取り組みも生まれており、小さな町を長所とし、小学校連携、小中連携での古里探究活動を展開している。

RENEW実行委員会

賞 第11回ブロック賞（東海・北陸）
福井県鯖江市河和田町 19-8



伝統工芸、地場産業が集積する地域で工房開放イベント

伝統工芸や地場産業が集積する福井県丹南地域で、工房を開放して作り手と使い手が出会う民間主導の産業観光イベント「RENEW」を毎年開催。鯖江市河和田地区で2015年に始まり、現在は漆器、眼鏡、和紙、打刃物、筆筒、焼物、繊維と3市町にまたがる7産地を結び、90社以上が参加する催しに成長した。産業観光にとどまらず、移住や新商品開発、産地間連携などを誘発し、持続可能な産地づくりに挑戦し続けている。

ひとひとの会

賞 第2回優秀賞

岐阜市日ノ出町 1-14-1



イベント、ゆるキャラ、金の御朱印で繁華街再生

「柳ヶ瀬ブルース」で歌われた繁華街の再生に取り組む。「人で人を呼ぶ」がモットーで商店主らがそれぞれのファンを増やす必要があると考える。若者が生み出したゆるキャラ「やなな」は話題を集め、2013年の引退式では15万人が別れを惜しんだ。路上アーティストやご当地タレントが出演するイベントも開く。織田信長の岐阜入城450年を記念した「岐阜市信長公450プロジェクト」や、毎月最終金曜日に地元の寺社で「金の御朱印」を押してもらおう企画など、多彩な発想と行動力が売り物だ。

岐阜

- 飛騨小坂200滝
- ひとひとの会
- 恵那市地域自治区会長会議
- ジオスペースアドベンチャー実行委員会
- 鶏ちゃん合衆国
- 国田家の芝桜を愛する会
- 美濃歌舞伎保存会
- いき粋墨俣創生プロジェクト
- かざまつ MIRAI 塾
- ORGAN
- 石徹白洋品店
- 加子母木匠塾実行委員会



恵那市地域自治区会長会議

(受賞当時：恵那市地域自治区地域協議会連絡会議)

賞 第3回優秀賞

岐阜県恵那市長島町正家 1-1-1 恵那市役所地域振興課



課題解決目指し、まちづくり活動の調整役を担う

13の地域自治区の会長が、人口減少対策や地域活性化に関する情報共有をする場。空き家対策や伝統文化の継承、地域のバトロール、人材育成、高齢者支援などテーマは多岐にわたる。祭りや棚田の保存、特産品の売り込みなど独自の取り組みによって成果を出しているところが多く、成功例として参考にする。市町村合併を契機に、行政に地域の声が届かなくなる恐れがあるとして始めた。毎年1回、市長が地域自治区に出向き、抱える課題について話し合いを行っている。

飛騨小坂200滝

賞 第1回優秀賞

NPO法人

岐阜県下呂市小坂町赤沼田 811-1



多数の滝を資源としてガイド、初級から上級まで

御嶽山麓にある飛騨小坂は多数の滝が点在する。そんな飛騨小坂の自然の豊かさ、素晴らしさを伝えるために滝めぐりやハイキング、シャワークライミング、氷瀑ツアーなど四季を通じてガイド活動をしている。お客様に安全に歩いてもらえるようコース整備やルートの修繕なども原則自分たちで行っている。また、エコツーリズムの観点から毎月2回指標に定めた動植物を観察・記録するモニタリングなども行う。これを目的に新規会員が増加するなど新しい動きも出てきた。

国田家の芝桜を愛する会

賞 第7回優秀賞

岐阜県郡上市明宝奥住 2813



地元住民で花を守り、一大観光地に発展

国田家の芝桜は、毎年4月下旬から5月にかけて、ピンクの花が一面に咲き誇り、大勢の観光客の心を和ませている。もともとは1人のおばあちゃん、国田かなゑさんが60年前に自宅裏に花を植えたのがきっかけだった。かなゑさんが亡くなった後も、地元住民で花を守るため「国田家の芝桜を愛する会」を結成し、毎年草刈りや雑草取りをして景観整備に努めている。遊歩道や駐車場の確保、整備も実施、受け入れ態勢を整え、一大観光地に発展させた。温暖化でピークが早くなっているが、多くの人に見てもらえるよう努力している。

ジオスペースアドベンチャー実行委員会

賞 第4回優秀賞

岐阜県飛騨市神岡町夕陽ヶ丘 6



スーパーカミオデンテがある坑道をイベント活用

神岡鉱山茂住坑の地下1000メートルで「GSA(ジオスペースアドベンチャー)」を開催、素粒子「ニュートリノ」観測で知られる東大のスーパーカミオカンデを見ることができ、研究者の説明も受けられる。毎年7月開催で25回を超え、サイエンスファンら800人にぎわう。採掘に使う大型重機も見学できる。住民もボランティアで手伝う。イベントにあわせ天文学や物理学のセミナーも開かれる。会場前の売店ではお土産に鉱石やグッズも売っている。

美濃歌舞伎保存会

賞 第8回優秀賞

岐阜県瑞浪市明世町戸狩 331 ミュージウム中仙道内



芝居小屋を移築・復元、歌舞伎を定期公演

美濃歌舞伎保存会は1972年に設立。県内2カ所の芝居小屋を移築・復元した「相生座」(瑞浪市日吉町)を中心に、地歌舞伎の定期公演を年2回開催。地歌舞伎衣装は約4000点所有し、保存管理を行いながら、県内外の他団体にも修理技術や保存方法を伝えている。後継者の育成を行う「子どものための美濃歌舞伎伝承教室」を2001年から開催。役者のしぐさや三味線、化粧法などを1年間通して伝え、役者から裏方までの人材育成に努めている。

鶏ちゃん合衆国

賞 第5回優秀賞

岐阜市本荘西 3-180 酒井設計事務所内



古くからの郷土料理を掘り起こし、普及図る

鶏ちゃんは岐阜県の南飛騨、奥美濃地方で古くから食べられてきた。みそやしょうゆなどのたれに漬けた鶏肉をキャベツと炒めるシンプルな料理で、地域や店、家庭によって味が異なる。扱う店やメーカーは「州」とされ、90以上。サポーターの「国民」は約1000人だ。鶏ちゃんを楽しみながら、岐阜をPR。食べ比べや鶏ちゃんの歴史を学習する100人規模の交流会を年数回、開催している。鶏ちゃんがテレビや雑誌で紹介される機会が増加、東京などで料理講習会も開催している。

ORGAN

賞 第11回優秀賞

NPO法人

岐阜市湊町 45



岐阜和傘の産業再生目指しブランド化、小売店開店

岐阜市を拠点に、清流長良川流域で観光とまちづくりに取り組んでいる。長良川は多くの流域文化を育んでおり、その一つ、岐阜和傘の産業再生を進める。岐阜和傘は多くの日本文化の現場に欠かせないが、日本の7割を生産する岐阜で、その存続が危ぶまれている。そのため、産地ブランドを高め、高付加価値化し利益率の高い産業に転換すること、小売店舗を開店し製造小売業（SPA）化を図ることで、市場を創り、後継者育成を目指す。

いき粋墨俣創生プロジェクト

賞 第9回優秀賞

岐阜県大垣市墨俣町墨俣 271



古い町並みに手づくり「つりびな」飾って活性化

宿場町の面影を残す大垣市墨俣町で、つりびな約200飾りを約25カ所に飾るイベント「つりびな小町めぐり」を開く。期間中は県内外から多くの人々が来場し、他団体の協力も得てさまざまな催しも開催。2008年に設立され、現在は40～80代の女性26人で活動。年間を通して、つりびな作りや町内の「おみやげ処」の運営などに取り組んでいる。コロナ禍でも状況に応じて活動しているが人との交流等をいかに行うか模索している。

石徹白洋品店

賞 第12回準大賞

株式会社

岐阜県郡上市白鳥町石徹白 65-18



伝統の野良着を現代の装いに、地域拠点から全国発信

石徹白洋品店は岐阜県郡上市石徹白を拠点とする小さな洋服店。地域に伝わる野良着の作り方をお年寄りから学び、現代風にアレンジし、発信している。同社は地域の歴史、自然環境に配慮した服作りを通して仕事、雇用、住民や全国各地とのネットワークを創出。岐阜県でも辺境といつてもいい石徹白に人を呼び込む。人口減、働き方や生き方。持続可能な地域づくりが直面する多くの課題に対し、石徹白洋品店は一つの答えを示している。

かさまつ MIRAI 塾

賞 第10回優秀賞

岐阜県笠松町下本町 87



40～80代が仕事の知識を基に最先端技術を提供

「笠松の未来に光を 子どもたちに夢を」を理念に掲げ町民有志が2015年に結成、拠点となる町歴史未来館の活動を支援している。40～80代の会員約40人が所属し、仕事などで培った知識や技術を基に、最先端の科学技術について学び合い、同館などでの講座や体験教室を通して町民に学びの機会を提供している。同館の企画展にも協力するほか、町によるまちづくりの取り組みにも積極的に関わっている。

静岡

- グラウンドワーク三島
- 夢未来くんま
- 焼津市山の手未来の会
- 静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ
- 静岡県立伊豆総合高校自然科学部
- 富士山御殿場かやの里企業組合
- 戸田塩の会
- 里山くらしLABO
- がんばらまいか佐久間
- machimori (マチモリ)
- ママバトン
- 丸子まちづくり協議会
- シズオカノーボーダース



加子母木匠塾実行委員会

賞 第13回優秀賞

岐阜県中津川市加子母 3519 の2



大学生が木造建築を実践的に学ぶ合宿は約30年に

山林資源に恵まれた中津川市加子母を舞台に大学生たちが木造建築を実践的に学ぶ「加子母木匠塾」は、約30年間続く域学連携の取り組みだ。複数の大学の学生が共同し、地域の工務店の指導を受けて、約2週間の夏合宿でバス停留所や倉庫などを制作し建築技術を習得している。若者が活動に主体的に関わり、人的ネットワークも広がっている。また、京都や秋田など各地で木匠塾が開かれ、全国的な広がりをみせている。

グラウンドワーク三島

賞 第1回大賞

NPO法人

静岡県三島市芝本町 6-2



水辺自然環境の再生を目指し、市民団体が団結

市内を流れる川をきれいにならそうと市民団体が合同で設立、行政との連絡・調整を進めるなどの役割を担い、活動を発展させた。参加は当初の8団体から約20団体に。川の自然を守るため周辺の土地を買い取るトラストにも成功した。清流を取り戻した川を巡るコース開設など経済効果も。まちづくりリーダーや起業家育成、遊休農地を利用した耕作支援や農産加工品の製造・販売にも取り組む。さらにネパールへのバイオトイレ設置や英国との交流など活動は国境を越えている。

静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ

賞 第4回優秀賞

NPO法人

静岡市葵区常磐町 1-8-6 常磐町アイビル 5F



静岡市の歴史、文化、自然をガイド、魅力伝える

徳川家康が晩年暮らした歴史と文化にあふれる地の観光ボランティア団体で約90名が在籍する。2018年に創立20周年を迎え、活動は「静岡市ボランティア等善行功労賞」を受賞した。19年度は駿府城公園、静岡浅間神社、久能山東照宮、駿府匠宿などの定点ガイドの他、一般ガイド、企画ガイド、学校ガイドなど年間計約6万4千人を案内した。「行ってみたい」「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるよう励んでいる。

夢未来くんま

賞 第2回ブロック賞（東海・北陸）

NPO法人

浜松市天竜区熊 1976-1



道の駅、弁当宅配など運営、500人集落に活気

人口500人強。全住民が参加し高齢化が進む地区に元気を与えようと取り組みが続く。水車小屋がシンボルの道の駅を拠点とし、地元食材を使った農産加工品が好評だ。そばやみそなど商品の種類は50を超えるまでになった。一人暮らしの高齢者に弁当を届けるサービスや、介護認定を受けていない元気なお年寄りと交流する「生きがいデイサロンどっこいしょ」、子ども向けの体験教室などにも力を入れる。地域づくりに関心を持つ大学生らとの交流も広がってきた。

静岡県立伊豆総合高校自然科学部

賞 第5回優秀賞

静岡県伊豆市牧之郷 892



伊豆半島ジオパークの研究、PRに取り組む

2010年の開校以来、「伊豆半島ジオパーク」づくりの先駆けとなる活動をしてきた。以前は地域の人を案内するジオガイドや、小学校に出向く活動などを行っていたが、地域のガイドが育ったことから、通常の部活動に立ち返った。ジオサイトのフィールドワークや、火山活動の実験、これまでにつくった「ジオかるた」「ジオすごろく」の手直しに取り組んでいる。

焼津市山の手未来の会

(受賞当時：山の手未来の会)

賞 第3回優秀賞

静岡県焼津市関方118山の手会館



「花と香りの郷づくり」で植栽、山里を活性化

海と港が有名な焼津で、内陸部の山の手地区で活性化の取り組みを続ける。「花と香りの郷づくり」を合言葉に、川沿いに2キロにわたって早咲きのサクラ200本やスイセンを植えた。サクラが満開となる2月下旬に桜祭りが開かれる。黄色い花が咲き、香りが良いロウバイを地区の家々に植え、花や香りを楽しむイベントも。地元の高草山の登山道に案内看板を設置し、散策用マップを作成した。戦国時代の城跡があることからのろしを再現するイベントも続けている。

里山くらしLABO

賞 第8回特別賞

静岡市



市と連携し、山間地の町内会サポート

静岡市の山間部に位置する奥藁科地域で、空き家を使った子育て世帯の誘致や、母親グループ「奥わらママ」の結成、多過ぎる町内会行事の削減、特産品事業の次世代への継承など、住民発の活動を支えてきた。現在は、山間地に限らず県内外の町内会サポートに変化しており、地域課題をデータで可視化し、住民と共有する機会を提供している。

富士山御殿場かやの里企業組合

賞 第6回優秀賞

静岡県御殿場市板妻 465



古民家に使うカヤの産地を育てて新商品も開発

富士山麓に広がる東富士演習場一体に植生するカヤ「富士がや」は、世界遺産の白川郷などに古くから活用されている。全国でカヤ場が消える中、貴重な地域資源として生かすとともに、担い手不足の解消につなげるために地元カヤ業者を中心に2012年に設立した。カヤを使った新商品の開発などを通じて富士がやの価値の発信を図るほか、収穫期以外の仕事創出に向けた取り組みも進め、新規雇用を実現。カヤ採取の技術は20年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の一つに登録。後継者の育成も期待されている。

がんばらまいか佐久間

賞 第9回優秀賞

NPO法人

浜松市天竜区佐久間町佐久間 429-1



タクシー運行やアワビ養殖に挑み山間地活性化

浜松市北部の過疎地「佐久間町」の住民の約7割が加入し、地域おこしや福祉、世代間交流など町づくり全般に関する事業で行政の隙間を埋めている。交通インフラが脆弱な中山間地域のため、格安のNPOタクシーを運行。ソバの地産地消、アワビ陸上養殖事業などを通じて「佐久間を訪れなければ、味わえない」特産品づくりを目指す。廃校舎で木材を利用したバイオマス発電を計画、周辺に足湯やビニールハウスをつくる構想も。

戸田塩の会

賞 第7回優秀賞

NPO法人

静岡県沼津市戸田 3705-4



漁村シニア世代の女性らが伝統的な塩づくり

駿河湾に面した旧静岡県戸田村（現沼津市）で1995年に設立。2001年に県からNPO法人の認定を受けた。漁村のシニア世代の女性を中心に、海水だけを使った伝統的製法で塩づくりを行う。約1キロ沖合の水深15～20メートルから取水した海水を平らな塩焚き釜で約15時間煮詰め、約1週間熟成する。発足から20年を超え、沼津市を代表する地域商品として認知されている。近年は塩あめや化粧水、麩菓子など関連商品の開発にも積極的に取り組む。

丸子まちづくり協議会

賞 第12回優秀賞

認定NPO法人

静岡県駿河区丸子3-12-52 2階



宿場町で各組織参加、お年寄り外出支援や防災

旧東海道の宿場町であり地域活動も盛んな静岡市丸子地区で、小学校区に存在する各種組織や企業が全参加し、住民主体で地域課題に取り組むまちづくり協議会。小学校のPTA役員から上がった人材活用を求める声を機に、持続可能な地域運営を模索し、縦割組織を横串でつなぎ動かす組織を法人化した。2012年に始めた高齢者の外出支援など、だれひとり取り残さない独自のまちづくりに取り組んでいる。

machimori (マチモリ)

賞 第10回選考委員長賞兼ブロック賞(東海・北陸)

静岡県熱海市銀座町6-6 サトウ椿ビル2F 株式会社



©Hamatsu Waki

空き店舗を再生しゲストハウスやシェアオフィス

空洞化が目立っていた中心市街地の銀座通り商店街で古いビル・空き店舗を再生、おしゃれなカフェや小さなホテル、名産の干物を自分で焼いて食べられるゲストハウスやシェアオフィスなどを運営している。若者や訪日外国人など新しい客層を呼び込む。市と協働してリノベーションや創業支援の講座も展開。移住・起業希望者との勉強会や、家主との仲立ちも手がける。熱海の街歩きイベントなどに取り組むNPO法人と役割を相互補完している。

シズオカノーボーダーズ

賞 第13回優秀賞

静岡県駿河区登呂5-15-8



障害者、健常者が一緒にダンスやパフォーマンス

「シズオカノーボーダーズ」は2019年に始動した、障がい者、健常者の混合メンバーで結成された約20名のパフォーマンスチーム。ダンス、コントを交えたコミカルでポップな作品を上演する。障がい者と健常者の境界線を設けずに演じるこのチームは、表面上にとどまらない「文化芸術のバリアフリー」を実現させている。舞台上で客席を盛り上げるだけでなく、相互理解や地域内でのコミュニティ作りにも大きく貢献している。

ママバトン

賞 第11回優秀賞

株式会社

静岡県掛川市家代の里3-11-13



子育てファミリー向け物々交換会を展開、育児情報共有

掛川市を拠点に子育てファミリー向けの物々交換会「ママバトン」を開催している。2013年に活動開始。子供服や玩具のリユース、子育て情報の共有、子育て経験ある母親・父親から新米ママ・パパへのエールなど多様な役割を担う催しに成長した。エリアも県西部全域に広がった。行政、企業、団体、大学と連携した事業も積極的に取り組み、地域を挙げて子育てする機運の醸成と、子育て世代のまちづくりへ参画を促進する。

矢勝川の彼岸花を守る会

(受賞当時：矢勝川の環境を守る会)

賞 第3回優秀賞

愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内



新美南吉「ごんぎつね」にちなみ童話の里づくり

半田市出身の童話作家、新美南吉の代表作「ごんぎつね」に登場する矢勝川沿いの景観美化に取り組む。地元有志らで「童話の里づくり」を合言葉に1995年に発足。雑草を刈り取り、作品の中にも描写されている彼岸花の球根を長年植え続け、秋には約300万本の花が咲き誇る。周辺では「ごんの秋まつり」が毎年開催され、彼岸花に加え、地元の物産品などを楽しみに、市内外から約13万人が訪れている。

とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会

賞 第4回優秀賞

愛知県豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内



中心市街地の活性化目指し1か月かけて映画祭

空洞化が進む中心市街地を活性化しようと、閉館した映画館を豊橋青年会議所が活用、2002年に映画祭を始めた。03年には有志による実行委員会での運営に切り替えた。現在はホールなどを会場に、毎年1~2月の1か月間の土日に10~20本を上映している。俳優のゲスト招待や、音楽ライブ、屋外上映会など関連イベントも開き来場者は6千人を超える。自治体の補助金を一切受けず、地元企業からの協賛金などで運営費を賄う。

愛知

- 萩原チンドンまつり実行委員会
- 矢勝川の彼岸花を守る会
- とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会
- 愛岐トンネル群保存再生委員会
- 岡崎まちゼミの会
- 亀崎まちおこしの会
- 花男子プロジェクト
- 志民連いちのみや
- 愛知県立安城農林高校
- まちスウィング
- デンソー
- 尾州のカレント



萩原チンドンまつり実行委員会

(受賞当時：一宮市萩原商店街振興組合)

賞 第2回優秀賞

愛知県一宮市萩原町萩原22



全国規模のチンドンイベント開き商店街を活性化

一宮市萩原商店街振興組合のメンバーらが、地元を盛り上げようと、春と秋に「チンドン祭」を開催している。毎年5月の第4日曜日に開かれる春の祭りには、全国からプロのチンドン屋さんを迎え、商店街の特設ステージで芸を競い合い、その後、まちを練り歩く。来場者は2万人を超え、「チンドンのまち」として定着しつつある。秋にはアマチュアを対象にした「素人チンドン大会」も開く。地元の中学生在が会場の背景画を描くなど、子どもたちも巻き込み、地域密着を目指している。

亀崎まちおこしの会

賞 第7回優秀賞

NPO法人

愛知県半田市亀崎町 4-141



伝統行事を保存、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図る

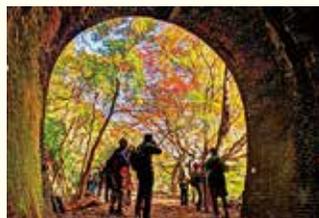
地元の伝統行事の保存・復活や、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図るなど旧市街地のにぎわい創出に大きく貢献。とりわけ空き家対策では、既に古い料亭を改装して複数のショップの入居にこぎ着けた。大学生や若手建築家、デザイナーらを巻き込んで空き家再生などに知恵を結集している。市の期待も大きく、モデル事業として助成を受け、数軒の空き家所有者の了解を取り付けて店舗に生まれ変わった。若者や子どもを主軸として活性化を図っている。

愛岐トンネル群保存再生委員会

賞 第5回優秀賞

NPO法人

名古屋市守山区白山 1-708



忘れられたトンネル買い取り、地域の名所に

岐阜県多治見市と名古屋市を結ぶ旧国鉄の廃線で山中に忘れ去られた、明治時代のれんが造りのトンネル群保全に取り組む。お年寄りの記憶を基に再発見した。観光資源につなげようと周辺の民有地を買い取るため募金活動を展開。全国約1万1000人から1500万円超が集まり、2014年にトンネル4基と土地16万平方メートルを買い取った。春秋の年2回、見学会を実施。全国から年間3万人、延べ30万人が訪れている。夏には涼しいトンネル内でビアホールも開く。

花男子プロジェクト

賞 第8回優秀賞

愛知県豊橋市神野新田町ワノ割 93-3



地場産の花を贈る文化広めるパフォーマンス

日本一の花生産地である愛知県東三河地方から「花を贈る」文化を日本中に広めようとパフォーマンスを続ける。花の仲卸をしていた近藤祐司さんが代表となって仲間と始めたプロジェクト。合言葉は「花贈る!男アガルッ!」。音楽によってブーケを作り、カップルに花を贈り合ってもらったり、男性は1人で花屋に入りにくいのではとLINE(ライン)で注文を取ったりとアイデアを実現する。コロナ禍では医療関係者に花を贈り、売上げの一部を寄付する活動に取り組んだ。

岡崎まちゼミの会

賞 第6回準大賞

愛知県岡崎市康生通東 1-21



培った商品知識を伝え商店街への関心高める

年に2回、商店街の各店が、商品やサービスに関する知識や技を無料伝授する講座を催す「得する街のゼミナール(まちゼミ)」を開く。全国400地域に広がった「まちゼミ」の元祖。個人商店それぞれのノウハウを生かした多彩な講座により、地元の消費者の関心を集めている。また3年ごとに全国の事業者が岡崎に集い、互いのノウハウを発表する場を設けている。さらに小学校と連携、子どもたちの商店街に対する理解を深める取り組みもしている。

まちスウィング

(受賞当時：まちのエキスバネット)

賞 第 11 回優秀賞

社会福祉法人

愛知県春日井市藤山台 1-1 高蔵寺まなびと交流センター 3 階



廃校拠点にまちづくりと福祉のコミュニティービジネス

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンで、廃校となった小学校を再利用した「グルッポふじとう」を拠点に、まちづくり・障害福祉・広報事業のコミュニティービジネスを展開し、地域の活性化に取り組んでいる。「高蔵寺きてみん祭」「歌う!高蔵寺マーケット」などさまざまなイベントを企画し、まちのにぎわいを創出する一方、子どもから高齢者までが集うコミュニティーカフェを運営し、住民同士の横のつながりを広げている。

志民連いちのみや

賞 第 9 回ブロック賞 (東海・北陸)

NPO 法人

愛知県一宮市本町 4-12-7



クラフト作家市、地ビール製造など幅広く活動

愛知県一宮市で東海圏のクラフト作家などが集う「杜の宮市」やまちなかアート展を企画・運営し、中心市街地の活性化に取り組む。地ビールを再興した「一宮ブルワリー」、空き店舗を利用したコミュニティーカフェ「三八屋」の開設などまちづくり事業も展開する。「一宮市市民活動支援センター」を受託運営し、市民活動講座も多数開催する。2022年3月には、一宮市から都市再生推進法人の指定を受け、一宮駅周辺で居心地が良く歩きたくなるまちを創出する「一宮まちなか未来会議」や「一宮市まちなかうーカブル社会実験ストリートチャレンジ事業」の企画運営を担っている。

デンソー

賞 第 12 回優秀賞

株式会社

愛知県刈谷市昭和町 1-1



AI ロボが収穫、自動車産業の技術活用で次世代農業

自動車部品で国内最大手企業の愛知県刈谷市のデンソーが自動車分野で培った技術を駆使し、国内トップクラスの施設栽培技術を持つ三重県津市の浅井農園と協力しながら自社製 AI ロボットを開発。大規模な農業用ハウスを三重県いなべ市に開設し、野菜の自動収穫の研究を進めている。収穫物を自動で運搬して従事者の負担を軽減。次世代施設園芸の新モデルを構築することで、利益が出て、働きやすい新たな農業の形を模索している。

愛知県立安城農林高校

賞 第 10 回優秀賞

愛知県安城市池浦町茶筌木 1



独自手法で卵の質向上。ミツバチや地場野菜育成

高校生のアイデアでさまざまな事業を生み出し、地元を盛り上げる原動力になっている。「Anno 健幸卵」プロジェクトは、独自の方法で卵の質を向上させている。さらに特産の鶏「岡崎おうはん」の普及を岡崎市と提携して推進する。貴重なニホンミツバチを守るプロジェクトも実施。愛知県の野菜「金俵マクワウリ」の復活を目指すチームも活動中だ。「あま酒づくりプロジェクト」は地元メーカーと甘酒をつくって販売に取り組む。

三重

- 相可高校調理クラブ まごの店
- 海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋
- 下河内の里山を守る会
- 伊賀忍者特殊軍団阿修羅
- 大杉谷自然学校
- 丸山千枚田保存会
- みやがわ森選組
- 大内山動物園
- ディーグリーン
- 天満浦百人会
- 志摩市民病院
- グリーンクリエイティブいなべ
- むすび目 Co-working



尾州のカレント

賞 第13回優秀賞

愛知県一宮市西萩原上沼 40



日本一の毛織物産地の魅力を若手社員が発信

日本一の毛織物産地、尾州の企業で働く若手社員のサークル活動。「世界三大産地」と呼ばれるほど高品質な生地や服を作る産地だが、認知度が低く衰退の一途を辿っている。そんな尾州を知ってもらい、着てもらい、楽しんでもらうために SNS での発信やラジオ番組、イベント企画、商品開発等を行っている。メンバーは職人やデザイナー、営業、広報、web 作成、撮影など様々な得意分野を持った人たちで構成されている。

相可高校調理クラブ まごの店

(受賞当時：三重県立相可高校調理クラブ)

賞 第1回ブロック賞（東海・北陸）

三重県多気町五桂 956 五桂池ふるさと村施設内



食物調理科の高校生が人気レストランを運営

県立相可高校の食物調理科の生徒でつくる調理クラブが、土曜、日曜日や祝日のみ営業するレストランを運営している。多気町が設置した「五桂池ふるさと村」の一角にある。できる限り地元の食材を利用し、高い調理技術でつくられる定食などがおいしいと県内外から評判を集め、130～150食を完売する。伊勢志摩サミットの際には、首脳の配偶者を料理でもてなし大好評だった。ドレッシング、焼き肉のたれなどの商品開発にも取り組み、成果を上げている。

伊賀忍者特殊軍団 阿修羅

賞 第4回優秀賞

株式会社

三重県四日市市下海老町 1776



年間 1200 回の実演で伊賀流忍術の里を発信

伊賀流忍術の発祥の地、伊賀市の「忍者」文化を三重県と伊賀市の観光大使として国内外に発信している。伊賀流忍者博物館を拠点に本物の忍術を披露。実演では忍者が使用していた忍具について、使い方や効果などを分かりやすく解説し、忍者の魅力を伝えている。海外からの公演のオファーも多く、外務省日本ブランド事業では北米ツアーも行うなど、「NINJA」ブランドの普及を図る。世界でも人気が高まっており、海外のツアー客に対して英語での説明も取り入れるなど国際化に対応している。

海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋

(受賞当時：兵吉屋)

賞 第2回優秀賞

有限会社

三重県鳥羽市相差町 1094



海女と交流、魚介味わうツアーで海外客にも人気

地元の海女さんが集う「海女小屋」で、素潜り漁の話聞きながらアワビやサザエなど新鮮な魚介類を味わうツアーで、年間2万人超が訪れる。日本の伝統文化に触れられると外国人にも人気。2016年の伊勢志摩サミットを通じて知名度が上昇、伊勢・志摩の名所に育った。出入口の段差をなくし福祉車両で送迎するなどバリアフリーを進める。ムスリムのため敷地内に男女別礼拝室を設けるなど国際化にも対応。コロナ禍には海女料理の通販や、海女の写真集頒布で立ち向かった。

大杉谷自然学校

賞 第5回特別賞

NPO法人

三重県大台町



地域の自然、人、文化を生かした環境教育

廃校となった小学校を拠点として、地域を生かした環境教育を展開する。地域に残る生きる知恵や豊かな自然を体験する活動を町内外の人たちに提供している。特に力を入れるのが、故郷を愛する子どもたちの育成だ。アユの伝統漁法や地域の人と関わる機会など故郷を実感できる機会を学校教育に取り入れている。他にも「森のようちえん」、移住促進、環境に配慮した公共工事の促進など多岐にわたり地域をより良くする事業を展開する。

下河内の里山を守る会

(受賞当時：きほく里山体験笑楽校)

賞 第3回優秀賞

三重県紀北町十須 829



古い旅籠を改装した拠点で里山暮らし体験、交流

三重県南部に位置する紀北町下河内地域で、景観にほれ込んだ町内外の会員が築120年の旧旅籠「旭屋」を自分たちの手で改装、地域を紹介する拠点として活動している。毎月第2土曜日は「下河内の日」として農家レストランを開き、打ち立てのそばや山菜の天ぷらなど地元食材の料理が人気だ。また「きほく里山体験笑楽校」として、そば打ちやこんにやくづくりなどが体験できるプログラムを提供、里山の魅力を伝えている。

大内山動物園

賞 第8回優秀賞

三重県大紀町大内山 530-4



殺処分から保護された動物が集まる動物園

全国でも珍しい個人経営の動物園。存続危機に陥った動物園を建設会社の経営者が引継ぎ、再建した。動物約700匹が飼育されており、その7割は閉園される動物園から引き取ったり、殺処分寸前で保護されたりした動物だ。“新顔”の動物が来るたびに土地を購入、飼育舎を増設するため、園は3倍の広さになった。自然に恵まれた地の利を生かし、保護された動物も、来園客も癒される動物園を目指している。

丸山千枚田保存会

賞 第6回優秀賞

三重県熊野市紀和町板屋 78 熊野市ふるさと振興公社内



住民挙げて伝統の棚田の保存・復活に挑む

丸山千枚田は、日本の棚田百選にも選ばれた紀和町丸山地区の山の斜面に幾重にも描かれた棚田。かつて2240枚あったと記されていたが、昭和50年代以降、過疎・高齢化の波を受けるなどして、平成初期には530枚に減少。自分達の世代で、この貴重な文化遺産を失うのは惜しいという地元の人々の強い思いがあり、1993年に丸山千枚田保存会を結成。保全活動が始まった。オーナー制度などを取り入れるなどして、現在は1340枚まで復元されている。

ディーグリーン

賞 第9回奨励賞

株式会社

三重県紀北町紀伊長島区東長島 2399-1



新鮮・安全な地元の魚で作った離乳食を全国発信

紀伊半島の漁村にあるウェブ制作会社が、新鮮・安全な魚を子どもたちに食べてほしいと離乳食材の通販「mogcook（モグック）」に乗り出した。地元の主婦らが小骨を抜き、ていねいに下処理した魚を調理、真空パックして全国に発送する。栄養豊富で食べやすく添加物不使用。月齢別に商品をそろえ、都市部でも評判を呼んでいる。I・Uターンの若者と住民が力を合わせ、新たな特産品に成長している。

みやがわ森選組

賞 第7回優秀賞

NPO法人

三重県大台町



山村に移住した林業従事者が森の担い手を育成

旧宮川村に移住、林業に従事するメンバーが都市農山村交流を通じ地域活性化、遊休農地回復、放棄山林活用、生態系保全への貢献を目指す。林業移住をバックアップする「もりびと養成講座・森つなぎプロジェクト」を大台町、イオンと実施。大学生向けの米作インターンや、子どもに生物の楽しさを知ってもらう「かえる道場」も開催している。環境整備で企業と連携する「安濃の森プロジェクト」（中日本高速道路）、「百五の森プロジェクト」（百五銀行）にも取り組む。

グリーンクリエイティブいなべ

賞 第12回優秀賞

一般社団法人

三重県いなべ市北勢町阿下喜 31 いなべ市役所 2F



自然や地域資源活用「オシャレ、カワイイ」SDGs

2019年5月、市役所内のグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」がオープンした。グリーンクリエイティブいなべはにぎわいの森を拠点にカジュアル、オシャレ、カワイイをキーワードにSDGsの目線で地域資源をカジュアルに活用して、都会の人たちを魅了するまちづくりを行う。にぎわいの森オープン後は観光客が倍増。取組に共鳴したプレーヤーが移住し、カジュアルな店舗をオープンさせるなど、新たなムーブメントが起きている。

天満浦百人会

賞 第10回優秀賞

NPO法人

三重県尾鷲市大字天満浦 161



元別荘を津波防災拠点に活用、交流・学習の場に

30年前「天満浦を元気にしよう!」を合言葉に主婦を中心に結成。1944年の東南海地震で大きな被害を受けた天満浦は津波対策が課題だった。高台にあり地域のシンボリック存在だった別荘「天満荘」の取り壊しが浮上したが、南海トラフ地震の防災拠点として買い取った。その後カフェや文化講座、体験活動などの場としても活用。三重大学東紀州サテライトにも認定され、勉強会「よるしゃべ」などで老若男女が集まり、にぎわう。

むすび目 Co-working

賞 第13回優秀賞

三重県度会郡南伊勢町内瀬 1536-1 しごとば油屋Ⅱ



共働スペースやシェアキッチンで人をつなぎ、移住支援

町になかったコワーキングスペースを立ち上げようと集まったメンバーが、情報発信を通じて人と地域をつなぐ結び目になると2018年にプロジェクト結成。人口減少や空き家問題などが深刻化する中、移住定住支援や空き家再生などに取り組む。2020年夏から移住や空き家相談窓口を担当し、注力する賃貸での空き家成約数は大幅増。メンバーが空き家を改修始めた町内外の約30事業者が不定期出店するシェアキッチンは、賑わいを見せている。

志摩市民病院

賞 第11回準大賞

三重県志摩市大王町波切 1941-1



赤字病院を若手医師が改革、収支改善、愛される施設に

患者数減少による経営難で診療所への規模縮小が検討され、医師3人が一斉退職。1人残された若き医師が2016年4月院長に就任し、様々な改革に着手。「絶対に断らない医療」を理念に掲げ、収支改善。研修生は専門外の大学生や中高生まで受け入れ。1人の入院患者の話相手に徹する研修は、患者にも生きがいを与える。地域の祭りにも積極的に参加し、地域住民との交流の場となる「病院まつり」を開催し、地域から愛される病院に変貌を遂げた。

大津の町家を考える会

賞 第2回優秀賞

大津市中央 1-8-13



町家の保存と活用で、まちの魅力を発信！！

大津に残る町家の保存と活用を通して、まちの魅力を発信している。商店街に残る町家を借りて「まちづくり大津百町館」として公開している。落語会、講演会などのイベントにも取り組んでいる。地域にも開放して活用してもらっているほか、昔の暮らしの様子を学ぶ小学校の社会科見学も数多く受け入れている。大津の歴史や町家を紹介した「大津百町物語」発刊から20年を機に、「大津の町家とまちを振り返る」を作成した。大津百町という名前も一般的に使われるようになり、町家ホテルも開業して、賑わいに寄与している。

滋賀

- 碧いびわ湖
- 大津の町家を考える会
- 富田人形共遊団
- 美しいマキノ・桜守の会
- 江北図書館
- 白王町集落営農組合
- しが農業女子100人プロジェクト
- エナジーフィールド
- 大野木長寿村まちづくり会
- びわこジャズ東近江実行委員会
- 三方よし研究会
- 安念寺いも観音保存会
- こどもソーシャルワークセンター



富田人形共遊団

賞 第3回優秀賞

滋賀県長浜市富田町 935



人形浄瑠璃を守り海外公演、留学生や子ども指導

長浜市富田町に江戸時代後期から伝わる人形浄瑠璃「富田人形」（県選挙無形民俗文化財）を、まちづくりに活用しようと、地元有志で結成された。年2回の定期公演に加え、海外を含めた出張公演も積極的に行う。海外からの留学生十数人を毎年受け入れ、地元で約2カ月間、ホームステイをしながら人形浄瑠璃の基礎と日本文化を学べるようにしている。住民との交流活動も盛んだ。地元の小中学生向けのジュニアクラスを開催、子どもにも人気だ。

碧いびわ湖

賞 第1回ブロック賞（近畿）

NPO法人

滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 3



琵琶湖と流域で自治を育み、持続可能な暮らしをつくる

琵琶湖での赤潮発生をきっかけに、合成洗剤ではなくせっけんを使うことを広めた「せっけん運動」と生協運動を原点に、市民の協同自治を育み、持続可能な暮らしをつくることに取り組んでいる。これまで廃食油や牛乳パックのリサイクル、再生品等の共同購入、身近な自然とつながる住まいづくり、自然の中で子どもが遊び、学ぶ場づくりなどをしてきた。現在は琵琶湖のプラゴミ問題や気候危機などの社会課題に向き合いながら「子どもと湖が笑ってる未来へ」とつながる暮らしとコミュニティづくりを目指す。

白王町集落営農組合

賞 第6回優秀賞

農事組合法人

滋賀県近江八幡市白王町 1652-2



琵琶湖の内湖「西の湖」の湖中水田「権座」を守る

琵琶湖の最大の内湖「西の湖」にある島状の水田「権座」。船でしか渡ることができず「手間がかかる、やっかいな土地」と敬遠されていた。しかし一帯の水郷風景が全国第1号の重要文化的景観に選定されたことから「農業で景観を守ろう」と住民が奮起。共同作業で生産コストを下げ、幻の酒米や単価の高い大豆を作った。日本酒「権座」は多くの地酒ファンを獲得し、春には「新酒の集い」、秋には「水郷コンサート・収穫感謝祭」などのイベントを開催して観客を集める。

美しいマキノ・桜守の会

賞 第4回優秀賞

滋賀県高島市マキノ町海津 2275



寿命で枯れ始めた桜を市民が復活、名所に

1936年に琵琶湖北部に位置する海津大崎のトンネルが完成したことを記念し、住民が桜の植樹を始め「日本さくら名所100選」と評価されるまでになった。しかし、その桜が寿命で枯れ始めたことから景観を守ろうと住民が立ち上がり、会を設立し植栽・管理・周辺環境の整備などに積極的に取り組んだ。湖岸周辺などに約900本が植えられ、春になると見事な桜並木の花見に約10万人が訪れている。

しが農業女子100人プロジェクト

賞 第7回ブロック賞（近畿）

滋賀県



滋賀の食と農をつなぐ新しいかたち

栽培、商品開発、マーケティングなど、あらゆる分野で協力する滋賀の女性農業者のネットワーク。2018年に会員制度を設けて団体をリスタートした。「農業を通じて『おいしい』『楽しい』を分かち合う社会をつくる」ことをミッションとし、滋賀での新しい食と農のプラットフォームづくりを目指している。

江北図書館

賞 第5回優秀賞

公益財団法人

滋賀県長浜市木之本町木本 1362



貴重な和漢洋書備えた伝統ある私設図書館

長浜市出身で弁護士だった杉野文弥が1902年、私財を投じて設立した「杉野文庫」が前身。1907年に伊香郡役所の支援を得て法人化された（2011年から公益財団法人）。現存する滋賀県最古の図書館。現在は敷地内の駐車場収入、篤志家や市民からの寄付で運営。蔵書は約5万冊。中には極めて貴重な洋書や和・漢書、文書の他、旧伊香郡役所資料一式が残されており、研究者から高い評価を得ている。

びわこジャズ東近江実行委員会

賞 第10回優秀賞

滋賀県東近江市市辺町 2886



約3万人を集め原則無料。地元産品マーケットも

びわこジャズ東近江は、滋賀県東部の東近江市中心市街地を会場に2009年から毎年4月に開催している。19年はプロやアマチュアの約210組が出演、約3万人を集めた。入場は原則無料で、運営には広告収入をあてている。同時に地元産品のマーケットなどを開催して地域活性化に貢献している。20年、21年はコロナ禍で中止となっていたが、22年は3年ぶりに9月に開催した。

エナジーフィールド

賞 第8回優秀賞

NPO法人

滋賀県近江八幡市永原町元 12



現代アートの国際芸術祭。空き家に展示も

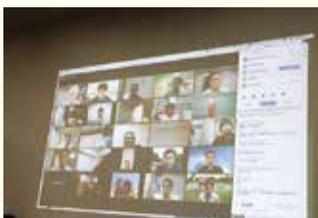
2001年から現代アートの国際芸術祭「BIWAKO ビエンナーレ」を2～3年間隔で開催している。20年10～11月には「森羅万象～COSMIC DANCE、をテーマに、これまで開催していた近江八幡市に加えて彦根市にも会場を設けた。市街地に点在する商家だった古い空き家などで展示し、会場空間も含めて作品を輝かせる点に特徴がある。京都のアートイベント、「ニュー・ブランシュ」との連携展示も実現した。

三方よし研究会

賞 第11回ブロック賞（近畿）

NPO法人

滋賀県東近江市中小路町 483



医師、看護師、消防隊員らが車座で地域医療の意見交換

滋賀県東近江圏の地域医療を考えるために2007年発足した。医師や看護師、理学療法士、行政、消防隊員らが事例や課題を報告し、職種や立場を超えて車座で意見交換、顔の見える関係を築く。「患者よし、機関よし、地域よし」を掲げる。月1度の定例会は約150人が参加。コロナ禍の20年6月に迎えた150回目はオンラインで全国に発信した。かかりつけ医やリハビリ施設も含めて切れ目なく患者に寄り添うネットワークづくりを目指す。

大野木長寿村まちづくり会

賞 第9回ブロック賞（近畿）

一般社団法人

滋賀県米原市大野木 1090 大野木たまり場「よりどころ」



地域の課題は地域で解決 会員たちが楽しみながら挑戦

インフォーマル（形式ばらずに）、有償、インクルーシブ（分け隔てなく）にこだわり、無理をせず、楽しみながら集落の課題に挑戦している。主たる活動は、高齢者の困りごと支援（小修理、草刈り、剪定、屋敷管理、相談など）、「借り貸し農園」、付き添い移送サービス、毎土曜日の移動売店や露地野菜の販売等だ。食堂のランチや外部からの視察はコロナ感染症対応で中断しているが、地場特産品加工やコーヒー喫茶は開催するようになった。

京都

- 京すずめ文化観光研究所
- 遊プロジェクト京都
- 京町家再生研究会
- 先斗町まちづくり協議会
- 姉小路界隈を考える会
- 葵プロジェクト
- クロスオーバーネットワーク
- 気張る！ふるさと丹後町
- 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト
- アクトスター
- KOKIN
- まる首れい仙の郷
- 木津川アート

京すずめ文化観光研究所

(受賞当時：遊悠舎 京すずめ)

賞 第1回優秀賞

一般社団法人

京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町 680-1 第八長谷ビル 2階 231



暮らしの視点から京都のこころを継承し研究・発信

2001年の創立から21年を迎え、日々の暮らしに宿る京文化や京の心の文化を次世代へ継承する活動を続けてきた。公募事業「京都への恋文」や「おくどさんサミット」の開催等、コロナ禍でも取り組めることで発信している。研究会の冊子、絵本等も9冊発刊した。更に今後、世界へアピールできる日本の心の文化を発掘発信したい。

安念寺いも観音保存会

賞 第12回優秀賞

滋賀県長浜市木之本町黒田



高齢集落伝承の仏像保護に若者の力、ネットで資金

観音の里・長浜の西黒田地区10戸が守ってきた「いも観音」。戦国の兵火をくぐり、手足や顔が朽ちても大事にされてきた仏像をまつお堂が老朽化した。高齢化した村人たちに、元地域おこし協力隊員の若者が協力。スマホやネットを使わないお年寄りたちがクラウドファンディングに挑戦したところ、予想を超える寄付が集まり、お堂も無事修復できた。地域だけでなく全国で守っていく現代の「講」として、注目が集まる。

こどもソーシャルワークセンター

賞 第13回ブロック賞(近畿) 特定非営利活動法人

滋賀県大津市観音寺9-8



生きづらさ抱える子の居場所、一緒に食べて楽しむ

さまざまな理由から「生きづらさ」を抱えている子どもや若者たちを受け入れ、居場所を提供する活動を続けている。福祉行政や学校などからの紹介で来所する子どもたちにセンターのスタッフはあれこれ指導や教育はしない。まずは一緒にご飯を食べ、その子がやりたい遊びを一緒に楽しみ、夜間なら銭湯で一緒に汗を流す。本来なら家庭で得られるそうしたひとときを持ってもらうことで、子どもたちは「明日からまた少しがんばって、また来週センターに来よう」と思う。困難を抱える子どもたちが生きていく拠り所になっている。

先斗町まちづくり協議会

賞 第4回優秀賞

京都市中京区下樺木町 207



古都にふさわしい風情ある景観の復活に取り組む

「かつての伝統ある風情を取り戻したい」との思いから、自治会を母体にして設立。道幅2メートル前後、南北約450メートルの通りで、国内外から多くの観光客が訪れる。近年、お茶屋が減る一方、道をふさぐようにはみ出た看板やたばこのポイ捨てなどが横行していた。京都市とも連携しながら、違法看板の撤去を進めた。まちなみ保全を目的とした「界わい景観整備地区」の指定を実現した。無電柱化や、火災を教訓にした防災活動にも積極的に取り組んでいる。

遊プロジェクト京都

賞 第2回優秀賞

NPO法人

京都市中京区室町通御池上ル御池之町 305 遊子庵内



中心街の町家を拠点として伝統の魅力のアピール

京都の中心街にある町家「遊子庵」を拠点に伝統の魅力を伝えるとともに、遊びを通して、文化や暮らしの知恵を学び、その素晴らしさを紹介する事業を展開している。装束、風呂敷、京菓子などの老舗の人々を呼んで話を聞く勉強会や、京都のまちづくりに活躍する人を紹介する書籍の出版にも携わる。遊子庵では計10の団体が活動しており、緩やかなつながりで運動を展開している。

姉小路界限を考える会

賞 第5回優秀賞

京都市中京区姉小路通富小路西入菊屋町 569



京都の歴史・文化を継承し、景観を守る

京都都心部に位置する姉小路界限は老舗、小さな商店、町家が建ち並ぶ職住共存東西700mの街。1995年のマンション建設反対を機に、歴史、文化の豊かさを再発見する「姉小路界限町式目」策定。街なみ環境整備事業、地区計画、2015年に地域景観づくり協議会認定。105件の建築（店舗開業含む）意見交換会を開催。幼稚園、中学校、博物館、地元企業等と、車両通行止で共生スポーツポッチャを毎年開催。2022年7月、90人の同意により、商業地域国内最大規模の建築協定を拡大更新。新旧同居のまちづくりと電線地中化を目指す。

京町家再生研究会

賞 第3回準大賞

NPO法人

京都市中京区新町通錦小路上る百足屋町 384



京町家の再生を通じて暮らしの文化と技術をつなげる

古都・京都のまちなかにある京町家を保全、健全に改修して未来につなげていく目的で、居住者や研究者、技術者らが立ち上がり、1992年から活動している。再生に携わった町家は200軒を超えた。改修技術を若手に継承する「京町家設計塾」、町家の暮らしを子どもたちや家族に楽しみながら知ってもらう「親子体験教室」などのプロジェクトも展開している。各地の団体との交流も重ね、まちなかにある木造建築の保全の考え方、現代の在り方を変化させ続けている。

気張る！ふるさと丹後町

賞 第8回ブロック賞（近畿）

NPO法人

京都府京丹後市丹後町間人 2026



住民マイカーをタクシー代わり、地域の足に

人口減少、過疎・高齢化が進む地域では、住民の足の確保が大きな課題。「気張る!ふるさと丹後町」はマイカーをタクシーに見立てて、住民や観光客を有償運送する取り組み「ささえ合い交通」を2016年に始めた。ボランティアの住民14人がドライバーとなり、年中無休で走らせる。利用希望者はスマートフォンなどで即時配車できる。公共交通空白地の新たな移動手段として、他自治体などからも注目を集めている。

葵プロジェクト

賞 第6回優秀賞

一般財団法人

京都市北区上賀茂本山 339 上賀茂神社事務所



葵祭に使うフタバアオイ保護の輪を広げる

1400年の歴史を持つ京都三大祭りの一つ「葵祭」。毎年1万本以上の葵（フタバアオイ）が牛車や供奉者の衣冠を飾り、華麗な王朝文化を現代に伝える。祭りに不可欠な葵が激減していることに危機感を持ち、京都府内外の小学校や企業などに葵を育成してもらう活動を通じて伝統祭事への参加を促す。静岡の駿府城に葵を運ぶ「葵使」の再現行事も。「葵文化サロン」として文化講座やサミット、フォーラムを開催。伝統工芸展や縁日も開いている。

毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト

賞 第9回優秀賞

京都府福知山市大江町毛原 288



棚田オーナーや地域通貨を活用、都市住民と交流

「つなぐ棚田遺産」にも選ばれた地域で、住民らが棚田保全と移住促進を目指して設立した集落再生プロジェクト。「1000年つづく里」を住民憲章に掲げ、特産品加工所や、ピザ窯でのピザ作り体験など地域の魅力を発信する。住民と来訪者をつなげる地域通貨「けーら」を考案。民家が交替で客人をもてなす「縁側喫茶」や、動画チャンネル「毛原放送局」、地域の問題を共有するアプリ開発など多角的な取り組みを進める。

クロスオーバーネットワーク

賞 第7回優秀賞

京都市中京区橋弁慶町 234MJP 烏丸ビル 6階（伊藤弥生公認会計士事務所内）



働く女性が意見交換、よい仕事環境をつくる

「女性の社会進出の推進」が声高に唱えられているが、政府や行政に頼るばかりではなく、働く女性たちがそれぞれの場で感じている不満や課題を率直に意見交換し、より良い仕事環境を具体的に作り出してゆくことを目指している。職種の幅広さと柔軟な思考を標榜し、孤立しがちな女性たちを横に結び、助け合うことで輝こうという意欲に満ちている。女性の起業を専門家がサポートする「ブルームマネジメント」に力を入れる。定期的に持続可能な開発目標（SDGs）の勉強会も開いている。

④ めい仙の郷

賞 第12回優秀賞

京都府亀岡市曾我部町南条北荒水代 4-1 曾我部町公民館内



特産タマネギ復活へ企業と連携しブランド化、新商品

全国初となるプラスチック製レジ袋の提供禁止条例の制定などで知られる京都府亀岡市。同市曾我部町の農家が2018年から、かつて地域で盛んに栽培されていた野菜「④ 玉ねぎ」を復活させることで、農業の担い手不足解消や地域活性化を目指している。今年春からは営農組織「④ めい仙の郷」を立ち上げ、ブランド化を目標に企業や福祉施設とも連携し「④ 玉ねぎ」を使った商品開発や販路拡大、PRイベント企画に力を入れている。

アクトスター

賞 第10回ブロック賞（近畿）

京都府綾部市星原町堂前 6-4 岡田邦久方



西日本豪雨をきっかけに先進的な防災に取り組む

2018年7月の西日本豪雨被災をきっかけに、中山間地・綾部市星原町で自主防災組織として結成、先進的な防災に取り組む。集落を歩いて土砂災害の危険箇所を洗い出し、古道を「第2の避難路」として再生。住民が避難と避難所生活を体験する訓練も実施した。住民が避難のきっかけをあらかじめ決めておく「タイムライン」「スイッチ」の概念もいち早く導入。複数のメンバーが防災士資格を取得。高齢化を念頭に、災害弱者の視点で土砂災害に備える。

木津川アート

賞 第13回優秀賞

京都府木津川市加茂町兎並東前田 23-1 木津川市観光協会内



木造公民館や米蔵、畑がアート作家の展示会場に

木津川アートは京都府最南部の木津川市で2010年から始まった。アートによる町づくりを通して合併した旧3町のつながりを深め、見慣れた景色をアート作家の展示会場とすることで地域の魅力を再発見しようという狙い。木造公民館、古民家の米蔵、畑などが会場になり、住民はボランティアとして会場清掃や展示物の見守りなどで活躍。イベントに触発され、独自のイベントを始めるなど住民活動も広がりを見せている。

KOKIN

賞 第11回優秀賞

一般社団法人

京都府舞鶴市平野屋 69



舞鶴のよさを多目的スペースやゲストハウスから発信

舞鶴が好きな20～50代の会社員、大工、主婦ら約10人が2011年に結成し、「町を楽しみ、発信する」をテーマに活動する。「まちなみは地域の文化を映し出す」と捉え、町屋や空き店舗を改装した多目的スペースやゲストハウスを運営。大正時代の面影が残る老舗銭湯が登録文化財に指定される支援をしたり、銭湯の良さを伝えるイベントも企画。地元企業との連携で地元製品の販路開拓を担う地域商社も設立するなど活動の場を広げている。

Homedor

賞 第3回優秀賞

認定NPO法人

大阪市北区本庄東 1-9-14



自転車修理・貸出事業で就業支援、団らんの場も

ホームレスの人や生活保護受給者の雇用創出を目的としたシェアサイクル事業「HUBchari (ハブチャリ)」を運営する。大阪市内330か所以上に自転車の貸し出し拠点を設け、ホームレスの人や生活保護受給者が自転車の管理などを行う。路上生活から抜け出すことにつながることを目指した施設「アンドセンター」や食堂「おかえりキッチン」を運営し、ホームレスの人が団らんスペースで談笑したり宿泊や食事ができる場を提供している。

大阪

- にしよど にこネット
- Homedor
- 大阪を変える100人会議
- D×P (ディーピー)
- Minami こども教室
- わが町にしなり子育てネット
- こえとことばとこころの部屋 cocoroom
- Happy mam (ハッピーママ)
- SEIN (サイン)
- 子どもアドボカシーセンター OSAKA
- ネクストエージ
- コリアタウン・多文化共生のまちづくり



近畿

大阪を変える100人会議

賞 第4回優秀賞

大阪市中央区道修町 3-4-11 新芝川ビル



企業や大学、行政の多彩な人が大阪の課題を論議

大阪の多様な社会問題の解決を目指すNPO法人、行政の実務者、地元企業らで構成する。「ラウンドテーブル」と呼ばれる会議を定期的に関ぎ、日ごろ出会う機会がない実務者同士を引き合わせている。通信制高校生のキャリア支援をするNPO法人と、ココナツのフェアトレード事業を通じフィリピンの貧困問題に取り組む会社が協力し、通信制高校生のフィリピン研修ツアーを実現するなどコラボ企画が次々と生まれている。

にしよど にこネット

賞 第1回優秀賞

NPO法人

大阪市西淀川区大和田 6-3-29



つどいの広場、ネットワークづくりで子育て支援

地域の中で豊かな環境を整え、子育てを応援する。大阪市委託事業で主に3歳までの子どもと、保護者がゆったりと過ごせる無料のつどいの広場や、西淀川区委託事業の区役所にある「に〜よんステーション」を開設。子育て経験のあるスタッフとおしゃべりを楽しみ、保護者の子育て不安の解消などにつなげる。「大人も子どもも育ちあい、誰もが誰かのサポーターになれるまちに」のビジョン、「日々の子育てに寄りそい、わかちあえる関係をつくることを大切に」がミッションだ。

わが町にしなり子育てネット

賞 第7回優秀賞

大阪市西成区梅南 1-2-6 西成区子ども・子育てプラザ



いつでも どこでも みんなで子育て

わが町にしなり子育てネットは2000年に創立。「いつでも どこでも みんなで子育て」を合言葉に、すべての子どもたちが地域の中で自分らしく育つことと、安心して子育てをできる町づくりをめざす緩やかで温かなつながりを紡ぐ公私協働のネットワークだ。子育て中の保護者やサークルを中心に、保育所（園）、施設、行政、NPO、子ども食堂、地域のボランティアなど約70の団体・個人・行政が加盟。子育て・子育て支援活動を通して子どもの権利擁護と自己実現に取り組み、虐待ゼロのまちづくりや、子どもの最善の利益の実現を目指す。

D×P（ディーピー）

賞 第5回優秀賞

認定NPO法人

大阪市中央区天満橋京町 1-27 ファラン天満橋 33 号室



通信制・定時制高校生たちの中退率改善や進路決定を目指す

不登校やいじめ・発達障害などさまざまな事情を抱えた高校生が通信制・定時制高校に集まっている。通信制高校卒業生の約半数が進学も就職もしないまま卒業しているとみられ、D×Pは高校生本人が納得のいく進路を選択できるようになるためのプログラムを提供している。社会人ボランティアが過去の経験や「なぜ今の仕事を選んだのか」を語り、生徒自身の進路に置き換え、考えてもらう授業を展開する。また教室の一角に安心してスタッフと話ができる場を設置。LINEを使ったオンラインの相談「ユキサキチャット」も実施している。

こえとことばとこころの部屋 cocoroom

賞 第8回優秀賞

NPO法人

大阪市西成区太子 2-3-3



日雇い労働者らが参加できる学びの場開催

日雇い労働者の街として知られる大阪市西成区の釜ヶ崎で、2012年から「学びたい人が集まれば、そこが大学」として「釜ヶ崎芸術大学」を開催する。困窮者は無料。運営は寄付や助成金で賄う。炊き出し会場や施設の談話室などで年間100講座を開く。日雇い労働者の間で培われてきた互助精神や生き延びる知恵と技術も学び合う。元労働者を先生にスコップで井戸を掘ったり、外国人旅行者との交流も生まれたりした。コロナ禍ではオンラインを併用して開講を続ける。

Minami こども教室

賞 第6回奨励賞

大阪市生野区桃谷 3-1-21 3F



外国につながる子どもたちの学習支援と保護者への相談事業

Minami こども教室は、大阪市中央区で外国につながる子どもたちの学習支援をしている団体です。外国人母子心中事件を契機に2013年に設立しました。現在、登録する子どもは約150名です。毎週火曜日に宿題や日本語学習をし、中高生には進路支援もしています。子ども食堂と協力して遠足などの社会体験活動を企画し、地域の居場所としての機能も果たしています。コロナ禍の影響を受け、逼迫した生活状況を鑑み、相談事業も本格化させています。

子どもアドボカシーセンターOSAKA

賞 第11回優秀賞

NPO法人

堺市堺区新町2-4 小山電ビル2階



施設などの子どもが言えない悩みや要望を聴き、代弁

2020年3月に任意団体として発足、6月にNPO法人格を取得。児童養護施設や障害児施設を訪問し、入所する子どもたちが言い出せない悩みや要望を施設側に代弁する活動をする。国は22年度をめどにこうした取り組みの制度化を目指しており、モデルケースとして注目される。同様の活動は1970年代に英国で始まり、「子どもの権利条約」の趣旨を体現するものとして世界に広がりつつある。

Happy mam (ハッピーママ)

賞 第9回優秀賞

NPO法人

大阪府門真市中町 3-17



ひとり親家庭に食材などを提供。悩み相談も

困窮するひとり親家庭に支援者からの食材寄付を発送しています。コロナ禍で6ヶ月に1度の面談が行えない時もありますが、LINE等でコミュニケーションをしています。食材発送の世帯は50世帯を超え、重病を抱える親もいます。手づくりクッキー販売をし、マンスリーサポーターを募っています。

ネクストエージ

賞 第12回優秀賞

株式会社

大阪市西区新町 3-2-18TMビル3階



節電で割引企画、少年野球と途上国支援つなぐ

NPO法人を前身とし、企業などにSDGsを推進するコンサルティングを目的に2021年4月に設立された。大阪市鶴見区で電気使用量が前年同月比で減っていれば商店で減少分に応じて割引が受けられる企画など、住民が能動的に参加できる同法人のSDGsの取り組みを継承している。少年野球チームの選手が試合でヒットを打つごとにスポンサー企業がポリオワクチンを発展途上国に寄付する取り組みなど、そのユニークさが特徴だ。

SEIN (サイン)

賞 第10回優秀賞

NPO法人

堺市南区茶山台 2-1-21-302



高齢化のニュータウンに総菜店開設、交流の場に

高度経済成長期に整備されたニュータウンが高齢化で、空き部屋増加、買い物難民、独居者の孤立に直面している。課題を解決しようと、空き室を改装した総菜店「やまわけキッチン」をオープン、1人分に小分けしたおかずを組み合わせ、店内で仲間と食事ができる交流の場になっている。団地で生まれ育った湯川まゆみさんが代表理事を務めるNPOと府住宅供給公社が連携。コロナ禍で弁当の配達を開始、高齢者の見守り機能も果たしている。

兵庫

- KOBE 鉄人 PROJECT
- 日本コウノトリの会
- 山王自治会
- 神戸農村歌舞伎保存会
- 鳴く虫と郷町実行委員会
- ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会
- フードバンク関西
- 多言語センター FACIL (ファシル)
- くさかんむり
- 多文化共生センターひょうご
- クリーンアップ関西事務局
- 草むらの学校



コリアタウン・多文化共生のまちづくり

賞 第13回ダイバーシティ賞 一般社団法人大阪
コリアタウン、NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと
大阪市生野区桃谷 5-5-37 いくのコーライブズパーク A
棟 2 階



国際色豊かな街さらににぎわい、暮らしや教育向上

大阪市生野区は住民の2割以上が外国籍という国際色豊かな街。韓国の食材やファッションで人気の3つの商店街が、長い話し合いを経てこのほど統合し「大阪コリアタウン」が生まれた。イベントなどによる地域発信、清掃、トイレなどの環境整備を進める。同じ事務所、事務局長で「IKUNO 多文化ふらっと」として、多彩なルーツを持つ人々が共生するセンターづくりが進められている。二つの取り組みは地域の車の両輪となっている。

KOBE 鉄人 PROJECT

賞 第2回優秀賞
神戸市長田区久保町 6-1-1-401

NPO法人



鉄人 28 号のモニュメントを核に復興に取り組む

阪神大震災で大きな被害を受けた神戸市の JR 新長田駅南地区の活性化のため、地元商店主らが結成した。神戸市出身で漫画家・横山光輝氏の代表作「鉄人 28 号」の実物大モニュメント（高さ 18メートル）を、復興とまちおこしのシンボルとして全国からの寄付を基に造った。また横山氏の歴史漫画「三国志」の資料を集めたギャラリーも開設した。年間約 40 のイベントを開催、にぎわいを見せている。

神戸農村歌舞伎保存会

賞 第5回ブロック賞（近畿）

神戸市北区緑町 3-2-42



農村歌舞伎を復活、普及に取り組む

神戸市の有志が1990年ごろから、子どもたちに歌舞伎を教えた活動が出发点となった。阪神大震災で一時中断したが、神社の境内などに残る古い歌舞伎舞台を再評価し、保存や活用にも力を入れてきた。回り舞台や花道などを備えたものもある。活動に共感した住民が舞台を新築し、住民のダンスなどの活動発表も行われるようになったケースも。市内で開く子ども歌舞伎講座や、女性中心の歌舞伎集団「神戸はことら座」、幼稚園児の歌舞伎衣装での豆まきなど親しみやすい歌舞伎の普及を進め、各地で喝采を浴びている。

日本コウノトリの会

(受賞当時：コウノトリ湿地ネット)

賞 第3回優秀賞

兵庫県豊岡市城崎町今津 1362



コウノトリの餌場の湿地をつくり保全続ける

国の特別天然記念物コウノトリは1971年、野外で姿を見ることができなくなった。国内最後の生息地とされる豊岡市では2007年、人工増殖した個体の野生復帰事業に着手し、野外で初のひなが誕生した。「コウノトリ湿地ネット」として市民らがコウノトリの餌場となる湿地づくりとその保全に取り組んできた。耕作放棄地を湿地に変える事業のほか、湿地周辺のごみ拾いなど環境整備も。活動は全国的に広がり16年に「日本コウノトリの会」が結成された。20年に活動を一本化した。

鳴く虫と郷町実行委員会

賞 第6回優秀賞

兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20 市立伊丹ミュージアム内



市街地で虫の音を楽しむユニークな行事開く

江戸時代から酒造業などで栄えてきた人口20万人の伊丹市で、秋の虫の音を楽しむイベント「鳴く虫と郷町」を毎年実施している。江戸時代の庶民の風習「虫聴き」をテーマに、伊丹市昆虫館で実施された展示を、市街地の国指定重要文化財旧岡田家住宅を中心とした伊丹郷町界隈に拡大。約15種、3千匹が展示され、関連イベントは60を超える。スズムシを越冬させる「里親制度」など、準備から市民が深く携わる。口コミで広がり、京阪神から2万人以上が訪れている。

山王自治会

賞 第4回ブロック賞（近畿）

兵庫県丹波市春日町国領 2038



小集落が太陽光発電で運営費捻出、特産品販売も

兵庫県丹波市の山あいにある約10世帯でつくる自治会。高齢者世帯にとって負担になる自治会費を、共有地に設けた太陽光発電の売電収入で賄おうと発案、収入によって自治会費の負担はゼロになり、公民館にエアコンを付け、トイレの改装もできた。耕作放棄地を利用したサンショウや小豆栽培、和菓子やサバ寿司づくりにも挑む。人口減が進む状況は厳しいが、新たな挑戦への機運が生まれ、小さな自治会の空気は明るくなってきた。

多言語センター FACIL (ファシル)

賞 第9回大賞

NPO法人

神戸市長田区海運町 3-3-8 たかとりコミュニティセンター内



地域社会と外国人コミュニティをつなぐ「コーディネーター」

阪神・淡路大震災を契機に、地域住民である外国人が必要とする情報の翻訳、生活現場で必要な通訳者の派遣など、地域の多言語環境を促進し、社会的課題の解決に向けた提言も行う。また、外国人を含む地域住民や行政、医療機関、地域企業などからの多言語・多文化ニーズにさまざまな形で応えるための企画を立案、実施する。登録通訳・翻訳者は約1500人で約70言語に対応する。

ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会

賞 第7回優秀賞

兵庫県姫路市山田町多田 249



ジャコウアゲハを街づくりに活用

兵庫県姫路市の市蝶・ジャコウアゲハをまちづくりに活用するため2013年に開かれた「ジャコウアゲハサミット」を機に結成された。まちづくりグループ、民間企業など約30団体が加入。餌となるウマノスズクサを市内各地で増やす活動や写真展、観察会などに取り組み、姫路駅前や街中でチョウが確認されるまでに。小学生向けにジャコウアゲハの卵・餌の観察キットを配布、依頼があれば小学校で講義をすることも珍しくない。桜を植え、憩いの場を作る計画もある。

くさかんむり

賞 第10回優秀賞

神戸市北区淡河町淡河 1447



かやぶき職人らがワークショップ。海外と交流も

全国でも屈指のかやぶき民家数を誇る神戸市北区を中心にカヤの葺き替え作業の傍ら、かやぶきの魅力を伝えるワークショップや海外の職人との交流も手掛ける。職人7人。1棟の葺き替えに1カ月～1カ月半かかるため、年間に作業できるのは8棟ほど。葺き替えは遠方から取り寄せる材料の調達費が課題で、神戸市も地元グループに数年がかりでススキを育成し、収穫する「茅場」を作ってもらい、その活動費を補助するなど支援に動く。2019年には同名の株式会社も設立した。

フードバンク関西

賞 第8回優秀賞

認定NPO法人

神戸市東灘区深江本町 1-8-16 バレル芦屋 101



企業、個人から食料譲り受け、世帯支援に無償提供

企業や個人から商品としては扱えないが食品として全く問題のないもの、使い切れなかった食品の寄贈を受け、食品を必要とする人をサポートする団体や個人に無償で提供している。福祉施設やこども食堂に定期的に食品を提供するほか、行政と連携して生活困窮に陥った世帯への緊急食支援「食のセーフティーネット」事業や、民間の支援団体と連携してひとり親世帯に毎月1年間、宅配で食品を送る「子ども元気ネットワーク」事業を実施。コロナ禍では、学校の長期休暇の際、生活困難な子育て世帯に食品パックを送る事業など個人世帯支援にも注力している。

草むらの學校

(受賞当時：草やまの草むら)

賞 第 13 回優秀賞

兵庫県丹波篠山市遠方 41-1 やまもりサーキット北側



森や山で遊び、学びながら、これからの衣食住を探求

「草むらの學校」は、丹波篠山市の草山地域で、森や山で遊び、学びながら、これからの衣食住を探求していくサークル。地域資源の循環活用のモデル地域作りを通し、里山で起きている問題とともに、大量生産・消費などの都市部の問題の解決も目指し、人の輪を広げている。

多文化共生センターひょうご

賞 第 11 回優秀賞

神戸市東灘区深江南町 4-12-20-201



外国人に日本語教室や医療を仲介、コロナ禍で支援も

神戸市を中心に、2000年頃から在留外国人の支援活動を行っている。日本語教室の開催や、行政窓口への同行、確実に医療を受けられるように仲介するボランティアの養成などを手掛ける。新型コロナ禍の中、手洗いやうがいのやり方を分かりやすく教える絵本を制作したり、ネットアンケートを実施して差別に苦しむ現状への不満や悩みを聞き取ったりしてきた。住民団体との情報共有も進め、地域全体での課題解決に取り組んでいる。

クリーンアップ関西事務局

賞 第 12 回優秀賞

神戸市



海の環境保全へ、ごみを分類し国内外でデータ共有

関西有数の海水浴場でもある須磨海岸（神戸市）で年2回、清掃して拾ったごみの種類をデータ化する活動を約30年続けている。参加者は集めたごみを50種類に分類して調査カードに記入。データは集約・分析され、国内外で共有されるほか、業界団体などに提言している。参加者には若者や家族連れが目立ち、楽しみながら環境を考える機会になっている。学校や地域で活動について講演、企業と一緒に活動するなどすそ野を広げている。

奈良中央信用金庫

賞 第2回優秀賞

奈良県磯城郡田原本町 132-10



中小企業向け助成金で地域経済を活性化

県内の中小企業を支援することで、地域経済の活性化に貢献することを目的とした「ちゅうしん地域中小企業振興助成金制度」（愛称・グッドサポート）を2008年に創設。これまでの14年間で1748件の応募があり、143の企業などに総額11,460万円の助成を行った。今では、進取の取り組みに熱心な受賞企業同士が連携し、近畿経済産業局の仲介による開放特許制度を利用した商品開発を進める事例も出てきている。

奈良

- チャレンジ企業支援隊
- 奈良中央信用金庫
- 大和信用金庫
- 竹茗堂 左文
- 奈良無想寮
- きみかげの森
- 奈良まほろばソムリエの会
- 南都銀行
- 奈良の食文化研究会
- 奈良地域デザイン研究所
- 奈良新しい学び旅推進協議会



大和信用金庫

賞 第3回優秀賞・第11回優秀賞

奈良県桜井市桜井 281-11



産官学による地域活性化

地域金融機関として、地方自治体をはじめとする各団体と連携して県内各地で地域活性化に取り組んでいる。桜井市における地域一体となったまちづくり、三郷町における温泉施設の整備による観光活性化、宇陀市における産官学連携による地域特産品の創出等さまざまな取り組み実績があり、活動の輪が広がっている。最近では、地元サッカーチームの新拠点プロジェクトに参画し、資金面のみならずプロジェクトを全面的に支援し、スポーツ振興・スポーツツーリズムを通じた地域の活性化に取り組んでいる。

チャレンジ企業支援隊

賞 第1回優秀賞

奈良市中町 5142-10

NPO法人



地元の中小・ベンチャー企業等のマネジメントの課題を企業OBが支援

中小・ベンチャー企業の支援を通じて、地域経済の活性化と発展に貢献しようと企業OBが中心になって立ち上げ、約20年が経過した。令和2年初頭からのコロナ禍で、活動が難しくなって来たが、ご支援先のご理解も得ながら、活動に取り組んでいる。最近の主な支援内容は（1）経営人材育成のための塾活動、（2）企業によるまちづくり協議会の事務局担当、（3）福祉事業所の支援（マネジメント・工賃アップ等）、4）マナー研修（企業・自治体等）多岐に亘っている。

きみかけの森

賞 第6回ブロック賞（近畿）

NPO法人

奈良市都祁馬場町 566



山林に広場を整備、音楽会など交流を進める

奈良市の北東部大和高原、都祁地域を拠点に豊かな自然環境と地域の文化に触れながら農山村と都市との交流を図り、耕作放棄地や荒れた山林を蘇らせ、その過程を通し、子どもや障がいを持つ人々に生きる力と希望を与えることを目指す。特産品をつくり販売、独自ブランドの開発に力を入れる。山林の谷間にステージを設けた「森のフェスタ」での会員らのコーラス披露、子ども向けの木工教室も。フェスタでの高校生の発表や、農業科で飼育している動物との触れ合いも予定している。

竹茗堂 左文

賞 第4回優秀賞

奈良県生駒市高山町 6439-3



茶道に欠かせない茶釜を伝統技法でつくる

茶道において抹茶をたてるのに使う茶道具の一つである、茶釜づくりの老舗。茶釜は湯を加えた抹茶を茶碗の中で振り、お茶を泡立てる道具で、繊維が細く、強くてよくなる竹を用い作られている。非常に安価な中国製のものが大量輸入されていた時代もあったが、日本産の竹にこだわり、伝統的な技法を守ってきた。市内の奈良先端科学技術大学院大と竹の共同研究を行っている。

奈良まほろばソムリエの会

賞 第7回優秀賞

NPO法人

奈良市橋本町 3-1 BONCHI 内



奈良に精通し歴史・文化・観光の振興を図る

奈良を愛する会員が歴史・文化・観光に関する知識・経験を活かし、ガイドや講演、文化財調査など、さまざまな社会貢献活動を行う団体。会員のほとんどが奈良のご当地検定「奈良まほろばソムリエ検定」（奈良商工会議所主催）の最上級資格「奈良まほろばソムリエ」の有資格者。2019年には寺院の情報をコンパクトにまとめた「奈良百寺巡礼」を出版。21年には奈良県内で詠まれた歌を紹介する「奈良万葉の旅百首」を出版した。（設立10周年記念出版）

奈良無想窯

（受賞当時：奈良無双窯）

賞 第5回優秀賞

奈良県宇陀市室生田口元角川 394



地元の鉄分の多い土にほれ込み、窯を開く

室生寺などがある旧室生村（現宇陀市）に1993年に移住し、茶碗、花器といった焼き物の創作活動に取り組む。ここで採れる鉄分の多い土にほれ込んだことが移り住むきっかけとなった。作風は奇をてらうことなく日常使いにこだわり、使えば使うほど心地よい風合いが出るという。県内外のギャラリーや百貨店で展示会を開催し、人気を博している。地元の小、中学生らを工房に招き、陶芸体験教室を開くなど、地域活動にも積極的に取り組む。宇陀市のふるさと納税に返礼品として参加している。

奈良地域デザイン研究所

賞 第12回優秀賞

一般社団法人

奈良市北登美ヶ丘 2-10-29



市民や研究者、行政・企業つなげる「地域のリーダー」を育成

奈良地域デザイン研究所は、「地域デザイン」について、地域が抱える様々な課題を、そこに住み関係する人たちが地域の実情を把握し、自らが課題を克服しデザインすることを目的としている。多くの市民と共に考え活動し、今ある社会がさらに良くなるように、継続して実行できる持続性のある仕組みを、作ることを目指し活動している。設立以降7年でマスコミへは81件掲載された。奈良での活動も認知され、社会貢献できるようになった。

南都銀行

賞 第8回優秀賞

株式会社

奈良市橋本町 16



地銀として観光業をはじめ地域産業活性化に努める

80年以上の歴史を持つ銀行で、奈良県に本店を構える唯一の地方銀行。創業支援や企業誘致、観光業をはじめ地域産業の活性化に努めている。21年4月には、地域活性化事業会社「奈良みらいデザイン株式会社」を設立し、銀行業務の枠に捉われない事業展開により、地域課題の事業化による解決に取り組んでいる。同年7月に開設した奈良専門オンラインショップ「ならわし」では、県内の特色ある産品約200品目を販売。地域の魅力を全国に発信することで「奈良に訪れたいくなる仕組み」づくりに取り組んでいる。

奈良新しい学び旅推進協議会

賞 第13回優秀賞

奈良市東紀寺町 2-10-1



歴史や文化が教材、修学旅行生らに深い学びを提供

奈良は、1300年以上の歴史の積み重ねの中で、「世界遺産」「伝統文化」「自然環境」といった、コト・モノと仏教文化に基づく精神性が深く結びついた世界的にも珍しい場所です。奈良新しい学び旅推進協議会は、それを持続可能な社会づくりを学ぶ学習教材として捉え、奈良教育大学を中核に学習プログラムを開発し、修学旅行生 / 校外学習生 / 企業研修者に「主体的・対話的で深い学び」を提供しています。

奈良の食文化研究会

賞 第9回優秀賞

NPO法人

奈良市高畑町 1116-4 イトーピア奈良高畑町 408



奈良の郷土料理や地元食材を研究、県内外に発信

歴史文化が深く「和食の発祥の地」とも言える奈良の食文化を研究し、県内外に発信している。奈良の食は「奈良にうまいものなし」とまで言われ、本来のおいしさがまだまだ知られていない。郷土料理の発掘と研究、地域の料理講習、食文化に関する講演会、食育シンポジウム、食文化に関する催しや、PRイベントへの参加などに取り組んでいる。奈良新聞に月1回、地域の食文化について取り上げたコラムを掲載しており、それらをまとめた本をこれまでに2冊出版した。

秋津野

賞 第2回ブロック賞（近畿） 農業法人株式会社
和歌山県田辺市上秋津 4558-8



かんぎつのまちで廃校活用しグリーンツーリズム

農家や住民ら500人近くが出資して設立した。特産のかんぎつ類を中心にソーシャルビジネスを進める。廃校を利用した体験型グリーンツーリズム施設は、独立した直売所と合わせ、年間計12万人を集める。農業体験などもでき県外から訪れる人も多く、地域経済を支える柱に育ってきた。大学や行政、さらには情報通信技術（ICT）企業と連携。人材育成や高齢化、交通インフラなど地域の問題を考える場づくりを進める。小水力発電、農業法人の確立など取り組みは幅広い。

日高川漁業協同組合

（受賞当時：日高川漁業協同組合日高川あゆ種苗センター）

賞 第3回優秀賞
和歌山県日高川町松瀬 310



アユやアマゴの種苗を供給し、和風おかず商品化

1951年設立の漁協が、県内全域にアユとアマゴの種苗を供給している。地元の特産品にしようと、アユとアマゴの一夜干しの生産を始めた。観光客らに支持され、売り上げが伸びてきたが、製造現場の通年での雇用は難しかった。このため、常温で長期保存できるレトルトパックの和風おかずの開発に乗り出し、甘露煮や塩焼きなどの商品化につなげた。地域の販売所や旅館などで販売し、地元の雇用拡大に貢献している。

和歌山

- 色川地域振興推進委員会
- 秋津野
- 日高川漁業協同組合
- 黒江の町並みを活かした景観づくり協定
- 岩倉流泳法保存会
- 紀州農レンジャー
- 串本町トルコ文化協会
- 玉津島保存会
- 白浜レスキューネットワーク
- ヴィダ・リブレ
- 和歌祭保存会



色川地域振興推進委員会

賞 第1回特別賞
和歌山県那智勝浦町大野 2228-1



山村のありのまま伝え定住体験、移住者を迎える

住民らが移住者の受け入れ組織を立ち上げ、地道に活動を展開。移住者は約320人の住民の半数を超えた。早くから集落消滅の危機に向き合い、年1、2家族ずつ移住者を積み上げてきた。新しい住民は農林業に加え、民泊など起業に取り組む。路線バスは少なくとも小さな店しかない、空き家に住むには修理が必要などありのままを伝え、定住体験などを通じ、抱える課題とともに考える仲間として移住者を迎えてきた。*移住2世、が後を継ぎ、*3世、が生まれる家も出始めている。

紀州農レンジャー

賞 第7回優秀賞

和歌山県紀の川市上野 92-14



無農薬・有機栽培の高付加価値農業に取り組む

レッドにピンク、深緑にブラウン…。それぞれが自分のカラーを持ち、未来の地球を守る正義の味方、それが紀州農レンジャーだ。無農薬・有機栽培の高付加価値の農業を行う。中には、蜂を使ってカメムシを駆除する天敵農法など先進的な農業に挑戦する人も。ブランド野菜に取り組み、「レンジャー野菜」と名付けて親しんでもらう。30代が中心となり、農業を襲う高齢化・過疎化とも戦っている。地域のイベントや、子どもたちへの食育にも積極的に取り組む。

黒江の町並みを活かした景観づくり協定 (黒江ジャパン)

賞 第4回優秀賞

和歌山県海南市船尾 222



町家を整備し漆器のまちらしい外観を次代へ

英語で「ジャパン」と呼ばれる漆器。黒江地区は日本の四大漆器産地の一つとされ、歴史的な町並みが残る。しかし空き家や空き地が増え始めたことで、危機感を持った地元住民が立ち上がり「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」を地区内で結んだ。略称は「黒江ジャパン」。地区外のサポーターも加わり、コンサートやクラシックスポーツカー関連などのイベント活動を展開。古民家を利用したレストハウスづくりの取り組みも始めた。

串本町トルコ文化協会

賞 第8回優秀賞

和歌山県串本町



トルコとの友好回り舞踊や料理などの文化伝える

串本町は1890年に沿岸で起きたトルコの軍艦エルトゥールル号の遭難事故で、地元住民の懸命の救助、介抱により多くの乗員が帰国できたのを機に、トルコとの友好が続く。協会は両国を結んだ真心を次世代につなぐことを目的に設立され、トルコの民族舞踊や料理、手芸、言葉を学んでいる。両国友好のテーマの下、イベント開催時はもちろん、日頃から協会を中心に町民一丸となって盛り上がり、地域の活性化に貢献している。

岩倉流泳法保存会

賞 第5回優秀賞

和歌山市吉田 778



武術が起源で、300年余り続く泳法を継承

江戸時代、紀州藩士の岩倉重昌が生み出した岩倉流泳法を継承する。日本水泳連盟が公認する日本泳法の一つだ。保存会のメンバーが伝統泳法の普及活動に取り組んでいる。さまざまな大会にも参加し、技術を磨いている。心身の鍛錬に加え、溺れないことを基本とし、海の波や川の水の流れに応じた泳法がそれぞれ楽しめる。幼稚園児からお年寄りまで計約100人が参加、遠泳や寒中水泳に取り組んでいる。傘下団体にNPO法人WISCがある。

ヴィダ・リブレ

賞 第12回ブロック賞（近畿）
和歌山県日高郡美浜町和田 1131-2

NPO法人



引きこもりの若者を支える仲間づくり。地元就職も応援

2017年に和歌山県美浜町で設立されたNPO法人ヴィダ・リブレは、地元や周辺地域で長期のひきこもり状態にある若者などの社会復帰を支援している。支援で立ち直った人たちの就職先として、人手不足に悩む地元の中小企業に働きかけるなど、理事長を務める精神科医の宮西照夫氏が考案した独自の活動によって、これまで50人以上の社会復帰を実現し、若者の流出などで過疎・高齢化が進む地域の活性化に貢献している。

玉津島保存会

賞 第9回優秀賞
和歌山市関戸 3-5-12



イベントや講座、写真展重ね地元の名勝アピール

和歌山市の南部にある玉津島をはじめとする和歌の浦一帯は、京に住む貴族たちのあこがれの景勝地であり、歌枕ともなっている。伝統ある美しい景観を地元の人たちが誇りにし、いつまでも守っていこうと、清掃活動やイベントの開催など地道な取り組みを続けている。地域の文化財を守る3団体が協力して「NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構」を設立。高校生に間伐や木工体験をしてもらった体験会も開いている。2019年に和歌山市文化奨励賞を受賞。21年には清掃を担当する名勝和歌の浦クリーンアップ隊が国交省に表彰された。

和歌祭保存会

賞 第13回優秀賞
和歌山市和歌浦西 2-1-20



徳川家ゆかりの伝統行事存続、失われた芸能を復活

1985年に設立された和歌祭保存会は、徳川御三家の1つ、紀州徳川家が本拠とした和歌山市で、徳川家ゆかりの伝統行事の和歌祭を存続させる活動を行っている。江戸時代に始まった和歌祭は、多くの人々がさまざまな芸能を披露しながら練り歩くのが特徴だが、存続の危機に陥ったことがあり、保存会では、失われた芸能を復活させるなど、独自の方法によって、ふるさとの誇りとも言える伝統行事を守り続け、地域に貢献している。

白浜レスキューネットワーク

賞 第11回優秀賞
和歌山県白浜町 3137-8



自殺志願者に「いのちの電話」で対応、社会復帰を支援

観光名所として知られる一方、身を投げようとする自決志願者が後を絶たない和歌山県白浜町の断崖「三段壁」に「いのちの電話」を設置し、助けを求めてかけてくる電話に24時間対応している。また、断崖周辺でパトロールなども行って、自決志願者を保護したうえで、その人たちが共同生活を送ったり、職業訓練も兼ねて働いたりする場所も提供し、社会復帰を支援する活動も行っている。

二部地区活性化推進機構

賞 第2回優秀賞

鳥取県伯耆町二部 1562-1



宿場町の歴史を案内、ハロウィーンイベントも

中山間地の二部地区はかつて、出雲街道の宿場町として栄えた歴史を持つ。しかし、高齢化や人口減が進み、住民はまちの活力を取り戻そうと立ち上がった。米子市の青果市場と連携した野菜の販売開拓を進めるほか、山菜や農産物などを味わう会を開催。街道の歴史ガイドも引き受ける。10月のハロウィーンの時期には、子どもたちが地元産のカボチャをくり抜き、中にろうそくを入れ、路上に並べるイベントを開いている。

智頭の森こそだち舎

(受賞当時：智頭町森のようちえん まるたんぼう)

賞 第3回優秀賞

鳥取県智頭町大屋 407

NPO法人



自然の中で「見守る保育」発展、移住者呼び込む

「幼い頃から自然と触れ合う機会を与え、自然の中で遊びたい」という親の思いから創設。「まるたんぼう」「すぎぼっくり」の二つの森のようちえんを運営している。町内の森を遊び場とし、子どもが自然の中で主体的に過ごすことを尊重、「見守る保育」を積極的に進めている。卒園後の居場所および多様な学びの場として「新田サドベリースクール」を開校した。森の子育てにひかれて移住する人は200人を超え、暮らし始めるためのシェアハウスも開設。町内に発達した助産院との連携にも取り組む。

鳥取

- 若桜鉄道 隼駅を守る会
- 二部地区活性化推進機構
- 智頭の森こそだち舎
- 鳴り石の浜プロジェクト
- 伯耆国たたら顕彰会
- 鳥の劇場
- 白鳳の郷地域活性化協議会
- 元気みなと
- 三朝温泉かじか蛙保存研究会
- シーセブンハヤブサ
- 里山生物多様性プロジェクト
- 未来



若桜鉄道 隼駅を守る会

賞 第1回優秀賞

鳥取県八頭郡八頭町見槻中 180-3



大型バイクによるまちづくりで三セク存続目指す

第三セクター・若桜鉄道の存続と周辺地域の活性化を目的に地元住民らが結成した。隼駅と同名であるスズキの大型バイク「ハヤブサ」にちなんで「バイクのまちづくり」を掲げ、環境整備に取り組む。毎年8月、約2500台のハヤブサライダーたちが全国から集結し、地元住民と交流する「隼駅まつり」を開催している。また若者たちがカフェレストランや、古民家を活用したゲストハウスをオープン、ライダー、鉄道ファン、住民の絆を強めている。

鳥の劇場

賞 第6回ブロック賞（中国・四国）・第11回優秀賞
鳥取市鹿野町鹿野 1812-1 NPO法人



廃校の劇場で演劇を上演、文化拠点に成長

鳥の劇場は、2006年以来、鳥取市鹿野町で使われなくなった幼稚園・小学校を劇場に造り変え、演劇の拠点としている。毎年9月に実施する「鳥の演劇祭」、海外の劇団やアーティストとの共同作業、障害者芸術への支援など活動は幅広い。近隣の学校では演劇を通じたワークショップの授業を実施、子どもたちに表現力や多様なものの考え方を教えている。地域に根差しつつ、地域の枠を超えた活動を展開し、演劇でしかない形で地域に貢献することを目指している。

鳴り石の浜プロジェクト

賞 第4回優秀賞
鳥取県東伯郡琴浦町赤碓1927-1赤碓ダイハツ有限会社内



波で石が鳴る海岸を再発見、観光名所に育てる

高規格道路が開通して琴浦町の交通量が激減、「このままでは寂しい町になる」と危機感を持った地元有志が結成した。あまり知られていなかった「鳴り石の浜」と呼ばれる自然の海岸に着目。つるつるした丸い安山岩の石が積み重なった全国でも珍しい海岸で、打ち寄せる波で石が「カラコロカラコロ」と音を響かせる。いい音が「よく鳴る」ことから、物事が「良くなる」パワースポットとして発信したところ、全国から受験生や観光客が訪れるようになった。祭りを開催したり、海岸にひまわりを植えたりする活動にも取り組んでいる。

白鳳の郷地域活性化協議会

賞 第7回優秀賞
鳥取県東伯郡琴浦町槻下 975



歴史遺産を掘り起こし、住民の連帯感創出

鳥取県のほぼ真ん中、琴浦町で2009年、地域の有志が立ち上げた。国の特別史跡など地域内の歴史遺産の掘り起こしや、環境美化、地域住民の連帯感創出の場づくりに、精力的に活動を展開。耕作放棄地にモチ米やソバを栽培・販売する。地元特産の「鳥取県芝」発祥の地であることを知らせるため、芝生産をしている畑でプレーするグラウンド・ゴルフ大会を毎年実施。過度に補助金に頼らない財政モデルも確立、薄れていた地域の連帯感を取り戻した。

伯耆国たたら顕彰会

賞 第5回優秀賞
鳥取県日野町根雨 616



地元で栄えた「たたら製鉄」を継承、発信

日野町、日南町を中心に栄えた「たたら製鉄」の歴史が消えてゆくことに危機感を持った有志が集まり、立ち上げた。製鉄と当時の庶民の生活をわかりやすく伝えようと、鳥取県米子市在住の作家・松本薫さんが執筆した、小説「TATARA」を出版したほか、展示施設「たたら楽校」を開設した。移動できる「ミニたたら」を使い砂鉄から鉄を生成する実演会や、関係地の専門家が集まる「たたらフォーラム」の開催を通じて、地域の歴史資源の文化的価値を積極的に発信している。

シーセブンハヤブサ

賞 第10回ブロック賞（中国・四国） 株式会社
鳥取県八頭町見槻中 154-2



廃校を改修した複合施設を運営、人材育成拠点に

無人駅近くの小学校だった建物を、シェアオフィス、カフェ、ショップが入った複合施設「隼 Lab. (ラボ)」としてオープンした。起業を支援し、投資、IT企業、地域商社が拠点を構える。オープンエリアでは、若い母親や高齢者を巻き込んだイベントがめじろ押しだ。「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」を理念とし、起業家育成講座を通じて人材育成拠点を目指す。地域に根付いた活動を展開、過疎の町に年間4万人以上が訪れる拠点となった。

元気みなと

賞 第8回優秀賞 NPO法人
鳥取県境港市中町 26



魚のオブジェで海岸通りの景観形成、にぎわい創出

境港市のみなとさかい交流館から海とくらしの史料館までの全長2.5キロの海岸通り（旧元気みなと商店街を含む）を「おさかなロード」と命名、境漁港にゆかりのある「おさかなオブジェ」を複数体設置し、2017年「港湾協力団体」に指定された。ご当地グルメの開発や食のイベントに参加、実施している。また地元出身者の顕彰事業なども開催し、海岸通りの景観形成と、地元・境港のにぎわいの創出を図る。

里山生物多様性プロジェクト

賞 第12回優秀賞 一般社団法人
鳥取県西伯郡南部町鶴田 461 日本インテライツ内



オオサンショウウオの町で、若者が環境学ぶ場づくり

生物多様性の保全上重要な「里地里山」に全域が指定され、オオサンショウウオやブッポウソウが生息する鳥取県南部町。同町の豊かな自然環境の継承を目指す「里山生物多様性プロジェクト」は、観光と結びついた新たな環境保全のあり方を提案する。荒れ地となった水田や農地を活用して、採取目的ではなく保全活動が体験できるフィールドワーク会場をつくり、「里地里山」ブランドによる中山間地域の活性化を目指す。

三朝温泉かじか蛙保存研究会

賞 第9回優秀賞
鳥取県三朝町大瀬 1203-1 三朝郵便局内



美声のカジカガエルを守ろうと川や森を整備

三朝温泉では初夏になると、川辺からカジカガエルの美しい鳴き声が響く。清流を守っているのが、かじか蛙保存研究会だ。約40年前に「かじかの声を聞く会」として発足したが、カジカガエルが減り始め、鑑賞会から保護活動に力点を移した。清流の源流域に広葉樹を植樹して環境保全を図っている。豊かな自然の営みを循環させてカジカガエルの楽園を守り抜いた。毎年6月には川辺に席を設け、美声に耳を傾ける会を開いている。

島根

- 谷自治振興会
- プロジェクトゆうあい
- てごねっと石見
- 松江ツーリズム研究会
- 神門通り甦りの会
- おっちラボ
- サウンドファイブ夢の音会
- 地域・教育魅力化プラットフォーム
- 石見銀山ガイドの会
- 島根半島四十二浦巡り再発見研究会
- 江の川鉄道



未来

賞 第13回優秀賞

認定NPO法人

鳥取県倉吉市東仲町 2571



ウォーキング大会で国際交流、次世代の郷土愛育む

人口最少県の鳥取県で、「未来」に向かって歩を進める認定NPO法人。風光明媚な景色が広がるウォーキング大会の開催を通して健康作りを促進しつつ、日本海の対岸に位置する韓国のウォーキング大会実行委員会との連携も進めるなど国際交流にも取り組む。先人の横綱力士を顕彰する施設も整えることで、次世代の郷土愛を育む。観光資源のフィギュアやアニメを呼び水に関係人口の拡大にも余念がない。

谷自治振興会

賞 第2回優秀賞

島根県飯南町井戸谷 478-1 谷公民館



予約制バスや雪かき活動展開、高齢化集落を維持

山々に囲まれ、高齢化の影響が深刻な地域で住民の互助機能の低下を補うため、全世帯をメンバーに組織した。有志が運転手を買って出て、高齢者らの買い物や医療機関への足となる送迎バス「せせらぎ号」を運行。雪に閉ざされる冬季には、高齢者世帯の雪かき代行も実施し、住民による互助の仕組みをつくっている。廃校となった小学校を改修し「谷笑楽校」をオープン。地域の交流拠点として神楽を舞うイベントを年2回開催したり、定期的にカフェを開いたり、機能している。

松江ツーリズム研究会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

松江市殿町 43 カラコ工房 3階



島根の魅力発信、観光振興につなげる

観光振興を目的に結成した島根県内初のNPO法人として2005年に発足。小泉八雲の著作「怪談」ゆかりの地など、地域の観光資源を生かした着地型旅行を企画、実施する一方、松江城や小泉八雲記念館などの指定管理も担ってきた。18年からは日本銀行旧松江支店の建物「カラコ工房」の指定管理者として同施設の運営に専念。18年末までの剰余金で、非営利型の一般財団法人松江ツーリズム研究会基金を設立し、島根の観光振興に貢献した人々を表彰する事業（松江ツーリズム研究会観光大賞、副賞金100万円）を展開している。

プロジェクトゆうあい

賞 第4回ブロック賞（中国・四国）

NPO法人

松江市北堀町 35-14



情報機器を駆使して障害者らに優しいまちに

障害の有無にかかわらず、誰もが自立して暮らせる地域づくりが目標。約120人のスタッフのうち半数近くが障害者だ。視覚障害者向けの音声案内装置や移動支援アプリの開発、車いす利用者向けに歩道の段差や多目的トイレなどを記したバリアフリーマップ作成などの事業を展開。就労訓練の一環として古本のネット販売や、パソコンのリサイクルにも取り組む。障害がある子どもの放課後等デイサービスで学習や生活を指導。行政だけでなく民間も一緒に社会を変えていこうと、さまざまな団体と連携を進める。

神門通り甦りの会

賞 第7回優秀賞

島根県出雲市塩冶有原町 1-42-202



出雲大社の門前町を復興

全国屈指の参拝者を誇る出雲大社。2013年の遷宮が終わり、より自立した街づくりを目指す。衰退していた門前町「神門通り」を復興するため、大社地区以外の「よそ者」が立ち上がり、神門通り甦りの会を結成。観光案内、空き店舗の活用促進を進め、新規出店を促した。「縁結び」をテーマに、歩ける門前町を行政や住民と一緒に取り戻した。出雲大社はうさぎと縁があり、神社とともに「うさぎプロジェクト」を企画、来客に通りを回遊してもらおう企画に今後取り組む。

てごねっと石見

賞 第5回大賞

NPO法人

島根県江津市江津町 1517-35



江津市を拠点に創業を目指す人々を支援

経営者、市職員、商店会マネージャーらが集まり、創業を目指す若者らを支援し定住につなげようと立ち上げた。てごねっとは地元の方で「手伝い」を意味する「てご」とネットワークを合わせた造語。地域資源を活用した起業を後押ししようと江津市が始めた「ビジネスプランコンテスト」の企画、運営にあたる。また県内外で市民活動に参加している人や移住者らが学び合う「GO ▶つくる大学」、駅前の交流施設「バレットごうつ」の運営、地域ぐるみで小中高校生のキャリア教育を進める事業などに幅広く取り組む。

地域・教育魅力化プラットフォーム

賞 第10回記念賞

一般財団法人

松江市母衣町 83-5 母衣町ビル 3階



島留学を拡大、都会の高校生を県全域で受け入れ

隠岐の高校に全国から生徒を呼び込む取り組みを「地域みらい留学」として島根県全域や全国に拡大するため、2017年に一般財団法人を設立した。地方と都市の生徒が刺激し合う濃密な3年間に生徒の意欲を育み、ひいては地域の活性化につなげることを目指す。若者流出が深刻なブータンでも活動する。コロナ禍ではオンラインを活用、週末にどこにいても参加できる地域留学説明会や、高校生らが社会人と語りながら自分たちの未来を考える勉強会を開催している。

おっちラボ

賞 第8回準大賞

NPO法人

島根県雲南市木次町木次 29 三日市ラボ



山あいの地で人材育成、ユニークなビジネス創造

人口減少や高齢化が進む山あいの地で、地域づくりの担い手育成を続ける。市が始めた人材育成塾の運営を受託、多彩な講師を招き開業も支援、県内外から集まった塾生のプラン実現を目指す。地元素材を生かしたカフェや、お年寄り向けに買い物と組み合わせた運動指導などユニークなビジネスも。Uターンした看護師らが始めた訪問看護ステーションは会社化し軌道に乗った。アイデアを形にする仕掛けづくりを広げる。

石見銀山ガイドの会

賞 第11回優秀賞

島根県大田市大森町イ 824-3



世界遺産・石見銀山を案内、歴史や住民の姿を発信

江戸期に日本経済を支えた島根県大田市の世界遺産・石見銀山遺跡で観光ガイドに従事し20年の節目を迎えた。累計案内者数は63万人に達し、一見して往時の繁栄を伝える建造物がなく「価値が分かりにくい」とも評される鉱山の情報発信に努める。単なる「観光情報」にとどまらず、遺跡に溶け込むように生活する住民の暮らしぶりの紹介にも注力。環境と共生する地域の歴史、魅力を伝え、関係人口やリピーターの確保にも腐心する。

サウンドファイブ夢の音会

賞 第9回優秀賞

島根県浜田市金城町久佐ハ 295-13



バンド活動が発展、拠点を整備し都市と交流

バンド活動などを通じた地域づくりから取り組みを開始。結成50周年を超え、会員は20~60代の約40人。拠点として整備した「夢の音村」や「森の公民館」で都市部住民との交流を図っている。劇作家の生誕地であることを切り口に、森の公民館周辺から「島村抱月生誕地顕彰の杜」までの県道約11キロの沿線で民泊受け入れ農家30軒を目指すなど、グリーンツーリズム推進に力を入れる。山菜やイノシシなど地域の食材を使った「ばあば級グルメ」レストランも企画している。

岡山

- 倉敷町家トラスト
- 勝山のお雛まつり実行委員会
- かななぎ
- 西粟倉・森の学校
- 矢掛ハッカ普及会
- かさおか島づくり海社
- てっちりこ
- タブララサ
- UNOICHI 実行委員会
- 川辺復興プロジェクトあるく
- KOTOMO 基金
- ハーモニーネット未来
- 日生町漁業協同組合によるアマモ再生プロジェクト



倉敷町家トラスト

賞 第1回準大賞
岡山県倉敷市本町 11-18

NPO法人



江戸～昭和の町家を生かし、SDGs達成目指す

江戸から昭和初期の古い町家が残る美しいまちなみを守ろうと、市民らが立ち上がった。古い空き家を町家生活が体験できる宿泊施設などに改装。かばん店や帽子店などの出店も仲介し、にぎわい創出につなげる。高校生と空き家再生も行う。周辺地域の団体とネットワークを構築して始めた「町家 de クラス」というイベントでは、お茶や日本画の教室や様々な暮らしの体験プログラムを実施し、保存の意義を理解してもらい運動を展開することで町家の良さを知ってもらい、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を目指す。

島根半島四十二浦巡り再発見研究会

賞 第12回優秀賞

島根県出雲市小境町 803 一畑寺内



東西に長い半島の神話、祭礼、習俗、民謡を発信

日本海に面し、東は民謡「関の五本松」、国引き神話を今に伝える美保関から、西は「夕日の祭り」で知られる日御碕まで、東西70キロに及ぶ島根半島に江戸時代から伝わる信仰習俗「島根半島四十二浦巡り」の価値を現代に紹介している。巡礼地に残る祭礼や習俗、暮らしぶりなどの民俗文化を機関誌などで定期的に発信。ツーリズムや講演会などを開催し、地域振興、観光振興、地元住民の誇りの醸成に寄与している。

江の川鉄道

賞 第13回優秀賞
島根県邑南町宇都井 1041-1

特定非営利活動法人



廃線の駅舎や線路を生かしてロッコ運行、観光客呼ぶ

島根県邑南町のNPO法人江の川鉄道が、廃線となったJR三江線の宇都井、口羽両駅の駅舎や線路などの資産を観光資源として活用する「三江線鉄道公園」を運営している。休日にはトロッコを運行するほか、毎秋には宇都井駅一体をライトアップするINAKAイルミという取り組みを実施。人口減少が著しい中山間地域の邑南町に町外から多くの関係人口を呼び込んでいる。

西栗倉・森の学校

賞 第4回準大賞

株式会社

岡山県西栗倉村長尾 461-1



95%が森林の村で地域資源にさらなる価値

面積の95%が森林で「百年の森林事業」に取り組み岡山県西栗倉村に、2009年10月、設立された。自社工場で丸太を製材する工程から、一貫した生産体制でプロ向けの建材・DIYユーザー向けオリジナル商品などの生産・販売をしている。また周辺地域とのネットワークを活かした原木や製品の流通、大型建築物への木材供給など地域林業の発展・地域資源の価値を最大限に引き出すことを目的に事業を行っている。

勝山のお雛まつり実行委員会

賞 第2回優秀賞

岡山県真庭市勝山 70-3 真庭商工会勝山支所



城下町の軒先に江戸時代から現代までのひな人形

岡山県北部に位置する真庭市の中心地域・勝山地区は城下町として栄え、情緒ある民家や商家のまち並みが保存されている。この景観を生かして毎年3月の桃の節句に、それぞれの家が工夫を凝らし、おひなさまを飾るイベントを開催している。勝山は木材の町なので木びな（木で作る創作びな）を観光客に体験制作してもらいイベントなどを行っている。家々の軒先には、江戸時代から現代までのさまざまなおひなさまが展示され、全国各地から観光客を集めている。

矢掛ハッカ普及会

賞 第5回優秀賞

岡山県矢掛町矢掛 3042-1 矢掛放送内



地元で栽培されていたニホンハッカが復活

矢掛町をはじめ、岡山県南部地域はかつてニホンハッカの一大産地だったが廃れてしまった。2010年に地元の河川敷に自生しているのを確認し、復活。「真美緑」「博美人」「秀美」として商標登録し、ハッカ油を抽出する蒸留所も開設した。ジェラート、あめ、お茶、焼酎などの商品化を進める。ハッカが利いたカクテル「モヒート」も人気を集め、県内や首都圏の飲食店などで楽しむことができる。日本のハッカ栽培の発祥地とされる岡山から再び、全国ブランドを目指す。

かんなぎ

(受賞当時：吉備野工房ちみち)

賞 第3回優秀賞

NPO法人

岡山市北区加茂 611-1



温故知新と刷新！地域に根差した幸せづくり

吉備の自然・歴史・文化が育んだ精神性を継承し、備中神楽をはじめ、現存する地域資源を共に創意工夫して魅力を高め、市民が地域に誇りや喜びを感じて暮らせるまちづくりの推進、文化・産業の振興に寄与することを目的とし、ゲストハウス総社かぐらやの運営、レンタルスペースやキッチンで野花や発酵、薬膳の知識などを楽しく学び共有できる場づくり、幸せの鍵である隣人との繋がり、コミュニティづくりを行っている。

タブララサ

賞 第8回優秀賞
岡山市北区西古松 2-4-7

NPO法人



若者のエコの要素導入、岡山が“すき！”な気持ち高める

活動の原点は岡山市中心を流れる川沿いの西川緑道公園。こんなことがしたいを大切に、まちの人、地域の商店とのつながりを深めながら、リサイクルキャンドルを使った西川キャンドルナイトを毎年開催している。結婚式場で使ったキャンドルをリサイクルすることで環境配慮の気持ちとともに、幸せをシェアするHappyShareCandle事業、楽しい思い出の場であるイベントから出るごみの削減に取り組む“エコスマ”(エコをスマートに)など、中山間地域にも場を広げながら活動が続けている。

かさおか島づくり海社

賞 第6回大賞
岡山県笠岡市北木島町 9768-29

NPO法人



七つの島の住民生活を全面支援、特産品開発も

人口流出と高齢化に直面する岡山県笠岡市の七つの島で住民有志が立ち上がった。介護事業、買い物支援などを行政と連携し、全面的に展開する。住民のつながりを深めるため毎年9月、「島の大会」を開催、島外に住む出身者も集まる。瀬戸内の魚から三宅島の火山灰を使って余分な水分や臭みを除去した干物「魚々干(とっとぼし)」など特産品開発にも力を入れる。

UNOICHI 実行委員会

賞 第9回ブロック賞(中国・四国)
岡山県玉野市



瀬戸内海の魅力発信、市民、移住者、学生ら参加

宇野港を拠点に瀬戸内海の魅力を発信しようと2014年から「UNOICHI 海が見える港のマルシェ」を開催してきた。玉野市民、移住者、大学生らが参加し、高校生もボランティアとして協力。18年には実行委員会の高校生がプラスチックゴミの削減などによる海洋環境保全を目指す「SOSプロジェクト」を立ち上げた。コロナ禍でも清掃活動、エコグッズの企画・販売などできることに取り組む。20年秋には「瀬戸内海 海ゴミフォーラム in おかやま」に代表が出席、思いを語った。

てっちりこ

賞 第7回優秀賞
岡山県鏡野町河内 60-8 みずの郷奥津湖内

NPO法人



古くから栽培されるトウガラシ商品を開発

地元で古くから栽培されていたトウガラシを「姫とうがらし」と名付けてドレッシングや醤油などの商品開発に取り組み、食を切り口にした地域おこしで注目されている。栽培のしやすさ、鳥獣害の少なさも特長。ホームページでの通信販売や、地元特産のゆずや大葉・山椒などのコミュニティービジネスも展開している。6次産業化を通じて中山間地域でのビジネスの可能性を切り開くとともに、過疎・高齢化で衰退しつつある農業の活性化にも一役買っている。

ハーモニーネット未来

賞 第12回選考委員長賞

認定NPO法人

岡山県笠岡市笠岡 5909



共生社会をめざし子どもから高齢者まで安心して自分らしく

岡山県西部の井笠地方を拠点に、親子から高齢者、障がい者、若者、今を生きるすべての人が安心して生活できる社会をめざした事業を展開している。多くの居場所の提供や、困った時はお互い様の気持ちで行う地域力を活用した互助システムの生活支援。長期化するコロナ禍の今、フードバンクを活用した食料支援や、寄付していただいた家を活用した共同住宅の運営など。市民参加で設置した太陽光発電の収益を活用した「おひさま基金」等、先駆的な取り組みを行った。

川辺復興プロジェクトあるく

賞 第10回優秀賞

岡山県倉敷市真備町川辺



豪雨被害を機に、母親らが生活支援や地域づくり

西日本豪雨で被災した倉敷市真備町東部の川辺地区で、子育て世代の母親らを中心に結成した。当初はプレハブの拠点を開設し、住民への支援物資配布や地域外のみなし仮設住宅に出た人たちとのつながりづくりなどを実施。その後、各家庭が分散避難する「マイ避難先」の呼びかけやスムーズな避難のためのツール「黄色いタスキ」導入など、安心して暮らすための防災の取り組みも始めた。豪雨災害の経験をもとに作成した「防災おやこ手帳」は第2弾も発行し2022年8月現在で合計4万2000冊を全国に配布。地域を支える核になっている。

日生町漁業協同組合によるアマモ再生プロジェクト

賞 第13回ブロック賞（中国・四国）

岡山県備前市日生町日生 801-4



1985年から魚のすみかとなるアマモ場を再生

日生町漁協は1985年から全国に先駆けてアマモ場の再生に取り組み、当時12畝に激減していたアマモ場を現在250畝にまで回復させた。今ではモエビやヒイラギが戻ってきたという。「里海づくり」を推進するため地元の小中高生を巻き込んで種をまくなど環境学習の場にもなっている。近年では海洋酸性化や貧栄養化、海ごみ問題の調査研究にも積極的に協力し、さらには「里山づくり」との連携も強化している。

KOTOMO 基金

(受賞当時：おかやま親子応援プロジェクト)

賞 第11回ブロック賞（中国・四国）

岡山市北区表町1-4-64 上之町ビル3階 岡山NPOセンター内



コロナ禍での子どもの孤立や学習遅れに連携して対応

コロナ禍で親子に起きた孤立や子どもの学習の遅れ、生活困窮、虐待、精神不安などの諸課題に対応しようと、岡山県内の子どもや親子に関わる32の民間団体・個人が結集した。「育ちを止めるな!」を合い言葉に、オンラインでの各種体験プログラム配信や小中学生への学習支援、困窮家庭への日用品や学習用具の提供などの支援に連携して取り組んでいる。さらに自治体や社会福祉協議会と協働したメールによる生活情報提供などにも活動を広げている。2021年、活動を「KOTOMO 基金（ことも基金）」へ発展。名称及び運営方法を変更した。

ブルーリバー

賞 第2回大賞

有限会社

広島県三次市青河町 582-1



住民が会社設立、割安の住宅提供し若者定住促す

廃止の危機に直面した地元の小学校を立て直そうと住民が出資して有限会社を設立、移住者を受け入れる住宅の建設を始めた。新築・改装を合わせて13棟の住宅は満室状態が続き、小学校の児童も維持できる見通しが立った。経営を安定化させようと太陽光発電の売電事業も開始。地区内の荒れ地を購入、住民が出資して運営するレストランができ、都市と住民の交流の場になっている。単なる人口の取り合いにならないよう、周辺地域との広域連携を模索する。

自治組織「共和の郷・おだ」

(受賞当時：共和の郷・おだ)

賞 第3回特別賞

広島県東広島市河内町小田 2182



住民が「小さな役場」をつくり農業にも取り組む

住民で「小さな役場」をつくり分担して専門部会を組織、人口減や高齢化に挑む。農村振興部が中心となって調査し「10年後には農業をやめているかもしれない」と心配する声を受け、農事組合法人が設立され、大型機械を入れるなど効率化や品質向上に取り組んだ。また地域の基本目標を支える7本の柱と77項目の地域ビジョンを設定し、ビジョンの具現化に向け取り組んでいる。一方で進む高齢化に対し、アンケートに基づいて部会や役員体制を再編、持続可能な在り方を探る。若い世代の呼び込みや空き家対策にも力を入れる考えだ。

広島

- 工房おのみち帆布
- ブルーリバー
- 自治組織「共和の郷・おだ」
- 広島県立油木高校ナマスプロジェクトチーム
- 西中国山地自然史研究会
- 新建自治会
- 寺領味野里
- 尾道空き家再生プロジェクト
- 川西郷の駅
- 敷信村農吉
- 天領上下まちづくりの会
- 元気むらさくぎ
- 基町プロジェクト



工房おのみち帆布

賞 第1回優秀賞

NPO法人

広島県尾道市土堂 2-1-16



港町ゆかりの帆布で小物・バッグを製造・販売

港町の尾道はかつて、帆船用の布である帆布の製造が盛んだったが、化学繊維など新素材の台頭で廃れていった。市内に唯一残った帆布製造工場に着目し、服飾小物やバッグづくりに乗り出した。2003年にNPO法人化した後、市内の商店街に店舗を構え、年間2万人が訪れる観光スポットに育った。帆布の原料の綿花栽培や、同じ地元の資源でもある柿渋で染めた帆布でバッグや小物を作り、尾道の伝統製品の魅力を発信する。

新建自治会

賞 第6回優秀賞

広島市安佐北区可部東 6-7-39-6



団地住民が防災に ICT 導入、絆深める活動も

2014年の広島土砂災害で被害を受けた新建団地の自治会が、情報通信技術（ICT）を活用し「安心・安全な団地」を目指している。団地住民のほとんどにあたる186世帯、167人が大雨警報などのメール連絡網に登録。住民の安否を双方向で確認できるクラウドシステムを独自に構築し、16年から本格稼働している。避難訓練や雨量の独自観測などを通じ防災力を高める。センサーボックスだけで始められる傾斜地、監視・管理クラウドシステムも危険箇所の傾斜地に設置した。サークル活動で住民の絆を深めている。

寺領味野里

賞 第7回優秀賞

広島県安芸太田町寺領 1668



地元特産の柿でスイーツ開発、世代交代に成功

平均年齢80歳を越すおばあちゃんを中心に運営してきた。2001年に地元特産の祇園坊柿を使ったスイーツ「チョコちゃん」を開発し、生産を続けている。12年、町観光協会と連携し、高付加価値化事業を展開。著名なパティシエの協力で製造工程を改革し、パッケージも刷新。15年には「おみやげグランプリ」で準グランプリを受賞した。世代交代が進み8人のメンバーのうち、以前からは1人だけ。平均年齢は70歳前後に若返り、期待を背負って生産に励んでいる。

広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム

賞 第4回優秀賞

広島県神石高原町油木乙 1965



放棄地活用、特産品目指し高校生がナマズ養殖

中山間地の神石高原町は、高齢化に伴い耕作放棄地が年々増加。放棄地の有効活用と特産品をつくろうと、比較的手間が掛からないナマズ養殖に目を付けた。生徒が代替わりしながら、養殖・加工技術を磨き、地域への普及を図る。全長30～50センチに育ったナマズは、天井や蒲焼きとして学園祭などで振る舞う。月に1回、学校近くの道の駅でナマズ料理を提供。ナマズの燻製加工や、冬の成長をよくするビニールハウスでの飼育、ふんを肥料として同時に水耕栽培するアควaponิกส์への取り組みも始めた。

西中国山地自然史研究会

(受賞当時：芸北せどやま再生会議)

賞 第5回優秀賞

NPO法人

広島県北広島町東八幡原 10119-1



山林所有者が伐採した木を買い取り、加工販売

林業の不振や後継者不足、商店街の不振などの課題を解決しようと住民が立ち上がった。地元の山林所有者が伐採して持ち込む木を買い取り、加工してまきストーブの利用者や、温浴施設に販売する独自の流通システム「せどやま市場」を開いた。エネルギーの地産地消と、荒廃が進む山林の手入れを両立させている。地元の商店だけで使える地域通貨「せどやま券」で木を買い取り、その利益を地域内で循環させることで、地元経済の活性化につなげている。

敷信村農吉

賞 第10回優秀賞

株式会社

広島県庄原市板橋町 1358-1



保育所を住民ら運営。給食に農産物導入し、販売も

人口3万5000人、広島県最北部の庄原市で地域住民の声から生まれた。出生数の減少で統廃合と民間委託の計画が進んでいた地域の保育所を、自分たちで運営するためだ。地域の農産物を給食に取り入れる中、販売にも事業を拡大。中国地方最大の都市、広島市内のデパートやレストランに無農薬、減農薬の農産物を届ける。ネット販売にも力を入れる。農村の特色を生かし、子育て可能な環境と雇用を確保するモデルとして注目されている。

尾道空き家再生プロジェクト

賞 第8回ブロック賞(中国・四国) 認定NPO法人

広島県尾道市三軒家町 3-23



空き家を再生し、新たなまちの魅力を発信

坂と路地のまちに増える空き家。このままでは古い建物や特徴ある景観は失われてしまう。危機感を持った市民が立ち上がり、2008年にNPO法人を設立した。再生を手がけた空き家は20軒以上。カフェやギャラリーなど新たな観光資源になった。市から受託した空き家バンクでは、若者たちの移住を呼び込み、成約は150軒以上に。空き家を改修した宿泊施設を移住者の雇用の場とするなど工夫し、定住に成果を上げている。

天領上下まちづくりの会

(受賞当時：上下まちづくり協議会)

賞 第11回優秀賞

一般社団法人

広島県府中市上下町上下 1006



芝居小屋を保存・活用、白壁の町の魅力を動画で発信

広島県府中市上下町の住民有志たちが、町中心部に残る白壁の町並みを生かしたにぎわいづくりに取り組む。新型コロナウイルス感染拡大によって激減した観光客を取り戻そうと、収束後を見据えて町の観光地や名物を動画で撮影し発信するための準備を進める。中国地方唯一の本格的な芝居小屋「翁座」の保存と観光利用や、町中心部の空き家・空き店舗の活用にも取り組み、コロナ禍における「近場の観光地」として選ばれるまちを目指す。

川西郷の駅

賞 第9回特別賞

株式会社

広島県三次市三若町 2396



住民が株式会社を設立、産直農村コンビニを運営

近くに買い物ができる施設がなくなった三次市川西地区で85%の住民が出資して株式会社を設立。2017年、ファミリーマートと提携し、地元農作物の産直市を兼ねた農村コンビニ「川西郷の駅 いつわの里」を開業した。主婦らがつくる草餅や柏餅は売り切れてしまう人気商品に。うどんなどを食べられる軽食コーナーもあり、住民の交流の場となった。「住みたいと思える町」の拠点に育て、過疎の歯止めを目指している。

山口

- ジブンノオト
- 麦川安全・安心見守り隊
- 防府商工会議所
- 浜崎しっちょる会
- 青海島共和国
- 大道理百笑倶楽部
- 創生工房 仁保ヴィレッジ
- 山口狛犬楽会
- 福川こどもクラブ
- 学食ダイニング グランマ
- うべナチュラルガーデナーズクラブ
- 3in



ジブンノオト

(受賞当時：島スタイル)

賞 第1回優秀賞

株式会社

山口県周防大島町大字神浦 63



100年続くふるさとをつくるキャリア教育

高齢化率日本一を記録した山口県周防大島町に、2004年にUターンした若者が、島おこしの組織を立ち上げ起業支援を始めた。13年に「100年続くふるさとをつくる」を経営理念とした小中高・大学生を対象にキャリア教育の株式会社を創設。周防大島町を拠点に、広島県教委「個別最適な学びに関する実証研究事業」や、岡山県教委「おかやま創生 小中学校パワーアップ事業」等を受託し、教育ビジネスを成長させている。20年には教育オンラインサロン「探究島」を開設し、教育を仕事にする人を育てている。

元気むらさきぎ

賞 第12回ブロック賞(中国・四国)

NPO法人

広島県三次市作木町下作木 1537



住民自ら高齢者の移動支援、存続危機のナシ園継承

広島県三次市作木町で高齢者の移動支援や農地保全、公共施設の指定管理業務を担う。自家用車による有償輸送の許可を国から受けて2011年に始めた「さくぎニコニコ便」は、車の運転免許がない高齢者を中心に約300人が利用。自宅の玄関先から商店、診療所に向かう交通手段になっている。担い手の高齢化で廃園の危機にあったナシ園も継承した。市町村合併で身近な役場を失った危機感が活動の原点。人口1200人、高齢化率50%超の山里で「わかた(私たち)のことは、わかたでやる」を合言葉に活動する。

基町プロジェクト

賞 第13回優秀賞

広島市中区基町 16-17-2-103



復興支えた公営アパート群、アート核に記憶伝え残す

公営アパート群が立ち並ぶ広島市中区基町地区で、中区役所と、芸術学部を擁する広島市立大が連携して取り組んでいるプロジェクト。2015年から、デザインやアートを核としたにぎわいづくりを進めている。空き店舗を改装し、ギャラリーや資料室、工房など複数の拠点を地区内に設けている。若手スタッフや学生が活動の中心となり、展覧会やワークショップを定期的に開催。住民参加型の催しも開き、独特の活気を生んでいる。

浜崎しっちょる会

賞 第5回優秀賞

山口県萩市浜崎町 77



商家の家並み残る城下町をガイド、イベント開催

浜崎地区には、萩市の中でも江戸時代の商家の家並みが残る。景観を守り魅力を全国に発信しようと、地元有志が結成。メンバーが観光ボランティアガイドとして古地図などを手に地区を案内する。新鮮な魚の天ぷらや干物、和菓子の食べ歩きも。年1回のイベント「浜崎伝建おたから博物館」では、商家に伝わっている吉田松陰の書や、坂本龍馬の名前が入った萩焼など「家宝」を家の中などに展示。朝市開催や国史跡「旧萩藩御船倉」でのコンサートなどにも取り組む。伝統的建造物地区内に駐車場ができた。

麦川安全・安心見守り隊

賞 第2回優秀賞

山口県美祢市大嶺町奥分 188-2



児童の登下校を住民見守り、無事故記録を続ける

子どもの安全を守ろうと地元有志で結成した。隊員は子どもたちを集合場所から小学校まで毎日送り、通学路に3カ所ある信号のない交差点では横断を手助けする。児童らは学校前の交差点を渡り終えると、校門近くにある隊員手づくりの「交差点無事故記録」の掲示板の数字を新しくする。月1回の集団下校の際には、班員が児童を自宅まで送り届ける。メンバーは約20人で、散歩の途中に高齢者宅を訪問したり、下校時にも児童を見守ったりして、地域の安全に寄与している。2021年11月25日現在で10844日無事故。

青海島共和国

賞 第6回優秀賞

山口県長門市仙崎 2874



廃校を活用し農業・漁業の体験観光を実施

日本海に浮かぶ青海島では、少子化と人口流出で閉校した小学校を拠点に、周辺を「共和国」に見立てて住民が地域おこしを仕掛けた。教室を迎賓館や国立、博物館として活用、波止場釣りや魚のさばきを体験できる修学旅行が盛況。特産の仙崎まぼこを、白身魚をおろすところから始め、バーベキューで食べるプランが人気だ。東京などから年間4000人が訪問。特産品の開発販売や耕作放棄地でのもち米栽培、加工、販売など6次産業化に取り組み、元気な島づくりを進めている。

防府商工会議所

賞 第4回優秀賞

山口県防府市八王子 2-8-9

特定認可法人



「幸せます」を発信、世界記録の神輿パレードも

方言で「ありがたい」「助かります」を意味する地域ブランド「幸せます」のロゴを生み、商品開発を手掛ける。市とブランドをPRするため2018年4月29日に「最大の連続した神輿パレード」のギネス世界記録を達成した。ゴールデンウィークの「春の幸せますフェスタ」で企業・団体・学校が計100基の神輿をつくり、1700人がパレードした。記録は性別不問だが、ご当地の天神おんな神輿が30年続いていることもあり、女性だけの神輿で達成したことも話題となった。

山口狛犬楽会

賞 第9回優秀賞

山口県周南市



個性豊かな狛犬を通して地元を愛する気持ちを醸成

神社などでよく目にするものの、地域ごとに特徴があることや由来など、知られていなかった狛犬に着目して、これまでに山口県内で1000組余りの狛犬を調査してきた。春と秋には狛犬を巡りながら地域の文化や自然に親しむイベント「狛犬ウォーク」を開催する。地元ケーブルテレビ局の人気番組「狛さんぽ」や動画投稿サイトで狛犬の調査結果や地域の魅力を発信、海外にも伝えている。

大道理百笑倶楽部

賞 第7回優秀賞

山口県周南市大道理 1153



棚田集落に芝桜、遊歩道や展望所を手作りし交流

人口400人、その半数以上が高齢者の集落に、棚田と10万本の芝桜を見ようと、毎春5万人が訪れる。作ったのは6戸の農家で始まった「百笑倶楽部」。農作業を軽減しようと畦に防草シートを張る際、芝桜を植えようと思いついた。デザインは専門学校の若者に依頼し、3年がかりで完成した。芝桜まつりは、手作りの遊歩道や展望所に加え住民との交流が魅力。活動の輪が広がり、元気な高齢者にひかれ移住する若者も出てきた。

福川子どもクラブ

賞 第10回優秀賞

山口県周南市福川中市町 6-27



海や川、山の自然を生かした「子ども探検隊」育成

身近にある海や川、山などの自然環境を生かした「子ども探検隊」の活動に十数年に渡って取り組んでいる。毎年30人程度の小学生が参加。専門家の指導や、ボランティアサークルの大学生が協力の下で、沢登りや洞窟探検など、普段はできない「冒険」を体験することができる。活動に参加することで地域や自然への愛着が増し、定住する若者も出るなど、地域活性化や人材育成に貢献している。

創生工房 仁保ヴィレッジ

賞 第8回優秀賞

親会社は株式会社カンサイ

山口市仁保中郷字中桑原 32



農と食を基盤に地域のさまざまな人が交流

閉鎖されることになった県の環境緑化園（7.6ヘクタール）に残された500種類の樹木や花木を利用し地域拠点として整備。「歩く」「食べる」「育てる」をキーワードに、周辺農家や婦人団体、学校などのさまざまな人が参加、農と食を基盤とした情報交換や交流をしている。地域の大学と協力し、村内で育てているオリーブやドクダミ、ヨモギなどを活用した健康茶といった特産品開発にも取り組む。新規就農、さらには農業への理解を深める「きっかけ」の場として多岐にわたる活動にチャレンジする。

賞 第13回優秀賞

山口県長門市東深川 1412-2



高校生が持続可能な最新の魚養殖や販売に挑戦

「かつて中心産業だった水産業をアップグレードして新たなビジネスモデルを作り、地域経済の核にしたい」。元教員が今年、退職してベンチャーを立ち上げた。取り組みのテーマに据えたのは、高校生が幼いころから親しんできた魚。最新の養殖技術・「アクアポニックス」を題材に、研究開発や販促を高校生自らが担当し、お金を稼ぐ仕組みも学ぶ。地域の人材・資源をフル活用して産業と人材の育成を目指し、地域の再生に挑戦する。

学食ダイニング グランマ

賞 第11回優秀賞

山口県下関市唐戸町 5-50 「唐戸市場」内 2F 魚食普及センター



女性有志が地域の大学生に無料食堂開催、食料配布も

山口県下関市の唐戸市場で、2年前の春から月に1回、地域の大学生を対象に無料の食堂を開催。40～80代の女性有志15人ほどが食材や調味料を持ち寄り、栄養・ボリュームたっぷりの食事をボランティアで調理・提供している。新型コロナウイルス感染拡大後は、食堂を開く代わりに、手料理を詰めた弁当や缶詰・レトルト食品など2～3日分の食料を学生に配布。収入が乏しく食生活も貧しい学生の胃袋を“お袋の味”で満たしている。

うべナチュラルガーデナーズクラブ

賞 第12回優秀賞

山口県宇部市沖宇部 233-1 宇部市役所ときわ公園維持整備課（公園管理事務所）



四季折々7000本の植物を無料公開、癒やしの場に

山口県宇部市のときわ公園「花いっぱい運動記念ガーデン」で毎週木曜日（毎月第2木曜除く）に植物の管理を行っているのが「うべナチュラルガーデナーズクラブ」。地元のボランティア約20名が参加し、広さ4000平方メートルのガーデンでおよそ300種類、7000本の植物を育てている。ガーデンは無料で公開されており、市民にとって四季折々の花を楽しめる癒しの空間として人気を集めている。

徳島共生塾一歩会

賞 第2回優秀賞

NPO法人

徳島県阿南市那賀川町黒地 158-4



四国遍路の世界遺産化、地域の環境問題に取り組む

団体名には、地域の環境や文化を通して、「まちづくり」に「一歩一歩取り組む」という思いを込めている。コミュニティの再生を目指し、「身近な環境や文化を守り、次世代につなげること」を合言葉に、現在、「四国遍路の世界遺産化」とポケットパークの整備や自然公園のパトロールなどの「環境問題」を2本柱に活動を行っている。とりわけ、ハンディのある人たちや外国人の方のための「遍路ウォーク」、「お接待」、「遍路道のクリーンアップ」などに力を入れている。

徳島

- グリーンバレー
- 徳島共生塾一歩会
- 新町川を守る会
- アニメまつり実行委員会
- 伊座利の未来を考える推進協議会
- いろどり
- とくし丸
- 鳴門「第九」を歌う会
- 阿波農村舞台の会
- 大歩危・祖谷いってみる会
- とくしまコウノトリ基金
- Creer (クレール)
- 徳島文学協会



新町川を守る会

賞 第3回優秀賞

認定NPO法人

徳島市寺島本町東 1-17



浮遊ごみの清掃などで河川を整備、周遊船も運航

「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう!」との思いから地元有志で結成。徳島市中心部の新町川や周辺の河川で、ボートに分乗して浮遊ごみを網で回収するなど清掃活動に取り組む。中心市街地を囲む河川の周遊船をほぼ毎日、無料運行(保険料は必要)し、市民や観光客に人気。不法係留されているボートや桟橋撤去も進める。国道沿いには年3回たくさんの花を植える。世界各国のボランティアが活動に参加、カップルも誕生した。「水都」にふさわしい世界に開かれたまちづくりを目指す。

グリーンバレー

賞 第1回優秀賞

認定NPO法人

徳島県神山町神領字中津 132



「人」コンテンツにクリエイティブな田舎づくり

「日本の田舎をステキに変える!」を掲げ、芸術や文化の力で地域の魅力を創出。国内外の芸術家を毎年秋、町に招き、創作活動を支援する「神山アーティスト・レジデンス」を20年以上も毎年開催。アーティストをきっかけとして、多様な人材を受け入れてきたことで、様々な新規事業やプロジェクトが町に自生。今後もその流れを加速させるべく、新しいことに常にチャレンジを続けている。その取り組みは、地域活性化のモデルとして全国から注目を集め続けている。

いろいろ

賞 第6回選考委員長賞

株式会社

徳島県上勝町福原字川北 100-1



料理に添える葉を集め出荷、産業の柱に育成

人口約1500人、65歳以上の高齢化率は53%。典型的な山あいの過疎の町、徳島県上勝町で1986年、日本料理に添える「つまもの」を商品化した葉っぱビジネス「彩(いろいろ)」がスタートした。約150軒の農家が携わり、年間売り上げは2億6000万円に上る。中には年収1000万円という人もいる。比較的作業が軽めのため多くの高齢者が携わることができ、一人一人の表情を輝かせた地域ビジネスとなっている。

アニメまつり実行委員会

賞 第4回優秀賞

徳島市



市街地で春秋にアニメイベント「マチ★アソビ」

徳島を盛り上げようと、毎年春と秋の2回、アニメイベント「マチ★アソビ」を開催。期間中、徳島市中心市街地が「アニメー色」に染まり、3日間で約8万人が集まる。アニメキャラクターの衣装で着飾ったコスプレイヤーが、レッドカーペットを敷いた商店街のアーケードを歩くファッションショーのほか、人気声優のライブ、トークイベントやアニメ原画展などが開催される。

とくし丸

賞 第7回優秀賞

株式会社

徳島市南内町 1-65-1 リバフフロント南内町 3F



高齢化社会を支える移動スーパー

地域の過疎化や核家族化によって日常の買い物に行けない方々を支援するために2012年に設立。地域のスーパーマーケットと提携し、およそ400品目1200点の新鮮食品や日用品などの商品を冷蔵機能を備えた軽車両に積み込み、お客様の自宅前まで販売に伺う。週2回の頻度で同じドライバーが訪問し、顔見知りになることで買い物だけに止まらずお客様や地域の見守り役としての役目も果たす。全国で約1050台が稼働中。(2022年7月時点)

伊座利の未来を考える推進協議会

賞 第5回ブロック賞(中国・四国)

徳島県美波町伊座利 伊座利漁業協同組合内



漁村のよさ体験、留学・就業で人を呼び込む

人口約100人の漁師町で「なにもないけど、なにかある」をキャッチフレーズに結成。児童、生徒数の減少で地域の小中学校が廃校になる恐れが出て、住民が都市部から子どもを受け入れる漁村留学に乗り出した。受け入れた子どもは優に100人を超える。1日漁村体験イベントを開くほか、特産の伊勢エビを使った料理が味わえる「イザリCafé」を開設。店には県内外から年間約1万人が訪れる。

大歩危・祖谷いってみる会

賞 第10回優秀賞

一般社団法人

徳島県三好市西祖谷山村善徳 33-1



宿泊施設が結束、外国人誘客に成果。波及効果も

大歩危・祖谷地区にある5つの主要宿泊施設が2000年に設立した。昔ながらの景観や歴史、暮らし、もてなしを大切に誘客に力を入れている。外国人宿泊者は12年には2000人余りだったが、19年には2万人を超えた。移住者の増加など波及効果も大きい。地域の認知度も高まり、米大手旅行雑誌が選ぶ「2018年に訪れるべき50の旅行地」に、祖谷溪が日本で唯一、入った。コロナ禍の間は地域清掃や新メニュー開発に力を入れた。

鳴門「第九」を歌う会

賞 第8回優秀賞

認定NPO法人

徳島県鳴門市撫養町立岩五枚 244



全国からの合唱仲間と「第九交響曲」演奏会

第1次世界大戦中に徳島県鳴門市にあった板東俘虜収容所では、人道的な収容所運営や地域住民との温かな交流を背景にドイツ兵捕虜によってベートーベンの「第九交響曲」がアジア初演された。1918年6月1日だった。この史実を後世に伝えていこうと、毎年6月、全国から集う合唱仲間と共に、鳴門市で第九演奏会を開いている。初演100年の2018年には記念演奏会を開催。20年のコロナ禍では動画で合唱を公開、第九を通して平和と友愛のメッセージを発信している。

とくしまコウノトリ基金

賞 第11回優秀賞

NPO法人

徳島県北島町中村字岸ノ上 1-288



コウノトリの野生復帰のために餌場作り、地域経済活性化も

徳島県鳴門市へのコウノトリの飛来と繁殖成功を契機として2019年9月に発足した。コウノトリ定着のために必要な餌場を確保するため休耕地にピオトープを整備し、餌となる水生生物が繁殖しやすい環境づくりを着実に進めている。会員を募ってピオトープの維持管理や生物観察会を開くなど、人材育成にも努めている。ピオトープで育てた米で日本酒を開発するなど、地域経済の活性化を目指す活動も進めている。

阿波農村舞台の会

賞 第9回優秀賞

NPO法人

徳島市南二軒屋町 2-3-3 林建築事務所内



人形浄瑠璃でまちが変わる

県内の神社境内に数多く残る芝居小屋「農村舞台」を調査、活用を図り、人形浄瑠璃の振興や地域の活性化につなげる。舞台の多くは過疎、高齢化が進む山間部にあるが、にぎわいを創り出し地域住民の自信と誇りを取り戻すことを目指す。会が設立された2003年以降、6カ所の舞台で復活公演が実現した。14年から人形浄瑠璃の上演施設「徳島県立阿波十郎兵衛屋敷」を指定管理者として運営、人形浄瑠璃や農村舞台の動画配信、吉野川クルーズや藍染め施設との連携、3Dプリンターを使った木偶制作、特産品販売など活動の幅を広げる。

香川

- 高松丸亀町商店街振興組合
- 丸亀市川西地区自主防災会
- 瀬戸内こえびネットワーク
- 直島女文楽
- 四国こんびら歌舞伎大芝居推進協議会
- 街角に音楽を@香川
- アーキペラゴ
- まちづくりネットワーク Re:born.K
- サンポート高松トライアスロン大会実行委員会
- 肥土山農村歌舞伎保存会
- ちちぶの会
- どっかーん!! と観音寺を盛り上げ隊
- 天体望遠鏡博物館



高松丸亀町商店街振興組合

賞 第1回ブロック賞（中国・四国）

高松市丸亀町 13-2 丸亀町ビル 4F



まちづくり会社が商店街丸ごと運営、医食住が柱

郊外店に押されていた歴史ある商店街の魅力を高めようと、地権者が定期借地権で貸し出した土地を、商店主らが設立したまちづくり会社が一括で管理・運営する仕組みで再開発に取り組む。「所有権と利用権の分離」は、商店街の新たなモデルとなった。再開発の3本柱は「医、食、住」で、医療施設や高齢者向け住居、病院が管理するレストランなどを整備。街の機能を高め、コンパクトシティにつなげる。街はにぎわいを取り戻し、若い世代の居住者も増えてきた。

Creer（クレール）

賞 第12回優秀賞

NPO法人

徳島市万代町 5-71-4



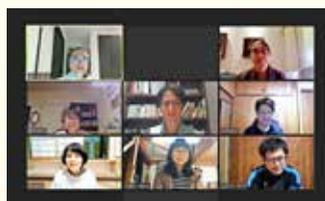
障害者が生き生き働くレストラン、子ども食堂や宅食も

NPO法人クレールは、障害のある人が働くレストランを運営している。メンバーは調理や接客、配達など自身の特性に合った仕事をこなし、全国トップレベルの工賃を得ている。調理の技術を生かして地域貢献しようと常設した「子ども食堂」は、多様な人が集う交流の場となっている。2020年には、生活に余裕のない子育て世帯に無償で食べ物を届ける「こども宅食」も始め、コロナ禍で収入が減ったひとり親家庭などを支えている。

徳島文学協会

賞 第13回優秀賞

徳島県名西郡神山町阿野字方子 103



地方でハイレベルな文芸誌、受賞作家相次ぎ誕生

2017年に発足し、5周年を迎えた。活動の柱は、作家養成講座の開講、文芸誌発行など。養成講座の受講生からは、三田文学新人賞佳作、大阪女性文芸賞など全国公募の文学賞受賞者が相次ぎ誕生している。文芸誌は、会員の作品を全て載せる同人誌ではなく、審査を経て一定のレベル以上の作品に限っている。また芥川賞・直木賞作家の書き下ろしを掲載し、本格的な文芸誌として評価されるなど、地方から文芸文化を発信し続けている。

直島女文楽

賞 第4回優秀賞

香川県直島町 1122-1 直島町教育委員会



女性だけで人形浄瑠璃を演じ、伝統を守る

全国的にも珍しい、女性だけで構成される人形浄瑠璃の一座。江戸時代、幕府の直轄領であった直島は芸能が盛んに行われてきたが、明治時代の初期に下火となる。文楽も途絶えていたが、昭和23年に女性のみで再興された。地元の主婦ら約15人が町のイベントや高齢者施設の慰問などで公演している。漁船を人形遣いの足隠しに使い、細やかな動作と華やかな衣装が特徴だ。瀬戸内国際芸術祭でも公演し、地域の文化の伝承に力を入れている。

四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会

賞 第5回優秀賞

香川県琴平町榎井 817-10



文化財の芝居小屋を公演を続けながら保存

国指定重要文化財、旧金毘羅大芝居（通称：金丸座）は、日本有数の歴史を誇る芝居小屋だ。毎年春、四国こんぴら歌舞伎大芝居公演が開催され、江戸時代末期そのままの風情を残す舞台上で演目を披露する。年に1度の公演に、全国からファンが訪れ、まちは歌舞伎一色に染まる。公演前日には、町内を役者が人力車で周る「お練り」もある。町民の熱意で文化庁を動かし「重要文化財を活用しながら保存する」という国内では珍しいケース。運営の大半は、ボランティアが支え、町民の誇りとなっている。

丸亀市川西地区自主防災会

賞 第2回優秀賞

香川県丸亀市川西町南 428-1



地震に備え住民が訓練、防災日本一のまち目指す

南海トラフ巨大地震に備え「わが街はわが手で守る」を掲げ、住民で結成した。防災には「人づくり」が重要と考え、地元の小中学校、高校の児童・生徒に定期的に訓練を実施。将来の減災・防災活動のリーダーに育てほしいとの狙いからだ。災害時の情報を正確に早く収集し、伝達できるようにと、約30台の無線機を整備する。支援がなくても7日間の生活に耐えられるよう、食品、水、毛布の備蓄を拡大。月1回の情報伝達訓練を行い、地域を挙げて防災活動に取り組んでいる。

瀬戸内こえびネットワーク

(受賞当時：瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」)

賞 第3回優秀賞

高松市サンポート1-1

NPO法人



継続した活動で、瀬戸内国際芸術祭と島を支える

瀬戸内海の島々で開催される3年に1度の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」。その間の取組み「ART SETOUCHI」の運営を担い、島のサポーターとして運動会や祭りなど地域の手伝いを行うボランティア「こえび隊」の事務局となって国内外から多くのサポーターを受け入れている。島のレストランやカフェの運営、通年で行われるイベントやガイドツアーの企画なども行う。島民、アーティスト、行政・民間組織などをゆるやかにつなぐ中間支援組織。

まちづくりネットワーク Re:born.K

(受賞当時：観音寺まちなか活性化プロジェクト Re:born.K)

賞 第8回優秀賞

香川県観音寺市観音寺町申 1213-2 観音寺商工会議所



地域紹介番組のネット配信や若者が関わる事業展開

香川県西部の町・観音寺のまちなかを活性化しようと、店主や市民らで組織した。まちの人・店・魅力などを紹介する番組「今宵もはじまりました」をネット配信するほか、Shop in Shop（店の中に店を）や、まちなかの交流人口の拡大を図っている。

街角に音楽を@香川

賞 第6回優秀賞

一般社団法人

高松市古新町 1-4 WINDビル 103



アーティストらを招き多彩な事業で新たな活気を

行政、民間と協働、ハイレベルのミュージシャンやアーティスト、パフォーマーらを招いている。活動は2007年、香川県高松市の中心部、高松丸亀町商店街の壱番街再開発事業完成を機にスタート。「MUSIC BLUE（瀬戸内の青に響く）」をコンセプトに、音楽を通じて人々が交流し、母性的な本質をもった風土の瀬戸内に、独自の地域文化が創造できるよう活動している。2018年には香川県文化芸術選奨も受賞した。

サンポート高松トライアスロン大会実行委員会

賞 第9回優秀賞

高松市天神前 1-28



市民ボランティアを中心に運営、国際大会も招致

日本一の「まちなか大会」を目指し、民間主導で2010年にスタート。最初は沿岸の通りだけだったが、13年から目抜き通りもコースに。五輪代表選考につながるポイントを獲得できる「アジアカップ」も誘致、住民や企業、行政などを巻き込み発展した。20年はコロナ禍で中止となったが「リモート・トライアスロン」を開催。参加者は各自の練習コースで3種目をこなしたタイムを掲げた写真をSNSに投稿、モチベーションを保つ。

アーキペラゴ

賞 第7回選考委員長賞兼ブロック賞（中国・四国）

高松市塩上町 1-2-7 ミュキビル 1・2F NPO法人



芸術家の幼稚園派遣などアートを活用した街づくり

2002年にNPO法人「INS香川」として設立。09年1月、法人名を英語で多島海という意味を持つ「アーキペラゴ」に改め、アートを活用したまちづくり、地域おこしを行う。主な事業に、芸術士（アーティスト）を幼稚園、保育所などに派遣する事業と、県産品PRの「さぬきマルシェ」、環境啓発活動、瀬戸内海の島を舞台に10年から始まった瀬戸内国際芸術祭「漆の家プロジェクト」の運営も手掛けている。

どっかーん!! と観音寺を盛り上げ隊

賞 第12回優秀賞

香川県観音寺市観音寺町甲 3377-3



信金が多様な事業者と連携、地元食材売り出す

観音寺信用金庫が観音寺市を盛り上げたいと思い立ち、地域と一体となり2019年8月に「どっかーん!! と観音寺を盛り上げ隊」（略称：どっかんおんじ）を立ち上げた。地域特産品を使用した「天空の七宝」シリーズを展開し、「観音寺の土地の文化を一人でも多くの皆さんとシェアしたい」との理念のもと、地域ブランド向上を目指す。観音寺を舞台に結ばれる様々な縁に感謝して、ワクワクする観音寺を紡いでいる。

肥土山農村歌舞伎保存会

賞 第10回優秀賞

香川県土庄町肥土山甲 2037



農村歌舞伎を若手住民が上演。子どもだけの演目も

小豆島に江戸時代から300年以上にわたり受け継がれてきた「農村歌舞伎」を若手住民らが毎年、上演している。肥土山離宮八幡神社の境内には木造の「肥土山の舞台」（国指定重要有形民俗文化財）があり、そこで毎年5月3日に保存会のメンバーが中心となって全4幕を演じている。中には子ども役者のみが出演する演目もあり、大人顔負けのせりふ回しと所作に栈敷を埋めた観客からは盛んな拍手とともにおひねりが飛ぶ。

天体望遠鏡博物館

賞 第13回優秀賞

一般社団法人

香川県さぬき市多和助光東 30-1（旧多和小学校）



廃校を活用、望遠鏡の寄贈を受け修復して展示

さぬき市の山間にある天体望遠鏡博物館は、世界初かつ唯一の天体望遠鏡の博物館で、建物は廃校になった小学校のリユース、有給職員はおかず、全員無償のボランティアで運営されている。公共施設、教育施設、個人から不要になった天体望遠鏡の寄贈を受け、これらを自らの手で修復し、展示するほか、観望会、望遠鏡使い方教室、望遠鏡工作教室、一流講師による講演会などを開いている。中山間地域活性化のモデルの一つである。

ちちぶの会

賞 第11回優秀賞

香川県三豊市仁尾町仁尾庚 564-3



夕日がインスタ映えする父母ヶ浜で砂浜の景観を守る

干潮時に鏡面のような写真が撮れる三豊市仁尾町の父母ヶ浜で、砂浜の景観を守ろうと美化活動を続けている。活動を通じて夕日が美しく、インスタ映えがすると人気スポットになった。周囲には宿泊施設や駐車場などの施設もでき、整備が進む。当初、会は持ち上がった埋め立て計画に反対しようと、地元住民7人で1996年に立ち上げた。海岸清掃のほか、小学生を対象にした自然観察会も行い、環境保全の大切さを伝えている。若い世代の参加も増え、2022年3月現在会員数約180名。

俳句甲子園実行委員会

賞 第2回優秀賞

NPO法人

松山市柳井町 2-21-3 グリーンフィールドヒラオカ



高校生の俳句大会が全国規模に、商店街も活性化

1998年から毎年夏、松山市で全国の高校生を対象にした俳句コンクール「俳句甲子園」を主催する。5人一組のチームで参加し、予選リーグ、トーナメント、決勝リーグを経て決勝戦まで、質疑応答を交わしながら俳句の創作力や鑑賞力を競う。「試合」会場には市内中心街の通りを使うなど、商店街の活性化にも一役を買う。ボランティアを中心に運営。正岡子規を生んだ俳句のまちの魅力を全国へ伝えている。

愛媛

- 能島の里
- 俳句甲子園実行委員会
- 今治焼豚玉子飯世界普及委員会
- 坊っちゃん劇場
- 農音
- 愛媛県立長浜高校水族館部
- パーソナルアシスタント青空
- 和田重次郎顕彰会
- 翼学園
- シクロツーリズムしまなみ
- シアターねこ
- 三崎高校「せんたん部」
- 今治コミュニティ放送



今治焼豚玉子飯世界普及委員会

賞 第3回優秀賞

愛媛県今治市共栄町 2-2-20



B級グルメをてこに、地域の良さを各地にPR

焼豚玉子飯は、今治市内の中華料理店のまかない料理として生まれ、厨房で人気があったことから、店のメニューとなった。丼にご飯をよそい、スライスした焼き豚をたっぷりのせる。その上半熟の目玉焼きをさらにのせ、甘辛いたれをかける。焼き豚の厚さや部位、玉子の焼き方、たれは各店舗でそれぞれ特徴があり、違いを楽しむことができる。この丼を目当てに訪れる観光客も増え、ご当地グルメが地域経済の活性化につながっている。B-1グランプリにも入賞する人気者だ。

能島の里

(受賞当時：能島の里を発展させる会)

賞 第1回優秀賞

NPO法人

愛媛県今治市宮窪町宮窪 4703



村上海賊のふるさとで、景観や特産品の魅力を発信

今治市大島のカレイ山展望公園（宮窪地域）を活動拠点に、公園管理・カフェ運営・大島石文化体験ツアーなどを通じて観光振興や地域活性化に取り組んでいる。また、村上海賊の歴史遺産と地元の急潮流が織りなす景観を“潮流美術”と銘打ち、地域の魅力創出に努めている。近年は、地場産業の大島石の採石業者らと連携して付加価値をつけた石テーブルの商品開発・販売にも取り組み、6次産業化に向けた希少なクロイチジクの栽培なども行っている。

愛媛県立長浜高校水族館部

賞 第6回優秀賞

愛媛県大洲市長浜甲 480-1



校内水族館で地域に活力、研究成果も

存続が危ぶまれた県立高校が特色づくりの目玉として、かつて地元のシンボルで住民が再建を夢見る水族館を1999年、校内に開設、活気をもたらしている。世界の高校生が集う米国での国際学生科学技術フェアで「イソギンチャクはなぜカクレマノミを刺さないか」という研究が上位入賞。応用したクラゲよけクリームは商品化された。水族館部の活躍は「赤い橋のある町で」として映画化、漫画「熱帯魚は雪に焦がれる」のモデルにもなっている。

坊っちゃん劇場

賞 第4回優秀賞

愛媛県東温市見奈良 1125



地域の歴史や偉人を題材にミュージカル上演

芸術と観光の融合による新たな文化発展の可能性を探ろうと、自主制作の作品を年間通して上演するミュージカル常設施設を2005年に設立。四国や瀬戸内の歴史や文化、偉人をテーマにオリジナルミュージカルを作り、同一演目で1年間上演し、年間7~8万人の観客を集める。地元企業、教育機関と連携し、演劇講座やワークショップなども展開し、地域の文化向上に大きく貢献している。

パーソナルアシスタント青空

賞 第7回準大賞

松山市古川北 3-4-32

株式会社



障がい者とともに無農薬・無肥料の自然栽培

障がい者とともに農薬や化学肥料を一切使わない自然栽培農業を展開する。耕作放棄地を農地に戻し、ネットなど販路を独自に確立、米や野菜、果物は「青空ブランド」として販売している。障がい者には一人一人に合った働き方をしてもらおう。2016年には「一般社団法人農福連携自然栽培パーティー」を設立、全国の約100団体が加盟してノウハウを共有し、アフリカなど海外にも指導の輪を広げる。介護事業や放課後等デイサービスなどにも取り組む。

農音

賞 第5回記念賞

松山市宇和間 927

NPO法人



移住者を受け入れ、ミカンブランドを再興

松山市沖の中島でバンドマンの若者らがミカン農家に転身。WebサイトやSNSなどで島暮らしの情報を発信して、共感した約90人が移住。地方で若者が減り、都会には生活に疲れた若者がいる。疲れた若者が地方に移れば、双方にプラスになるのではという。住民と移住者の交流も深める。農音が取り組む農地は約2ヘクタールになった。空き家バンクやツーリズム、援農や農業の第三者継承にも取り組み、若者の移住を通して地域の新しいモデルづくりを目指す。

シクロツーリズムしまなみ

賞 第10回優秀賞
愛媛県今治市別宮町 8-1-55

NPO法人



自転車文化振興に休憩・宿泊施設、ツアー企画

瀬戸内しまなみ海道の自転車文化振興へ、開通10周年の2009年4月、今治市に設立。自転車をそのまま乗せられる臨時列車の運行や観光ガイドツアー、サイクリングマップ作製、サイクリスト休憩所設置などに取り組んできた。14、18年に市内にゲストハウスをオープンし、自転車健康づくり講座、幼児ランニングバイク大会も開催。来島海峡でのシーカヤックツアーなど活動の舞台を海にも広げる。

和田重次郎顕彰会

賞 第8回優秀賞
松山市清水町 2-18-7



アラスカで活躍した探検家をテーマに地域づくり

アラスカやカナダで活躍した、愛媛県出身の探検家和田重次郎は、アラスカ開拓で大きな足跡を残していたが、幼少期に過ごした母親の故郷・松山市日の出町では、その存在が埋もれていた。和田重次郎顕彰会は、地元の公園に顕彰碑を建立し、地元のまちづくり協議会と協力して地元のイメージアップを推進。地元の小中学校に講師を派遣し、生徒が公園の清掃活動に参加している。また、アラスカでミュージカル公演を行うほか、重次郎像が建立されるなど、海外にも広がりを見せている。

シアターねこ

賞 第11回優秀賞
松山市緑町 1-2-1

合同会社



元幼稚園舎に100席の小劇場、地域交流や短編演劇祭

2012年、元幼稚園園舎を活用して松山市中心部に開館した約100席の小劇場。地域の芸術活動の振興を目指し、演劇の活性化と裾野拡大を図る一方、地域と劇場の共存・融合も目標に掲げ、周辺住民や子どもが楽しめる行事にも取り組む。地元劇団やパフォーマーだけでなく、県外からのツアー公演などでの利用も多い。四国の短編演劇祭「四国劇王」を毎年催し、劇作家育成や俳優のレベルアップを支えている。

翼学園

(受賞当時：えひめ心のつばさ)

賞 第9回奨励賞
松山市余戸南 3-3-39

NPO法人



長期欠席の子どもを支援し、学校復帰を実現

小学校でのいじめを解決するために1985年に活動を始め、大勢の子どもをいじめから救い、円満解決して学校へとつなげた。その後も変わらず、学校に行くことがつらいと感じる子どもの支援を続けている。さまざまな理由で学校に行けなくなってしまった子どもの問題を解決し、これまでに700人以上の子どもの学校復帰を実現。彼らは今も元気で、実社会で活躍している。

高知

- 四万十ドラマ
- 大宮産業
- 黒潮実感センター
- 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
- 久礼大正町市場協同組合
- 室戸市木炭振興会
- 砂浜美術館
- 十和おかみさん市
- むろと廃校水族館
- 日高わのわ会
- 食材応援隊
- とさちょうものがたり
- こうち絆ファーム TEAM あき



四万十ドラマ

賞 第1回優秀賞

株式会社

高知県高岡郡四万十町十川 9-15



生産者と連携し、地域資源を生かした商品開発

四万十川に負担をかけないものづくりをコンセプトに、地域資源を使いながら素材を生かした商品開発を行う地域商社。2021年5月に完成した「しまんと地栗工場」を新たな拠点とし、「しまんと地栗モンブラン」「いも焼き菓子ひがしやま。」など、四万十の栗・芋・茶などを使った菓子製造を行いながら、次世代に繋ぐ地域産業として活動している。

三崎高校「せんたん部」

賞 第12回優秀賞

NPO法人

愛媛県西宇和郡伊方町三崎511番地



高校生が主体、アートイベントやマルシェ、加工品開発

四国の最西端、佐田岬半島にある伊方町。愛媛県内2位の高齢化率のまちだが、地元三崎高校が明るい話題を提供している。中心的な役割を担うのが生徒有志からなる「せんたん部」。地元小中学生や大人たちと連携するなどして、さまざまなまちおこし活動に取り組む。地域を知り地域で汗を流し地域に愛着を持つ。ひたむきな生徒たちに住民は活気づき大勢の新入生が集まってきた。過疎化が進むまちに未来を感じさせる存在となっている。

今治コミュニティ放送

賞 第13回優秀賞

株式会社

愛媛県今治市片原町 1-100-3 はーばりー 2 階



市民パーソナリティーが地域に根差した番組づくり

愛媛県今治市を中心に展開する24時間放送のコミュニティFM局。元校長やタクシー運転手、飲食店経営者、地元サッカークラブ関係者ら100人以上の市民パーソナリティーが番組づくりを担う。インターネットでも配信。リスナーから「ほっとする」「季節感がある」「落ち込んでいたときに励まされた」などの声が寄せられる。市などと協定を結び、防災情報にも力を入れる。地域に根ざした活動で2022年、開局20周年を迎えた。

中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

賞 第4回優秀賞

高知県馬路村馬路 3505-7



森林鉄道の遺構を活用、サミット開催も

高知県の東部に5町村にまたがる総延長320キロ(本線・支線)の森林鉄道があった。この鉄道の遺構と歴史を活かす活動を平成17年から続け魚梁瀬森林鉄道遺構の重要文化財指定(18物件)や、「森林鉄道から日本のゆずロードへ」というストーリーで、文化庁の日本遺産の認定を受けた。令和4年7月には、森林鉄道団体の全国組織「全国森林鉄道保存活用団体協議会(愛称:林鉄ネットワーク)」の結成に参画し、令和5年度には林鉄サミットを高知で開催した。

大宮産業

賞 第2回準大賞

株式会社

高知県四万十市西土佐大宮 1578



住民出資で株式会社、店舗を運営しインフラを守る

過疎化が進み、不採算だとして撤退した店舗を、住民が出資した会社が引き継いで運営している。役員は住民が務め、住民代表によるアドバイザー会議も設け、地区を挙げて知恵を絞る。肥料や日用品に加え、地元産米の販売に力を入れ、酒類販売も始めた。ガソリンスタンドや現金自動預払機(ATM)も備えた暮らしのインフラを住民が守った人口減対応のモデルとして注目されている。

久礼大正町市場協同組合

(受賞当時:久礼大正町市場)

賞 第5回優秀賞

高知県中土佐町久礼 6372-1 観光拠点施設せよびあ2階



明治時代からの商店街活用、観光客・住民が支持

土佐のカツオ漁師町として知られる中土佐町で、古くは庶民の台所として栄え、明治時代から続く長さ約50メートルの商店街が観光スポットとして注目を集める。カツオ好きの高知県民がわざわざカツオを食べに行く市場として、冷凍ではなく生カツオにこだわり、鮮魚店主が毎日ワラで手焼きするこだわりのカツオのたたきを味わえる。また漁師のおかみさんお手製の干物や総菜、地魚なども人気。SNSやHPを通じて市場の情報も発信している。

黒潮実感センター

賞 第3回ブロック賞(中国・四国)

NPO法人

高知県大月町柏島 1



海洋調査や体験学習を続け「里海」づくり目指す

高知県西南端の大月町・柏島で、海の調査研究活動や環境保全、さらに環境教育、地域の活性化に取り組む。子どもたちを受け入れてシュノーケリングや釣りを楽しみながら海の良さを発信。漁業者とダイビング業者の共存に力を尽くすなど、生活に密着した「里海」に目を向けた活動に力を入れる。アオリイカの「里親制度」も導入。産卵床を購入した里親にイカが贈られる仕組み。産卵床は森林組合の協力で間伐材を利用し、海と山の連携も進める。

十和おかみさん市

賞 第8回優秀賞

株式会社

高知県四万十町十川 4-1



古くから栽培されている野菜を主婦らが地産地消

四万十町十和地域の主婦らが2001年に結成し、11年に株式会社化した。メンバーは約140人。地域で古くから栽培される大根やカブ、キビ、高菜、チシャなどを「昔野菜」と名付けて直販所「十和の台所」で販売している。また町内で特産品を使った商品を開発、販売する直営店で郷土料理バイキングを開くほか、弁当を町内外で販売するなど地産地消を進める。学校給食のメニュー開発など食育にも積極的に取り組む。

室戸市木炭振興会

賞 第6回優秀賞

高知県室戸市羽根町甲 1966



製炭技術磨きや研修生受け入れ、後継も育成

土佐備長炭の生産者が2007年に設立、製炭技術の研究と伝承、後継者育成などに取り組んでいる。04年に中国が木炭の輸出を規制したことから、国産需要が拡大。振興会は市内外から研修生を受け入れ、技術を若手製炭者らに伝えてきた。備長炭の原木は「ウバメガシが一番」と言われるが、その数は限られていたため、市内に大量に自生するアラカシなどに原木を切り替えながらも上質な炭を製造。市場の評価を得て、増産体制を整えている。

むろと廃校水族館

賞 第9回優秀賞

高知県室戸市室戸岬町 533-2



廃校に水族館。展示を工夫し、人気施設に

室戸市室戸岬町の旧椎名小学校を市が改修し、2018年4月に開館した。NPO法人「日本ウミガメ協議会」（大阪府）が指定管理者として運営。屋内の水槽や屋外のプールに定置網で混獲されたウミガメや、近海のアジやブリなど50種類、1000匹以上が泳ぐ。廃校舎のユニークな活用法が話題を呼び、予想をはるかに超える来館者が訪れた。多くは市外や県外の観光客で、リピーターも多い。コロナ禍では近隣の飲食店と協力してスタンプラリーを開催し、賞品は人気グッズ「ブリのぬいぐるみ」を用意した。

砂浜美術館

賞 第7回優秀賞

NPO法人

高知県黒潮町浮鞆 3573-5



自然の砂浜を美術館に見立ててユニークな展覧会

砂浜美術館が誕生したのは1989年。美術館といっても「建物」も「有名アーティスト」の作品もない。太平洋に面した約4キロの自然の砂浜を美術館に見立てているのである。年に数回、企画展を開催。5月に開催する「Tシャツアート展」は、全国から集めたデザインをTシャツにプリントし、砂浜に洗濯物のように展示する。浜辺に流れ着いた漂流物も立派な展示物だ。「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」という設立当初のコンセプトは変わらない。

とさちょうものがたり

賞 第12回優秀賞

合同会社

高知県土佐郡土佐町土居 177



写真家らが地域の魅力発信やイベント、障害者と協働

一歩踏み込んでみると、そこにしかないような素敵なものごとがあることに気づきます。「とさちょうものがたり」は、そんなふわつとした「素敵なものごと」をふわつとしたままあなたに届けようという試みです。写真家らが地域の魅力やイベントを障がい者のみなさんと協働して発信しています。

日高わのわ会

賞 第10回準大賞

NPO法人

高知県日高村沖名 3-2



トマトの村で住民が育児、商品開発、福祉に結束

人口5000のトマト産地の村で、子育てを助け合おうと母親たちが結成。「できる人が、できる時間に、できることを」をモットーにNPO化した。規格外のトマトからソースやジャムを製造販売し、オムライスが自慢の食堂を開設。村の店を紹介する名物企画「オムライス街道」にも参加する。さらに高齢者支援、障害者就労に活動の幅を広げた。事業を支えるのは子育て中の母親ら約50人で年間1億円近くを売り上げる。地元大学生や高校生も助っ人に育った。

こうち絆ファーム TEAM あき

賞 第13回優秀賞

一般社団法人

高知県安芸市本町 3-10-35



障害者やひきこもりの人の就農を支援、林業とも連携

高知県安芸市の多機能型事業所「こうち絆ファーム TEAM あき」が、障害者やひきこもりの人らの就農を支援する「農福連携」に力を入れている。「最低賃金で働けないすべての人を受け入れたい」が合言葉。日本一の出荷量を誇るナスの収穫や袋詰めなどを通じ、生きづらさを抱える人たちの社会参加を後押し。林業や水産業とも連携を深めるほか、受刑者の社会復帰に農福連携を活用しようという取り組みも始まっている。

食材応援隊

賞 第11回優秀賞

高知市中万々 2-47 地域交流センター「城北」内



子ども食堂代表者が連携、食材無料提供の仕組み構築

資金難に悩む県内の子ども食堂代表者らが連携し、2017年に立ち上げた任意グループ。子どもの貧困問題に理解を示す青果の卸・仲卸業者などの協力を得て、流通外となった大量の野菜や果物を毎週火・金に無料で提供してもらおう仕組みを構築。食堂のメニューが格段に増えて利用者に喜ばれるとともに運営の安定化にもつながった。コロナ禍で食堂を休止していた期間は、生活困窮に陥った大学生らに寄付食材を直接配る取り組みも行い、温かい交流が生まれた。

つづら棚田保全協議会

賞 第3回優秀賞

福岡県うきは市羽羽町朝田 582-1



オーナー制度や都市の人々の交流通じ棚田を守る

日本の棚田百選に認定された「つづら棚田」は、約400年前に造られたと伝えられる。美しい景観を維持するため、地元農家がうきは市の支援を受けて発足。棚田を借り受け、農家と交流を深めながらコメ作りの体験ができる棚田オーナー制度を取り入れた。都市部などから多くの応募があり、季節ごとにオーナー限定のちまきづくりや餅つき体験などのイベントを実施し、農業の素晴らしさを実感できるようさまざまに工夫している。

福岡

- 筑紫野市商工会
- つづら棚田保全協議会
- はやめ人情ネットワーク
- 抱樸
- 藍の家保存会
- A I P
- がんばりよるよ星野村
- 遠賀川源流サケの会
- のこのしまアイランドパーク
- uma u. (ウマウ)
- うきはの宝
- 子どもパートナーズ HUG っこ



はやめ人情ネットワーク

(受賞当時：はやめ南人情ネットワーク)

賞 第4回大賞

福岡県大牟田市沖田町 510



認知症などの高齢者を地域ぐるみで声かけ見守り

大牟田市駛馬地区は「向こう三軒両隣」の意識が強く、高齢者の孤独死を出さないための声かけ・見守り活動が盛んに行われている。「大牟田方式」と呼ばれ、全国に広がった認知症のSOSネットワーク模擬訓練が生まれた地域だ。それを基盤として、町内の公民館や社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、警察、消防、学校など地域のさまざまな人々が世代を超えてつながる。誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して活動している。

筑紫野市商工会

賞 第1回優秀賞

福岡県筑紫野市湯町 3-2-5



染料となるムラサキグサ商品を地元生産者と開発

二日市温泉を中心とした地域活性化のため、かつて朝廷に納める税として栽培され、染料などになったムラサキグサが自生していたことに着目し、紫色をテーマした街づくり「紫プロジェクト」を始めた。苦労したのはムラサキグサの栽培だ。約半年かけて入手した種を試行錯誤して育てた。市内に誕生した西鉄大牟田線の新駅名が、商工会などの提言で「紫駅」になるなどのまちづくり事業を展開。生産部門は一般社団法人筑紫野むらさきまちづくり協会が担い、両輪体制で活動している。

賞 第7回奨励賞

NPO法人

福岡市博多区千代 1-20-31 福岡県千代合同庁舎 6F 福岡県 Ruby・コンテンツ産業振興センターオフィス 4



「福岡をエンジニアの聖地に」とIT人材育成

実践的なスキルを持ったIT人材を戦略的に育成、地域の活性化を促進するために設立した。ITをはじめ多業種の交流・学習スペース「AIPカフェ」の運営や、自由参加型の会合などを通じ、人々の「顔が見える」関係を重視する。さらにこれらの経験と実績により福岡市から、エンジニアが集まり、活躍し、成長できる場である「エンジニアカフェ」の運営を協力している。福岡とエンジニアが一体になって、福岡を「エンジニアの聖地」とすべく、支援を行っている。

賞 第5回優秀賞

認定NPO法人

北九州市八幡東区荒生田 2-1-32



ホームレスの自立や就労、生活面を支援

路上生活者をはじめとする生活困窮者の支援活動に取り組む。住居や就労などの経済的な問題だけではなく、ホームレスを生む原因である社会的孤立の解消まで視野に入れた、一貫した支援体制が評価されている。元路上生活者らが体験を語る「生笑一座」を2013年に結成し、全国の小中学校などで「助け合って生きる」ことの重要性を子どもたちに伝える活動にも力を入れ始めホームレスを生まない社会づくりを目指す。

がんばりよるよ星野村

賞 第8回優秀賞

NPO法人

福岡県八女市星野村 10951



豪雨被災地で農業復興支え、移住体験施設も運営

2012年の九州北部豪雨災害で被災した山間部で農業復興に取り組んだ。都市住民にも参加を呼び掛け、田畑から大量の泥をかきだし農再開を支えた。人口減を食い止めようと、空き家の相談窓口を開設、移住体験施設も運営している。国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）を受け、30年に向け環境保全、空き家・耕作放棄地の利用計画をスタート。地域の小中学生に地元の星空の魅力を伝えるカリキュラムや、棚田の復旧、田植えに取り組む「星野未来塾」を開催している。

藍の家保存会

賞 第6回優秀賞

福岡県福津市津屋崎 4-14-20



藍染めを営んでいた町家を保存し町おこし

江戸時代から明治時代にかけて、製塩と海上交易で栄えた津屋崎には白壁の商家や民家が建ち並び「津屋崎千軒」と呼ばれた。1993年、往時の面影を残す、元紺屋だった上妻邸の解体計画が持ち上がった時、「栄えた当時の町並みを残そう」と住民有志が保存活動を始めた。津屋崎人形の当主の故原田活男さんと元美術教師の故柴田治さんらが中心となり、上妻家の無償提供を受けたことによって町家を保存できた。建物を「藍の家」と名付け、展示やイベント、藍染め体験等の活動に加え小中学校と連携し子ども達に地域の歴史を伝える活動を行っている。

uma u. (ウマウ)

賞 第 11 回優秀賞

一般社団法人

福岡県久留米市梅満町 32-4



ひとり親家庭の相互扶助で居場所づくりと食料提供

ひとり親家庭を孤立させまいと、福岡県久留米市の母子家庭の女性たちが中心となって設立した小さな会社。実家よりも実家らしい居場所を意味する「じじっか」を拠点に、毎週金曜と土曜に子ども食堂を開催。ひとり親の約 20 家庭を月 1 回訪問し、食料を無料提供する活動は、コロナ禍でも規模を縮小して継続した。母子家庭の発想から生まれた相互扶助事業で地域の子育て環境を改善し、100 人を貧困家庭から脱出させるのが目標。

遠賀川源流サケの会

賞 第 9 回優秀賞

福岡県嘉麻市桑野 2254-1



サケが帰る清流にしようと稚魚放流や環境整備

毎年 3 月、遠賀川流域の計 20 カ所でサケの稚魚計 4 万匹を地域の小中学生や住民団体などと放流している。旧産炭地を流れる遠賀川は、排水汚染からサケの遡上が一時途絶えた。放流や森づくり、河川清掃などの活動には「サケが帰る清流を」の思いがある。上流の歴史ある「鮭神社」では遡上サケの奉納も行われ、伝統継承にも役割を果たす。サケだけではなくヤマメの放流も始め、川に定着するようになった。小中学生と海・山の生物を観察する授業も年 10 回程度開いている。

うきはの宝 (事業からは撤退)

賞 第 12 回優秀賞

株式会社

福岡県うきは市浮羽町浮羽 756



75 歳以上が活躍、地産地消の「ばあちゃん食堂」

福岡県うきは市の食品製造会社「うきはの宝」が運営する「ばあちゃん食堂」は、主に 75 歳以上の女性を取り仕切る。食材やメニューなどは収益を考えて自分たちで選定する。女性陣のこれまでの経験や知識に裏打ちされた料理は味、見た目ともすばらしく、多くのファンをつかみ、利益を出している。大熊充社長は「子宝という言葉があるが、これからはお年寄りも宝。無限の可能性があると、高齢化率が高い他地域での展開にも意欲を燃やす。

このしまアイランドパーク

賞 第 10 回優秀賞

株式会社

福岡市西区能古 1624



農家が家族と四季の花の種をまき自然公園を開設

故久保田耕作さんは 1941 年から能古島を開墾。福岡市でも有数のサツマ芋生産者になったが、巨大な東京の市場を視察し、高度成長期には心を癒す自然が必ず求められると感じて自然公園づくりに目を向けた。家族で四季の種をまき、花を育てた。「大地に汗した開拓の日々 一粒の種が今 緑となり花を開く 明日の為に 力強く鋤を握ろう」。公園内には耕作さんが刻んだ農魂碑が立つ。立地の良さを生かし、宿泊やワーケーションの場としても潜在力を生かす。

佐賀

- 蕨野棚田保存会
- きびっこの杜
- 嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム
- 黒川町家読連絡会
- 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会
- NPO 栄町地域づくり会
- 牛津赤れんが会
- さがクリークネット
- 佐賀未来創造基金
- おもやい
- 灯す屋



子どもパートナーズ HUG っこ

賞 第13回優秀賞

特定非営利活動法人

福岡県古賀市



子育てを支援、小中高生の居場所をつくり夕食提供

乳児からティーンズまで、子育てを一続きととらえて伴走型で支援するグループ。幼稚園教諭や図書館司書など様々な資格を持つメンバーが、乳児の交流イベントから中高生の居場所づくりまで幅広く活動。特に中高生の居場所では週1回、夕食を提供しており、コロナ禍を経た現在は小学生を含めて60～70人の子どもが集まる。育ちゆく子どもたちとその親たちを継続して見守り、寄り添う役を務めている。

蕨野棚田保存会

賞 第1回優秀賞

佐賀県唐津市相知町平山上甲 1334



千枚棚田を生かし、農業体験や米のブランド化

後継者不足や高齢化で休耕田が増え始めた、約700枚の棚田が連なる蕨野地区の現状に危機感を持った住民有志が立ち上げた。棚田米のブランド化と、交流事業をスタート。昼夜の寒暖差があるなど特性を生かしたコメは注文が増えている。大学と地域交流協定を結び、学生ボランティアを中心に「棚田援農隊」が結成され、休耕田を実習田とし農作業や水路掃除など地区の共同作業に参加している。棚田のウォーキングや桜の植樹も実施。

黒川町家読連絡会

賞 第5回優秀賞

佐賀県伊万里市黒川町塩屋 504-1 黒川コミュニティセンター



家族で読書し、コミュニケーションを促進

2007年に伊万里市で家読活動が開始以来、毎年度末に「家読のすすめ発表会」を現在の黒川コミュニティセンターで開催。200人以上の参加で町民と共に家読の大切さを共有している。開始から10年を迎えた2016年は伊万里市が「日本一のうちどく推進のまち・いまり」を宣言し、伊万里うちどく推進ネットワークが発足した。黒川町家読連絡会員が市内全域に黒川の取り組みを紹介するなど、推進活動を展開している。2021年には、いつでも誰でも、自由に本を借りることができるようにまちかど絵本箱「えほんのたね」を町内8か所に設けた。

きびつとの杜

賞 第2回特別賞

NPO法人

佐賀県基山町宮浦 1605



荒れ地を楽しめる場にしたいと住民が公園手作り

荒れ地を楽しめる場所に変わりたいと、元サラリーマンらが話し合って生まれたアイデアを住民の力で実現させた。草を刈ったり木を切ったりの作業をメンバーが手弁当で進めた。約1300平方メートルもの公園に生まれ変わった。公園を維持する草刈りの業務委託を受けている。近くの工業団地の緑地の植栽管理も請け負う

鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会

賞 第6回優秀賞

佐賀県鹿島市納富分 2463-1 鹿島市役所内



古い家並みを舞台に酒蔵が合同でイベント

江戸後期から昭和初期にかけての白壁土蔵や町家が残る佐賀県鹿島市浜町の「酒蔵通り」で、6蔵元が一斉に蔵開きをし、うまい日本酒、食文化、歴史を堪能してもらう「酒蔵ツーリズム」を開いている。2011年、世界的ワインコンクール日本酒部門で地元蔵元が最高賞を獲得した機会を生かし、即座に組織をつくってツーリズムを開催、成功した。他産業、他地域とも連携して来場者を年々伸ばし、空き家対策としても具体的成果を挙げ始めている。

嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム

賞 第3回優秀賞

佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙 848



スリッパ卓球、ホテル、お茶企画で温泉街に活気

嬉野温泉に活気をもたらそうと、地元の若手経営者らが立ち上げた。卓球のラケットの代わりに、旅館にあるスリッパを使用し、宿泊者らと「スリッパ卓球大会」を毎月開催するほか、市内のマッサージ師を旅館の大広間に集め、低料手でリラックスしてもらえる「もみフェス」を実施。ホテルを少人数で観賞する企画や、さまざまな場所で特産のお茶体験ができる「ティーツーリズム」など、若い感覚で集客のイベントを次々と仕掛け、温泉街の魅力アップにつなげている。

さがクリークネット

賞 第10回ブロック賞（九州・沖縄）

任意団体

佐賀市白山 2-1-12 佐賀商工ビル 7階



水路を活用・保全し、豊かな環境を実現する

街中の水路網「クリーク」を地域の誇れる土木遺産として、市民が佐賀の歴史や風土の魅力を再発見できるよう取り組む。2015年から学生や会社員、公務員ら約30人が、江戸時代に築かれたクリーク文化の発展を目指し、「暮らす」「使う」「維持する」をコンセプトに楽しみながら活動している。企業、自治会、大学と連携しながら、クリークに船着き場を造り、カヤックや和船の乗船体験、川底や護岸の清掃のほか、マルシェなど水辺に親しむイベントを実施している。

NPO 栄町地域づくり会

賞 第8回優秀賞

NPO法人

佐賀県伊万里市大坪町甲 2443-63



高齢者の支え合いが若い世代との交流に発展

高齢者同士が支え合う仕組みとして、75歳以上の独居世帯に地域の高齢者が夕食を届け、安否も確認する「見守り弁当」に取り組んできた。民間業者の利用が増え、2020年3月にサービスを廃止。4月からは高齢者に限らず、幅広い世代の交流事業を進めている。子どもと高齢者のふれあいの場や、一緒にできるラジオ体操、高校生が高齢者にタブレットの使い方を教える教室など企画はさまざま。参加者の昔の写真を集めた「あれから50年」展やコロナ対策で自宅を手づくりの「手づくりっていいね!作品展」などユニークな発想で活動する。

佐賀未来創造基金

賞 第11回大賞

公益財団法人

佐賀市唐人 2-5-25



資源の循環により、地域で支え合う社会の実現に寄与

設立は2013年。市民や企業から寄付を集めCSO（市民社会組織）に助成、地域や社会の課題解決、活性化に取り組む。佐賀県「ふるさと納税（NPO等指定寄付）」も活用し「さが・子ども未来応援プロジェクト」など多くの事業を実施。21年度までに700団体以上を支援し助成総額は4億円を超える。コロナ禍では医療従事者、飲食店、CSOを緊急支援。「休眠預金等による助成対象事業」の資金分配団体に選ばれ県内、九州一円のCSOとコンソーシアムを組む。また、近年は「造贈寄付」を税理士など土業のパートナーと取り組み実績を積んでいる。

牛津赤れんが会

賞 第9回優秀賞

佐賀県小城市牛津町牛津 586 牛津町会館内



れんが建物を拠点に地域づくり、自主映画を製作

国の登録有形文化財「牛津赤れんが館」を活用、「アートなまち」をコンセプトに、30～70代の会員15人が自由な発想でジャズコンサートや伝統芸能の発表会などを2002年から続ける。地域に光を当てる取り組みとして17年に会員が中心となりドキュメント映画を製作。幕末・明治期にまちの礎を築いた人物に迫る内容で、協賛やエキストラなどで住民を巻き込み、県内各地で上映された。19年には鎌倉～明治期を取り上げた映画を製作。観光客誘致にも取り組む。

長崎

- 長崎コンプラドール
- まつうら党交流公社
- あづち大島たからものの会
- 平戸国際交流 HIRA の会
- 南島原市冬のお祭り実行委員会
- 大地といのちの会
- 松原宿活性化協議会
- 神代小路まちなみ保存会
- 雪浦あんぱんね
- 東彼杵ひとこともの公社
- 九州教具グループ
- 対馬 CAPP



長崎コンプラドール

賞 第 1 回優秀賞

NPO法人

長崎市梁川町 13-29



歴史や文化に触れるまち歩き推進、スタッフ育成

長崎弁で「ぶらつく」などを意味する「さるく」。2006 年度に開催されたまち歩き博覧会「長崎さるく博」に関わった市民らが立ち上げた。歴史や自然が豊かな長崎を紹介するほか、観光動向の調査研究、住民主体のイベント開催のノウハウの提供などを通じ、地域の活性化に寄与する。長崎市内の観光コースや地図の作成も手がけ「歩く」ことを通じて、まちの魅力の再発見につなげる。出島で観光客を出迎えるスタッフの育成や、全国各地でのまち歩きフォーラム開催にも取り組む。

おもやい

賞 第 12 回優秀賞

一般社団法人

佐賀県武雄市北方町志久 1931-6



豪雨頻発、民間主体で被災者のニーズ聴き、寄り添う

「おもやい」は九州の方言で「一緒に使う」「分かち合う」の意。2019 年 8 月の佐賀豪雨を機に、被害を受けた武雄市の市民と民間ボランティア団体が「おもやい」を立ち上げ、民間のボランティアセンターを始めた。被災者に寄り添い、災害ごみの片付け（仮置き場への搬出）、清掃・乾燥・消毒などの作業支援、支援物資の配布などに取り組んだ。21 年 8 月、再び記録的大雨が地域を襲い、支援活動を強化している。

灯す屋

賞 第 13 回優秀賞

特定非営利活動法人

佐賀県西松浦郡有田町大樽 2-3-21



歴史的町並みで空き店舗活用のイベントや移住支援

NPO 法人「灯す屋」は有田焼の産地・佐賀県有田町を拠点に「まちの未来にあかりを灯す」まちづくりを目指している。空き家や空き店舗を相談から解決までワンストップでサポートし、歴史的な町並みで空き店舗を活用したマルシェイベント「うちやま百貨店」や移住支援の交流イベントを企画・運営に取り組むほか、銘菓「茶わん最中」を復活、ヒットさせている。さまざまな活動を通じて関係人口を増やし、町内外の人たちをつなぐ。

平戸国際交流 HIRA の会

賞 第4回優秀賞

長崎県平戸市戸石川町 464-1



家康の外交顧問、三浦按針ゆかりの地とサミット

徳川家康の外交顧問を務め、平戸で亡くなった英国人「三浦按針（ウィリアム・アダムス）」を顕彰する「按針忌」を毎年、開催している。また按針ゆかりの大分県臼杵市、静岡県伊東市、神奈川県横須賀市と持ち回りでサミットを開いてきた。太平洋戦争中の英国人捕虜との和解活動や、日本人を父とするインドネシア系オランダ人との対話集会にも取り組んだ。地元では按針の墓から西洋人とみられる遺骨が発見される話題も。2020年は没後400年に当たり、記念事業に取り組んだ。

まつうら党交流公社

賞 第2回ブロック賞（九州・沖縄） 一般社団法人

長崎県松浦市御厨町田代免 601



農漁村の体験型修学旅行を提供、中高生呼び込む

人口減少が進む厳しい状況をはね返し、広域で体験型修学旅行の受け入れを進めようと、北松浦半島の市町村は2003年、母体となる協議会を設立した。田植えや定置網漁など農業・漁業、そば打ちや元寇の史跡見学、乗馬まで80を超えるプログラムをそろえ、約300会員が1日1200人を受け入れる体制を整えた。年間約2万人の中学生、高校生らが訪れる。修学旅行が少ない時期を中心に、外国人観光客の受け入れに力を入れている。

南島原市冬のお祭り実行委員会

賞 第5回優秀賞

長崎県南島原市北有馬町丁 397



キリシタン文化が花開いた地域性を生かす

キリシタン文化で知られる南島原の歴史的特性を生かし、毎年冬にイベントを開催する。市内の若者らが制作する、立ち木としては国内最大級の約30メートルのクリスマスツリー、2本を小学校のグラウンドに設置。合わせて約5万個の電球が夜のまちを飾る。たいまつを持ちながら、キリシタン時代の服を再現した姿で市内を歩く「南蛮行列」や、「ポーロ」などの南蛮菓子、料理の再現に取り組み、文化的遺産をまちの活性化に活用している。

あづち大島たからものの会

賞 第3回優秀賞

長崎県平戸市大島村神浦 231



島の景観を保存、スギ花粉「避粉地」をアピール

的山大島は長崎県西北端、平戸島からフェリーで約40分の距離に位置する離島。かつては海上交通の要衝として栄え、開発されずに残った古い家並みの景観を、空き家を活動拠点にして守る。スギ花粉の飛散量が極めて少ないことから、花粉症に悩む人のための「避粉地」をアピールしている。2泊3日の「避粉地体験セラピーツアー」を企画し、花粉症の季節に毎年、都市部からの客が訪れ、まちの活性化につながっている。

神代小路まちなみ保存会

賞 第8回優秀賞

長崎県雲仙市国見町神代丙 126-2



歴史ある武家町の景観を守る活動に取り組む

佐賀鍋島藩の飛び領地として独特の景観を持つ武家町、雲仙市国見町神代小路（こうじろくうじ）。生垣や石垣、水路など往時の面影を今に伝える景観を守るため2000年に「神代小路まちなみ保存会」を設立、活動を開始した。生垣やまちなみ清掃などで住民の郷土愛の高揚に努めてきた。次世代に活動をつなげ広げるため、「NPO法人」が2020年春から活動を開始した。22年、雲仙市がまちなか再生支援事業により空き家・空地再生と地域再生に取り組む計画であり、「保存会」、「NPO法人」も呼応し、維持保存からその利活用に取り組む。

大地といのちの会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

長崎県佐世保市潜木町 1016



生ごみを利用した無農薬野菜の栽培を広める

約50アールの畑には四季折々の旬の野菜が育つ。ダイコン、ニンジン、タマネギなど、年間で約30種類。どれも無農薬で、「菌ちゃん野菜」と呼んでいる。雑草が生い茂った土を耕し、家庭などから出た生ごみを微生物で分解させ、土づくりをする。ごみの減量が実現し、安全・安心な農業にもつながる。耕作放棄地の有効活用にも目を向けている。畑で収穫した元気野菜の大半は、九州を中心に全国の顧客へ宅配している。農園は月1回開かれる畑の手入れの講習会会場にもなっている。

雪浦あんぱんね

賞 第10回優秀賞

NPO法人

長崎県西海市大瀬戸町雪浦下釜郷 504



空き店舗や古民家を拠点にイベント、放棄地再生

海辺の静かな町の空き店舗を改修した交流施設「ゆきや」、古民家を活用したゲストハウス「雪浦ゲストハウス森田屋」を拠点に、住民や移住者が始めた地域回遊型散策イベント「雪浦ウィーク」は、毎年5月の大型連休の西海市を代表するイベントに育った。交流拠点にはパン工房を併設。ゲストハウスには海外からの旅行者も訪れる。耕作放棄地の開墾や移住希望者の相談、地域資源を生かしたグリーンツーリズム、森のようちえんの取り組みなども進める。

松原宿活性化協議会

賞 第7回優秀賞

長崎県大村市松原本町 77-1



伝統文化の継承へ講師を招き寺子屋塾を開催

長崎街道の宿場町として栄えた古い街並みが残る長崎県大村市の松原地区で、街並みの保存と地域交流を目的に2004年から活動を始めた。夏休みに子どもたちを集めて行う寺子屋塾や、地域住民が持ち寄り飾るひな祭りは、江戸時代に建てられた旧松屋旅館が拠点。参加者は年々増え、世代間交流の潤滑油としての役割も果たす。また長崎街道松原宿は、20年に長崎街道～シュガーロード～の構成文化財として、日本遺産に認定された。村川一恵会長は「活動を通じて子どもたちの心のよりどころとなる古里を残したい」と話している。

対馬 CAPP

賞 第 13 回準大賞

長崎県対馬市美津島町箕形 29

一般社団法人



漂着ごみ対策で調査研究、日韓交流、環境学習ツアー

海岸線の総延長が約 911 ㎞の対馬沿岸には、年間 2 万～3 万立方メートルのプラスチックなどが漂着し、地元産業のほか、生態系などに多大な悪影響を与えている。美しい海を取り戻すことを目指す対馬 CAPP の活動内容は、ごみ回収ボランティアや、種類、量などの調査研究、学校・団体向け環境スタディツアーの実施など多種多様。島外の企業・団体の視察も受け入れ、人口減に苦しむ島が熱視線を浴びるきっかけを作っている。

東彼杵ひとことの公社

賞 第 11 回地域の未来賞兼ブロック賞（九州・沖縄）

長崎県東彼杵町瀬戸郷 1303-1

一般社団法人



倉庫改築し交流拠点化、新店舗開業や移住促進に成果

県内で 2 番目に人口が少ない東彼杵町でまちづくりや商品開発、移住者支援などに取り組む。廃倉庫を改装した交流拠点施設を立ち上げてにぎわいを創出し、周辺エリアでの新店舗開業をサポート。5 年余りで 15 件以上の店が開業し、50 人以上の移住につながった。独創的な発想と多様なネットワークで、交流人口拡大と地域活性化に貢献。コロナ禍で苦境に立つ地域の飲食業、観光業のサポートにも積極的に取り組んでいる。

九州教具グループ

賞 第 12 回 SDGs 企業賞

株式会社

長崎県大村市桜馬場 1-214-2



文具店からスタート、ICT やホテル経営通じ SDGs 推進

長崎県大村市に本社を置く「九州教具グループ」（船橋修一社長）。文具店からスタートし、現在、ホテルの経営やミネラルウォーターの製造・販売などさまざまな事業を展開している。創業時から変わらぬ経営理念が「誠実にして正確を旨とし社会に貢献すべし」。地域に寄り添い、地域をリードしながら持続的成長戦略を日々探っている。

水俣市久木野ふるさとセンター愛林館

賞 第2回優秀賞

熊本県水俣市久木野 1071

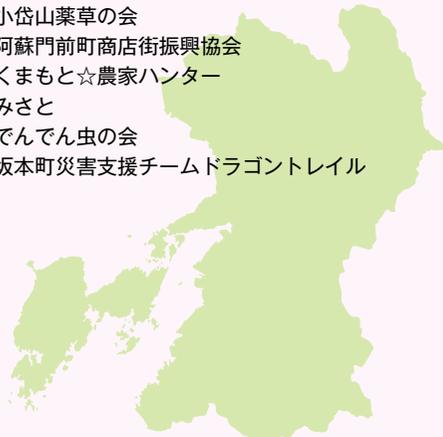


森づくりや棚田保全、イベントに幅広い活動拠点

愛林館はJR山野線久木野駅跡地にできた交流施設。「エコロジー（風土・循環・自立）に基づくむらおこし」「今後2000年間、この地に住み森と棚田を守っていけるむらづくり」をテーマに、地域づくりを進める。施設では、むらづくりの研修、そば打ちや豆腐、こんにゃく作りの体験ができる。照葉樹の造林を進め、荒れた棚田の再生のため、大豆を育てるプロジェクトを行う。マラソン大会やライブ、「棚田のあかり」も開催。

熊本

- 阿蘇グリーンストック
- 水俣市久木野ふるさとセンター愛林館
- 二見わっしょいファーム
- 芦北伽哩街道実行委員会
- 網田教育のりづくり隊
- 天草市大浦地区振興会
- 開懐世利六菓匠
- 小岱山葉草の会
- 阿蘇門前町商店街振興協会
- くまもと☆農家ハンター
- みさと
- でんでん虫の会
- 坂本町災害支援チームドラゴントレイル



二見わっしょいファーム

賞 第3回優秀賞

NPO法人

熊本県八代市二見本町 681-2



買い物難民化に悩む住民らコンビニの直売所運営

二見地区は海から山までつながる豊かな土地で、さまざまな産物に恵まれるが、人口減少によって日用品などを扱う店がゼロになった。住民が地元の農家や漁業者らに呼び掛け、農水産物のほかコンビニ的な機能も持つ直売所「しよい」を開店した。「~しよう」という方言にちなんだ。2012年にNPO法人設立。かんきつ類のバンパイクなど珍しいものも並べられている。他の地域の物産館や飲食店などとともに八代市の中心部で月1回物産市を開いており、500~1000人の買い物客でにぎわう。

阿蘇グリーンストック

賞 第1回特別賞

公益財団法人

熊本県阿蘇市小里 656-1



雄大な草原を守るため野焼きをボランティア支援

雄大な阿蘇の草原地帯。行政や農家、市民、企業が協力して設立し、ボランティアで野焼き支援活動を行い、美しい緑を守る取り組みを続けてきた。乾燥した草を燃やすだけに危険は付きまとうが、研修会を行ったり、難燃性のヘルメットや活動服を身に付けていたりなど安全対策に力を入れる。特産の「あか牛」を支援するオーナー制度やファームステイ事業といった農村と都市の交流の促進など活動の幅を広げてきた。「地域の宝」を伝えるために、若者を含めさらに多くの人の理解を深めていく構えだ。

天草市大浦地区振興会

賞 第6回特別賞

熊本県天草市有明町大浦 1723-1 大浦地区コミュニティーセンター



定置網のオーナー制度などを企画し交流人口増加

定置網や底引き網漁を体験できる「ひと網オーナー制度」など、ユニークな地域おこしに取り組み、大人気。全住民総出の温かなおもてなしに魅了された参加者はリピーターも多い。2018、19年度は「大浦田舎暮らし体験」として会員制でホテル観賞、民泊、デコポン施設見学、定置網漁、神社の祭り、ウォーキングなどの交流を楽しめる催しを開催した。交流人口の増加を、地域の活力と住民の生きがいにつなげる。

芦北伽哩街道実行委員会

賞 第4回優秀賞

熊本県芦北町芦北 2592-15



地元素材のオリジナルカレーを十数店が競い合う

芦北町と水俣市にあるレストランや食堂など十数店舗で組織する。料理研究家の先駆けで芦北町出身の故江上トミさんが、日本の家庭に最初にカレーを紹介したとされる功績をたたえ、海水浴客らに楽しんでもらおうと企画した。夏休み期間中に芦北伽哩街道夏フェアを開催し、地元食材を使って各店がオリジナルカレーの味を競う。あしきた牛を使った焼きカレーやアジアカエビのフライをのせたカレーなどが出た。地元高校と協力してカレー弁当を開発、カレーが食べられる列車運行にも取り組んでいる。

開懐世利六菓匠

賞 第7回優秀賞

一般社団法人

熊本市南区川尻 1-3-39-1



和菓子職人が工芸菓子の実演・販売会を地元で開催

熊本市南区川尻地区は江戸時代、年貢米の積み出し港として栄えた「職人の町」。和菓子職人らでつくる「開懐世利六菓匠」は1990年に結成。造形にこだわった「工芸菓子」の実演・販売会を地元で長年にわたって開催し、「川尻といえば和菓子」のイメージを定着させ、まちおこしに一役買っている。全国イベントの際には記念菓子も作成。学校現場でも体験教室を催し、日本の和菓子文化を伝える。

網田教育の里づくり隊

賞 第5回ブロック賞（九州・沖縄）

熊本県宇土市長浜町 328-1-4



あいさつやまちの清掃通じ、地域ぐるみで子育て

過疎や少子化が進む人口4000人弱の網田地区で地域ぐるみで子育てに取り組んでいる。地元の大人たち約30人で構成する。地域を挙げたあいさつ運動や、まちの清掃に取り組み、小、中学校にメンバーが出向いての読み聞かせも続けている。地元を愛する心を育もうとする結束力が強く、学校も協力的だ。年1回の地域のイベントでは地元食材を使った長さ12メートル以上にもなる巻きすし作りに挑戦している。東京からUターンして農業に励む若者も出てきた。

くまもと☆農家ハンター

賞 第10回優秀賞

熊本県宇城市三角町戸馳 1945-1



若手農家がイノシシ駆除。IT活用、ジビエにも

熊本県内の若手農家がイノシシから農地を守るため勉強、防護を重ね、自ら狩猟免許を取り、駆除にも当たっている。ITを活用し、センサーや監視カメラで現場を「見える化」して負担を軽減。ネットを使った情報発信にも熱心だ。活動拠点の宇城市三角町では、住民が駆除に取り組むなど、地域維持への好循環が生まれている。ジビエ活用拡大のため解体施設も完成した。レシピの共同開発など高校生にも活動の輪が広がっている。

小岱山薬草の会

賞 第8回優秀賞

熊本県玉名市繁根木 75 サンビル 1階



地元の薬草を生かし、料理教室や出前授業を展開

19人のメンバーが崇城大薬学部と連携し、地元の薬草（山野草）を生かした地域活性化や健康づくりに取り組む。料理教室や出前授業をはじめ、イベントで薬草を使った料理や茶を振る舞うなどして住民への普及啓発に努める。自前の薬草園も持ち、商品化を視野に加工食品の開発も進めている。玉名市は「薬草のまち」としての認知度が上がり、県内外から愛好者らが視察や研修に訪れている。後継者を育て、若い人に「食べて健康になれる」薬草の魅力を伝える。

みさと

賞 第11回優秀賞

熊本県芦北町天月 1337-1

NPO法人



子どもたちに里山保全や伝統行事、文化の大切さ継承

芦北町東部の中山間地・大野地域で、高齢化や過疎化で地域や里山が廃れていく中、地元の子どもたちに豊かな里山の大切さや地域の伝統行事を伝える活動に取り組み、地域活性化につなげている。地元の大野小で、地元の高校生が間伐した木材を使い、児童に向けた炭焼き体験教室を開催しているほか、地元神社に奉納する地域伝統の「わらび粉」作りなどに子どもたちと一緒に取り組み、里山保全の重要性や地域の伝統文化を継承している。

阿蘇門前町商店街振興協会

賞 第9回優秀賞

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 3092-2



商店街を湧き水活用や豪華景品の夜市などで復活

事業者一丸で地域のにぎわい創出に励む。阿蘇神社の門前にある商店街は、幹線道路への大型店進出などで1970年代に衰退したが、一帯に自噴する豊富な湧き水を散策スポットにした「水基」や桜並木を90年代から整備。花見の季節に通りに多数の量を敷いて、飲食や交流を楽しんでもらう「お座敷商店街」や、豪華景品の夜市、農産物を生かした商品開発などに取り組み、往時の輝きを復活させた。2016年の熊本地震では被災者支援にも力を入れた。

大分

- 安心院町グリーンツーリズム研究会
- ハットウ・オンバク
- 豊後森機関庫保存委員会
- BEPPU PROJECT
- くにさき七島蘭振興会
- 豊の国宇佐市塾
- 別府八湯ウォーク連絡協議会
- 湯布院映画祭実行委員会
- 下郷村
- 庄内神楽座長会
- 水辺に遊ぶ会
- 別府八湯温泉道実行委員会
- 日田もりあ下駄い



でんでん虫の会

賞 第12回ブロック賞（九州・沖縄） NPO法人
熊本市中央区九品寺 3-3-26



1人暮らしを支え合う、制度の隙間の課題に対応

「ひとり暮らしを支え合う」を実践する熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」は11年前、元ホームレス男性の孤独死をきっかけに発足した。生活困窮者や高齢者、障害者といった孤立しがちな人々が抱え、公的制度の隙間にある課題と向き合い、相談や交流の提供、通院・行政手続きの同行、仕事のあっせんなど「なんでんかんでん」に対応。互いが安心して語り合う場を設け、地域の官民ネットワークの要となって課題解決を図っている。

安心院町グリーンツーリズム研究会

賞 第1回ブロック賞（九州・沖縄） NPO法人
大分県宇佐市安心院町下毛 1195-1



農家に泊まり農作業を体験、地域経済の柱に成長

農家に泊まり農作業を体験するグリーンツーリズムの先駆けだ。活動を始めた1996年に8軒だった会員は50軒に増加。人気旅館のおかみさんからもてなしを学んだり、料理を習ったりする。大学、や、本場・ドイツなどへの視察など、会員の研修にも力を入れてきた。日帰りも含め年間約8千人を受け入れ、地域経済の柱に成長した。漁村の家庭も加わり活動の場は海にも広がり、バカンス法制定の運動にも力を入れる。

坂本町災害支援チームドラゴントレイル

賞 第13回優秀賞
熊本県八代市植柳上町 581-1



山道を走る愛好家が災害復旧やシカの食害対策

チームドラゴンは、山道を走るスポーツ「トレイルランニング」の八代市の愛好家らでつくるグループ。2020年7月の熊本豪雨後、トレイルランニング大会の企画だけでなく災害復旧にも取り組むチームとして再スタート。被災した坂本町を支援し、地元の山をシカの食害から守るため侵入防止ネットを設置する活動も進めた。22年夏、被災後初となる大会を実施。ランナーに被災地の現状を伝え、環境問題などのメッセージを発信した。

BEPPU PROJECT

賞 第4回優秀賞

NPO法人

大分県別府市野口元町 2-35 菅建材ビル 2F



アートやクリエイティブの力でまだ見ぬ価値を創造する

2005年4月発足、06年5月に法人化。大分県別府市でアートやクリエイティブを軸に活動しているNPO法人。『in BEPPU』『国東半島芸術祭』などのアートプロジェクトの企画・運営、地元企業とクリエイターのマッチングを支援する『CREATIVE PLATFORM OITA』など、さまざまな事業を展開。アートやクリエイティブを地域の課題解決や新たな可能性が生まれる場づくりに活用し、まだ見ぬ価値を生み出すことを目指す。

ハットウ・オンパク

賞 第2回優秀賞

NPO法人

大分県別府市北浜 1-14-15



体験・交流型地域づくりで資源発掘、人材育成

温泉地として有名な別府八湯で誕生した「ハットウ・オンパク」は、多種多様な体験プログラムの開催を通じて、地域資源の発掘と人材育成を促進する取り組み。路地裏の共同湯といった地域に密着の場を、ボランティアの住民が紹介しながら歩くといった体験・交流型の地域づくりに有効な「オンパク」の手法は、これまで全国100以上の地域に導入された。近年ではタイやグアテマラなどの海外でも行われるようになった。

くにさき七島蘭振興会

賞 第5回優秀賞

大分県国東市安岐町富清 3209



敷物材料の特産植物を栽培、後継者も育成

七島蘭は1660年代ごろから別府湾周辺一帯で栽培され、敷物や畳表の材料として江戸時代から昭和40年代まで大分の特産品だった。戦後のピーク時は年間550万畳を生産したが、畳表は海外産の材料に取って代わり、生産者の高齢化が進んで消滅寸前だった。それに対し、国産品を見直す動きが起き、畳表に加えて円座などの工芸品を取り入れ、ブランド化を通じた七島蘭復活を目指す。年間2000畳程度生産されるようになり、1ターン、Uターンの後継者も出ている。

豊後森機関庫保存委員会

賞 第3回優秀賞

大分県玖珠町帆足 473-1



廃止された機関庫を保存、観光スポットの公園に

蒸気機関車が活躍していた1970年まで稼働していた機関庫を観光資源として保存に取り組みしてきた。活動が実を結び、国の登録有形文化財に指定された。機関庫には列車12両が入り、車両の向きを変える転車台もある。歴史的価値があると年間1万人以上が訪れ、映画のロケ地にもなった。9600型蒸気機関車を展示、ミニトレインを走らせる700メートルのコースや町営の資料館もある機関庫公園として、観光スポットに育った。委員会メンバーはイベントなどの際に案内を引き受けている。

湯布院映画祭実行委員会

賞 第8回ブロック賞（九州・沖縄）

大分市大手町 2-2-5



全国の映画祭の草分け、温泉エリアで文化交流

全国の映画祭の草分けとなる「湯布院映画祭」は1976年から大分県由布市湯布院町の由布院温泉エリアにある湯布院公民館を主会場に開かれている。映画人とファンがシンポジウムで熱く議論を交わし、毎晩、食事しながら交流するのが恒例。映画館のない町に文化を根付かせる原動力になっている。2016年の熊本地震、17年の九州北部豪雨で被害を受けたが、兩年ともに映画祭を開催して湯布院の健在ぶりを県内外に発信した。コロナ禍の20年は【夏の陣】【秋の陣】を分散開催。

豊の国宇佐市塾

賞 第6回優秀賞

大分県宇佐市森山 216



戦争中の映像発掘やフォーラムで歴史伝える

太平洋戦争中、日本軍の出撃拠点だった旧宇佐海軍航空隊を地域資源と捉え、戦争遺産の保存や、平和フォーラム、ウオークといった市民への啓発活動を展開してきた。とりわけ米国立公文書館が保有する米軍の空襲や空中戦、日本軍機の特攻などの映像を発掘、撮影地などを解析する活動は大きな反響を呼んでいる。平和の大切さと命の尊さを訴える活動の成果は、資料館と戦争の遺構群で構成する「宇佐市平和ミュージアム（仮称）」建設という形で結実する。

下郷村

賞 第9回ブロック賞（九州・沖縄）

大分県中津市耶馬溪町大島 3818-1



地域誌や学童施設、共同店舗整え移住者呼び込む

人口1300人余りの中山間地、中津市耶馬溪町下郷地区で、地元の人と移住者がつくった地域づくりグループだ。顧問の中島信男さんは「暮らしの範囲はお寺の鐘が聞こえるくらいがちょうどいい」と活動の本質を語る。有機無農薬農業をベースに、林業などプラスアルファの仕事で「いのちき、(生計を立てる)する。盆踊りや祭りに加え、新しく映画祭を開いて楽しみを創出。地域誌「雲と橋」を発行して豊かな暮らしを発信し、移住者を呼んでいる。

別府八湯ウォーク連絡協議会

賞 第7回優秀賞

大分県別府市元町 11-7



地域密着で個人客に温泉地の魅力を発信

日本一の温泉湧出量を誇る別府は鉄輪、浜脇、別府、観海寺、亀川、柴石、堀田、明榮という8つの温泉地からなる。昭和の時代は宴会中心で団体客がターゲットだったが、平成からは個人客がメイン。温泉地の良さをアピールするため、目を付けたのが土地の魅力探しだった。別府にあるいろいろなタイプの温泉、路地裏の共同湯といった地域に密着した場所を、ボランティアの住民が紹介しながら歩く。泉都を体感するコースは23にもなった。案内の様子は動画で公開、自宅からも温泉街散策を楽しめる。

別府八湯温泉道実行委員会

賞 第12回優秀賞

大分県別府市上野口町 1-15



多種多様な湯巡るスタンプラリー、近場の旅を先取り

別府エリアを舞台とする湯巡りのスタンプラリー「別府八湯温泉道」。地域に根差した共同温泉や旅館・ホテルの大浴場…。多種多様な温泉資源を生かし、日本一の源泉数を誇る別府の強みを際立たせる。地域体験型観光の先駆けであり、地元住民が多く参加している点は、近場の旅「マイクロツーリズム」を先取りした取り組みともいえる。2021年で20周年。実行委員会は観光関係者や温泉愛好家らで構成している。

庄内神楽座長会

賞 第10回優秀賞

大分県由布市庄内町柿原 302 由布市役所内



神楽座結集、公演やグッズで財源確保、知名度も

由布市庄内町地域の神楽座が集まり、1993年に庄内神楽座長会を立ち上げた。定期公演や神楽祭り、出張公演を開催。グッズ販売や公演の有料化などに取り組んだことで、自主財源を確保した。「庄内と言えば神楽」というイメージが内外に浸透。知名度は飛躍的に伸び、県外からの出張依頼も。神楽のシンボルマーク「みことちゃん」は各商店でも利用され、地域全体で神楽を軸とした活性化が進んでいる。コロナ禍では感染防止のオリジナルマスクキットをつくった。

日田もりあ下駄い

賞 第13回優秀賞

大分県日田市



多世代のメンバーが特産のげたでダンス、地域を発信

大分県日田市特産のげたを履いてダンスをする市民グループ「日田もりあ下駄（げた）い」。ご当地グルメで町おこしをする「日田やきそば研究会」のパフォーマンス部隊として並んだ客に「日田げたダンス」を披露したところ評判になり2013年に独立、結成した。その名の通り「地域を盛り上げたい」と、6歳から60歳までのメンバー約20人がイベントや福祉施設などでダンスを披露。軽やかなげたの音で日田の魅力を伝えている。

水辺に遊ぶ会

賞 第11回優秀賞

大分県中津市東浜 1151-4

NPO法人



カブトガニがすむ遠浅の海を保全、自然体験や研究活動

カブトガニやアオギスなど希少生物がいる遠浅の海を中津干潟と名付け、浸透させてきた。清掃活動や松林再生などの「保存・保全」、自然体験活動や教材製作などの「共感」、生物目録や中津干潟レポートなどを作成する「研究」という三つの柱で活動を1999年から展開。2020年夏に発足記念日の7月1日を「中津干潟の日」と定めた。自然の素晴らしさに市民の目を向ける取り組みと共に地域資源の魅力と学術的価値を高めている。

のべおか天下一市民交流機構

賞 第2回優秀賞

NPO法人

宮崎県延岡市東本小路 131-5



旧藩主由来の「天下一」能面を使った薪能を開催

毎年10月、延岡城址の石垣を背景に薪能を開催し、2022年25回を迎えた。延岡市には旧藩主内藤家から譲り受け、安土桃山時代から江戸時代初期に「天下一」の称号与えられた面打ち師による貴重な能面が72面あり、それらを使用して、一流の能楽師が演じる。来場者は全国から1000人以上。会場設営などの準備は、実行委員をはじめとする市民ボランティアの手による。地元中高生500人以上も手伝っており、地域の結束力を示している。

小川作小屋村運営協議会

賞 第3回優秀賞

宮崎県西米良村小川 254



地元料理、宿泊を楽しめる施設運営、地域に活気

レストランなどを備える「おがわ作小屋村」を運営し、年間2万~3万人が訪れる。メンバーは地元住民約20人。年配の女性が腕を振るう。四季折々の山菜やシカ肉やシン肉を使った料理が16皿の小鉢で並ぶ「おがわ四季御膳」は月1000食ほどが出る人気メニューだ。手打ちそばも提供している。春には山菜祭りを開催し、採れたての山菜を直売している。宿泊施設の運営も受け持っており、地域は観光客らでにぎわう。

宮崎

- 「定期朝市」トロンロン軽トラ市
- のべおか天下一市民交流機構
- 小川作小屋村運営協議会
- 染ヶ岡地区環境保全協議会
- 酒谷地区むらおこし推進協議会
- どんぐり1000年の森をつくる会
- 五ヶ村村おこしグループ
- はなどう
- ままのて
- 川坂川を守る会
- 宮崎がん共同勉強会
- 焼畑蕎麦苦楽部
- 満月食堂



「定期朝市」トロンロン軽トラ市

(受賞当時：まちづくりトロンロン)

賞 第1回優秀賞

宮崎県川南町川南 13680-1



長い坂道で名物朝市・軽トラ市を開催、来客多数

トロンロンと呼ばれる地区の坂道600メートルを使って、毎月第4日曜日の朝8時から開催し、農家や漁業者らが農、海産物、畜産加工品など、多彩な商品を軽トラックに載せて出店する。135台前後が並び、新鮮で安い食材を求めて1万人が訪れる。午前11時45分まで開かれるが、売り切れは珍しくない。抽選会も開かれる。2006年に始まり、口蹄疫や新型コロナウイルスといった問題で中止もあったが、たくましく再開、にぎわいを取り戻している。

どんぐり 1000 年の森をつくる会

賞 第6回ブロック賞（九州・沖縄） NPO法人
宮崎県都城市山之口町富吉 2985-26



森を守ろうと市民の出資を集め植林

九州で水質ワースト1だった大淀川源流の森づくりを目指し、どんぐりの種から育苗する植樹活動を展開している。植樹1本につき500円の協力金を負担してもらって「株主制度」など誰もが参加しやすい仕組みをつくり、自然再生を実践。活動開始から27年目に入り、植樹した広葉樹も17万4千本を超えた。以前は国有林での植樹だったが、過疎高齢化で山林を管理できなくなった所有者からの依頼で植樹するケースも増えている。子どもの環境教育なども開き、環境保全に成果を上げている。

染ヶ岡地区環境保全協議会

賞 第4回優秀賞
宮崎県高鍋町持田 2205



ひまわり畑を柱に口蹄疫を克服、植栽を継続

地元農家を中心に発足し、現在のメンバーは約130人。2010年に発生した口蹄疫の影響によりキャベツ畑などで畜産堆肥を使えなくなったことから、ヒマワリを使った緑肥に変更した。耕して土中に混ぜ入れる前の8月、咲き誇る約1100万本のヒマワリを楽しむことができる「きゃべつ畑のひまわり祭」を開催してきた。祭りは19年度で終了したが、ヒマワリ植栽は今後も続ける予定だ。

五ヶ村村おこしグループ

賞 第7回ブロック賞（九州・沖縄）
宮崎県高千穂町岩戸 58



地元料理提供の温泉茶屋、古民家移築の施設を整備

国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に登録された「高千穂郷・椎葉山」の五ヶ村集落。平均年齢60歳の住民9人が1994年に村おこしグループを立ち上げ、地元料理を提供する「天岩戸温泉茶屋」、古民家を移築して作った「神楽の館」などの施設をほぼ自前で整備した。地域の食材を利用したメニューの提供、夜神楽の伝承保存などに取り組む。地元の意欲ある若者夫婦に事業継承するとともに、閉鎖の危機にあった「天岩戸の湯」の存続や、コロナ禍対応として3密にならないキャンプ場づくりも進める。

酒谷地区むらおこし推進協議会

賞 第5回準大賞
宮崎県日南市酒谷乙 4557 日南市役所酒谷支所



住民が80年以上守った棚田で地域おこし

80年以上にわたって守る「坂元棚田」は、日本の棚田百選の一つ。過疎化に負けない地域をつくろうと住民で協議会を結成した。拠点としている道の駅は、名物料理や新鮮な地元の野菜が人気を呼び、年間20万人が訪れる。全世帯が参加し、それぞれ年1200円を負担している。道の駅の運営団体にも出資する。坂元棚田は石垣で囲まれた独特な構造で、2002年にオーナー制度を取り入れ、石垣の清掃や稲刈りの体験も始めた。

川坂川を守る会

賞 第10回優秀賞

宮崎県延岡市北川町長井 3813



希少動植物の宝庫、湿原を保全、案内し魅力発信

延岡市北川町を流れる川坂川周辺の豊かな自然環境を保護しようと2010年に発足。希少動植物の宝庫である川坂湿原の草刈り作業など定期的な維持管理に努めている。地区外のボランティアが参加する環境保全イベントも実施。会員はボランティアガイドとして県内外の個人や団体客を湿原に案内し、地区の魅力を県内外に発信している。近年は、環境保全活動に加えて、イベント開催や農業振興など地域づくりに精力的に取り組んでいる。

はなどう

賞 第8回優秀賞

農事組合法人

宮崎県高原町蒲牟田 788-2



耕作放棄地でビールや酒原料を栽培、直売店で販売

高齢化や鳥獣被害が深刻化し、耕作放棄地が増加していた宮崎県高原町蒲牟田の花堂地区で、農地を集積。県内企業と連携し、ビールや日本酒、焼酎の原料となる米や麦を栽培している。県内企業と提携して牛乳甘酒も開発。製品は法人が運営する農産物直売所「杜の穂倉」でも販売し、黒字経営を続けている。古民家レストランも開店し、観光客が増加。また、2018年発足の女性加工グループ「はなどうキッチン」により、「ちまき」など多くの加工品が出されている。若手農家育成や移住者呼び込みなど、法人を核に地域に活気をもたらしている。

宮崎がん共同勉強会

賞 第11回優秀賞

NPO法人

宮崎市吉村町大田ヶ島甲 410-3 サンジェルマンV 103号



がん患者が医師らと学習、悩み相談、オンラインも活用

医師の呼び掛けで2009年発足。がんの種類や治療している病院を問わずに参加できることが特徴で、月1回の会合でがんの知識を学ぶほか、化学療法で生じる副作用など当事者にしか分からない悩みなどを語り合う。悩みを解消でき、治療に前向きになるなど患者同士が支え合う場になっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で会合の開催が難しくなる中、オンライン参加を併用することで、患者同士のつながりを懸命に保ち続ける。

ままのて

賞 第9回優秀賞

宮崎市錦町 38-1 グラード錦町店 2階

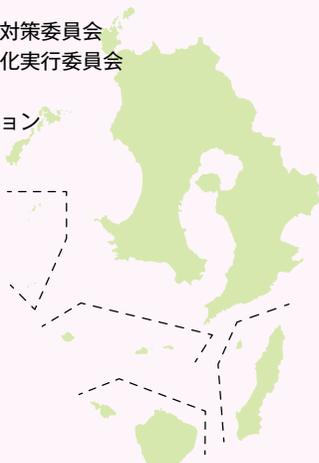


食事の提供や学習の指導、講座を開き子育て支援

子どもを軸に多世代を支援しようと2014年に設立。ひとり親や生活困窮家庭を含む子育て世帯を対象に講座やセミナーを開き、保育士や行政書士、社会福祉士などの専門職が相談に応じている。大学など市内3カ所で行う小中高校生対象の無料学習塾「ままのて宅学習塾」では、シニアや大学生らのボランティアが学習を支援。家庭が抱える複雑な課題を解決する糸口を探し、子どもを中心とした地域コミュニティの形成や居場所づくりにつなげている。

鹿児島

- 種子島アクションクラブ
- 大隅横川駅保存活用実行委員会
- さくらじま旬彩館
- 伊佐みりょく研究所
- Lab蒲生郷
- 着物で出水武家屋敷を歩こう会
- がんばろう高山
- 阿室校区活性化対策委員会
- 金吾様踊り活性化実行委員会
- とりさし協会
- 奄美イノベーション
- 花の木農場



種子島アクションクラブ

賞 第1回特別賞

鹿児島県中種子町田島 4141



ローカルヒーローが活躍、アクション創作劇上演

鹿児島県・種子島に元気を与える活動をと、立ち上がったローカルヒーロー「離島閃隊タネガシマン」。奮闘は20年を超え、島の顔、に。オリジナル作品で行う公演は320回を超え、農業の衰退や人口減少など島を襲う「敵」と戦ったり、地元の人やエピソードを盛り込んだりしてきた。毎回違うシナリオ、単純な正義のヒーローでない活動が、子どもだけでなく大人からも人気を集め、活動の幅を広げてきた。地域発のキャラクターの先駆けとして、息の長い活動を続けている。

焼畑蕎麦苦楽部

賞 第12回優秀賞

宮崎県椎葉村不土野 843



循環型自然農法を継承、食材生かし移住や観光客呼ぶ

「焼畑蕎麦苦楽部」は宮崎県椎葉村の尾向地区で活動する地域おこしグループ。縄文時代から続くとされる循環型の自然農法「焼き畑」を継承している。植樹を通じて山を強くすることで、環境保全にも取り組んでいる。世界農業遺産認定も追い風に、取り組みに賛同した移住者や観光客は増加。少子高齢化による人口減少は歯止めがかからないが、村の持続に向け、関係人口や交流人口増加を目指した新たな活動の展開を見据えている。

満月食堂

賞 第13回優秀賞

宮崎県延岡市島浦町 736-5



離島のにぎわい復活へ、地元の魚提供、加工食品も

満月食堂は、宮崎県延岡市の離島・島浦島（通称・島野浦）にある唯一の食堂。県外からの移住者が立ち上げた「日々とデザイン株式会社」が運営している。地元で水揚げされた魚を中心とした料理を提供するほか、地元水産会社の養殖マダイを使った加工食品を開発、販売している。漁が休みとなる満月の日の、かつてのにぎわいを取り戻すべく、定住減少の抑制や島外の関係人口増加に向け活動している。

伊佐みりよく研究所

賞 第5回優秀賞

NPO法人

鹿児島県伊佐市



ご当地グルメ開発や、ご当地キャラで活性化

過疎高齢化が進む伊佐市でご当地グルメやゆるキャラによる活性化に取り組む。地元農畜産物を使った手羽先料理を「手羽キング」と名付け、ご当地グルメ大会に出場。料理PRのため、キャラクター「イーサキング」が生まれた。伊佐を「13(いさ)」と読み、トランプのキングとかけた。ご当地キャラ総選挙で上位に入るなど人気で、市の知名度アップにも貢献している。近年は海外での特産品販売イベントなども行い、好評。Instagram、Youtube、Twitter、Facebook にアカウントがあり、毎日情報を発信、県内外から高評価だ。

大隅横川駅保存活用実行委員会

賞 第2回優秀賞

鹿児島県霧島市横川町中ノ263 霧島市横川総合支所



木造駅舎の保存、活用を核に活性化に取り組む

霧島連山の裾野に広がる横川町は、かつて金の取引で栄えた。輸送を担う大隅横川駅は1903年に開業し、九州で最も古い木造駅舎とされる。2006年、国の登録有形文化財に指定。太平洋戦争末期、機銃掃射を受けた7月30日には弾痕が残る駅で毎年、コンサートを開催し、平和の尊さを語り継いでいる。駅で地元の若者の成人式を開催しており、委員会のメンバーが作った門松を前に記念撮影をしている。ハロウィーンイベントも開いている。

Lab 蒲生郷

賞 第6回優秀賞

NPO法人

鹿児島県始良市蒲生町上久徳 2241



多彩なイベントや講座で歴史のまちを再発見

日本遺産に認定された武家屋敷群など、歴史と文化のまち「蒲生郷」を再発見し楽しんでもらうイベントを総称した「蒲生ワクワクコレクション」(略称:カモコレ)を2009年から続けてきた。観光資源や人材、行政を横断的につないだ共生協働のまちづくりがにぎわいを創出、「蒲生は熱い」「元気だ」という評価につながっている。コロナ禍ではオンライン発信をするためのオンライン講座などに取り組む。

さくらじま旬彩館

賞 第3回ブロック賞(九州・沖縄)

有限会社

鹿児島県桜島横山町 1722-48



桜島大根や小ミカンで主婦がオリジナル商品開発

桜島小ミカンなどのかんきつ類を中心に地元の農産物を使い、ドレッシングやジュース、みそなどオリジナルの商品を主婦が開発してきた。水を入れるとすぐに大根おろしになるフリーズドライの「桜島大根パウダー」は話題に。おふくろの味を楽しめるレストランも好評だ。2004年に有限会社に組織を改め、黒字経営が続く。主婦の感覚を生かした無駄のないやり方と、子育てを優先し支え合う柔軟な働き方が評価され、地方での起業の一つのモデルとなっている。

阿室校区活性化対策委員会

賞 第9回優秀賞

鹿児島県宇検村阿室 195



学校の存続目指し親子留学を誘致。農業の振興も

阿室小中学校存続のために始めた親子山村留学を機に、住民一丸となって活気ある地域づくりに成功した。「親子」の移住が進んだことで児童生徒増だけでなく、移住者が農業の担い手となったり、起業して農産加工物を全国に販売したりと、新たな感性で地域資源を生かす力となっている。委員会は移住者の住宅確保、地元住民との交流推進などを実施。地元住民と移住者の協働による地域再生は人口減少時代の地域づくりのモデルとなっている。

着物で出水武家屋敷を歩こう会

賞 第7回優秀賞

鹿児島県出水市上鯖淵 715-16
一般社団法人 出水市観光特産品協会



武家屋敷を着物で散策し、風景を満喫

江戸時代に建てられた武家屋敷が数多く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた麓（ふもと）武家屋敷群を着物で散策し、美しい風景を楽しんでもらうイベントを春秋の年2回開いている。そこから発展して「出水麓着物・浴衣・茶道体験の会」が結成され、女性着物コースは参加料一万円で、着物と帯は持ち帰りできる催しを通年で開いている。若い女性を中心に県内外から多くの人々が参加するほか、日本文化に興味のある海外の観光客からも人気だ。日本語、英語、中国語、韓国語のパンフレットも作成した。

金吾様踊り活性化実行委員会

賞 第10回優秀賞

鹿児島県さつま町中津川 825-1



若い世代が伝統芸能でU・Iターン、地域を担う

400年前から続く伝統芸能「金吾様踊り」のにぎわいを取り戻そうと、有志7人が2003年に活動を始めた。踊りの復活と継承が、過疎の農村地域を再生する原動力になっている。趣旨に共鳴する若い世代がU・Iターンし、14世帯45人が農畜産業、行事など地域の担い手に加わった。地元への愛着や結束力は強まるばかり。夢は踊り手500人が40種の踊りを奉納する演目「大念仏踊り」の完全復活だ。コロナ禍では動画サイトも活用、疫病退散を祈願する。写真は18年に61年ぶりに復活した「棒打ち舞」。

がんばろう高山

賞 第8回特別賞

NPO法人

鹿児島県日置市東市来町養母 15819-4



全住民参加で稲作体験などグリーンツーリズム推進

棚田がある集落で交流人口の拡大や若い世代の定住、高齢者の生活サポートに取り組む。156人(2020年4月現在)の住民全員で構成。田植えや稲刈り体験、山菜狩りなどグリーンツーリズムに力を入れる。秋祭りやこんにゃく作り、かずら細工、マス釣りも人気だ。市街地に高齢者を車で案内する「買い物支援事業」も開始。軽トラで各戸を回り、野菜を物産館に共同出荷して支え合う。廃校の小学校に宿泊施設があり学生らが合宿などに利用、祭りの手伝いにも参加。19年には農産物や団子、お総菜を販売する「たかやま峠茶屋」もオープンした。

花の木農場

賞 第 13 回大賞

社会福祉法人

鹿児島県南大隅町根占川北 2105



約 100 人が支え合い、働く農福連携のバイオニア

「日本一の福祉農園」を目指し、障害者が農業に携わる事業に 1972 年から取り組む。福祉と農業を結ぶ「農福連携」のバイオニアとして視察が相次ぎ、2021 年に全国規模の「ノウフク・アワード」で初代グランプリに輝いた。45^{ヘクタール}の敷地で、20 種類以上の農作物を生産し、畜産や商品開発など6次産業化に取り組む。非行やひきこもりを経験するなど働きづらさ、生きづらさを抱える人など約 130 人がお互いに支え合いながら働く。

とりさし協会

(受賞当時：鶏の生食加工業者協議会)

賞 第 11 回優秀賞

鹿児島県南九州市知覧町郡 3635 (南薩食鳥)



「鳥刺し」食文化を守ろうと衛生基準や店の認証制度創設

鳥刺しを食べる習慣が鹿児島県内と宮崎県の一部にある。9 年前に他県の焼き肉店で発生した集団食中毒事件を機に、固有の食文化は危機を迎えた。立ち上がったのが食肉業者や飲食店の有志。自主的に食肉処理の衛生基準作りに取り組み、提供店の認証制度を創設、さらに鶏料理を楽しめる臨時観光列車で安全性をアピールした。コロナ禍でも鳥刺しは「中食」として人気があり、帰省できない出身者らに送る人も多い。食の安心安全はもちろん、郷土愛を育む点でも貢献度は大きい。

奄美イノベーション

賞 第 12 回優秀賞

株式会社

鹿児島県奄美市笠利町里 50-2



島の伝統建築を宿泊施設に、集落文化伝える

奄美群島で宿泊施設「伝泊」と複合施設「まーぐん広場」を運営。空き家を改修した一棟貸しの宿、集落が護り受け継いできた自然と対話するヴィラタイプの宿、閉店したスーパーを改修した「まーぐん広場」2 階のホテルタイプの宿の 3 種類を 3 島に展開。「まーぐん広場」の 1 階にはレストラン、介護事業所、直売所などがあり地域の交流拠点としても住民に親しまれている。奄美が世界自然遺産に登録され観光客の受け皿として事業への期待は大きい。

琉球在来豚アグー保存会

賞 第1回特別賞

沖縄県名護市宮里 4-11-15-1



沖縄在来種の豚復活に取り組み、ブランドに成長

農家や研究者らが連携して、沖縄在来のアグー豚を守ってきた。「戻し交配」と呼ばれる方法で約10年かけて原種に近いアグー豚を復活させることに成功し、絶滅も危惧された状況から脱した。〴〵復活の地、となった名護市が「アグーの里宣言」を打ち出しPRに力を入れるなど、特産品としてアピールする動きも広がり、沖縄の新たなブランドに成長した。豚熱（CSF）からの防疫や、コロナ禍による需要減といった試練にも果敢に立ち向かっている。

沖 縄

- 鳩間島音楽祭実行委員会
- 琉球在来豚アグー保存会
- 栄町市場商店街振興組合
- 島の風
- 船浮音祭り実行委員会
- 嘉手納町商工会女性部
- ハマスーキ
- 大城花咲翁会
- 平久保サガリバナ保存会
- 久米島ホタルの会
- フーカキサバニ
- ていだこども食堂
- にじのはしファンド
- 首里まちづくり研究会
- 地域サポートわかさ
- いけま福祉支援センター
- バリアフリーネットワーク会議
- 与那原大綱曳実行委員会支度係
- 国頭村安田区
- 1万人井戸端会議
- おきなわこども未来ランチサポートコンソーシアム
- 中城村南上原組踊保存会
- ハッピーモア

栄町市場商店街振興組合

賞 第2回優秀賞

那覇市安里 388-1



復興期のレトロな街を、屋台祭やライブで元気に

那覇市の繁華街、国際通り北口近くにある栄町市場商店街は戦後復興期に誕生、当時とほとんど変わらない姿のまま。小さな商店や食堂などがひしめき合うように店を出し、レトロ感たっぷりの雰囲気はアジアの市場のようだと脚光を浴びている。毎年6月から10月は、月1回屋台を出して飲食物を提供する「屋台祭」を開く。毎年11月のライブではミュージシャンに加え、屋台の人も演奏するように。昼は買い物客でにぎわい、夜も多くの人が訪れる人気スポットとなった。

鳩間島音楽祭実行委員会

賞 第1回優秀賞

沖縄県竹富町字鳩間 26



小さな島に観客1000人集めライブイベント

人口60人ほど、周囲約4キロしかない鳩間島で毎年5月4日、千人前後の観客を集めて音楽祭を開く。民宿の庭で始まったイベントは屋外の広場にステージを変え、20回を越えた。全国で活動するアーティストら10組ほどが出演し、幅広い音楽を楽しめる。行政からの補助は一切受けず、島民が準備や当日の作業に協力。終了後には港で三線を演奏して、来島者を盛大に見送る。リピーターが多く、小さな島を元気にしている。

嘉手納町商工会女性部

賞 第4回優秀賞

沖縄県嘉手納町嘉手納 259



伝統の野国芋を活用、人気の特産品に育てる

「基地の町」のイメージを払拭するため、伝統の芋を活用した地域再生に取り組む。中国から沖縄に甘藷を伝えた野国総管の功績をたたえ、地元では甘藷のことを野国芋と呼ぶ。作付面積が少なく量が取れないが、ソフトクリームやアイスぜんざいなどとして商品化され、道の駅や地元料理店で人気だ。年1回の「野国総管まつり」では、芋の葉を使った雑炊「カンダバージュシー」をアンケートに答えた客に振る舞う。嘉手納町のゆるキャラ「いもっち」のポロシャツも受注販売している。

島の風

賞 第3回大賞

NPO法人

沖縄県伊是名村勢理客 1542



「島のこし」目指して古民家を宿泊施設に改修

名護市からフェリーで約1時間の伊是名島で、人口減に立ち向かい「島のこし」を目指す。赤やグレーの瓦屋根をサンゴの垣根が囲む伝統の風景を守ろうと、空き家を借り受けて、宿泊施設への改修を進める。将来は、施設の運営を地元集落に移し、地域を支える経済の柱をつくることで、活性化を進める計画だ。地元産のコメを加工した麺など特産品の開発・販売も進める。ほかの離島の団体とも連携し活動を広げたいとしている。

ハマスーキ

賞 第5回優秀賞

NPO法人

沖縄県糸満市西崎町 1-4-11 糸満海のふるさと公園内



糸満の古式漁具や漁師に関する資料を収集、保存

沖縄本島の最南端に位置する糸満市。沿岸部にある糸満地区は沖縄屈指の漁業のまちだ。糸満海人の歴史、文化を継承するため、地元有志が設立したこの団体は「糸満海人工房・資料館」を拠点に、海人文化に関する資料の収集や保存に当たっている。展示物についての説明や講話のほか、子どもたちや観光客を対象にした体験メニューもある。施設では古式の水眼鏡「ミーカガン」などのオリジナルグッズを販売している。

船浮音祭り実行委員会

賞 第3回優秀賞

沖縄県竹富町



沖縄を代表するアーティストら音楽祭で集落応援

西表島の西部に位置する船浮地区には40人ほどが暮らす。近隣の集落とつながる道路がなく、交通手段は船が頼りだ。過疎化が深刻なこの土地で生まれた池田卓さんはミュージシャンとして那覇を中心に活躍していた。拠点を船浮に移す前から、活性化を目的に「音楽祭り」を続けている。池田さんの人脈で沖縄を代表するアーティストが集まり、700人を超える観客が集まる。住民はイベント当日、名物イノシシ汁の販売や、船の送迎などでもてなす。

久米島ホタルの会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

沖縄県久米島町上江洲 457-20



ホタルが生きる環境を守り、島民に誇り

クメジマホタルがすむ島の環境を蘇らせ、水質汚染や不法投棄、ゴミ問題、赤土問題といった課題解決を目指す。それによる経済の活性化、そして何よりも久米島で生きる誇りと喜びを人々が見いだすことを活動理念としている。「久米島ホタル館」のパネル展示、生態飼育やガイドの手伝い、「ホタルの里」づくりのための草刈や清掃、植栽を行い、指定管理者となった。島全体の不法投棄ゴミや海洋ゴミの回収、啓蒙活動を住民と協力して実施。島内の保育園児から高校生で組織する「久米島ホタルレンジャー」も育っている。

大城花咲翁会

賞 第5回優秀賞

沖縄県北中城村大城 124



沿道の除草や花壇増設、樹木の植栽を管理

年配の男性の生きがい、居場所をつくろうと16人で組織。地域の清掃、花の手入れ、植栽を続け、シーサーや彫刻などの造形作品を飾るなどして訪れる人たちを喜ばせている。花咲かじいさんの昔話をイメージし、3千本のポウランを丸太に着生させて通りと公民館横広場の周囲に植え、管理している。定例の活動日は月2回だが、それぞれが空いた時間を活用し、美化活動に取り組む。梅雨明けの満月の時期に開催する「ムーンライトコンサート」や、集落全体を美術館に見立てた「スージグワー美術館」にもぎわっている。

フーカキサバニ

賞 第7回優秀賞

沖縄県名護市東江 2-8-47



伝統の帆かけ船、体験乗船や上級者向けスクール

琉球王国時代の沖縄の漁師が乗って世界の海を駆け巡った木のくり舟「帆かけサバニ」(＝フーカキサバニ)を21世紀の日常の中に取り戻そうと2002年に結成された。名護市を拠点に体験乗船会や上級者向けのスクールを実施し、操船技術を伝授してきた。単なるマリンレンジャーにとどまらず沖縄文化の継承、地域活性化につなげている。20年夏からは恩納村のリゾートホテルでもサバニ体験を実践している。

平久保サガリバナ保存会

賞 第6回優秀賞

沖縄県石垣市平久保 47-7



サガリバナの群落を守り、貴重な観光資源に

沖縄県石垣島の北端、平久保集落に自生する一夜限りの花、サガリバナ。2005年に米盛三千弘さんが自宅畑脇にあるサガリバナ群落を発見、多くの人を楽しんでほしいと遊歩道の整備などに夫婦で取り組んできた。北部地区活性化に向け保存会を開設、開花に合わせて地元のボランティアを含め一斉清掃を行っている。開花時期の夏場は観光客を含め地元の人も多く訪れている。

首里まちづくり研究会

賞 第8回優秀賞

NPO法人

那覇市首里池端町34 2F



琉球王朝時代の花の都で地域づくりにミツバチ

沖縄戦で失われた琉球王朝からの記憶をつむぎ、花の都だった首里のロマンを追い求め、ミツバチを活用したまちづくりを進めている。ハチミツのもととなる花の植栽に取り組み、「王朝蜂蜜」の地域ブランド開発を展開している。子どもたちに関心を持ってもらうため、ハチの専門家と協力、小学校でミツバチの飼育を始めた。地域のホテルの庭にもミツバチ小屋を設け、ハチミツを食事に出している。蜂蜜のエキスを生かしたビールの企画に関わり、販売を実現させた。豊かな環境の再生に努め、観光客が歴史を感じられる地域を目指す。

ていーだこども食堂

(受賞当時：浦添小学校PTA)

賞 第7回特別賞

沖縄県浦添市仲間 2-47-5



こども食堂や受験対策の無料塾で支援

地域の児童館で、未就学児～18歳までの子どもを対象に事業を展開、定期的に無料で昼食を提供する。また経済的理由で学習塾に通えず、意欲があるのに志望校を諦める子どものために「受験対策の無料塾」を開いている。地元小学校PTAのサークル活動からスタートし、学校・行政・地域の有志と連携、地域で子どもを守り育てる事業として独立した。人と人との関係をはぐくみ、関わるボランティアも生きがいを感じる居場所でありたいと奮闘している。

地域サポートわかさ

賞 第9回優秀賞

NPO法人

那覇市若狭 2-12-1



公民館拠点に多彩な講座。SNSも駆使

若狭公民館周辺の住民や自治会、学校関係者らが結成。公民館の指定管理者として「朝食会」や、大学生が子どもを教える「土曜朝塾」、一人親家庭の児童らへの無料英会話教室、公民館から遠い場所に出向く「パーラー公民館」など多彩な企画を展開している。参加者が物資を持ち寄り、専門家と活用法を考える防災キャンプを年4回、場所を変えて開催。コロナ禍では母子家庭、困窮した外国人の食を支援した。動画配信に積極的で、在住外国人や地域住民・市議会議員等による「グローバル市民会議」を開催し、その様子を配信した。

にじのはしファンド

(受賞当時：にじの森文庫)

賞 第8回優秀賞

NPO法人

那覇市松川 275-4 ディファイ南西 102号



困窮世帯に食料支援、読書できる子どもの居場所も

児童養護施設・ファミリーホーム・里親のもとで養育を経験した子どもたちの進学や資格取得を、自助努力を大切にしながらサポートしている。活動の一部門として子どもたちが本や漫画を読んで過ごしたり、友達と遊んだりできる居場所「にじの森文庫」を運営。子どもたちの要望や寄贈で蔵書は約2000冊に達した。子ども食堂として昼食も無料提供している。コロナ禍では困窮した家庭への弁当支給や食料配布、生活が苦しい学生への支援金に取り組んだ。

与那原大綱曳実行委員会支度係

賞 第10回優秀賞

沖縄県与那原町上与那原 16



綱の上に乗る「支度」の豪華な衣装展示会を開催

440年の歴史と伝統を誇る与那原大綱曳。長さ90メートル、重さ5トンもの大綱の上に、琉球史劇の登場人物に扮した「支度」が乗り、豪華絢爛な衣装を身にまとった勇壮な姿で観衆を魅了する。これまで支度の姿は大綱曳当日の限られた時間しか見ることができなかった。そこで多くの人に身近で支度の衣装や装飾品を見てもらい、関心を深めて伝統継承につなげることを目的に、2018年から「支度衣装展」を開催している。コロナ禍で大綱曳が神事のみとなった20年も10月30日～11月3日に衣装展を開催。

いけま福祉支援センター

賞 第9回準大賞

NPO法人

沖縄県宮古島市平良池間 90-6



手作りの介護事業、高齢者の知恵を次世代に継承

宮古島の隣にある池間島で、最後まで故郷に暮らしたいお年寄りの願いをかなえようと主婦グループが奮闘、2006年に介護事業所を開設した。使われていなかった建物を拠点に、お年寄りをケア、介護士など新たな雇用も生まれた。民泊運営もサポートする。高齢者の「生きる知恵」を次世代に継承する「アマイ・ウムクトゥ・プロジェクト」として小中学校に授業を設けた。月1回の「いけまシマ学校」で地域の人々が高齢者から踊りや歌謡を学んでいる。

国頭村安田区

賞 第11回優秀賞

沖縄県国頭村安田 858



住民がヤンバルクイナの保護活動、村・県・国を動かす

国の天然記念物ヤンバルクイナは1981年に新種登録された。一時は個体数約700羽まで減少し絶滅寸前と言われたが「先輩方から受け継いだ自然を次世代に」と区民を挙げて保護活動に取り組んだ。住民自治に基づく熱心な活動は村、県、国へと波及して継続的な外来種駆除事業や飼育繁殖事業となり、ヤンバルクイナは1500羽まで回復した。世界に誇る自然を守り、持続可能な地域づくりを目指す、SDGs時代のモデルとなる自治会である。

バリアフリーネットワーク会議

賞 第10回優秀賞

NPO法人

沖縄県沖縄市松本 2-30-1



観光バリアフリー目指し空港にセンター、情報誌

全ての人々が障がいの有無にかかわらず自由に暮らせる地域社会を目指し設立された。観光バリアフリーの推進を柱に高齢者や子ども、子育て中の親などあらゆるハンディキャップのある人々の社会参画を支援する。那覇空港で2011年、全国初のバリアフリーツアーセンターを開設。福岡空港でも同様のサービスを始めた。県内のバリアフリー対応施設を紹介する情報誌も発行している。県内全バス路線での視覚障害者向け音声サービスや、車いす利用者が暑さを避け快適に通行できる断熱舗装材開発にも成功した。

中城村南上原組踊保存会

賞 第13回優秀賞
沖縄県中城村南上原 754-5



創作組踊で新興住宅地の子どもを健全に育てる

沖縄本島中部の新興住宅地の中城村南上原地区。1993年に区画整理が始まり2019年には6倍の人口に増えた。地域には古くから伝わる伝統行事はなかったが、「ないならつくろう!」と有志が立ち上がり、新旧住民の交流を目的に中城村南上原組踊保存会が設立された。大人も子どもたちも巻き込み、新たな芸能文化を生み出した。創作組踊「糸蒲（いとかま）の縁」は地域振興と子どもの健全育成にもつながっている。

1万人井戸端会議

賞 第12回優秀賞
那覇市繁多川 4-1-38 NPO法人



自治会と連携し地域活動。エジプトに公民館根付かせる

那覇市のNPO法人1万人井戸端会議は、自治会と連携し地域文化や歴史を生かした事業を展開し、持続可能なまち作りを進める。事業を通して、地域を知り、誇りを培い、発展をつなぐ人作りの好循環を目指す。活発な取り組みはエジプトで見本となり、公民館活動を同国に根付かせる動きにつながっているほか、現代に求められる教育拠点として公民館を再定義し、減少しつつある日本の公民館の改革に貢献したいとの思いも強い。

ハッピーモア

賞 第13回優秀賞
沖縄県宜野湾市大山 7-1350-81 有限会社



小規模農家が育てた野菜を直売、出荷量を増やす

小規模農家が家庭菜園で育て、家族や親戚で食べきれない野菜が所狭しと並ぶ直売所。おいしい「お裾分け」が詰まった店舗は、売り手と買い手の弾んだ会話が聞こえる昔懐かしい八百屋のような雰囲気が特徴だ。

おきなわ子ども未来ランチサポートコンソーシアム

賞 第12回優秀賞
那覇市泉崎 1-10-3



子ども食堂と支援企業・団体つなぎ、善意の輪広げる

全国で子どもの貧困は7人に1人といわれるが、沖縄県では3人に1人が貧困に苦しんでいるのが現状だ。コロナ禍での全国一斉休校に伴う学校給食の休止でひもじい思いをする子を出してはならない。そんな思いでランチサポートは始まった。食支援の在り方を提案・実践には多くの賛同があり、支援を求める子ども食堂と支援の手法を模索していた企業・団体、双方のニーズをマッチさせ、善意の輪を広げる重要な役割を担っている。

協賛社・後援団体のことば



井村屋グループ

あずきの粒も大切に

お手玉づくり活動への参画

第14回地域再生大賞にご参画の皆さま、日々の地域での活動誠にありがとうございます。
弊社は1896年三重県松阪市に創業し、現在は津市に本社を構え、日本全国並びに海外への事業展開を進めさせていただいております。

2023年に発売50周年を迎えさせていただきました「あずきバー」をはじめ、ようかん、水ようかん、ゆであずき、あんまん、大福など、あずきを主原料にして多くのあずき製品を皆さまにご愛顧いただいております。

使用させていただいているあずきは私たちの手元に届くまでにお仕入先様で選別されたあずきを使用させていただいておりますが、弊社では品質の揃ったあずきを使用することで安定した品質を保つために粒の大きさや色目など自社基準でさらに選別工程を設けており、基準から弾かれるあずきを規格外あずきとしてリサイクルしています。

その規格外あずきの一部を、同じ津市にて活動されているボランティア団体「ふれあい長寿津」様にあずきお手玉やあずきカイロを制作していただき、学校や保育施設、各種高齢者施設などで活用いただいております。

2015年からお手玉づくりの取り組みにおいて制作していただいたあずきお手玉は約2万個を超えており、あずきを通じた地域の活動に寄与しております。

弊社におけるSDGsとの関連でいえば17の目標の中で「12 つくる責任 つかう責任」に結びつく廃棄物の削減などは食品産業の使命でもあり、食品残渣を中心にアップサイクルなども関係団体と取り組みつつ社会的責任を果たしてまいります。

今後とも地域のお役に立つ企業として、パーパスである「おいしい！の笑顔をつくる」に邁進してまいりますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



城南信用金庫

「よい仕事おこしネットワーク」が 地域の枠を超えて拡大中

信用金庫は、地域を守り、地域の方々の幸せのためにつくられた公共的使命を持つ金融機関であり、「地域社会の繁栄への奉仕と発展に貢献する」という経営理念に基づき活動しています。我が国には、北海道から沖縄まで254（2023年11月末時点）の信用金庫があり、金融面の支援はもろろんのこと、各々の信用金庫が、地域のあらゆる課題を解決するために日々奮闘しています。

また、全国で約7400店舗のネットワークをもつ信用金庫は、個々のエリアを超えて、スクラムを組んで連携している「よい仕事おこしネットワーク」（事務局：城南信用金庫）に参画しており、地域の枠を超えたビジネスチャンスの創出や多種多様な課題の解決に取り組んでいます。さらにネットワークには、信用金庫や中小企業のみならず、「地域課題を解決して、日本を明るく元気に！」という同じ志を持つ、自治体やマスコミ、大学などにもご参加いただいております。幅広いネットワークが拡がっております。

本ネットワークでは、2018年から「全国の絆で日本を元気に！」の想いをこめ、日本が一つになるため、47都道府県のお米を集め、それをブレンドした興こし酒「絆舞」を醸造してきました。2023年においても、過去最多全国308地域のお米を使用した「佳酔絆舞」、「芳酔絆舞」、生酒「爽酔絆舞」、貴醸酒「極酔絆舞」が完成しました。また、地方創生の取組みとして「地方連携プロジェクト」を推進しており、福島県名産品の桃と、長崎県の名産品カステラをコラボした「白桃カステラ」等や、各地の名産品を原料としたクラフトビールを、東京都大田区の製造会社が商品化に成功して、各地の地元のほか羽田インベーションシテイ内の製造会社で運営する飲食店でも販売を開始しました。

今後とも地域再生大賞に関係する皆様のご協力を賜り、本ネットワークをさらに強固なものとし、お客様の課題解決のためのプラットフォームとして更なる認知度向上並びに、ご利用促進を図って参ります。



「ブランドムービー」



「しんくみピーターパンカード」



しんくみバンク
公式 YouTube チャンネル

信用組合（しんくみ）

ちかくにいるから、チカラになれる。

信用組合（略称・しんくみ）は、「相互扶助」（共助の精神）を理念とし、中小・小規模事業者やコミュニティの生活者が組合員となり、お互いに支え合い、夢をかなえるために、組合員一人ひとりの預金を預かり、必要な時に適切な審査のもと融資することを使命とする協同組織の金融機関です。

昨今では、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある一方、信用組合の主なお取引先である中小・小規模事業者を取り巻く経営環境は、原材料・エネルギー価格等の高騰によるコスト増や深刻な人手不足等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

こうした状況下、組合員や地域を支える協同組織金融機関としての役割は重要であり、お取引先への資金繰り支援はもとより、売り上げ回復に向けた事業改善への助言・サポートや情報提供を行うなど、課題解決を図る伴走型支援に全力で取り組んでおります。

例えば、お取引先の本業支援として、生産者とバイヤーとの間をつなぐ「ビジネススマッシング」や、インターネットを通じて商品・サービスを全国に紹介する「クラウドファンディング」、起業・創業の促進や円滑な事業承継等に資する資本性資金の提供を行う「地域活性化ファンド」、さらには、大企業OB・OGの豊富な知見を通じて取引先の経営課題の解決を図る「新現役交流会」の開催など、地域活性化に向けた様々な取組みを行っております。

この他、利用額に応じて地域の児童支援関連施設等に寄付する社会貢献型クレジットカード「しんくみピーターパンカード」や、返還不要の給付型奨学金制度「しんくみはばたき奨学金」による地域の教育・子育て支援等、社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。信用組合は、これからもブランドスローガン「ちかくにいるから、チカラになれる。」を合言葉に、身近な金融機関として、組合員や地域の発展に向けた取組みに邁進してまいります。

「しんくみバンク公式 YouTube チャンネル」にて、信用組合に関する様々な動画を配信しています。

是非、こちらもご覧ください。



住友化学

「自利利他」―設立の理念脈々と

住友化学は、約1世紀前、愛媛県新居浜の別子銅山で発生した、銅の製錬の際に生じる排ガスによる煙害という環境問題を克服するために、銅鉱石から硫黄分を抽出して肥料を製造し、農産物の増産を図ることから誕生しました。

その設立の経緯にも通じる、住友の事業は、住友自身を利するとともに、国家を利し、かつ社会を利するものでなければならぬ、とする「自利利他 公私一如」の考え方を脈々と受け継ぎながら、時代の変遷にあわせて事業の変革を遂げてきました。

地域社会の一員としての貢献活動については、地域イベントへの参加と協力に加えて、当社グループの製品を使って実験や工作を行う「理科教室」「化学実験ショー」、工場・研究所見学会などを開催しています。

また、当社の事業所がある地域や海岸などにおける清掃活動を通して、プラスチック廃棄物問題の解決に貢献しています。2020年には、コロナ禍にある子どもたちが自宅で楽しく過ごせるよう、当社愛媛工場と新居浜市美術館とのコラボレーション企画「ステイホーム夢の工場WEB展覧会」を開催しました。

自然災害に対する地域支援としては、東日本大震災以降、社員食堂で「被災地応援メニュー」を提供し、売上の一部を遺児支援事業へ寄付する活動を継続しています。また、23年10月からは東京本社における「三陸・常磐もの」応援メニューや弁当の販売を開始したほか、応援マルシェを実施することになっています。

この先も、地域の皆さまから信頼され続けるために、さまざまな活動を通じて「地域との共存共栄」「世界を取り巻く諸課題への解決」につながる当社グループらしい社会貢献活動を推進してまいります。



中小機構は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

中小企業基盤整備機構

中小企業・小規模事業者のSDGsへの取組を応援

独立行政法人中小企業基盤整備機構（略称・中小機構）は、事業の自律的発展や継続を目指す中小企業・小規模事業者・ベンチャー企業のイノベーションや地域経済の活性化を促進し、我が国経済の発展に貢献することを目的とする政策実施機関です。東京の本部のほかに、北海道から沖縄まで全国に10の地域本部・事務所、人材育成のための9つの中小企業大学校、起業家育成のための29のインキュベーション施設を設置しています。経営環境の変化に対応した持続的成長を目指す中小企業等の経営課題の解決に向け、直接的な伴走型支援、人材の育成、共済制度の運営、資金面での各種支援やビジネスチャンスの提供を行うとともに、関係する中小企業支援機関の支援力の向上に取り組んでおります。

中小機構は令和3年3月に「中小企業SDGs応援宣言」をいたしました。SDGsは企業において、事業の持続性を高めることにもつながります。SDGsの考えを尊重し、中小企業・小規模事業者がスムーズにSDGsを経営に取り入れられるよう、相談窓口の設置、セミナーや研修、当機構が運営するビジネスポータルサイト「J・Net 21」を通じて情報提供を行っています。

また、全国の地域本部にカーボンニュートラル相談窓口を設置し、脱炭素化をテーマとした商談会を開催するなど、様々な支援施策を実施しております。

中小機構は、今後も中小企業・小規模事業者のSDGsへの理解促進と趣旨に沿った事業活動への支援を通じて、SDGsの達成に貢献してまいります。



日本地域情報コンテンツ大賞2023 授賞式



五箇山地区ボランティア集合写真

中日本高速道路（NEXCO中日本）

つなぐ原動力へ

当社は、高速道路という重要な社会インフラを担う会社として、安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路を24時間・365日お届けするとともに、地域の皆さまとのつながりを大切にしています。また、高速道路ネットワークの効果を活かして地域と地域をつなぎ、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長に貢献し続けていきたいと考えています。

当社は地域社会の一員として、2011年度から、高速道路沿線地域の皆さまとの協働を目的に、人手不足の農山村へのボランティア活動を3県5地区で実施しています。本活動は延べ280回を超え、約4,200名のグループ社員及びその家族が参加してきました（2023年11月末時点）。例えば、富山県南砺市五箇山地区では、世界遺産の合掌造り屋根の材料となる茅を地域の皆さまと一緒に育てており、定期的に茅場の草刈りや刈った茅を屋根に葺く作業を行うことで、茅場の再生とともに地域の皆さまとの関係性を築いてきました。

また、金沢支社においては、北陸地方の各産業（農林水産業、伝統工芸、地場産業など）で紹介する地域情報誌「北陸ジェネレーション」を発行しています。当該冊子は、産地・産業の活性化による定住人口の維持・移住の促進及び地域と関わりを持つ関係人口の増加につなげ、地域創生に貢献することを目的としています。今年の9月に発行した第4号では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進につながる誌面作りが評価され、一般社団法人 日本地域情報振興協会が主催する「日本地域情報コンテンツ大賞2023」において、地方創生部門優秀賞を受賞しました。引き続き地域の皆さまとコミュニケーションを図りながら、地域の魅力をより深く、より広く知ってもらうための情報発信を積極的に行ってまいります。

当社では、今回ご紹介した取組み以外にも、地域ごとに様々な取組みを行っています。今後も地域の皆さまとつながりを大切に、地域をつなぐ原動力として活動してまいります。

日本取引所グループ（JPX）

カーボン・クレジット市場の運営を通じ

カーボンニュートラルに貢献

日本取引所グループ（JPX）は、株式市場を運営する東京証券取引所、デリバティブ市場を運営する大阪取引所と東京商品取引所をはじめ、清算決済、自主規制機能なども含めた証券取引所に求められる機能を持った日本を代表する総合取引所として、日本の資本市場を担うという公共的な使命を果たすとともに、利便性、効率性及び透明性の高い市場基盤を構築するため、弛まず市場の持続的な発展を図り、豊かな社会の実現に貢献しています。

豊かな社会実現に向けた新たな取組みの一つとして、JPX傘下の東京証券取引所（以下「東証」）では、2023年10月、前年からの実証実験を経て、カーボン・クレジット市場を開設しました。このカーボン・クレジット市場は、日本政府主導で推進する、2050年カーボンニュートラル、2030年度の温室効果ガス排出量46%削減に向けた、成長志向型カーボンプライシングの導入の第一歩として経済産業省より受託した取組です。炭素の削減価値が価格として公示され、企業間で取引されることにより、社会全体における効率的な排出削減の実現に向けて重要な役割を期待されています。

カーボン・クレジット市場は、市場開設時までに、実証事業における参加者数を上回る188もの参加者が登録を受け、その後も順調に増え続けるなど、その関心の高さがうかがえます。売買高も市場開設後2か月で5万トンを超え、順調なスタートを切りました。

今後さらにカーボン・クレジット市場を活性化させていくために流動性の向上が不可欠で、その解決策の一つとして、継続的に売り買いの注文を出してくれるマーケットメイカー制度があります。マーケットメイカーにより、他の参加者に対して相場の実勢水準が示され、売買成立の機会が一層高まることを期待しています。

東証は、引き続き経済産業省と緊密に連携しつつ、カーボン・クレジット市場の取引活性化に向けた制度設計を進め、「成長に資するカーボンプライシング」に向けた取組に貢献してまいります。



東日本高速道路（NEXCO東日本）

地域をつなぎ、地域とつながる

私たちNEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献することを、グループ全体の経営理念としています。高速道路をご利用のすべてのお客さまに、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けするため、リニューアル工事、4車線化事業などの高速道路機能の強化や地震、豪雨・豪雪など激甚化する自然災害への対応といった課題に真摯に向き合い、皆さまのご期待に応えるべく日々事業に取り組んでおります。

2021年度から5年間を対象にスタートした中期経営計画では「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向けて変革していく期間」と位置付け、地域社会の活性化や人材育成を強化する方針を掲げています。なかでも東日本大震災の復興支援を通じて当社グループと結びつきが強い東北地域の活性化やその将来を担う人材の育成を目的に、当社支援のもと2022年4月に「事業構想大学院大学 仙台」が開設されました。この大学院と共創することにより、新たな事業を構想し、実践できる人材を育成することで地域活性化へ繋げていくことを目指してまいります。

また、2017年度から進めている、高速道路と福祉が連携した「高福連携」活動も推し進めていきます。障がい者の方が種まきから丁寧で育ててくれた花の苗を、サービスエリアなどの花壇に植える取組みをはじめ、障がい者の方が製作した木工作品やオリジナルマスクなどを休憩施設や当社ドラッグショップサイト上で販売する取組みなどを実施しています。

今後も2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すというSDGsの達成に貢献できるよう、当社の強みを活かし高速道路を通じた人々の暮らしと地域社会の発展に貢献してまいります。



「事業構想大学院大学 仙台」における授業風景



「高福連携」による花壇整備の様子

三井住友海上火災保険株式会社

地域の社会課題解決に向け、リスクソリューションを提供

私たち、三井住友海上は、MS&ADグループとして、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健全な未来を支えることを経営理念に掲げています。未来に向けて、「持続可能な社会」の実現を目指すために、地域社会や企業の特性に合わせ、課題の解決・リスクを解消していくことが私たちの役割です。地域経済の活性化と安心・安全なまちづくりを目指し、全国の自治体（全都道府県、二百超の市町村）と連携、包括協定等を結んでいます。

自治体、商工団体、金融機関等と連携し、地域の中小企業のSDGs取り組みの支援を行う他、災害に強いまちづくりや防災・減災の取り組みとして、データやAIを活用した社会インフラのメンテナンス、自然災害後のいち早い生活再建支援などを進めてきました。たとえば、近年、線状降水帯の発生等により、水災の広域化・激甚化・頻発化が起きています。そこで、気象・災害データとAIを組み合わせ、リアルタイムで災害状況を可視化する「防災ダッシュボード」を開発しました。自治体における防災減災行動を促し復旧を支援することが目的です。

その他にも自治体と連携し、水害発生時の罹災証明発行手続きをスムーズにする「被災者生活再建支援サポート」を構築しました。これは、保険会社による被災状況の調査と自治体の罹災証明発行に関する調査が重複して行われていたことを解消し、被災されたお客さまの一日も早い生活再建につなげたいという想いから生まれました。

また、全国自治体等において課題になっている舗装道路の点検にかかるコスト増や人員不足といった問題に対して、官民学連携で道路の損傷箇所を発見する「ドラレコ・ロードマネージャー」を開発しました。ドライブレコーダーから得た路面状態映像を用いて、道路の損傷箇所を検出することで、自治体等の点検・管理業務を支援しています。

当社は、今後も社会課題に向き合い、お客さまが安心して生活や事業活動を行うことのできる環境づくりをサポートしていきます。

[防災ダッシュボード イメージ図]



[ドラレコ・ロードマネージャー イメージ図]



[被災者生活再建支援サポート 協業スキーム]





既存建築物も活用した再開発事業による拠点づくり(新潟県長岡市)



居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指した実証実験(広島県福山市)



ヒト中心の魅力ある駅前空間への再編、中心市街地の活性化(静岡県沼津市)



サテライトオフィスを設置して地域活性化に挑戦(徳島県美波町)

社会課題を、超えていく。



UR都市機構

UR都市機構

URは全国のまちづくりを応援します

まちづくり・地域づくりの主役は、そこで暮らし、働く方々にほかなりません。私たちは、地元の方々との対話を大切に、歴史や文化を含む地域の資源を存分に生かし、まち・地域を元気にするための取り組みを進めています。

1955年に設立された日本住宅公団を母体とする私たちURは、60年以上にわたり「まち」と「くらし」に関わるさまざまな課題に向き合ってきました。現在、我が国において、地方を中心とした人口減少・少子高齢化や顕発する自然災害への対応などが求められるなか、URは、全国の「地方都市の再生」に向けたまちづくり支援に全力で取り組んでいます。

地域のおかれる状況や課題は千差万別です。このため、URによる支援の方法についても、地方公共団体によるまちづくり構想・計画づくりの支援、構想・計画に基づく具体的な事業化の支援、あるいはUR自らによる事業の実施などさまざまなツールを組み合わせたことが必要です。

そのまちの課題が何か、これからの時代にどのようなまちづくりを進めるべきか、URは何を担えるのか、それが住んでいる人や訪れる人の満足感や幸せにつながるのか。こうしたことを、地元公共団体や地元の方々とともに考えることから始めます。そこに、URならではの外部からの視点、国の機関として都市・住宅整備や災害からの復旧・復興に携わってきた経験、国や全国の企業・プレイヤーとのネットワークを総動員し、一緒に全国のまちづくり支援を進めてまいります。

ゆうちょ銀行

地域経済発展への貢献

ゆうちょ銀行の歴史は、1875年（明治8年）の郵便為替事業および郵便貯金事業の創業に始まります。創業以来、長い歴史の中で、世の中を支える金融機関として、お客さまとともに歩んでまいりました。

ゆうちょ銀行は、「社会と地域の発展に貢献する」という社会的存在価値（パーパス）のもと、「中期経営計画（2021年度～2025年度）」において重点戦略として「多様な枠組みによる地域への資金循環と地域リレーシジョン機能の強化」を掲げ、地域活性化ファンド等を通じて、地域活性化の重要な担い手である地域企業等へリスクマネー（エクイティ性資金）の供給を行っています。

具体的な投資先（投資分野）としては、成長支援、事業承継、起業・創業の支援等を目的とするファンドに加え、地震・台風等で被災され復興に取り組む中小企業等や新型コロナウイルス感染症の影響により経営環境が悪化した中小企業等を支援するファンド等多岐に渡り、地域活性化に資する様々な分野に資金を供給しています。

これまでに累計45ファンド（2022年度末時点）に参加し、累計約250億円の投資確約を行っています。また、これまでゆうちょ銀行が参加している地域活性化ファンドから400件を超える中小企業等に投資を通じて支援がされています。

これらの取り組みにより、お客さまからお預かりした大切な資金を地域に循環し、地域の活性化に貢献しています。

また、ゆうちょ銀行では、昨年9月から2年間、ゆうちょ銀行らしい新しい法人ビジネス「Σ（シグマ）ビジネス」のパイロット期間をスタートしました。この新たな法人ビジネス「Σビジネス」は、ゆうちょ銀行の強みである全国津々浦々のネットワークを活用し、国内事業の成長を後押しする「ゆうちょならではの」新しい法人ビジネスです。

地域の企業に必要な「資本力」を、「出資」という手段で支援するだけでなく、投資先企業のマーケティング支援や経営面でもコミットし、地域社会・経済の活性化と発展に貢献していきます。

ゆうちょ銀行は、地域社会との結びつきを深めながら、新しいビジネスモデルを創造し、より一層の発展を目指すとともに、地域経済発展への貢献に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

地域経済発展への貢献



ゆうちょ銀行
JP BANK



仙台市立仙台商業高等学校の生徒さんたちと共同開発した「ふわもちおとめパン～宮城県亶理郡産とちおとめいちごのジャム入りホイップ～」(2023年7月に東北地区で発売)



「#食べるぜニッポン!」のロゴを使用したPOPを売場に掲出

ローソン

様々な商品販売を通じて全国各地の「マチ」を活性化

ローソンは1975年の創業以来、社会の変化に対応し、お客様のニーズを見極め、新たな商品やサービスを作り出してきました。「私たちは「みんなと暮らすマチ」を幸せにします。」というグループ理念のもと、マチに暮らす人々の生活全般を支える「なくてはならない存在」であり続けるために、お客様が笑顔になっていただける商品やサービスの開発を進めています。

その取り組みの一環として、全国各地の「マチ」の活性化を目指し、47都道府県・約15,000店舗の店舗網を活かして、各地のご当地メニューや地元食材を使用した商品の発売を行うなど、地産地消や地産外消を積極的に進めています。また、各地域の学生さん達と地元食材を使用した商品開発を共同で行い、地域の皆さまと一緒に地元を盛り上げる取り組みも行っています。

2023年度は、農林水産省による日本産の水産品消費を促進する取り組み「#食べるぜ ニッポン」に賛同し、10月に、国産の水産品を使用したおにぎりや弁当などをアプリクーポンの利用で最大50円引きでご提供するセールを実施しました。また11月には、北海道による道産水産物の消費を促進する「食べて応援！北海道」に賛同し、北海道産のほたてを使用したおにぎりを道内の店舗で発売しました。

さらに、「おいしさでマチを元気に」をテーマにローソンと各地域の飲食店などが共同で開発した商品を発売する取り組み(2020年10月から開始)を今年度も実施しており、「地元でお馴染みの味を近くのローソンで購入できる事」に価値を感じていただき、大変多くの方にご利用いただいています。

今後、地域ならではの食文化の紹介による観光振興、そして各地域のおすすめ品の販売拡大を通じた地域経済の活性化を図ってまいります。

まちづくりチャレンジ701 ～つながる、多様性が拓く～

発行日 2024年3月26日

編著 地域再生大賞実行委員会

編集 柿崎淳

制作 藤田康文、川村和久、川内唯空、小此木雪乃、藤澤菜穂

発行人 水谷 亨

発行 一般社団法人共同通信社

デザイン 沖 直美 (MORE than WORDS)

© Kyodo News,2024

地域再生大賞事務局

〒105-7201 東京都港区東新橋1-7-1 共同通信社内

電話 03 (6252) 8237 ファックス 03 (6252) 8238

メール thd.chiikisaisei@kyodonews.jp

Let's join together.
And diversity opens up a new era.

